

1 調査の目的

市の施策に対する市民の意見を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結び付けるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

本調査では、大仙市総合計画に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目について、それぞれ「満足度」と「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」、また、今年度から新たに「大仙市の住みやすさ」についても調査を行った。

満足度…大仙市の現状にどのくらい満足しているか。

重要度…大仙市のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えているか。

2 実施結果

（1）対象

市内在住の18歳以上の市民の中から無作為に抽出した1,000人（性別、年齢、地域については考慮）に、希望者6人（広報だいせん5月号にて募集）を加えた計1,006人。

（2）手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

（3）期間

平成28年5月23日（月）～6月6日（月）

（4）回収数・回収率

回収数…610人 回収率…60.6%

3 調査結果の要約

（1）満足度及び重要度の分析

〈満足の度合い〉

⇒満足度の上位項目は「花火産業構想」（新規項目）、「学校教育」、「自然・衛生環境」の順となっており、満足度の下位項目は「雇用・就労」、「商工業」、「観光」の順となっている。

⇒今年度から新たな項目を追加したが、昨年度からの項目で比較すると、ほとんどの項目において若干の減少傾向が見られる。

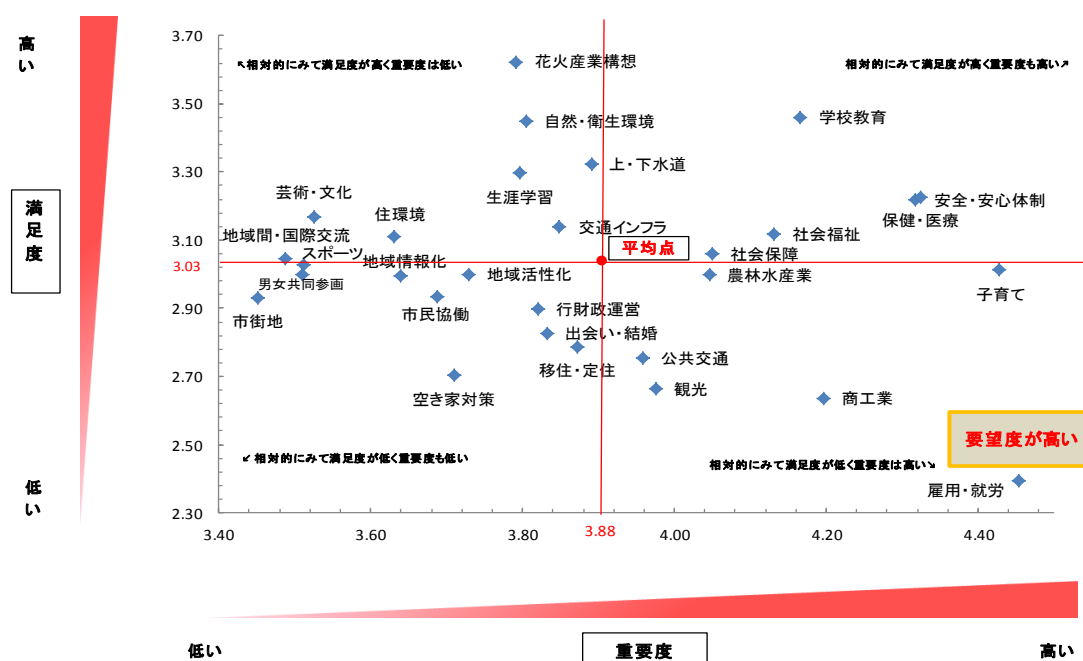
〈重要の度合い〉

- ⇒重要度の上位項目は「雇用・就労」、「子育て」、「安全・安心体制」と「保健・医療」の順となっており、重要度の下位項目は「市街地」、「地域間・国際交流」（新規項目）、「男女共同参画」（新規項目）と「スポーツ」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、全体的な動きは小さいものの、減少傾向が見られる。

〈要望度が高い施策〉

- ⇒相対的に見て、要望度が高い施策（重要度は高いが、満足度は低い）は、「雇用・就労」「商工業」、「子育て」、「観光」、「公共交通」となっている。（図表1）

図表 1



（2） 今後、さらに推進すべき取り組みの分析

〈産業分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「雇用・就労への支援」、「農業の担い手確保、育成」「Aターン希望者への支援」の回答割合が高くなっている。

〈出会い・結婚・子育て分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「子育て支援体制の充実」、「医療費の軽減」、「保育料の軽減」の回答割合が高くなっている。

〈健康福祉分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「高齢者福祉の充実」、「地域医療体制の整備」、「国民健康保険などの社会保障の促進」の回答割合が高くなっている。

〈都市基盤分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、「生活道路の整備」、「安全で安定した水道水の供給」の回答割合が高くなっている。

〈環境・安全分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「除排雪体制の充実」、「消融雪施設の整備」、「交通安全、防犯体制の強化」の回答割合が高くなっている。

〈教育・スポーツ分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「学校教育の充実」、「スポーツ施設の整備」、「スポーツ活動の充実」の回答割合が高くなっている。

〈交流・行政運営分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「移住・定住への支援」、「公共施設の見直し」、「市の魅力の発信・発見」の回答割合が高くなっている。

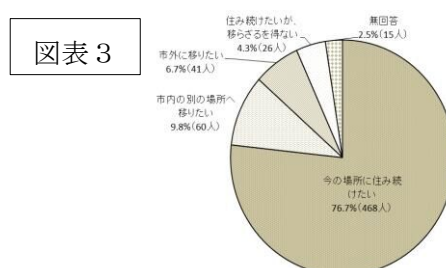
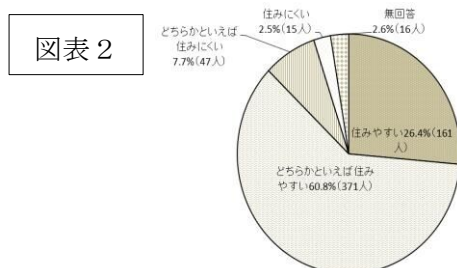
(3) 大仙市の住みやすさについての分析（新規設問）

〈大仙市は住みやすいか〉

「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合を合わせると、9割近くを占めている。（図表2）

〈大仙市に住み続けたいか〉

「今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合が7割以上を占めている。（図表3）



4 結果公表について

10月定例記者会見、市ホームページ、市広報（11月1日号）にて公表

平成 28 年度

**「市民による市政評価」
結果報告書**

平成 28 年 10 月

大仙市 企画部 総合政策課

目 次

1 調査概要

1.1 調査の目的	4
1.2 調査の対象、手法、期間	4
1.3 調査の内容	5
1.4 実施結果（回収率）	5

2 調査結果

2.1 満足度および重要度の分析	8
2.1.1 満足の度合い	8
2.1.2 満足度における選択肢別の回答割合	10
2.1.3 重要の度合い	11
2.1.4 重要度における選択肢別の回答割合	13
2.1.5 満足度および重要度の属性別比較	14
2.1.6 項目別要望度	23
2.1.7 散布図	25
2.1.8 満足度、重要度および要望度の総括	27
2.2 さらに推進すべき取り組み分析	29
2.2.1 産業分野に関する設問について	29
2.2.2 出会い・結婚・子育て分野に関する設問について	32
2.2.3 健康福祉分野に関する設問について	35
2.2.4 都市基盤分野に関する設問について	38

2.2.5 環境・安全分野に関する設問について	41
2.2.6 教育・スポーツ分野に関する設問について	44
2.2.7 交流・行政運営分野に関する設問について	47
2.2.8 さらに推進すべき取り組みの総括	50
2.3 大仙市の住みやすさについての分析	53
2.3.1 「大仙市は住みやすいか」について	53
2.3.2 「大仙市に住み続けたいか」について	54
2.3.3 大仙市の住みやすさについての属性別比較	55
2.4 5年間の経年比較	58
2.5 自由記述の類型化	69
3 資料 平成28年度市民による市政評価調査票	96

1 調査概要

1.1 調査の目的

市の施策に対する市民の意見を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結び付けるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

1.2 調査の対象、手法、期間

(1) 対象

18 歳以上の市民の中から無作為に抽出した 1,000 人（性別、年齢、地域については考慮）に、希望者 6 人（広報だいせん 5 月号にて募集）を加えた計 1,006 人

(2) 手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

(3) 期間

平成 28 年 5 月 23 日（月）～ 6 月 6 日（月）

1.3 調査の内容

本調査では、大仙市総合計画に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目について、それぞれ「満足度」と「重要度」及び今後さらに推進すべき取り組みについて調査した。

- ◆「満足度」…大仙市の現状にどのくらい満足しているか。
- ◆「重要度」…大仙市のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えているか。

1.4 実施結果（回収率）

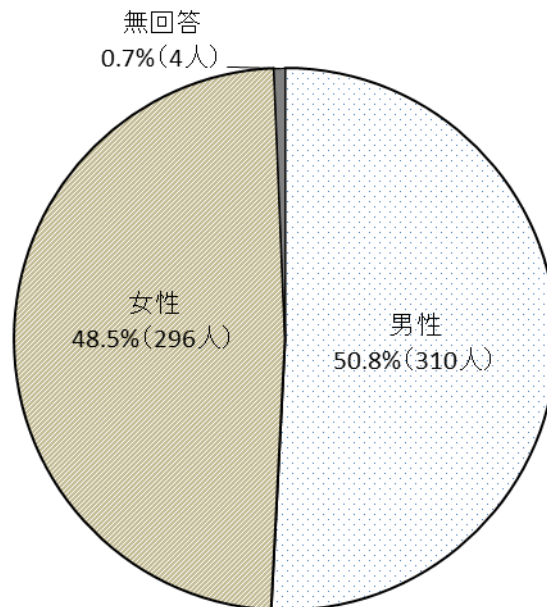
回収数 …… 610 人

回収率 …… 60.6%

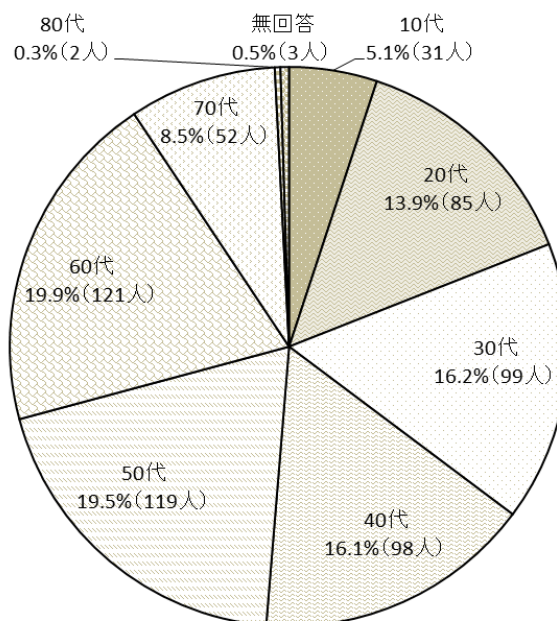
【参考】過去5年間の実施結果（回収率）

年度	対象人数	回収数	回収率
平成24年度	1005	429	42.7%
平成25年度	1002	413	41.2%
平成26年度	1002	408	40.7%
平成27年度	1005	387	38.5%
平成28年度	1006	610	60.6%

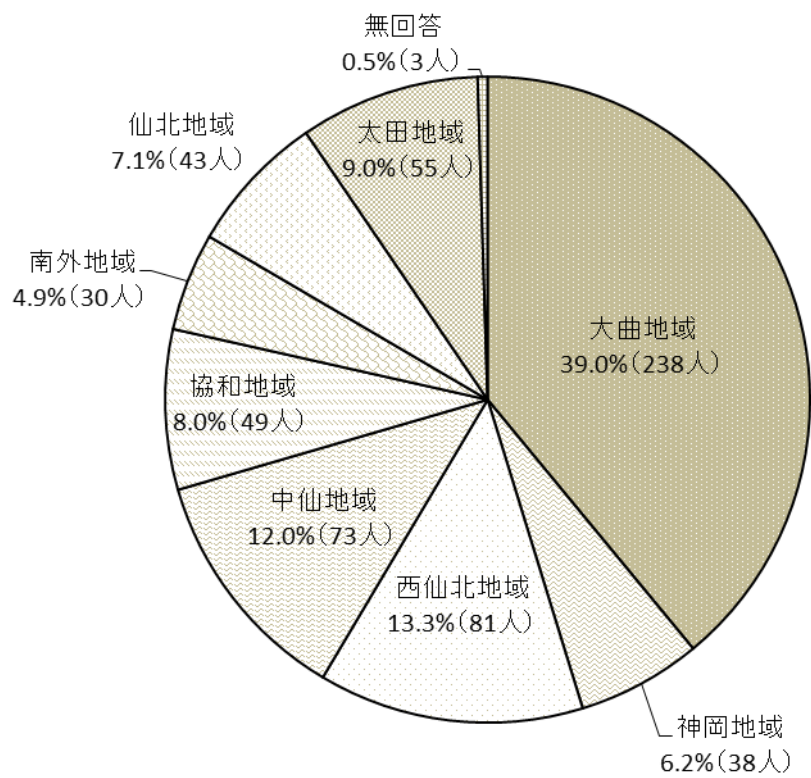
図表 1 回答者の性別の内訳



図表 2 回答者の年齢の内訳



図表 3 回答者の居住地の内訳



2 調査結果

2.1 満足度および重要度の分析

2.1.1 満足の度合い

満足度の高い項目は「花火産業構想」が 3.62（新規項目）、「学校教育」が 3.46（昨年度：3.56）、「自然・衛生環境」が 3.45（昨年度：3.54）となっている。

一方、満足度の低い項目は昨年度同様「雇用・就労」が 2.39（昨年度：2.56）、「商工業」が 2.64（新規項目）、「観光」が 2.66（昨年度：2.66）となっている。

今年度から新たな項目を追加したが、昨年度からの項目で比較すると、ほとんどの項目において若干の減少傾向が見られる。

図表 4 満足度（点数順）

順位 H28	項 目	満足度 ※1			
			H28	H27	増減 (H28-H27)
1	（花火産業構想） さまざまな分野における大曲の花火ブランドの戦略的推進について	—	3.62		新規
2	（学校教育） 学習意欲と能力を養う学校教育の充実について	↗	3.46	3.56	▲ 0.10
3	（自然・衛生環境） 緑豊かな自然環境の保全と環境にやさしいまちづくり	↗	3.45	3.54	▲ 0.09
4	（上・下水道） 快適な暮らしの基盤となる上・下水道等の整備について	↗	3.32	3.37	▲ 0.05
5	（生涯学習） 多様な学習機会から生涯を通じて学び、活かせる暮らしについて	←	3.30	3.34	▲ 0.04
6	（安全・安心体制） 消防・防災体制や雪対策の強化について	←	3.23	3.20	0.03
7	（保健・医療） 健康増進にすすんで取り組める環境や医療体制について	↗	3.22	3.32	▲ 0.10
8	（芸術・文化） 芸術、文化活動、文化財に触れる機会の創出について	←	3.17	3.21	▲ 0.04
9	（交通インフラ） 利便性の高い幹線道路と生活を支える道路の整備について	←	3.14	3.17	▲ 0.03
10	（社会福祉） 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉などの充実について	←	3.12	3.11	0.01
11	（住環境） 市営住宅や宅地、公園、緑地の整備について	↗	3.11	3.23	▲ 0.12
12	（社会保障） 国民健康保険、生活保護制度等の適正な実施について	—	3.06		新規
13	（地域間・国際交流） 地域間ネットワークの強化や国際化の推進について	—	3.05		新規
14	（スポーツ） スポーツを通じた地域のにぎわい創出や交流人口の拡大について	↓	3.03	3.23	▲ 0.20
15	（子育て） 安心して子育てできる社会環境の整備について	↓	3.01	3.21	▲ 0.20
16	（農林水産業） 農畜水産物の消費拡大や生産基盤整備などの取り組み・支援について	—	3.00		新規
16	（地域情報化） 情報基盤の整備と地域の情報発信の推進について	—	3.00		新規
16	（地域活性化） 住民によるまちづくりが可能な地域社会の形成について	↖	3.00	2.94	0.06
16	（男女共同参画） 男女共同参画意識の醸成と女性の参画推進について	—	3.00		新規
20	（市街地） 既存市街地を中心としたコンパクトな市街地の整備について	↖	2.93	2.87	0.06
20	（市民協働） 市民と行政などが協働により推進する地域づくりについて	←	2.93	2.94	▲ 0.01
22	（行財政運営） 市の行財政運営の効率化等について	↖	2.90	2.80	0.10
23	（出会い・結婚） 出会い・結婚の促進に向けた取り組みについて	—	2.83		新規
24	（移住・定住） 市の魅力発信等による、移住・定住の促進について	—	2.79		新規
25	（公共交通） 長寿社会に対応した公共交通の確保について	↗	2.75	2.82	▲ 0.07
26	（空き家対策） 空き家の適正管理と利活用の推進について	—	2.70		新規
27	（観光） 豊かな地域資源や交通の利便性を活用した観光振興について	←	2.66	2.66	0.00
28	（商工業） 魅力ある産業の創出や地場産業への支援及び企業誘致について	—	2.64		新規
29	（雇用・就労） 地元の若者やAターン希望者などの就業希望者に対する各種支援について	↓	2.39	2.56	▲ 0.17

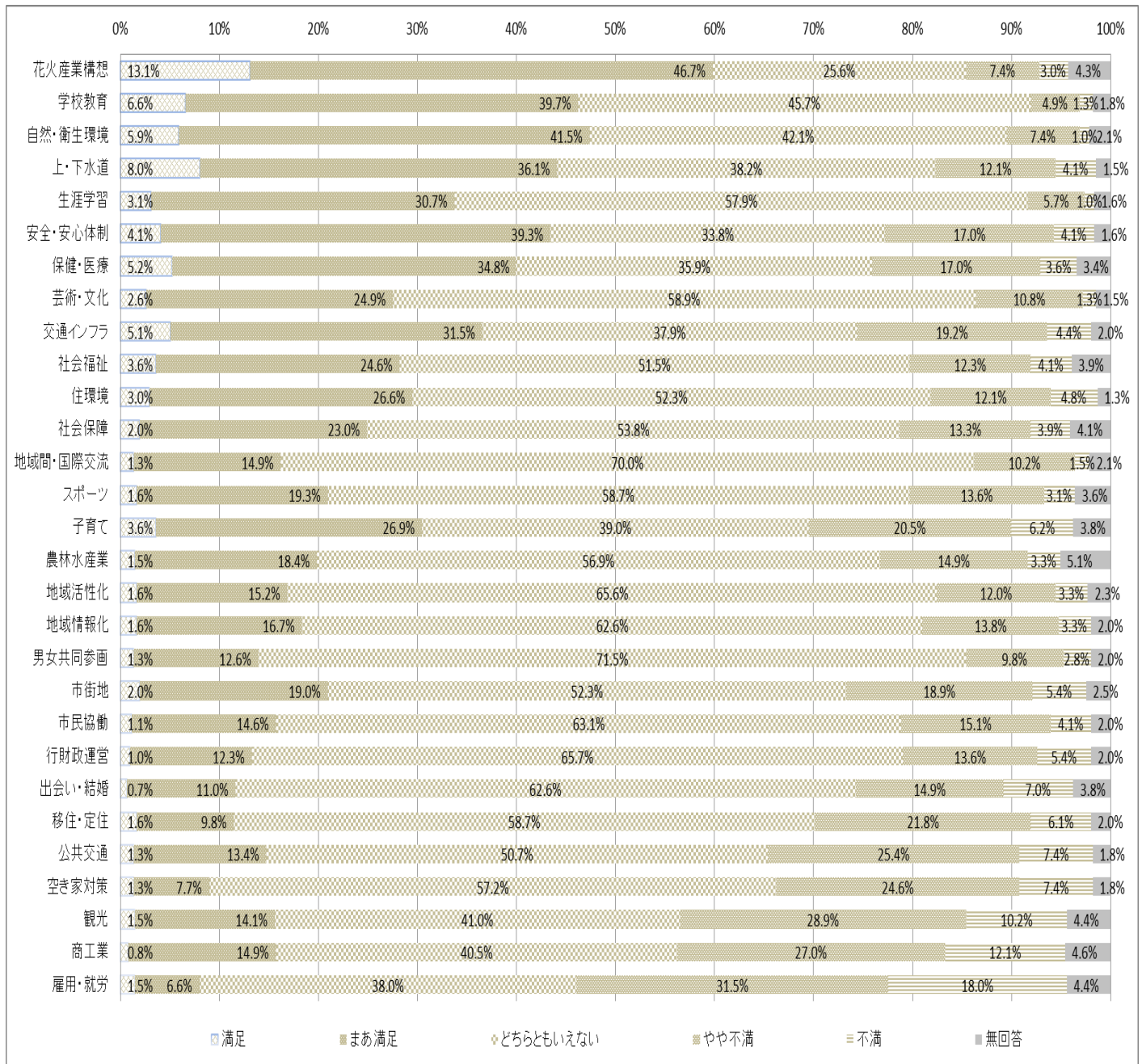
※今年度から「自然保護」と「衛生環境」をまとめて「自然・衛生環境」としました。
それに伴い、平成27年度の値は2つの平均としています。

※1) 満足度の矢印の説明

上昇	↑	前年比+0.15以上
やや上昇	↗	前年比+0.05以上+0.15未満
横ばい	←	前年比-0.05より大きく+0.05未満
やや下降	↘	前年比-0.05以下-0.15未満
下降	↓	前年比-0.15以下

2.1.2 満足度における選択肢別の回答割合

図表 5 満足度における選択肢別の回答割合（点数順）



2.1.3 重要の度合い

重要度の高い項目は、「雇用・就労」が 4.45（昨年度：4.40）、「子育て」が 4.43（昨年度：4.40）、「安全・安心体制」（昨年度：4.40）と「保健・医療」（昨年度：4.34）が共に 4.32 となっている。

一方、重要度の低い項目は「市街地」が 3.45（昨年度：3.62）、「地域間・国際交流」が 3.49（新規項目）、「男女共同参画」（新規項目）と「スポーツ」（昨年度：3.61）が共に 3.51 となっている。

昨年度と比較すると、全体的な動きは小さいものの、減少傾向が見られる。

図表 6 重要度（点数順）

順位 H28	項 目	重要度 ※1			
		H28	H27	増減 (H28-H27)	
1	(雇用・就労) 地元の若者やAターン希望者などの就業希望者に対する各種支援について	↗	4.45	4.40	0.05
2	(子育て) 安心して子育てできる社会環境の整備について	←	4.43	4.40	0.03
3	(安全・安心体制) 消防・防災体制や雪対策の強化について	↘	4.32	4.40	▲ 0.08
3	(保健・医療) 健康増進にすすんで取り組める環境や医療体制について	←	4.32	4.34	▲ 0.02
5	(商工業) 魅力ある産業の創出や地場産業への支援及び企業誘致について	—	4.20		新規
6	(学校教育) 学習意欲と能力を養う学校教育の充実について	↘	4.17	4.26	▲ 0.09
7	(社会福祉) 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉などの充実について	←	4.13	4.13	0.00
8	(農林水産業) 農畜水産物の消費拡大や生産基盤整備などの取り組み・支援について	—	4.05		新規
8	(社会保障) 国民健康保険、生活保護制度等の適正な実施について	—	4.05		新規
10	(観光) 豊かな地域資源や交通の利便性を活用した観光振興について	↗	3.98	3.91	0.07
11	(公共交通) 長寿社会に対応した公共交通の確保について	↘	3.96	4.03	▲ 0.07
12	(上・下水道) 快適な暮らしの基盤となる上・下水道等の整備について	↘	3.89	3.98	▲ 0.09
13	(移住・定住) 市の魅力発信等による、移住・定住の促進について	—	3.87		新規
14	(交通インフラ) 利便性の高い幹線道路と生活を支える道路の整備について	↘	3.85	3.99	▲ 0.14
15	(出会い・結婚) 出会い・結婚の促進に向けた取り組みについて	—	3.83		新規
16	(行財政運営) 市の行財政運営の効率化等について	↓	3.82	3.99	▲ 0.17
17	(自然・衛生環境) 緑豊かな自然環境の保全と環境にやさしいまちづくり	↘	3.80	3.94	▲ 0.13
17	(生涯学習) 多様な学習機会から生涯を通じて学び、活かせる暮らしについて	←	3.80	3.83	▲ 0.03
19	(花火産業構想) さまざまな分野における大曲の花火ブランドの戦略的推進について	—	3.79		新規
20	(地域活性化) 住民によるまちづくりが可能な地域社会の形成について	←	3.73	3.72	0.01
21	(空き家対策) 空き家の適正管理と利活用の推進について	—	3.71		新規
22	(市民協働) 市民と行政などが協働により推進する地域づくりについて	←	3.69	3.73	▲ 0.04
23	(地域情報化) 情報基盤の整備と地域の情報発信の推進について	—	3.64		新規
24	(住環境) 市営住宅や宅地、公園、緑地の整備について	↘	3.63	3.74	▲ 0.11
25	(芸術・文化) 芸術、文化活動、文化財に触れる機会の創出について	←	3.53	3.56	▲ 0.03
26	(スポーツ) スポーツを通じた地域のにぎわい創出や交流人口の拡大について	↘	3.51	3.61	▲ 0.10
26	(男女共同参画) 男女共同参画意識の醸成と女性の参画推進について	—	3.51		新規
28	(地域間・国際交流) 地域間ネットワークの強化や国際化の推進について	—	3.49		新規
29	(市街地) 既存市街地を中心としたコンパクトな市街地の整備について	↓	3.45	3.62	▲ 0.17

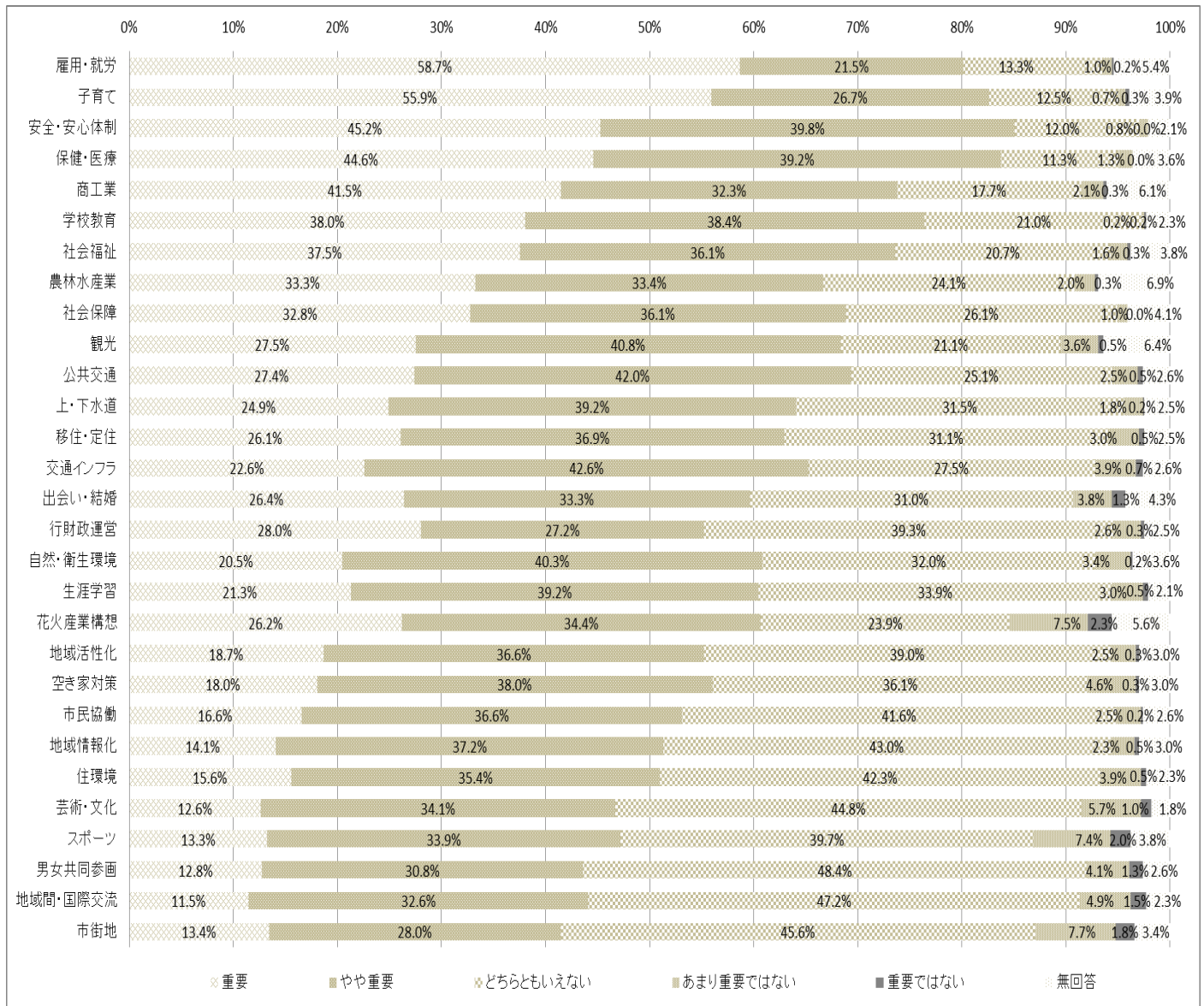
※今年度から「自然保護」と「衛生環境」をまとめて「自然・衛生環境」としました。
それに伴い、平成27年度の値は2つの平均としています。

※1)重要度の矢印の説明

上昇	↑	前年比+0.15以上
やや上昇	↗	前年比+0.05以上+0.15未満
横ばい	←	前年比-0.05より大きく+0.05未満
やや下降	↘	前年比-0.05以下-0.15未満
下降	↓	前年比-0.15以下

2.1.4 重要度における選択肢別の回答割合

図表 7 重要度における選択肢別の回答割合（点数順）



2.1.5 満足度および重要度の属性別比較

図表 8 性別による満足度・重要度

■男性

【満足度】 (上位)		
順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.54
2	自然・衛生環境	3.44
3	学校教育	3.42
4	生涯学習	3.27
5	上・下水道	3.26

(下位)		
順位	項目	満足度
25	公共交通	2.70
26	空き家対策	2.68
27	観光	2.55
28	商工業	2.54
29	雇用・就労	2.33

【重要度】 (上位)		
順位	項目	重要度
1	子育て	4.41
2	雇用・就労	4.38
3	保健・医療	4.27
4	安全・安心体制	4.25
5	商工業	4.21

(下位)		
順位	項目	重要度
25	スポーツ	3.52
26	市街地	3.45
27	男女共同参画	3.42
28	地域間・国際交流	3.41
29	芸術・文化	3.40

■女性

【満足度】 (上位)		
順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.71
2	学校教育	3.51
3	自然・衛生環境	3.46
4	上・下水道	3.39
5	生涯学習	3.32

(下位)		
順位	項目	満足度
25	公共交通	2.82
26	観光	2.79
27	商工業	2.73
	空き家対策	2.73
29	雇用・就労	2.46

【重要度】 (上位)		
順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.54
2	子育て	4.45
3	安全・安心体制	4.40
4	保健・医療	4.37
5	学校教育	4.26

(下位)		
順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.66
26	男女共同参画	3.61
27	地域間・国際交流	3.57
28	スポーツ	3.49
29	市街地	3.45

図表 9 年代別による満足度・重要度

■10代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.90
2	自然・衛生環境	3.68
3	生涯学習	3.58
4	芸術・文化	3.55
5	学校教育	3.52

(下位)

順位	項目	満足度
24	出会い・結婚	2.94
	移住・定住	2.94
26	空き家対策	2.87
27	観光	2.83
28	商工業	2.70
29	雇用・就労	2.50

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.87
2	保健・医療	4.55
	安全・安心体制	4.55
4	子育て	4.52
5	商工業	4.50

(下位)

順位	項目	重要度
	住環境	3.94
23	芸術・文化	3.94
	市民協働	3.94
26	出会い・結婚	3.90
27	空き家対策	3.84
28	スポーツ	3.77
29	市街地	3.64

■20代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.71
2	自然・衛生環境	3.54
3	上・下水道	3.47
4	学校教育	3.46
5	安全・安心体制	3.22

(下位)

順位	項目	満足度
25	商工業	2.66
26	移住・定住	2.64
27	空き家対策	2.62
28	観光	2.56
29	雇用・就労	2.26

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.58
2	子育て	4.43
3	保健・医療	4.33
4	安全・安心体制	4.32
5	社会福祉	4.31

(下位)

順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.62
26	地域間・国際交流	3.60
27	男女共同参画	3.58
28	市街地形成	3.54
29	スポーツ	3.52

■30代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	自然・衛生環境	3.44
2	学校教育	3.43
	花火産業構想	3.43
4	生涯学習	3.31
5	上・下水道	3.26

(下位)

順位	項目	満足度
25	観光	2.76
	空き家対策	2.76
27	商工業	2.74
28	移住・定住	2.73
29	雇用・就労	2.53

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.61
2	保健・医療	4.42
3	安全・安心体制	4.41
4	雇用・就労	4.33
5	学校教育	4.23

(下位)

順位	項目	重要度
25	地域間・国際交流	3.63
26	出会い・結婚	3.57
	市街地	3.57
28	スポーツ	3.35
29	男女共同参画	3.34

■40代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.61
2	自然・衛生環境	3.51
3	学校教育	3.44
4	生涯学習	3.34
5	芸術・文化	3.22

(下位)

順位	項目	満足度
25	空き家対策	2.77
26	観光	2.64
	公共交通	2.64
28	商工業	2.63
29	雇用・就労	2.48

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.46
2	子育て	4.35
3	保健・医療	4.33
4	商工業	4.24
5	安全・安心体制	4.21

(下位)

順位	項目	重要度
25	住環境	3.51
	スポーツ	3.51
27	地域間・国際交流	3.48
28	男女共同参画	3.44
29	市街地	3.34

■50代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.69
2	自然・衛生環境	3.44
3	学校教育	3.42
4	安全・安心体制	3.26
5	生涯学習	3.25

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.64
26	空き家対策	2.62
27	観光	2.54
28	商工業	2.52
29	雇用・就労	2.24

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.46
2	子育て	4.35
3	安全・安心体制	4.32
4	保健・医療	4.23
5	商工業	4.20

(下位)

順位	項目	重要度
25	男女共同参画	3.44
26	住環境	3.38
27	芸術・文化	3.34
28	地域間・国際交流	3.30
29	市街地	3.28

■60代

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.65
2	学校教育	3.51
3	上・下水道	3.44
4	安全・安心体制	3.32
5	自然・衛生環境	3.30

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.71
	観光	2.71
27	空き家対策	2.68
28	商工業	2.63
29	雇用・就労	2.41

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.44
2	雇用・就労	4.43
3	安全・安心体制	4.35
4	保健・医療	4.34
5	商工業	4.25

(下位)

順位	項目	重要度
25	男女共同参画	3.57
26	スポーツ	3.53
27	市街地	3.50
28	芸術・文化	3.45
29	地域間・国際交流	3.41

■70代以上

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.62
2	学校教育	3.46
3	自然・衛生環境	3.45
4	上・下水道	3.34
5	生涯学習	3.30

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.76
26	空き家対策	2.70
27	観光	2.67
28	商工業	2.63
29	雇用・就労	2.40

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.45
2	子育て	4.43
3	安全・安心体制	4.32
4	保健・医療	4.31
5	商工業	4.20

(下位)

順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.52
26	男女共同参画	3.51
27	スポーツ	3.50
28	地域間・国際交流	3.49
29	市街地	3.44

図表 10 地域別による満足度・重要度

■大曲地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.56
2	学校教育	3.43
3	自然・衛生環境	3.32
4	上・下水道	3.30
5	生涯学習	3.28

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.73
26	空き家対策	2.70
27	観光	2.64
28	商工業	2.59
29	雇用・就労	2.41

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.45
	子育て	4.45
3	安全・安心体制	4.40
4	保健・医療	4.35
5	商工業	4.21

(下位)

順位	項目	重要度
25	市街地	3.57
26	芸術・文化	3.56
27	地域間・国際交流	3.53
28	スポーツ	3.51
29	男女共同参画	3.49

■神岡地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.71
2	自然・衛生環境	3.60
3	上・下水道	3.50
4	学校教育	3.47
5	交通インフラ	3.34

(下位)

順位	項目	満足度
25	移住・定住	2.83
26	公共交通	2.81
27	商工業	2.74
28	空き家対策	2.60
29	雇用・就労	2.56

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.47
2	保健・医療	4.38
3	安全・安心体制	4.36
4	雇用・就労	4.24
5	公共交通	4.08
	学校教育	4.08

(下位)

順位	項目	重要度
24	芸術・文化	3.58
	市民協働	3.58
26	男女共同参画	3.53
27	市街地	3.42
28	スポーツ	3.41
29	地域間・国際交流	3.39

■西仙北地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.59
2	学校教育	3.52
3	上・下水道	3.48
4	自然・衛生環境	3.47
5	生涯学習	3.35

(下位)

順位	項目	満足度
25	空き家対策	2.75
26	出会い・結婚	2.70
27	観光	2.63
28	商工業	2.51
29	雇用・就労	2.40

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.53
2	商工業	4.36
3	子育て	4.30
	安全・安心体制	4.30
5	保健・医療	4.28

(下位)

順位	項目	重要度
25	男女共同参画	3.54
26	芸術・文化	3.51
27	スポーツ	3.46
28	市街地	3.43
29	地域間・国際交流	3.37

■中仙地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.58
2	自然・衛生環境	3.45
3	学校教育	3.34
4	安全・安心体制	3.28
	生涯学習	3.28

(下位)

順位	項目	満足度
25	空き家対策	2.76
26	公共交通	2.73
27	商工業	2.62
28	観光	2.56
29	雇用・就労	2.36

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.47
2	雇用・就労	4.45
3	安全・安心体制	4.39
4	学校教育	4.32
5	保健・医療	4.28

(下位)

順位	項目	重要度
25	地域間・国際交流	3.54
26	芸術・文化	3.53
27	男女共同参画	3.44
28	スポーツ	3.36
29	市街地	3.20

■協和地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.72
2	上・下水道	3.69
3	自然・衛生環境	3.53
4	学校教育	3.50
5	安全・安心体制	3.46

(下位)

順位	項目	満足度
24	商工業	2.72
	観光	2.72
26	移住・定住	2.71
27	公共交通	2.67
28	空き家対策	2.58
29	雇用・就労	2.22

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.50
2	子育て	4.38
3	安全・安心体制	4.19
	保健・医療	4.17
4	社会保障	4.17
	学校教育	4.17

(下位)

順位	項目	重要度
25	住環境	3.58
26	市街地	3.55
27	地域間・国際交流	3.49
28	男女共同参画	3.46
29	芸術・文化	3.32

■南外地域

【満足度】 (上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.66
2	自然・衛生環境	3.52
3	学校教育	3.31
4	安全・安心体制	3.20
5	スポーツ	3.17

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.63
26	移住・定住	2.62
27	雇用・就労	2.48
	空き家対策	2.48
29	商工業	2.45

【重要度】 (上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.39
2	保健・医療	4.24
3	商工業	4.18
4	学校教育	4.10
5	雇用・就労	4.07

(下位)

順位	項目	重要度
25	男女共同参画	3.52
26	空き家対策	3.48
27	住環境	3.45
	芸術・文化	3.45
29	市街地	3.41

■仙北地域

【満足度】

(上位)

順位	項目	満足度
1	学校教育	3.60
2	花火産業構想	3.59
3	自然・衛生環境	3.50
4	生涯学習	3.43
5	上・下水道	3.42

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.88
26	行財政運営	2.86
27	商工業	2.85
28	観光	2.80
29	雇用・就労	2.49

【重要度】

(上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.65
2	子育て	4.54
3	保健・医療	4.34
4	商工業	4.25
5	安全・安心体制	4.22

(下位)

順位	項目	重要度
24	芸術・文化	3.57
	男女共同参画	3.57
26	住環境	3.56
27	地域情報化	3.51
28	地域間・国際交流	3.40
29	市街地	3.24

■太田地域

【満足度】

(上位)

順位	項目	満足度
1	花火産業構想	3.90
2	自然・衛生環境	3.69
3	学校教育	3.67
4	安全・安心体制	3.42
5	生涯学習	3.36

(下位)

順位	項目	満足度
24	市街地	2.78
	移住・定住	2.78
26	空き家対策	2.73
27	観光	2.71
28	出会い・結婚	2.63
29	雇用・就労	2.29

【重要度】

(上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.49
2	保健・医療	4.39
3	子育て	4.37
4	安全・安心体制	4.28
5	社会福祉	4.27

(下位)

順位	項目	重要度
25	住環境	3.57
26	芸術・文化	3.53
27	スポーツ	3.49
28	地域間・国際交流	3.45
29	市街地	3.43

2.1.6 項目別要望度

要望度とは、重要度から満足度を引いた数値としている。

要望度の高い項目は、「雇用・就労」が 2.06（昨年度：1.84）、「商工業」が 1.56（新規項目）、「子育て」が 1.42（昨年度：1.19）となっている。

要望度が低い項目は、「花火産業構想」が 0.17（新規項目）、「自然・衛生環境」（昨年度：0.40）と「芸術・文化」（昨年度：0.35）が共に 0.36、「地域間・国際交流」が 0.44（新規項目）となっている。

昨年度と比較すると、上位の項目において増加傾向が見られる。

図表 11 項目別要望度 (重要度－満足度) (点数順)

順位 H28	項 目	要望度 ※1			
		H28	H27	増減 (H28-H27)	
1	(雇用・就労) 地元の若者やAターン希望者などの就業希望者に対する各種支援について	↑	2.06	1.84	0.22
2	(商工業) 魅力ある産業の創出や地場産業への支援及び企業誘致について	—	1.56	新規	
3	(子育て) 安心して子育てできる社会環境の整備について	↑	1.42	1.19	0.23
4	(観光) 豊かな地域資源や交通の利便性を活用した観光振興について	↖	1.31	1.25	0.06
5	(公共交通) 長寿社会に対応した公共交通の確保について	←	1.20	1.20	0.00
6	(保健・医療) 健康増進にすんで取り組める環境や医療体制について	↖	1.10	1.02	0.08
6	(安全・安心体制) 消防・防災体制や雪対策の強化について	↙	1.10	1.20	▲ 0.10
8	(移住・定住) 市の魅力発信等による、移住・定住の促進について	—	1.08	新規	
9	(農林水産業) 農畜水産物の消費拡大や生産基盤整備などの取り組み・支援について	—	1.05	新規	
10	(出会い・結婚) 出会い・結婚の促進に向けた取り組みについて	—	1.01	新規	
10	(社会福祉) 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉などの充実について	←	1.01	1.02	-0.01
12	(空き家対策) 空き家の適正管理と利活用の推進について	—	1.00	新規	
13	(社会保障) 国民健康保険、生活保護制度等の適正な実施について	—	0.99	新規	
14	(行財政運営) 市の行財政運営の効率化等について	↓	0.92	1.18	▲ 0.26
15	(市民協働) 市民と行政などが協働により推進する地域づくりについて	←	0.75	0.79	▲ 0.04
16	(地域活性化) 住民によるまちづくりが可能な地域社会の形成について	↙	0.73	0.78	▲ 0.05
17	(交通インフラ) 利便性の高い幹線道路と生活を支える道路の整備について	↙	0.71	0.82	▲ 0.11
17	(学校教育) 学習意欲と能力を養う学校教育の充実について	←	0.71	0.70	0.01
19	(地域情報化) 情報基盤の整備と地域の情報発信の推進について	—	0.64	新規	
20	(上・下水道) 快適な暮らしの基盤となる上・下水道等の整備について	←	0.57	0.61	▲ 0.04
21	(市街地) 既存市街地を中心としたコンパクトな市街地の整備について	↓	0.52	0.75	▲ 0.23
21	(住環境) 市営住宅や宅地、公園、緑地の整備について	←	0.52	0.51	0.01
23	(男女共同参画) 男女共同参画意識の醸成と女性の参画推進について	—	0.51	新規	
24	(生涯学習) 多様な学習機会から生涯を通じて学び、活かせる暮らしについて	←	0.50	0.48	0.02
25	(スポーツ) スポーツを通じた地域のにぎわい創出や交流人口の拡大について	↖	0.48	0.37	0.11
26	(地域間・国際交流) 地域間ネットワークの強化や国際化の推進について	—	0.44	新規	
27	(芸術・文化) 芸術、文化活動、文化財に触れる機会の創出について	←	0.36	0.35	0.01
27	(自然・衛生環境) 緑豊かな自然環境の保全と環境にやさしいまちづくり	←	0.36	0.40	▲ 0.04
29	(花火産業構想) さまざまな分野における大曲の花火ブランドの戦略的推進について	—	0.17	新規	

※今年度から「自然保護」と「衛生環境」をまとめて「自然・衛生環境」としました。
それに伴い、平成27年度の値は2つの平均としています。

※1) 要望度の矢印の説明

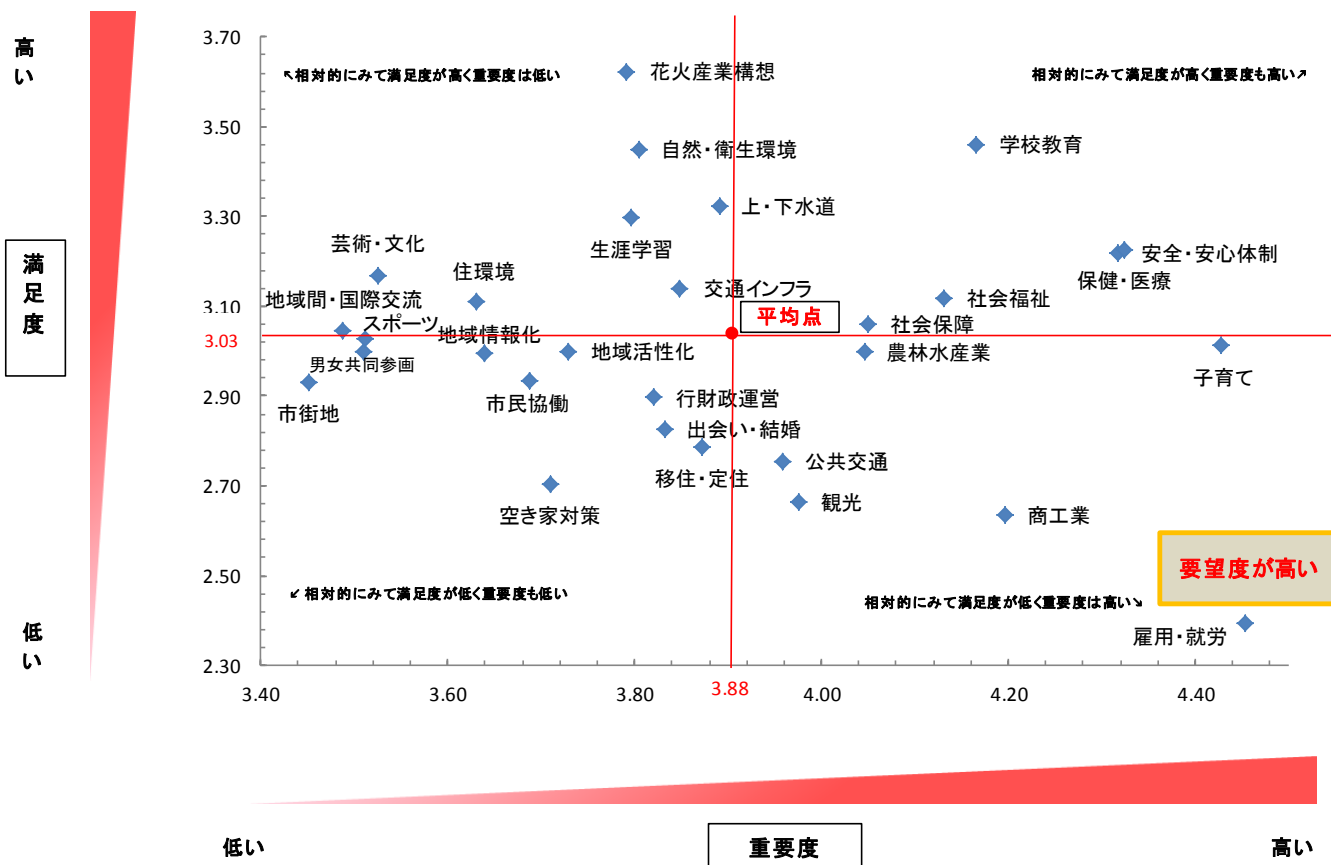
上昇	↑	前年比+0.15以上
やや上昇	↖	前年比+0.05以上+0.15未満
横ばい	←	前年比-0.05より大きく+0.05未満
やや下降	↙	前年比-0.05以下-0.15未満
下降	↓	前年比-0.15以下

2.1.7 散布図

図表 12 の散布図は、満足度を縦軸とし、重要度を横軸に 29 項目の位置を示したものである。図の右上に位置するほど満足度が高く重要度も高い項目となり、逆に図の左下に位置するほど満足度が低く重要度も低い項目となっている。

相対的にみて、要望度が高い施策（満足度は低いが重要度は高い）は、「雇用・就労」、「商工業」、「子育て」、「観光」、「公共交通」となっている。

図表 12 満足度・重要度の項目別比較



2.1.8 満足度、重要度および要望度の総括

〈満足の度合い〉

満足度の高い項目は「花火産業構想」が 3.62（新規項目）、「学校教育」が 3.46（昨年度：3.56）、「自然・衛生環境」が 3.45（昨年度：3.54）となっている。

一方、満足度の低い項目は昨年度同様「雇用・就労」が 2.39（昨年度：2.56）、「商工業」が 2.64（新規項目）、「観光」が 2.66（昨年度：2.66）となっている。

今年度から新たな項目を追加したが、昨年度からの項目で比較すると、ほとんどの項目において若干の減少傾向が見られる。

〈重要の度合い〉

重要度の高い項目は、「雇用・就労」が 4.45（昨年度：4.40）、「子育て」が 4.43（昨年度：4.40）、「安全・安心体制」（昨年度：4.40）と「保健・医療」（昨年度：4.34）が共に 4.32 となっている。

一方、重要度の低い項目は「市街地」が 3.45（昨年度：3.62）、「地域間・国際交流」が 3.49（新規項目）、「男女共同参画」（新規項目）と「スポーツ」（昨年度：3.61）が共に 3.51 となっている。

昨年度と比較すると、全体的な動きは小さいものの、減少傾向が見られる。

〈要望の度合い〉

要望度の高い項目は、「雇用・就労」が 2.06（昨年度：1.84）、「商工業」が 1.56（新規項目）、「子育て」が 1.42（昨年度：1.19）となっている。

要望度が低い項目は、「花火産業構想」が 0.17（新規項目）、「自然・衛生環境」（昨年度：0.40）と「芸術・文化」（昨年度：0.35）が共に 0.36、「地域間・国際交流」が 0.44（新規項目）となっている。

昨年度と比較すると、上位の項目において増加傾向が見られる。

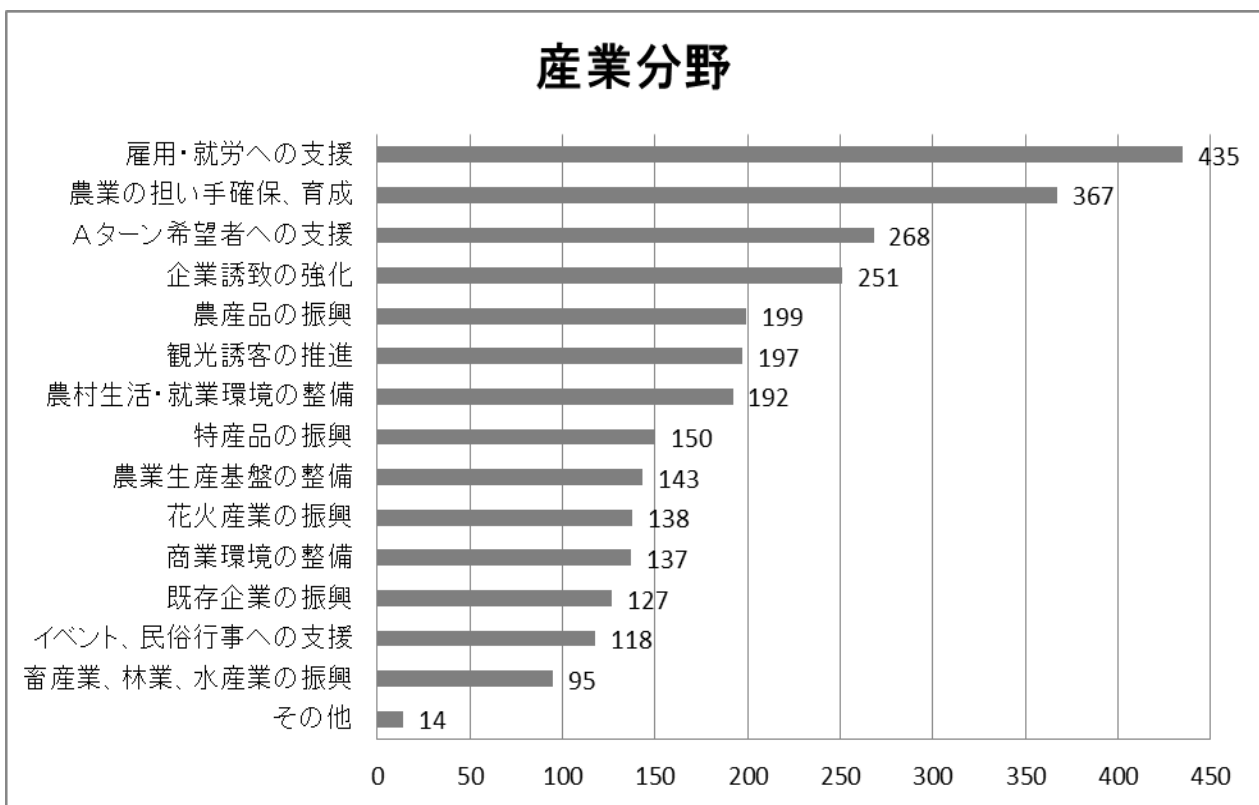
2.2 さらに推進すべき取り組み分析

2.2.1 産業分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は、「雇用・就労への支援」、「農業の担い手確保、育成」、「Aターン希望者への支援」となっている。

一方、下位は「畜産業、林業、水産業の振興」、「イベント、民俗行事への支援」、「既存企業の振興」となっている。

図表 13 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 14 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	26
2	農業の担い手確保、育成	25
3	Aターン希望者への支援	19
4	企業誘致の強化	17
5	観光誘客の推進	16

■20代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	62
2	農業の担い手確保、育成	42
3	Aターン希望者への支援	35
4	観光誘客の推進	34
5	企業誘致の強化	29

■30代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	64
2	農業の担い手確保、育成	62
3	観光誘客の推進	35
4	企業誘致の強化	34
5	農産品の振興	32

■40代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	74
2	農業の担い手確保、育成	56
3	Aターン希望者への支援	43
4	企業誘致の強化	40
5	農村生活・就業環境の整備	31

■50代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	91
2	農業の担い手確保、育成	66
3	Aターン希望者への支援	52
4	企業誘致の強化	50
5	農産品の振興	31
	観光誘客の推進	31

■60代

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	84
2	農業の担い手確保、育成	79
3	Aターン希望者への支援	61
4	農産品の振興	52
	企業誘致の強化	52

■70代以上

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	35
2	雇用・就労への支援	31
3	企業誘致の強化	28
4	Aターン希望者への支援	24
5	花火産業の振興	20

図表 15 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	169
2	農業の担い手確保、育成	128
3	Aターン希望者への支援	106
4	企業誘致の強化	95
5	観光誘客の推進	80

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	24
	農業の担い手確保、育成	24
3	農村生活・就業環境の整備	17
4	企業誘致の強化	14
5	農業生産基盤の整備	13

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	65
2	農業の担い手確保、育成	58
3	企業誘致の強化	41
4	Aターン希望者への支援	38
5	農産品の振興	31

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	54
2	農業の担い手確保、育成	43
3	農村生活・就業環境の整備	29
	Aターン希望者への支援	29
5	企業誘致の強化	25

■協和地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	37
2	農業の担い手確保、育成	34
3	Aターン希望者への支援	27
4	企業誘致の強化	22
5	農産品の振興	16

■南外地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	21
2	農業の担い手確保、育成	18
3	企業誘致の強化	15
4	特産品の振興	14
5	観光誘客の推進	13

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	雇用・就労への支援	28
2	農業の担い手確保、育成	26
3	観光誘客の推進	18
	Aターン希望者への支援	18
5	農産品の振興	17
	企業誘致の強化	17

■太田地域

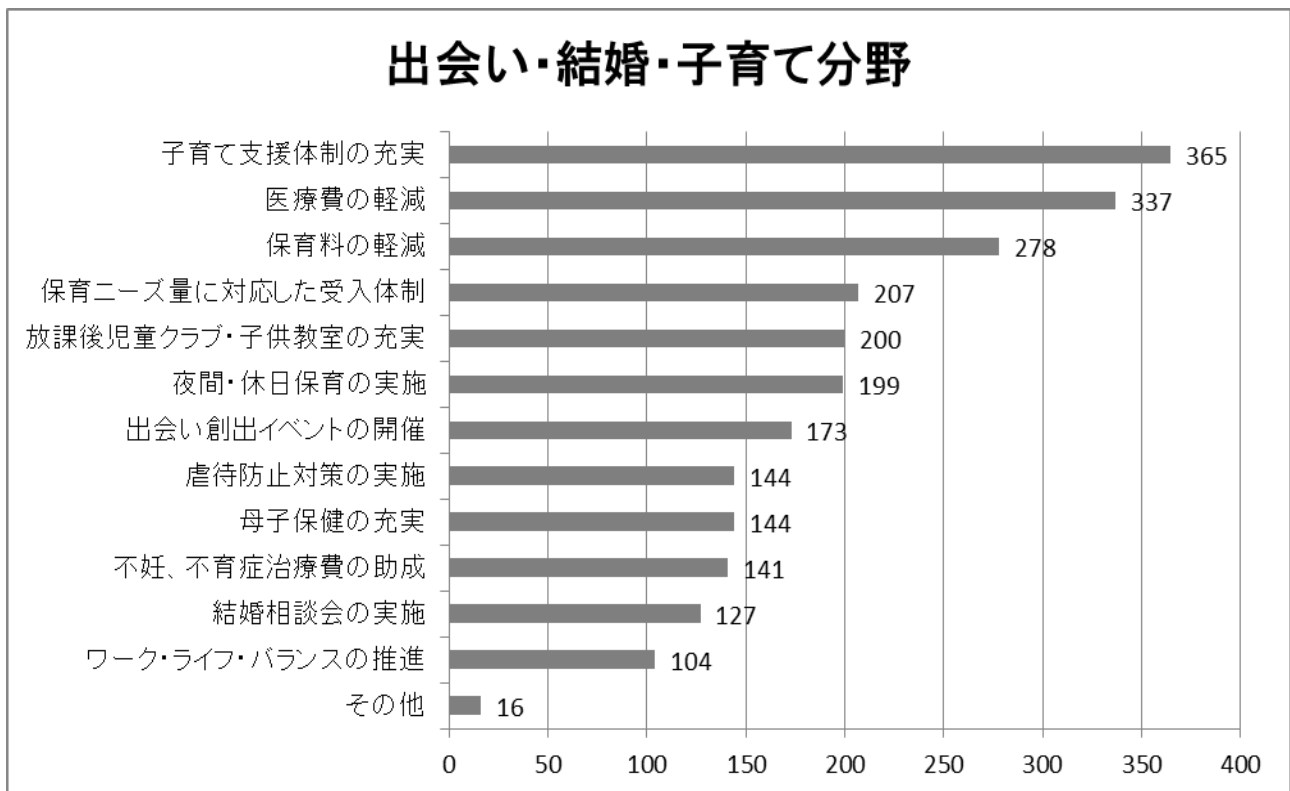
順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	34
	雇用・就労への支援	34
3	Aターン希望者への支援	24
4	企業誘致の強化	21
5	農村生活・就業環境の整備	20

2.2.2 出会い・結婚・子育て分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は「子育て支援体制の充実」、「医療費の軽減」、「保育料の軽減」となっている。

一方、下位は「ワーク・ライフ・バランスの推進」、「結婚相談会の実施」、「不妊、不育症治療費の助成」となっている。

図表 16 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 17 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	21
	医療費の軽減	21
3	保育料の軽減	20
4	保育ニーズ量に対応した受入体制	16
	虐待防止対策の実施	16

■20代

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	56
2	医療費の軽減	47
	保育料の軽減	47
4	夜間・休日保育の実施	28
5	保育ニーズ量に対応した受入体制	27

■30代

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	67
2	医療費の軽減	64
	保育料の軽減	64
4	夜間・休日保育の実施	39
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	38

■40代

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	59
2	医療費の軽減	53
3	保育料の軽減	37
4	放課後児童クラブ・子供教室の充実	35
5	不妊、不育症治療費の助成	32
	夜間・休日保育の実施	32

■50代

順位	項目	回答数
1	医療費の軽減	66
2	子育て支援体制の充実	56
3	保育料の軽減	42
4	保育ニーズ量に対応した受入体制	40
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	36

■60代

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	74
2	医療費の軽減	61
3	出会い創出イベントの開催	48
	保育料の軽減	48
5	保育ニーズ量に対応した受入体制	46
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	46

■70代以上

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	31
2	医療費の軽減	23
3	結婚相談会の実施	21
	出会い創出イベントの開催	21
5	保育料の軽減	19
	虐待防止対策の実施	19

図表 18 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	143
2	医療費の軽減	133
3	保育料の軽減	119
4	保育ニーズ量に対応した受入体制	83
5	夜間・休日保育の実施	80
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	80

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	23
2	医療費の軽減	18
3	保育料の軽減	16
4	母子保健の充実	14
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	11

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	54
2	医療費の軽減	49
3	保育料の軽減	32
4	夜間・休日保育の実施	29
	出会い創出イベントの開催	26
5	保育ニーズ量に対応した受入体制	26
	虐待防止対策の実施	26

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	医療費の軽減	45
2	子育て支援体制の充実	44
3	保育ニーズ量に対応した受入体制	34
4	保育料の軽減	33
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	27

■協和地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	28
	医療費の軽減	28
3	保育料の軽減	22
4	出会い創出イベントの開催	18
5	結婚相談会の実施	16
	夜間・休日保育の実施	16

■南外地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	21
2	医療費の軽減	15
3	保育料の軽減	12
4	保育ニーズ量に対応した受入体制	11
	夜間・休日保育の実施	11

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	24
2	医療費の軽減	20
3	保育料の軽減	19
4	放課後児童クラブ・子供教室の充実	17
5	保育ニーズ量に対応した受入体制	13

■太田地域

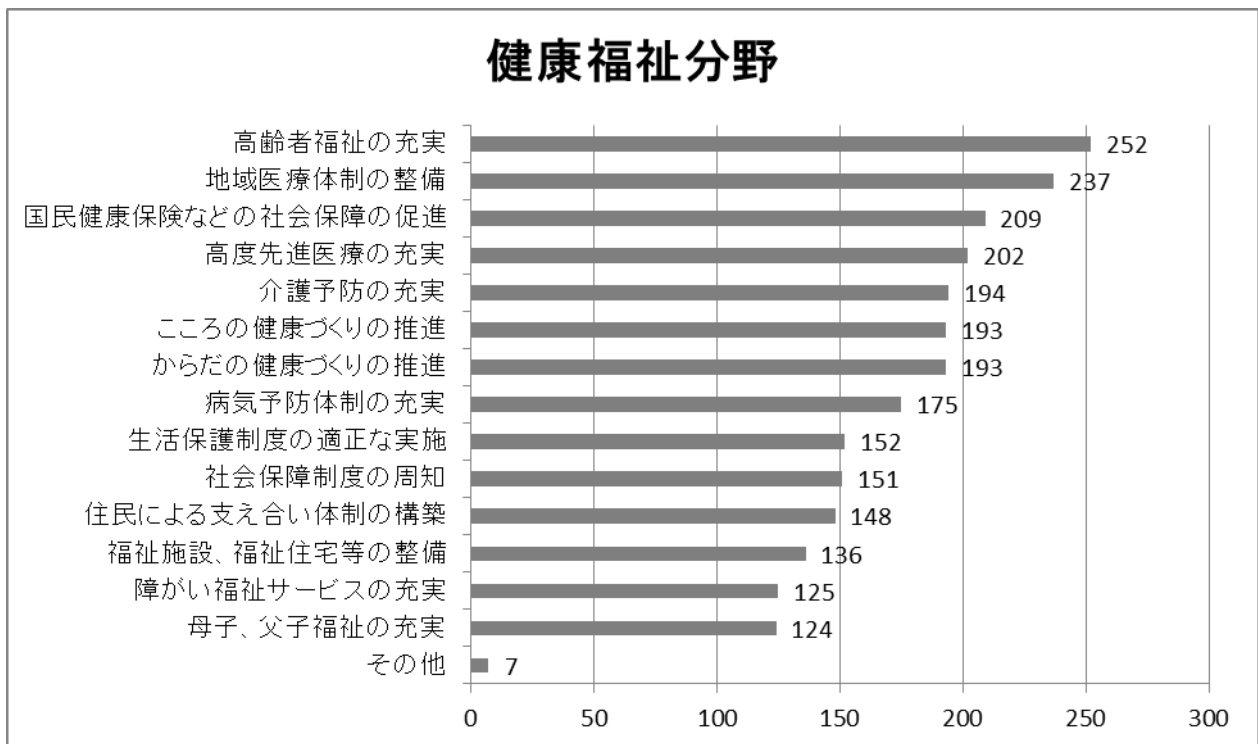
順位	項目	回答数
1	子育て支援体制の充実	27
	医療費の軽減	27
3	保育料の軽減	24
	結婚相談会の実施	19
4	出会い創出イベントの開催	19
	夜間・休日保育の実施	19
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	19

2.2.3 健康福祉分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は、「高齢者福祉の充実」、「地域医療体制の整備」、「国民健康保険などの社会保障の促進」となっている。

一方、下位については「母子、父子福祉の充実」、「障がい福祉サービスの充実」、「福祉施設、福祉住宅等の整備」となっている。

図表 19 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 20 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	21
2	高度先進医療の充実	17
3	国民健康保険などの社会保障の促進	14
4	こころの健康づくりの推進	12
	地域医療体制の整備	12

■20代

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	33
2	からだの健康づくりの推進	31
3	地域医療体制の整備	29
4	高度先進医療の充実	27
	母子、父子福祉の充実	27

■30代

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の整備	43
2	高度先進医療の充実	37
3	国民健康保険などの社会保障の促進	34
4	高齢者福祉の充実	32
5	生活保護制度の適正な実施	27
	福祉施設、福祉住宅等の整備	27

■40代

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	38
2	こころの健康づくりの推進	35
3	高度先進医療の充実	34
4	介護予防の充実	32
5	地域医療体制の整備	31

■50代

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の整備	50
2	高齢者福祉の充実	48
3	介護予防の充実	42
4	高度先進医療の充実	37
5	国民健康保険などの社会保障の促進	35

■60代

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	54
2	からだの健康づくりの推進	53
3	地域医療体制の整備	50
	国民健康保険などの社会保障の促進	50
5	介護予防の充実	47

■70代以上

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	24
	からだの健康づくりの推進	24
3	住民による支え合い体制の構築	22
	国民健康保険などの社会保障の促進	22
5	病気予防体制の充実	21

図表 21 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	101
2	国民健康保険などの社会保障の促進	81
3	地域医療体制の整備	79
4	からだの健康づくりの推進	77
5	高度先進医療の充実	72
	介護予防の充実	72

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	18
2	国民健康保険などの社会保障の促進	16
3	地域医療体制の整備	15
4	介護予防の充実	13
	からだの健康づくりの推進	13

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	高齢者福祉の充実	37
2	高度先進医療の充実	36
	地域医療体制の整備	36
4	こころの健康づくりの推進	31
5	からだの健康づくりの推進	27
	国民健康保険などの社会保障の促進	27

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	福祉施設、福祉住宅等の整備	55
2	地域医療体制の整備	32
3	高齢者福祉の充実	29
	介護予防の充実	29
5	国民健康保険などの社会保障の促進	25

■協和地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の整備	21
2	高齢者福祉の充実	19
	国民健康保険などの社会保障の促進	19
4	からだの健康づくりの推進	17
	こころの健康づくりの推進	17

■南外地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の整備	17
2	高齢者福祉の充実	11
	病気予防体制の充実	10
3	障がい福祉サービスの充実	10
	からだの健康づくりの推進	10

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	高度先進医療の充実	22
2	地域医療体制の整備	17
	高齢者福祉の充実	17
4	こころの健康づくりの推進	13
	介護予防の充実	13

■太田地域

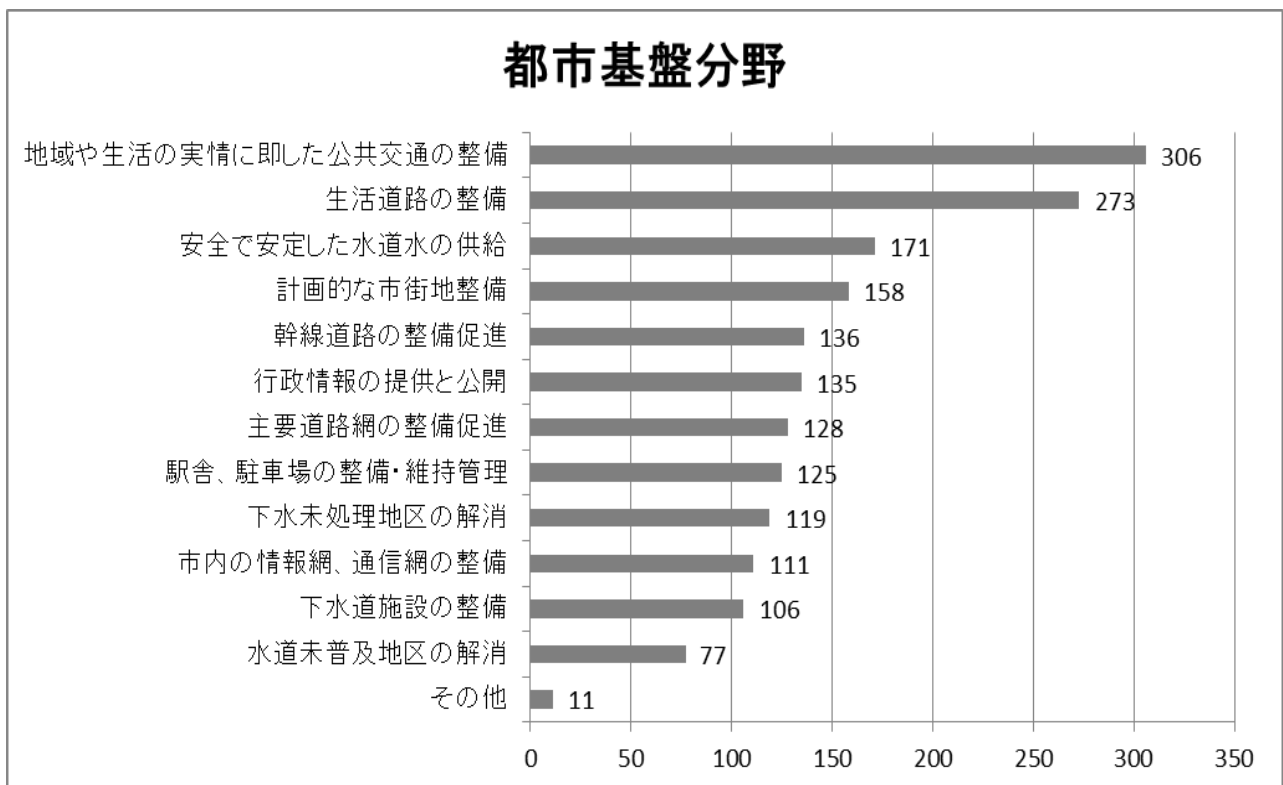
順位	項目	回答数
1	こころの健康づくりの推進	21
2	からだの健康づくりの推進	19
	国民健康保険などの社会保障の促進	19
4	地域医療体制の整備	18
	高齢者福祉の充実	18

2.2.4 都市基盤分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、「生活道路の整備」、「安全で安定した水道水の供給」となっている。

一方、下位は「水道未普及地区の解消」、「下水道施設の整備」、「市内の情報網、通信網の整備」となっている。

図表 22 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 23 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	19
2	生活道路の整備	14
3	駅舎、駐車場の整備・維持管理	11
	安全で安定した水道水の供給	11
5	市内の情報網、通信網の整備	9
	幹線道路の整備促進	9

■20代

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	41
2	生活道路の整備	36
3	計画的な市街地整備	31
4	駅舎、駐車場の整備・維持管理	27
5	主要道路網の整備促進	20

■30代

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	51
2	生活道路の整備	41
3	安全で安定した水道水の供給	33
4	計画的な市街地整備	31
5	幹線道路の整備促進	30

■40代

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	49
2	生活道路の整備	45
3	安全で安定した水道水の供給	28
4	計画的な市街地整備	26
5	幹線道路の整備促進	23

■50代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	61
2	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	52
3	行政情報の提供と公開	26
	下水未処理地区の解消	26
5	幹線道路の整備促進	21
	安全で安定した水道水の供給	21

■60代

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	66
2	生活道路の整備	57
3	安全で安定した水道水の供給	42
4	計画的な市街地整備	32
5	行政情報の提供と公開	28

■70代以上

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	27
2	安全で安定した水道水の供給	21
	行政情報の提供と公開	18
3	下水道施設の整備	18
	下水未処理地区の解消	18

図表 24 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	117
2	生活道路の整備	104
3	計画的な市街地整備	67
4	安全で安定した水道水の供給	66
5	駅舎、駐車場の整備・維持管理	54

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	20
2	生活道路の整備	18
3	安全で安定した水道水の供給	11
4	計画的な市街地整備	10
5	主要道路網の整備促進	9

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	41
2	生活道路の整備	38
3	計画的な市街地整備	23
4	安全で安定した水道水の供給	20
5	行政情報の提供と公開	19
	幹線道路の整備促進	19

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	40
2	生活道路の整備	34
3	行政情報の提供と公開	20
	幹線道路の整備促進	20
5	主要道路網の整備促進	19

■協和地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	23
	生活道路の整備	23
3	幹線道路の整備促進	17
5	行政情報の提供と公開	15
	安全で安定した水道水の供給	15

■南外地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	18
2	生活道路の整備	17
3	幹線道路の整備促進	11
	安全で安定した水道水の供給	11
5	主要道路網の整備促進	9

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	18
2	生活道路の整備	17
3	安全で安定した水道水の供給	14
4	計画的な市街地整備	12
5	駅舎、駐車場の整備・維持管理	11
	幹線道路の整備促進	11

■太田地域

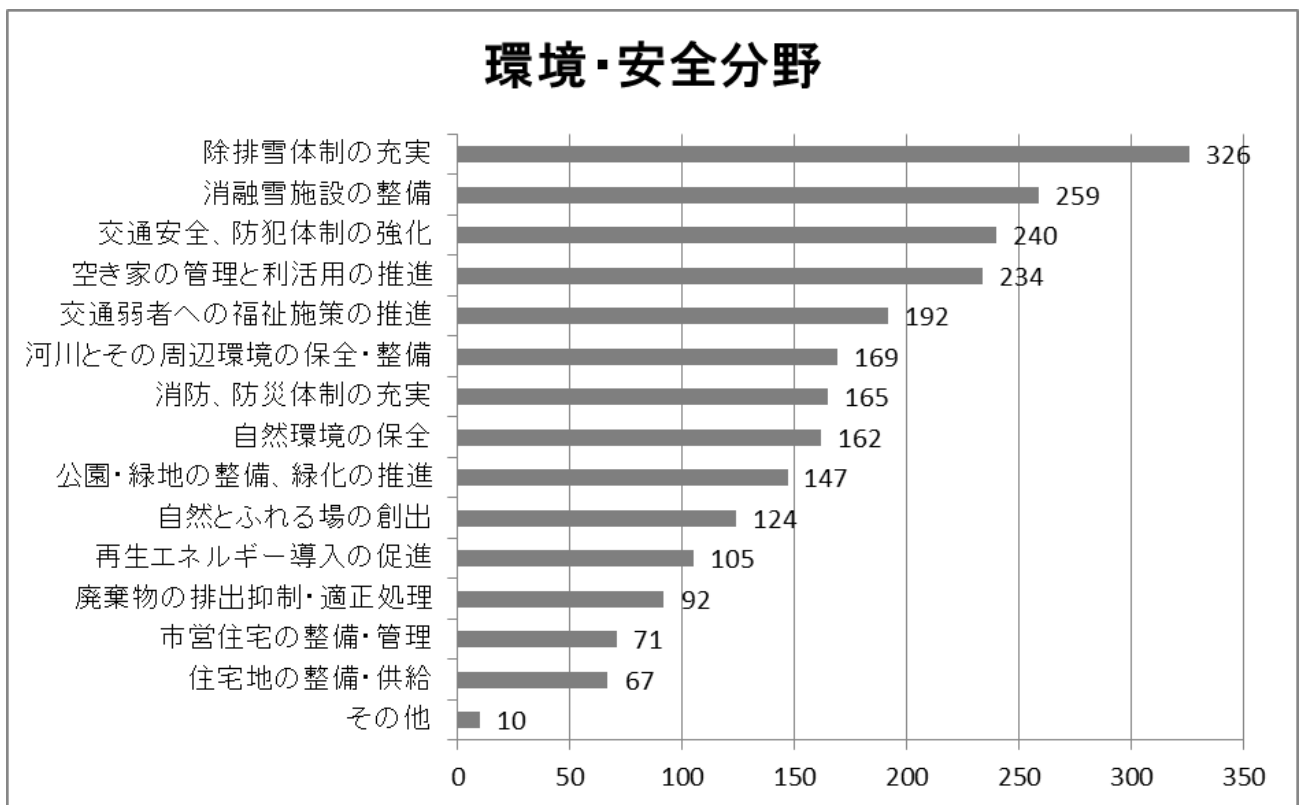
順位	項目	回答数
1	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	28
2	生活道路の整備	20
3	安全で安定した水道水の供給	17
4	主要道路網の整備促進	14
5	行政情報の提供と公開	13
	計画的な市街地整備	13

2.2.5 環境・安全分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は「除排雪体制の充実」、「消融雪施設の整備」、「交通安全、防犯体制の強化」となっている。

一方、下位については「住宅地の整備、供給」、「市営住宅の整備・管理」、「廃棄物の排出抑制・適正処理」となっている。

図表 25 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 26 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	23
2	消融雪施設の整備	15
3	交通安全、防犯体制の強化	13
	空き家の管理と利活用の推進	13
5	交通弱者への福祉施策の推進	12

■20代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	42
2	消融雪施設の整備	40
3	空き家の管理と利活用の推進	35
4	交通安全、防犯体制の強化	32
	交通弱者への福祉施策の推進	32

■30代

順位	項目	回答数
1	消融雪施設の整備	62
2	除排雪体制の充実	59
3	空き家の管理と利活用の推進	39
4	交通安全、防犯体制の強化	38
5	公園・緑地の整備、緑化の推進	34

■40代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	53
2	交通安全、防犯体制の強化	39
	消融雪施設の整備	39
4	空き家の管理と利活用の推進	35
5	交通弱者への福祉施策の推進	28

■50代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	60
2	消融雪施設の整備	44
	空き家の管理と利活用の推進	44
4	交通安全、防犯体制の強化	42
5	交通弱者への福祉施策の推進	35

■60代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	61
2	交通安全、防犯体制の強化	51
3	消防、防災体制の充実	47
4	自然環境の保全	45
5	空き家の管理と利活用の推進	44

■70代以上

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	25
2	交通安全、防犯体制の強化	23
3	交通弱者への福祉施策の推進	22
4	空き家の管理と利活用の推進	21
5	消融雪施設の整備	19
	河川とその周辺環境の保全・整備	19

図表 27 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	134
2	消融雪施設の整備	129
3	交通安全、防犯体制の強化	88
4	空き家の管理と利活用の推進	82
5	交通弱者への福祉施策の推進	73

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	17
2	空き家の管理と利活用の推進	16
	消融雪施設の整備	16
4	河川とその周辺環境の保全・整備	13
5	交通安全、防犯体制の強化	12

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	49
2	消融雪施設の整備	33
3	交通安全、防犯体制の強化	28
4	空き家の管理と利活用の推進	27
5	自然環境の保全	22
	交通弱者への福祉施策の推進	22

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	35
2	交通安全、防犯体制の強化	32
3	河川とその周辺環境の保全・整備	30
4	消防、防災体制の充実	27
5	自然環境の保全	24
	交通弱者への福祉施策の推進	24

■協和地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	32
2	交通安全、防犯体制の強化	25
3	空き家の管理と利活用の推進	19
4	消融雪施設の整備	18
5	河川とその周辺環境の保全・整備	16

■南外地域

順位	項目	回答数
1	交通弱者への福祉施策の推進	18
2	空き家の管理と利活用の推進	16
3	除排雪体制の充実	13
4	自然環境の保全	11
5	交通安全、防犯体制の強化	10
	消融雪施設の整備	10

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	20
2	空き家の管理と利活用の推進	19
3	交通安全、防犯体制の強化	18
	消防、防災体制の充実	15
4	消融雪施設の整備	15
	再生エネルギー導入の促進	15

■太田地域

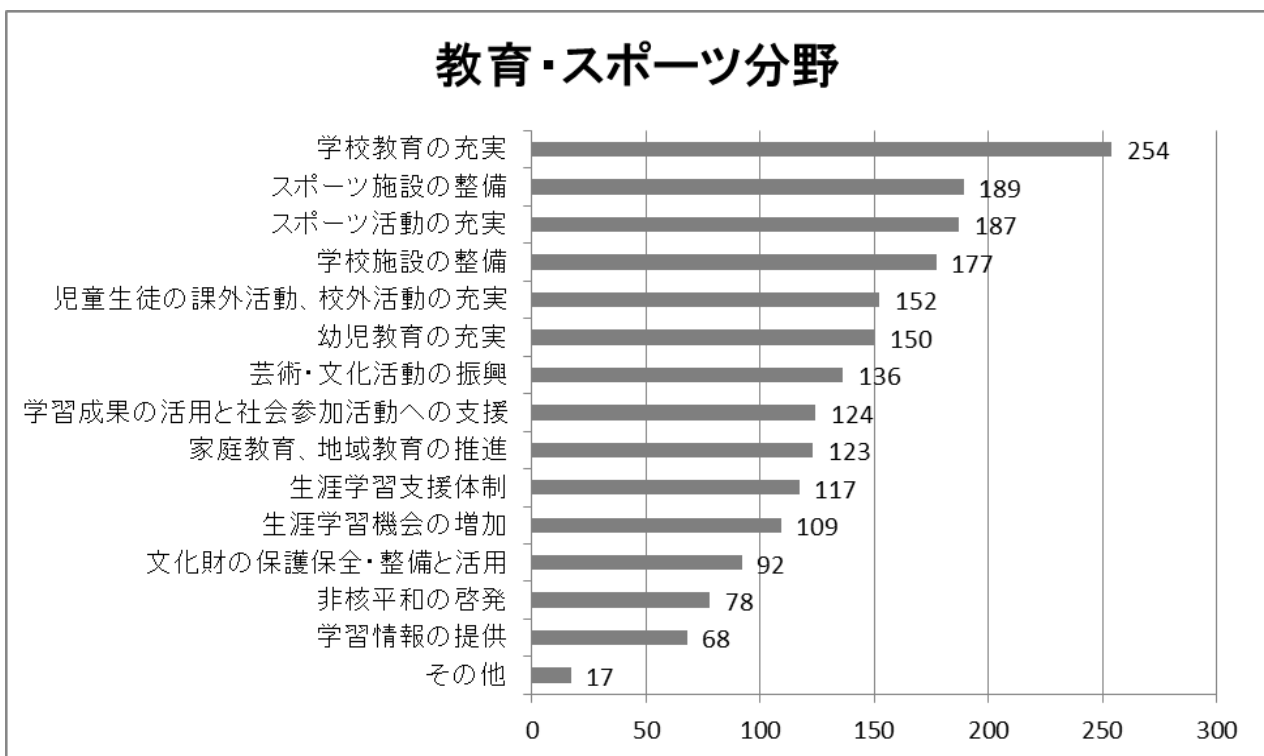
順位	項目	回答数
1	空き家の管理と利活用の推進	29
2	交通安全、防犯体制の強化	25
3	除排雪体制の充実	23
4	廃棄物の排出抑制・適正処理	19
	自然環境の保全	16
5	交通弱者への福祉施策の推進	16
	消防、防災体制の充実	16
	河川とその周辺環境の保全・整備	16

2.2.6 教育・スポーツ分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は「学校教育の充実」、「スポーツ施設の整備」、「スポーツ活動の充実」となっている。

一方、下位は「学習情報の提供」、「非核平和の啓発」、「文化財の保護保全・整備と活用」となっている。

図表 28 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 29 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	16
2	スポーツ活動の充実	15
3	学校施設の整備	14
4	スポーツ施設の整備	12
5	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	9

■20代

順位	項目	回答数
1	スポーツ施設の整備	32
2	学校教育の充実	31
3	スポーツ活動の充実	30
4	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	25
5	幼児教育の充実	24

■30代

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	47
2	幼児教育の充実	38
3	スポーツ活動の充実	34
4	学校施設の整備	32
	スポーツ施設の整備	32

■40代

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	52
2	学校施設の整備	40
3	スポーツ施設の整備	35
4	スポーツ活動の充実	34
5	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	33

■50代

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	39
2	スポーツ施設の整備	37
	生涯学習機会の増加	26
3	芸術・文化活動の振興	26
	スポーツ活動の充実	26

■60代

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	50
2	家庭教育、地域教育の推進	36
3	スポーツ活動の充実	35
4	学校施設の整備	34
	幼児教育の充実	33
5	生涯学習支援体制	33
	芸術・文化活動の振興	33

■70代以上

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	18
	家庭教育、地域教育の推進	18
3	幼児教育の充実	13
	学校施設の整備	12
4	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	12
	芸術・文化活動の振興	12
	スポーツ活動の充実	12

図表 30 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	95
2	スポーツ活動の充実	80
3	スポーツ施設の整備	79
4	学校施設の整備	69
5	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	62

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	15
	スポーツ施設の整備	15
3	幼児教育の充実	10
	学校施設の整備	9
	生涯学習支援体制	9
4	芸術・文化活動の振興	9
	文化財の保護保全・整備と活用	9
	スポーツ活動の充実	9

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	40
2	学校施設の整備	25
3	幼児教育の充実	24
4	家庭教育、地域教育の推進	20
5	スポーツ活動の充実	19
	スポーツ施設の整備	19

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	31
2	学校施設の整備	25
3	幼児教育の充実	18
	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	18
5	芸術・文化活動の振興	17
	スポーツ活動の充実	17

■協和地域

順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	22
2	スポーツ活動の充実	17
3	幼児教育の充実	16
	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	16
5	スポーツ施設の整備	15

■南外地域

順位	項目	回答数
1	スポーツ活動の充実	12
2	学校教育の充実	11
3	文化財の保護保全・整備と活用	9
	スポーツ施設の整備	9
5	学校施設の整備	8
	芸術・文化活動の振興	8

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	スポーツ施設の整備	16
	学校教育の充実	13
2	生涯学習支援体制	13
	学習成果の活用と社会参加活動への支援	13
5	学校施設の整備	11
	スポーツ活動の充実	11

■太田地域

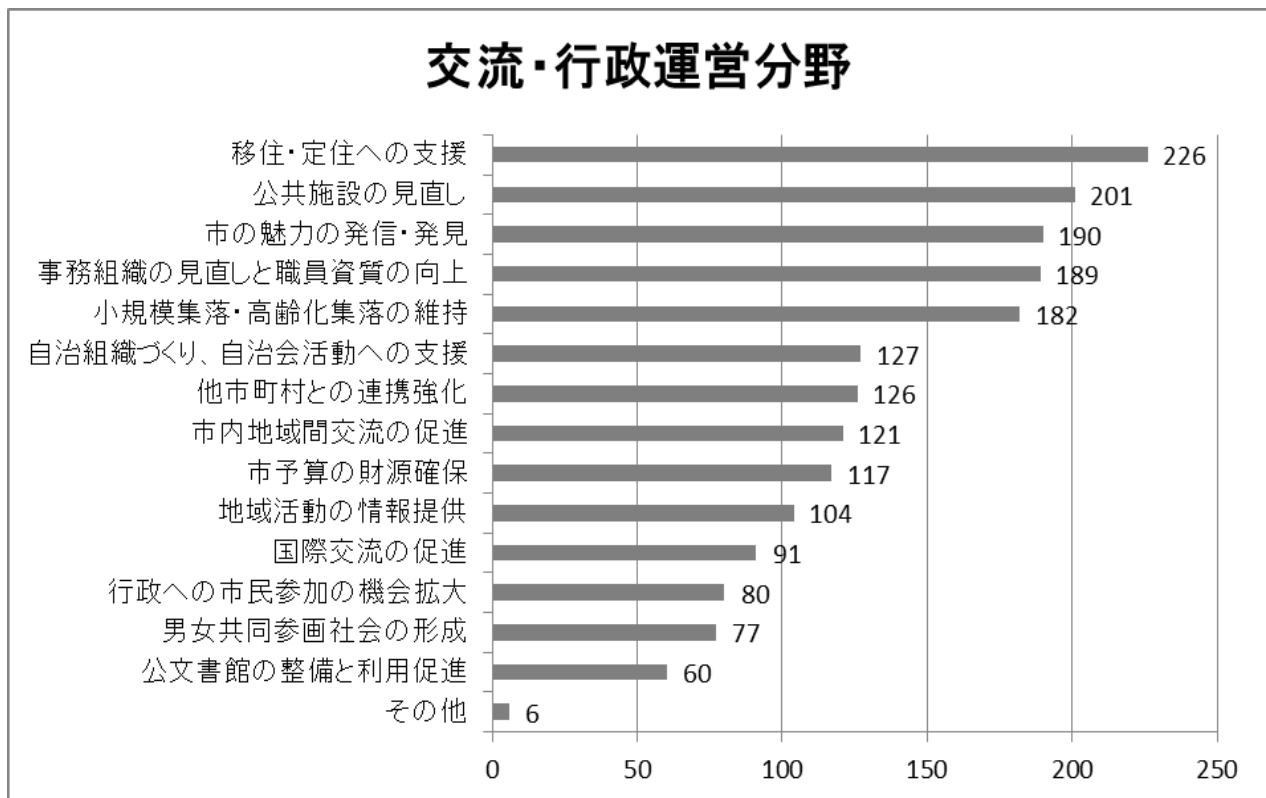
順位	項目	回答数
1	学校教育の充実	26
2	スポーツ活動の充実	21
3	スポーツ施設の整備	20
4	学校施設の整備	18
5	児童生徒の課外活動、校外活動の充実	15

2.2.7 交流・行政運営分野に関する設問について

さらに推進すべき取り組みの上位は「移住・定住への支援」、「公共施設の見直し」、「市の魅力の発信・発見」となっている。

一方、下位は「公文書館の整備と利用促進」、「男女共同参画社会の形成」、「行政への市民参加の機会拡大」となっている。

図表 31 さらに推進すべき取り組み（回答数順）



図表 32 年代別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■10代

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	17
2	市の魅力の発信・発見	16
3	地域活動の情報提供	9
	公共施設の見直し	9
	市内地域間交流の促進	8
5	小規模集落・高齢化集落の維持	8
	市予算の財源確保	8

■20代

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	39
2	市の魅力の発信・発見	28
3	公共施設の見直し	25
4	他市町村との連携強化	24
5	市内地域間交流の促進	21

■30代

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	43
2	公共施設の見直し	39
3	市の魅力の発信・発見	30
4	事務組織の見直しと職員資質の向上	27
5	小規模集落・高齢化集落の維持	24

■40代

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	37
2	事務組織の見直しと職員資質の向上	30
3	市の魅力の発信・発見	25
4	小規模集落・高齢化集落の維持	24
	公共施設の見直し	24

■50代

順位	項目	回答数
1	公共施設の見直し	43
2	事務組織の見直しと職員資質の向上	42
3	移住・定住への支援	40
4	小規模集落・高齢化集落の維持	37
5	市の魅力の発信・発見	35

■60代

順位	項目	回答数
1	公共施設の見直し	48
2	小規模集落・高齢化集落の維持	45
3	事務組織の見直しと職員資質の向上	44
4	自治組織づくり、自治会活動への支援	40
5	市の魅力の発信・発見	38

■70代以上

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落の維持	24
2	自治組織づくり、自治会活動への支援	19
	事務組織の見直しと職員資質の向上	19
4	市の魅力の発信・発見	17
5	移住・定住への支援	16

図表 33 地域別による「さらに推進すべき取り組み」（上位）

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	市の魅力の発信・発見	85
2	移住・定住への支援	80
3	事務組織の見直しと職員資質の向上	80
4	公共施設の見直し	75
5	市内地域間交流の促進	49
	小規模集落・高齢化集落の維持	49

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	12
	公共施設の見直し	11
3	小規模集落・高齢化集落の維持	9
	事務組織の見直しと職員資質の向上	9
	市予算の財源確保	9

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	公共施設の見直し	29
2	小規模集落・高齢化集落の維持	28
3	移住・定住への支援	27
	事務組織の見直しと職員資質の向上	27
5	市内地域間交流の促進	23
	自治組織づくり、自治会活動への支援	23

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落の維持	31
2	公共施設の見直し	30
3	他市町村との連携強化	22
	移住・定住への支援	22
5	市の魅力の発信・発見	21

■協和地域

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落の維持	22
	移住・定住への支援	22
3	市の魅力の発信・発見	19
4	公共施設の見直し	17
5	事務組織の見直しと職員資質の向上	16

■南外地域

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	14
2	自治組織づくり、自治会活動への支援	13
3	小規模集落・高齢化集落の維持	11
4	市の魅力の発信・発見	10
5	公共施設の見直し	9

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	21
2	市の魅力の発信・発見	13
3	事務組織の見直しと職員資質の向上	12
	公共施設の見直し	12
5	小規模集落・高齢化集落の維持	11

■太田地域

順位	項目	回答数
1	移住・定住への支援	25
2	事務組織の見直しと職員資質の向上	20
3	他市町村との連携強化	19
4	小規模集落・高齢化集落の維持	18
5	公共施設の見直し	17

2.2.8 さらに推進すべき取り組みの総括

産業分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は「雇用・就労への支援」、「農業の担い手確保、育成」、「Aターン希望者への支援」となっている。
- ・ 40代、50代では「雇用・就労への支援」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 神岡地域では「農村生活・就業環境の整備」の割合が、他の地域に比べて高く、3位になっている。

出会い・結婚・子育て分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は「子育て支援体制の充実」、「医療費の軽減」、「保育料の軽減」となっている。
- ・ どの年代においても、上位の項目にほとんど違いはないが、60代、70代以上では「出会い創出イベントの開催」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 中仙地域以外では上位3つの取り組みが同じになっている。

健康福祉分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は、「高齢者福祉の充実」、「地域医療体制の整備」、「国民健康保険などの社会保障の促進」となっている。
- ・ 20代、60代、70代以上では「からだの健康づくりの推進」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 中仙地域では「福祉施設、福祉住宅等の整備」の割合が高くなっている。

都市基盤分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、「生活道路の整備」、「安全で安定した水道水の供給」となっている。
- ・ 20代では「計画的な市街地整備」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ どの地域においても、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」と「生活道路の整備」の割合が、他の取り組みに比べて高くなっている。

環境・安全分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は「除排雪体制の充実」、「消融雪施設の整備」、「交通安全、防犯体制の強化」となっている。
- ・ 60代では「消防、防犯体制の充実」と「自然環境の保全」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 南外地域では「交通弱者への福祉施策の推進」の割合が、他の地域に比べて高くなっている。

教育・スポーツ分野

- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は「学校教育の充実」、「スポーツ施設の整備」、「スポーツ活動の充実」となっている。
- ・ 30代では「幼児教育の充実」が他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 神岡地域と南外地域では、「文化財の保護保全・整備と活用」の割合が、他の地域に比べて高くなっている。

交流・行政運営分野

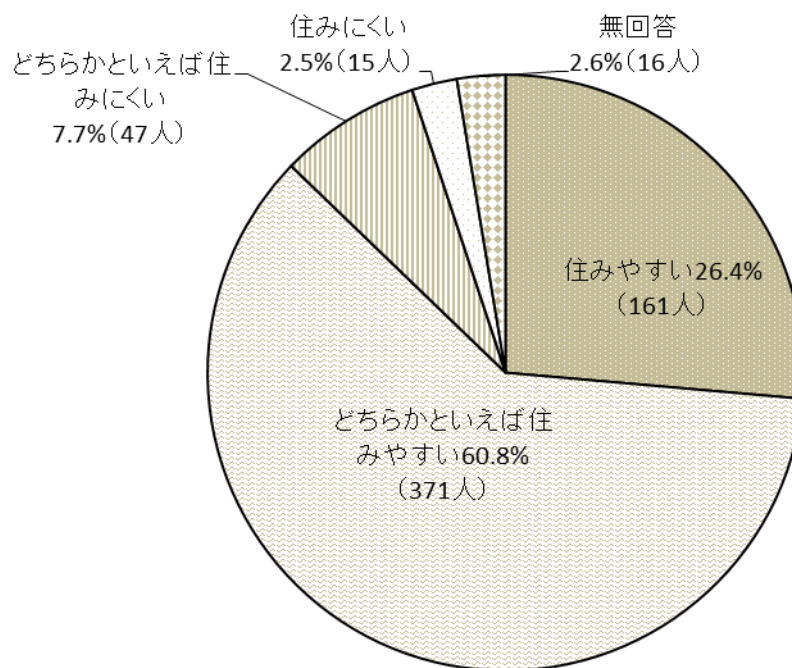
- ・ さらに推進すべき取り組みの上位は「移住・定住への支援」、「公共施設の見直し」、「市の魅力の発信・発見」となっている。
- ・ 60代、70代以上では「自治組織づくり、自治会活動への支援」の割合が、他の年代に比べて高くなっている。
- ・ 仙北地域では「移住・定住への支援」の割合が、他の取り組みに比べて高くなっている。

2.3 大仙市の住みやすさについての分析

2.3.1 「大仙市は住みやすいか」について

「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合を合わせると、9割近くを占めている。

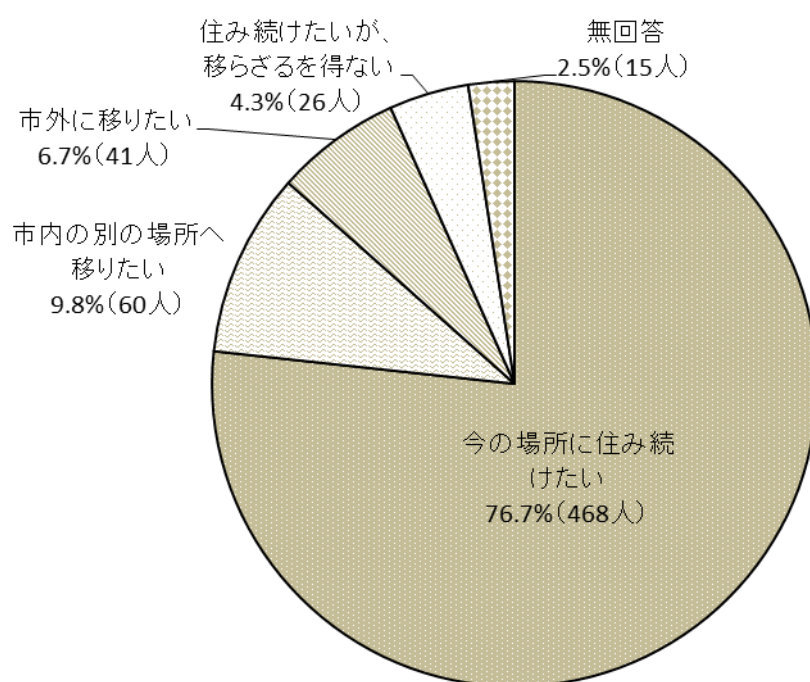
図表 34 大仙市は住みやすいか



2.3.2 「大仙市に住み続けたいか」について

「今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合が7割以上を占めている。

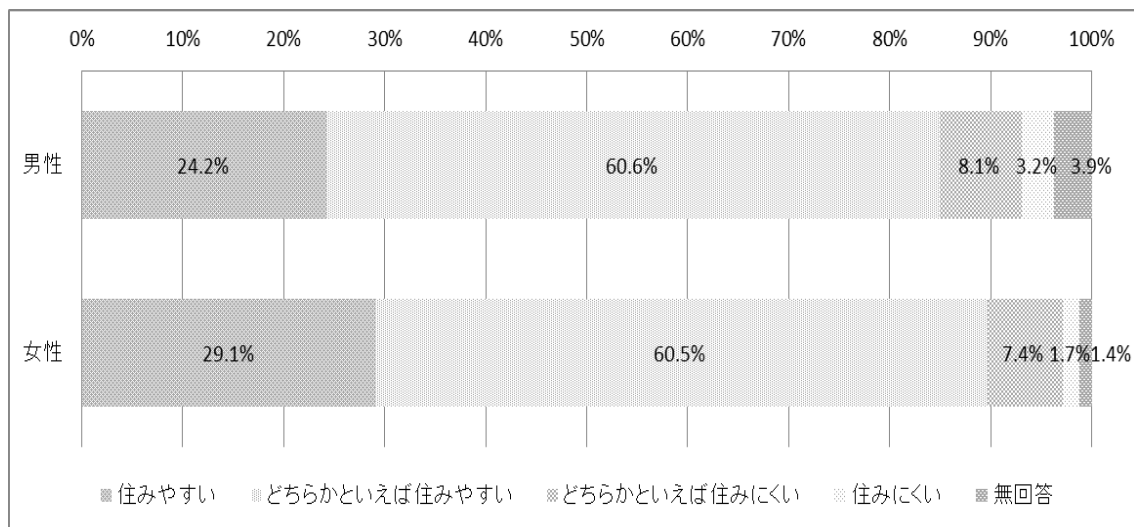
図表 35 大仙市に住み続けたいか



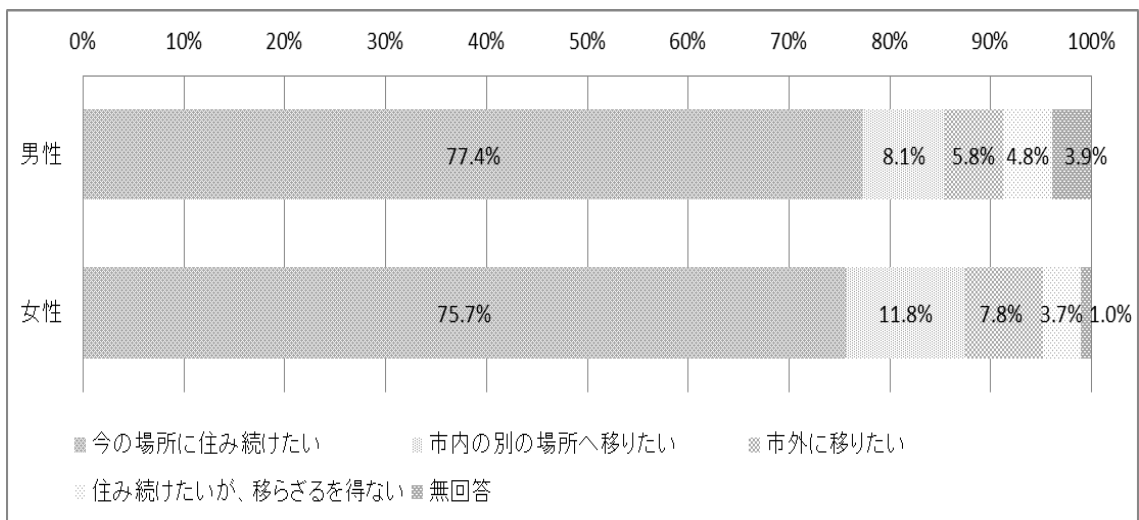
2.3.3 大仙市の住みやすさについての属性別比較

図表 36 性別による「大仙市は住みやすいか」・「大仙市に住み続けたいか」

■大仙市は住みやすいか

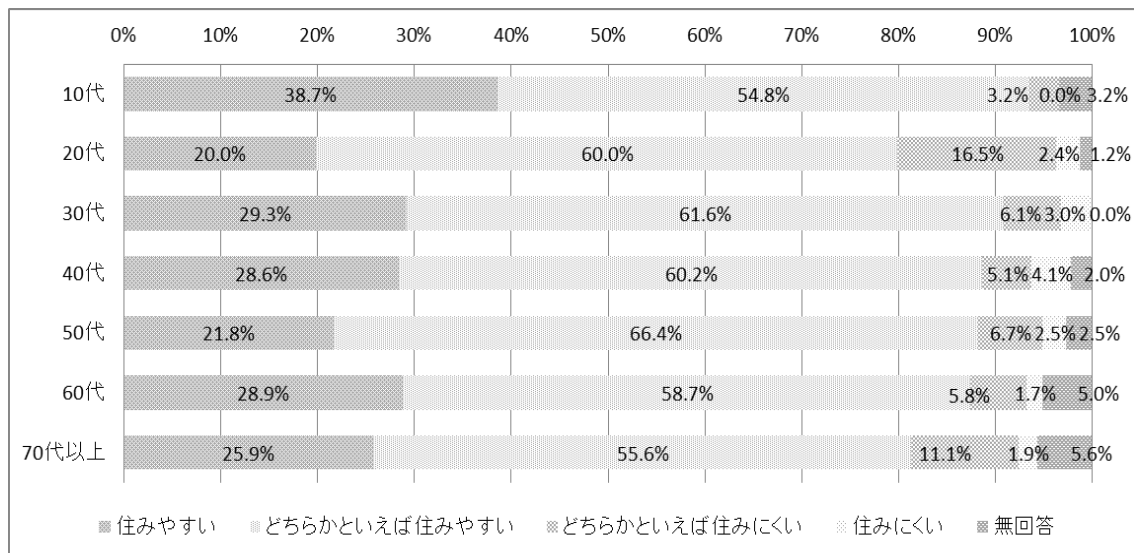


■大仙市に住み続けたいか

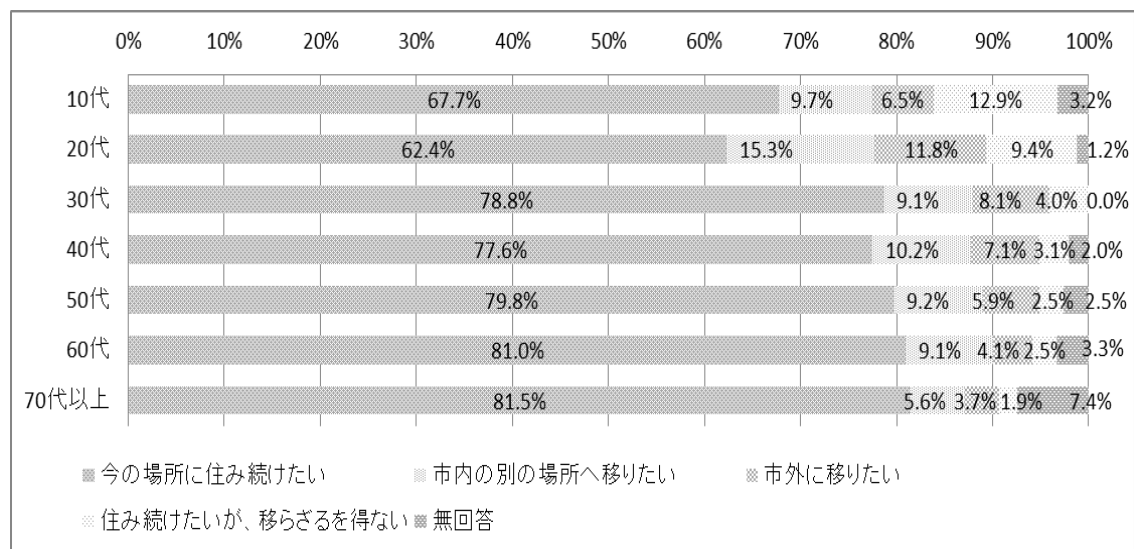


図表 37 年代別による「大仙市は住みやすいか」・「大仙市に住み続けたいか」

■大仙市は住みやすいか

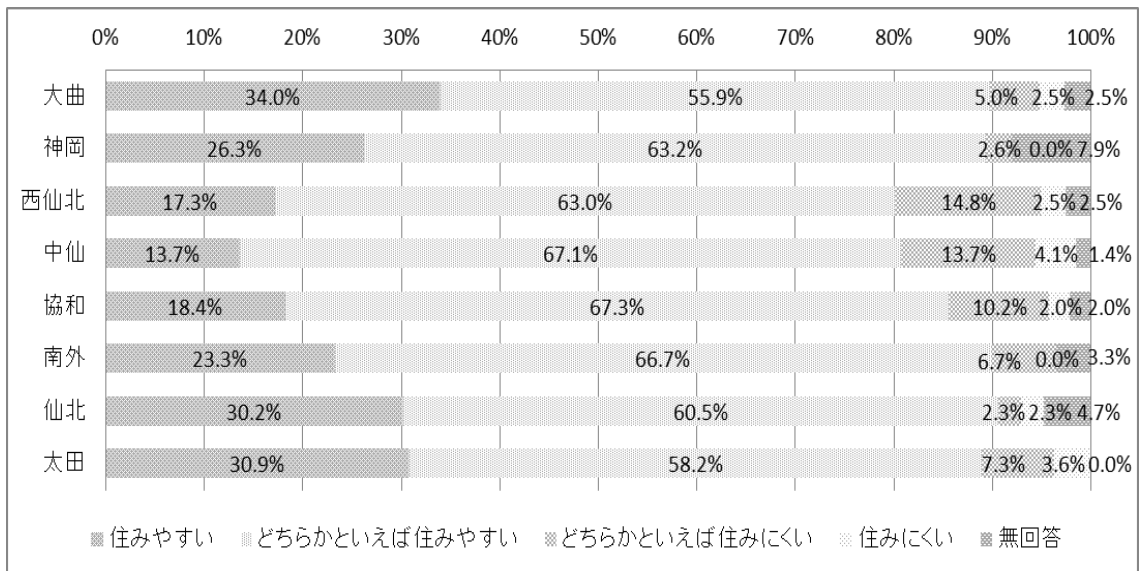


■大仙市に住み続けたいか

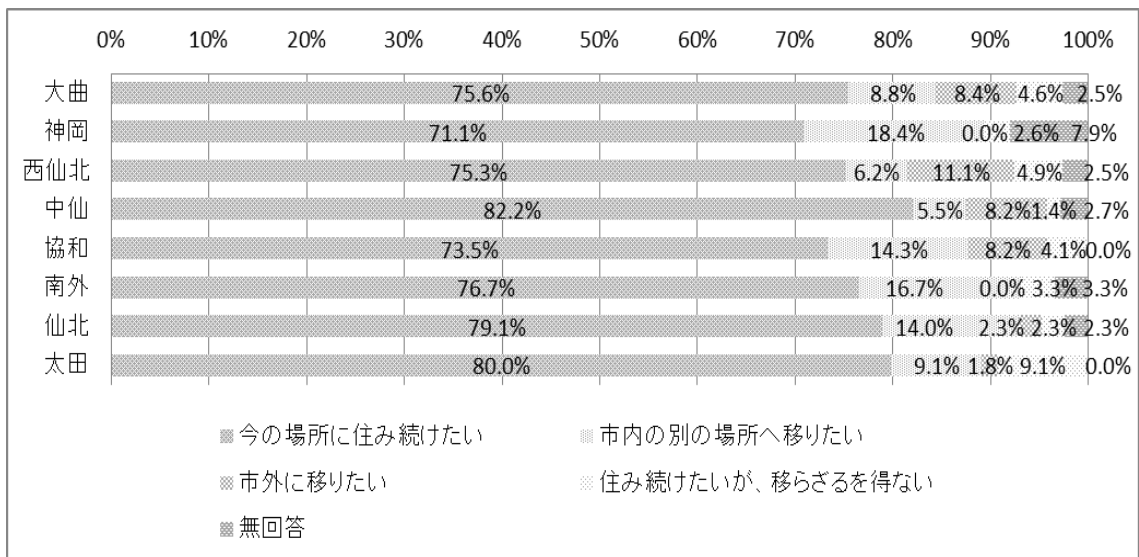


図表 38 地域別による「大仙市は住みやすいか」・「大仙市に住み続けたいか」

■大仙市は住みやすいか



■大仙市に住み続けたいか



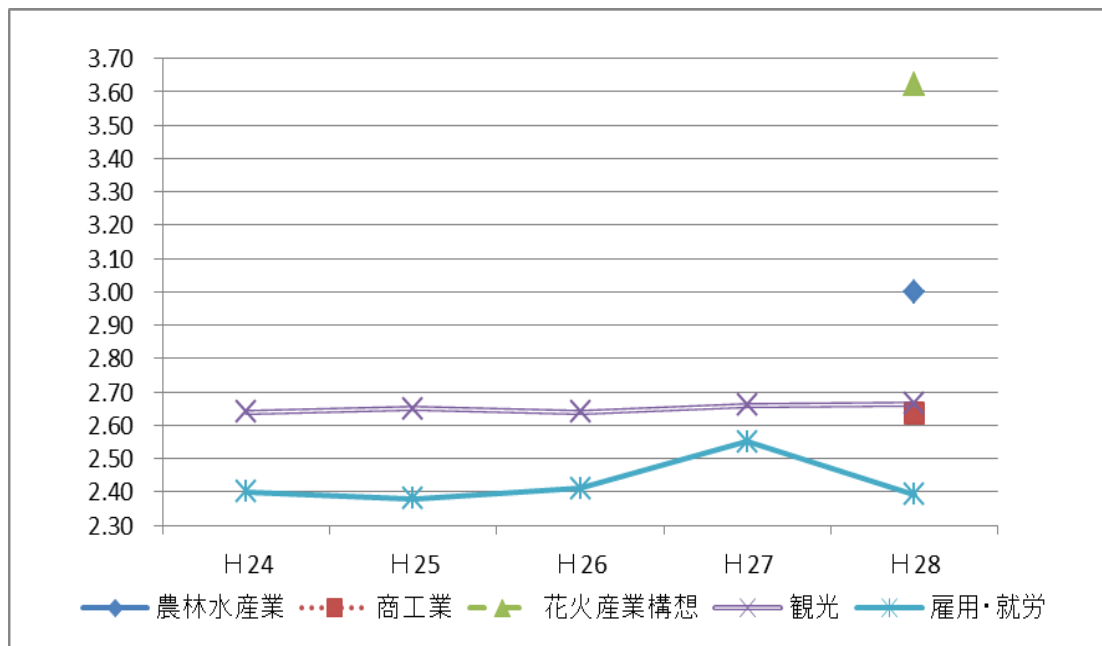
2.4 5年間の経年比較

平成24年度から28年度まで、過去5年間の満足度、重要度、要望度についての推移をまとめた。

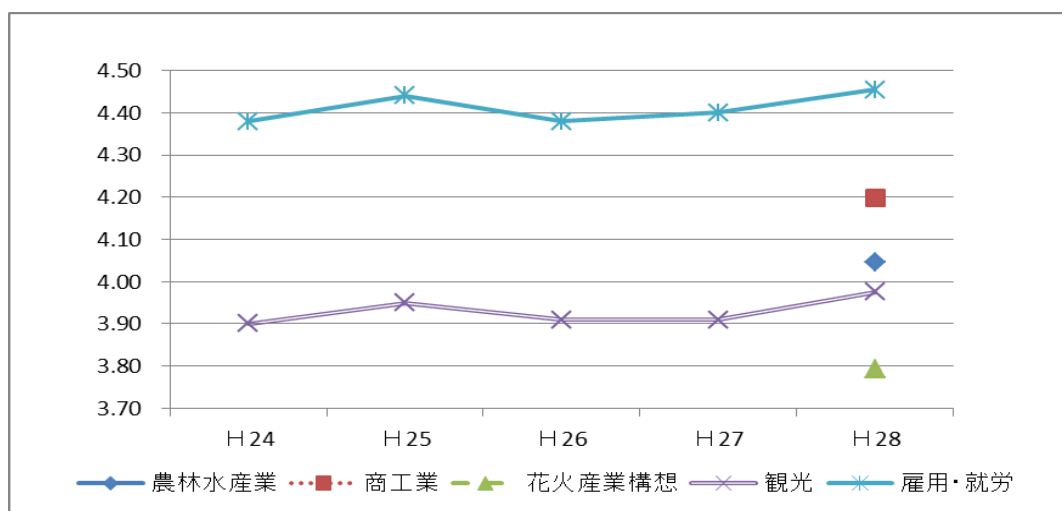
I 魅力ある産業のまちを創ります！～産業振興・雇用など～

新規項目が多いが、重要度と要望度で上昇傾向がみられる。

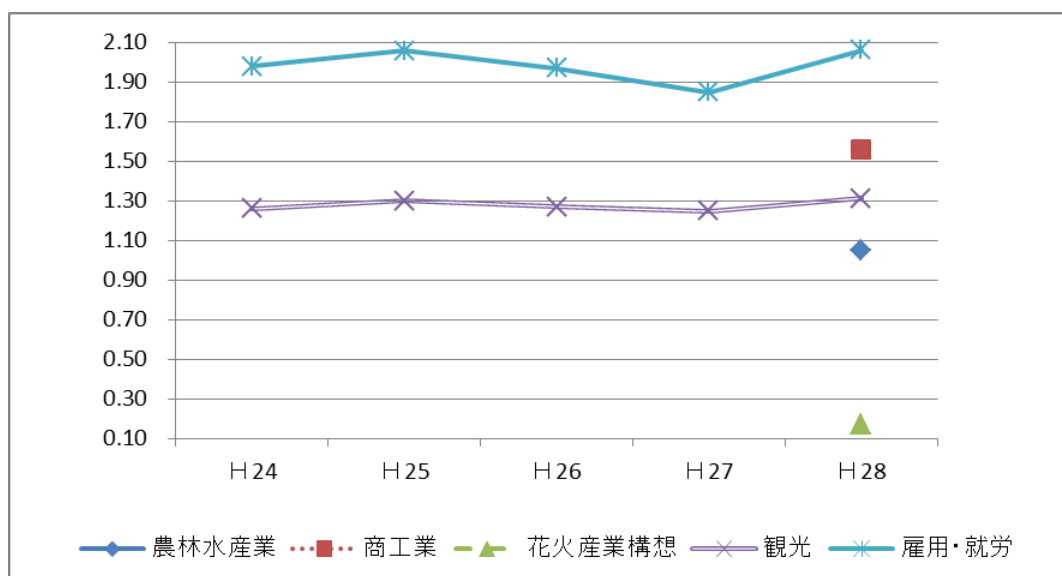
満足度	H24	H25	H26	H27	H28	
農林水産業	—	—	—	—	3.00	新規
商工業	—	—	—	—	2.64	新規
花火産業構想	—	—	—	—	3.62	新規
観光	2.64	2.65	2.64	2.66	2.66	
雇用・就労	2.40	2.38	2.41	2.55	2.39	



重要度	H24	H25	H26	H27	H28	
農林水産業	—	—	—	—	4.05	新規
商工業	—	—	—	—	4.20	新規
花火産業構想	—	—	—	—	3.79	新規
観光	3.90	3.95	3.91	3.91	3.98	
雇用・就労	4.38	4.44	4.38	4.40	4.45	



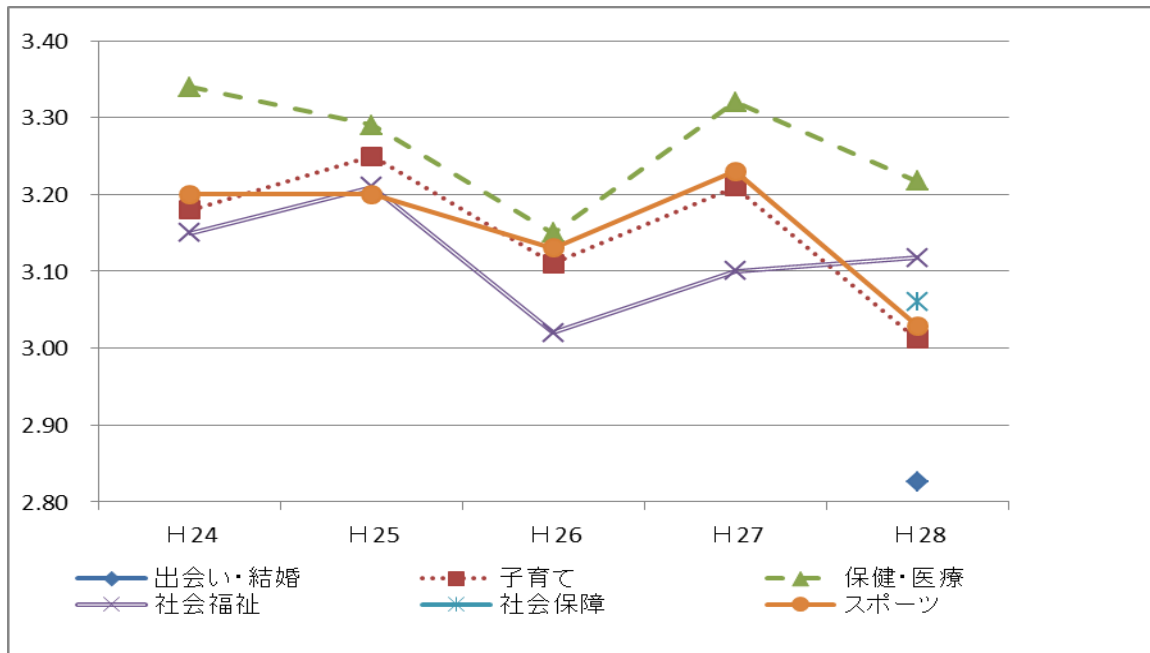
要望度	H24	H25	H26	H27	H28	
農林水産業	—	—	—	—	1.05	新規
商工業	—	—	—	—	1.56	新規
花火産業構想	—	—	—	—	0.17	新規
観光	1.26	1.30	1.27	1.25	1.31	
雇用・就労	1.98	2.06	1.97	1.85	2.06	



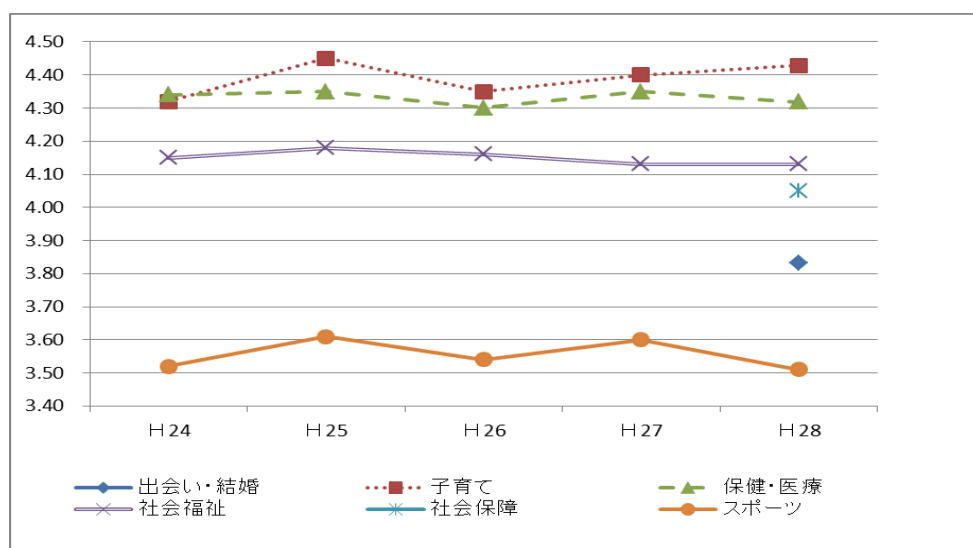
Ⅱ みんなの元気を応援します！～出会い・結婚・子育て、健康・福祉など～

「スポーツ」の重要度と要望度が、他の項目に比べて低く推移している。

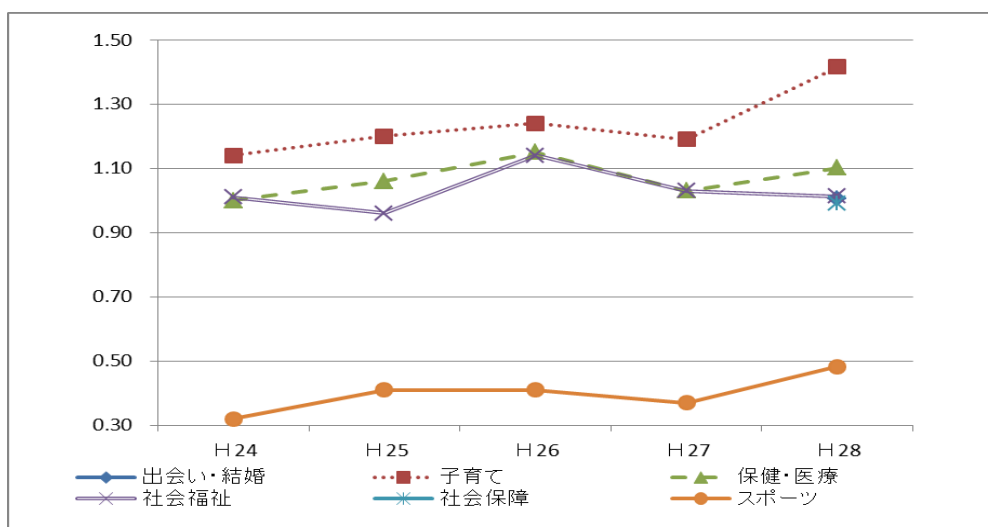
満足度	H24	H25	H26	H27	H28	
出会い・結婚	—	—	—	—	2.83	新規
子育て	3.18	3.25	3.11	3.21	3.01	
保健・医療	3.34	3.29	3.15	3.32	3.22	
社会福祉	3.15	3.21	3.02	3.10	3.12	
社会保障	—	—	—	—	3.06	新規
スポーツ	3.20	3.20	3.13	3.23	3.03	



重要度	H24	H25	H26	H27	H28	
出会い・結婚	—	—	—	—	3.83	新規
子育て	4.32	4.45	4.35	4.40	4.43	
保健・医療	4.34	4.35	4.30	4.35	4.32	
社会福祉	4.15	4.18	4.16	4.13	4.13	
社会保障	—	—	—	—	4.05	新規
スポーツ	3.52	3.61	3.54	3.60	3.51	



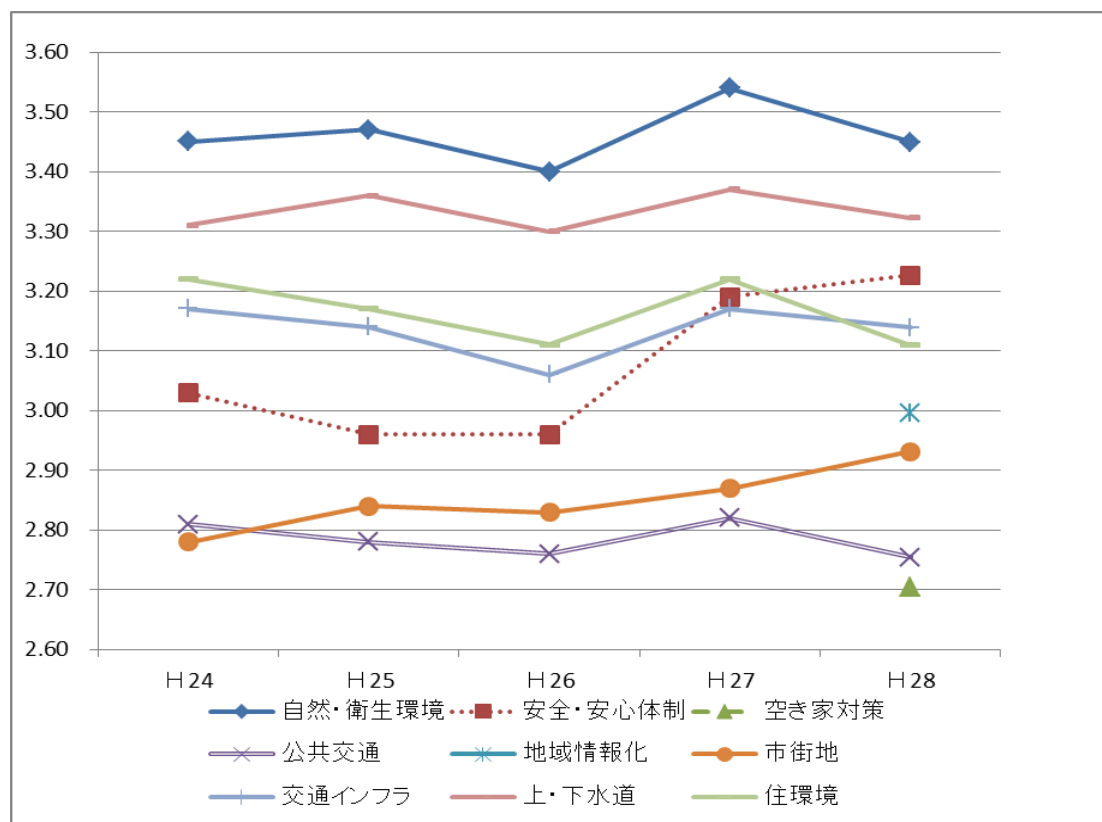
要望度	H24	H25	H26	H27	H28	
出会い・結婚	—	—	—	—	1.01	新規
子育て	1.14	1.20	1.24	1.19	1.42	
保健・医療	1.00	1.06	1.15	1.03	1.10	
社会福祉	1.01	0.96	1.14	1.03	1.01	
社会保障	—	—	—	—	0.99	新規
スポーツ	0.32	0.41	0.41	0.37	0.48	



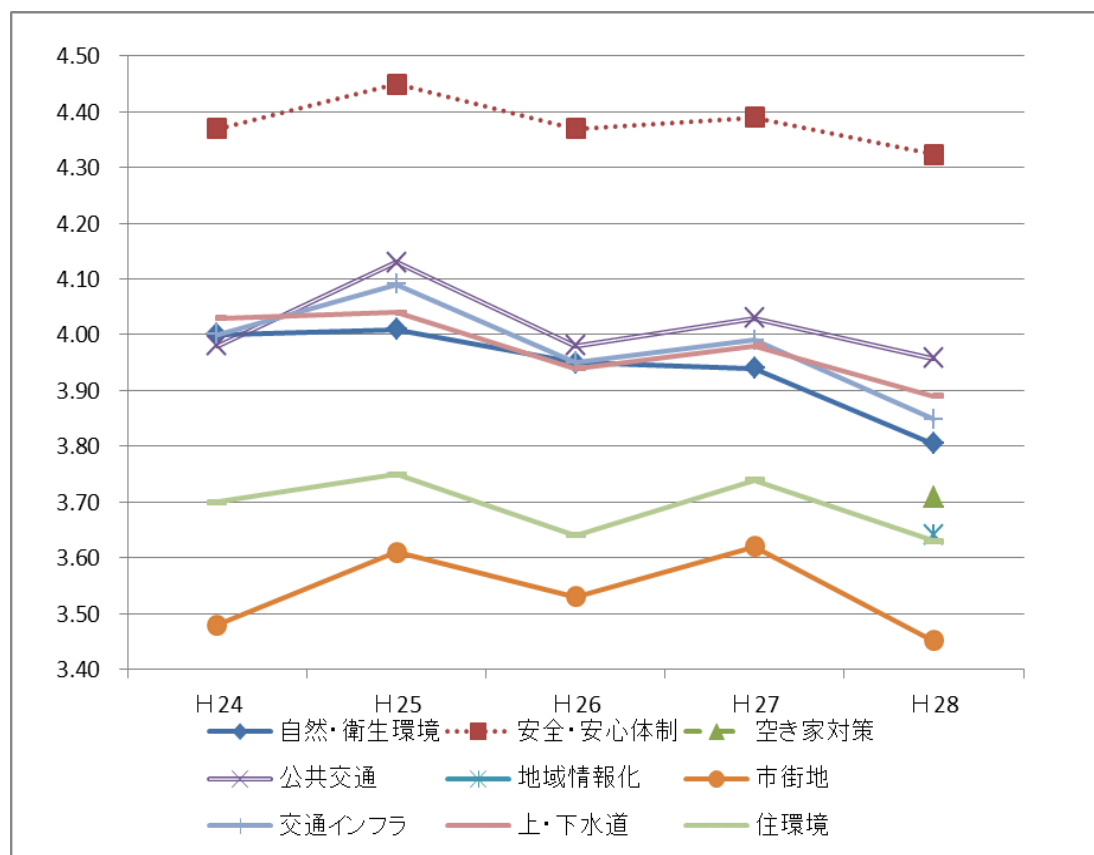
Ⅲ 住みよいまちを築きます！～安全・安心、都市整備など～

重要度と要望度において、昨年度と比べて減少傾向が見られる。

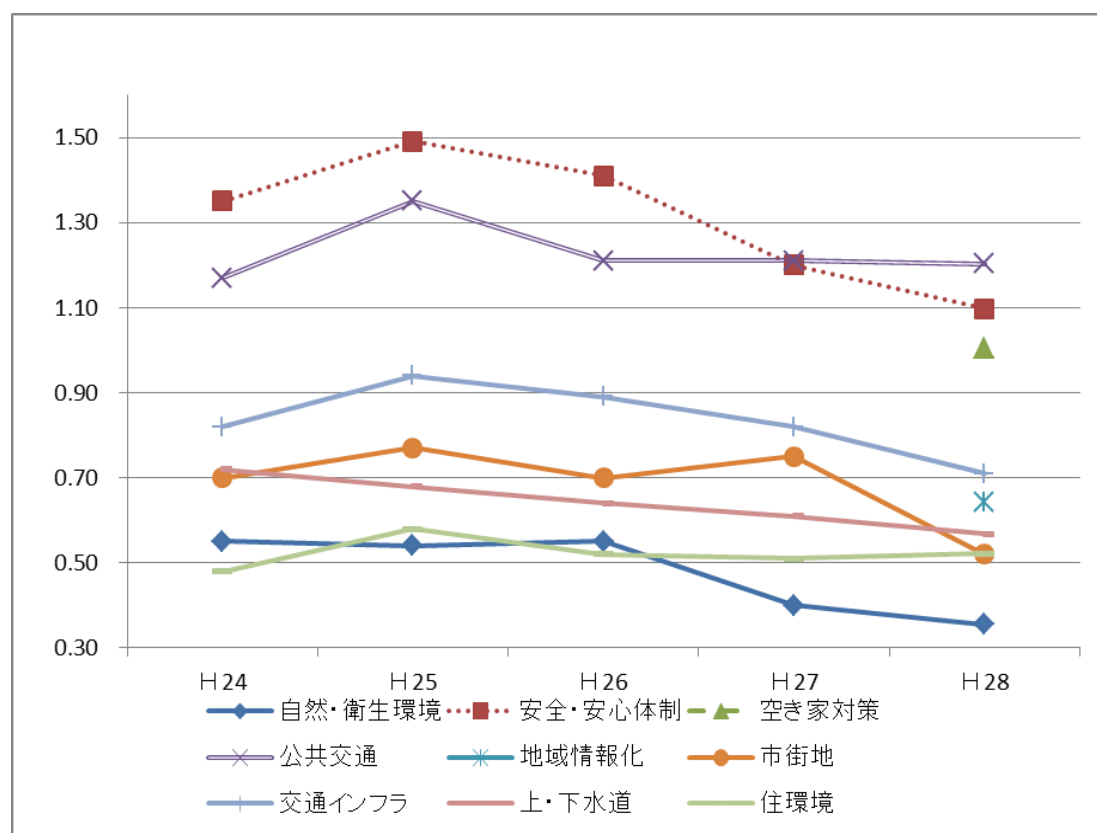
満足度	H24	H25	H26	H27	H28	
自然・衛生環境	3.45	3.47	3.40	3.54	3.45	
安全・安心体制	3.03	2.96	2.96	3.19	3.23	
空き家対策	—	—	—	—	2.70	新規
公共交通	2.81	2.78	2.76	2.82	2.75	
地域情報化	—	—	—	—	3.00	新規
市街地	2.78	2.84	2.83	2.87	2.93	
交通インフラ	3.17	3.14	3.06	3.17	3.14	
上・下水道	3.31	3.36	3.30	3.37	3.32	
住環境	3.22	3.17	3.11	3.22	3.11	



重要度	H24	H25	H26	H27	H28	
自然・衛生環境	4.00	4.01	3.95	3.94	3.80	
安全・安心体制	4.37	4.45	4.37	4.39	4.32	
空き家対策	—	—	—	—	3.71	新規
公共交通	3.98	4.13	3.98	4.03	3.96	
地域情報化	—	—	—	—	3.64	新規
市街地	3.48	3.61	3.53	3.62	3.45	
交通インフラ	4.00	4.09	3.95	3.99	3.85	
上・下水道	4.03	4.04	3.94	3.98	3.89	
住環境	3.70	3.75	3.64	3.74	3.63	



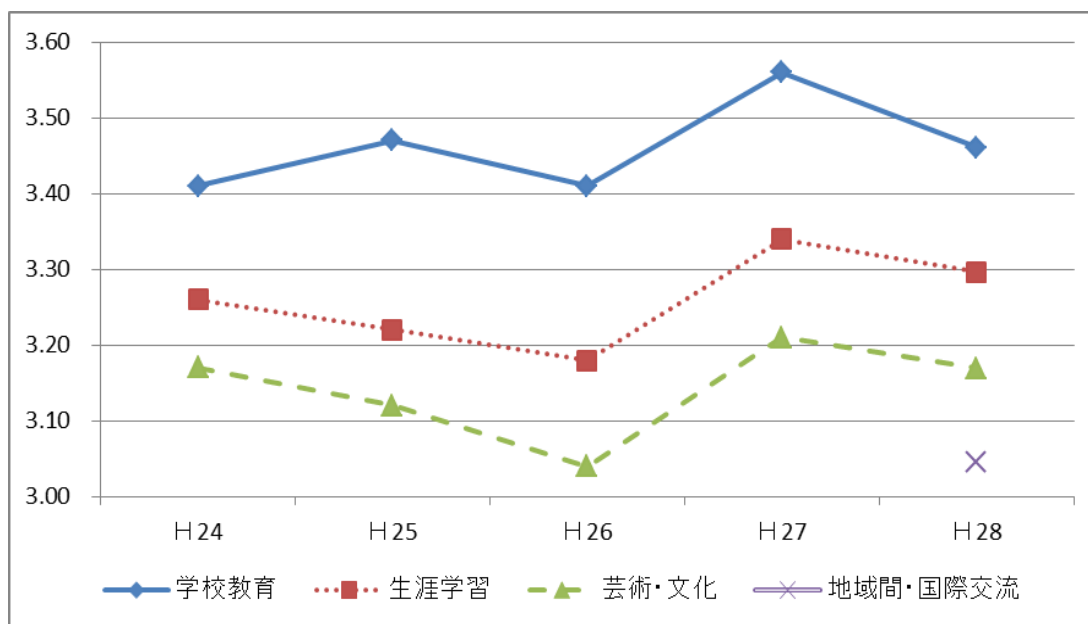
要望度	H24	H25	H26	H27	H28	
自然・衛生環境	0.55	0.54	0.55	0.40	0.36	
安全・安心体制	1.35	1.49	1.41	1.20	1.10	
空き家対策	—	—	—	—	1.00	新規
公共交通	1.17	1.35	1.21	1.21	1.20	
地域情報化	—	—	—	—	0.64	新規
市街地	0.70	0.77	0.70	0.75	0.52	
交通インフラ	0.82	0.94	0.89	0.82	0.71	
上・下水道	0.72	0.68	0.64	0.61	0.57	
住環境	0.48	0.58	0.52	0.51	0.52	



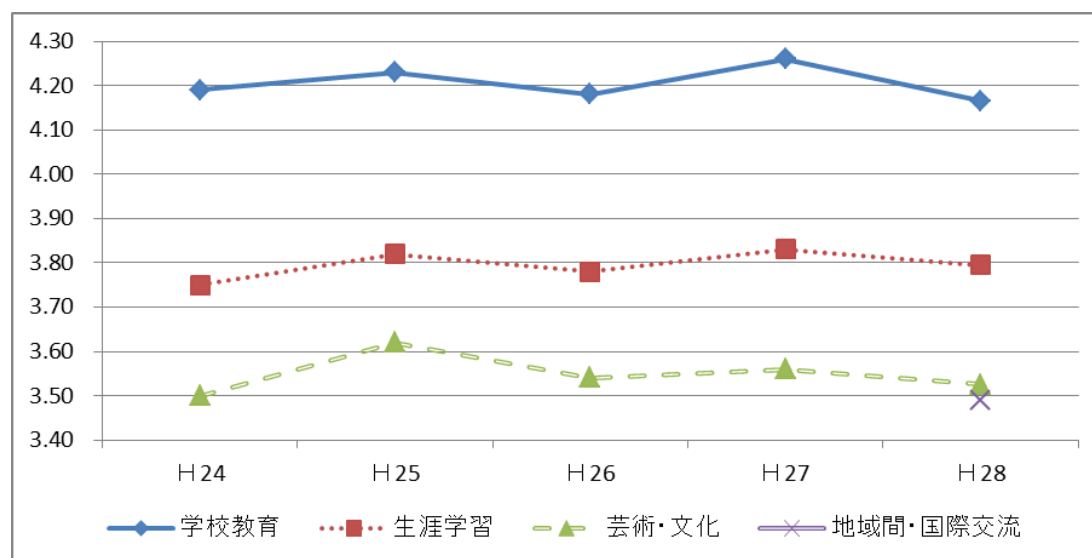
Ⅳ 豊かな心と創造力を育みます！～教育、生涯学習、芸術・文化など～

満足度、重要度ともに、昨年度と比べて減少傾向が見られる。

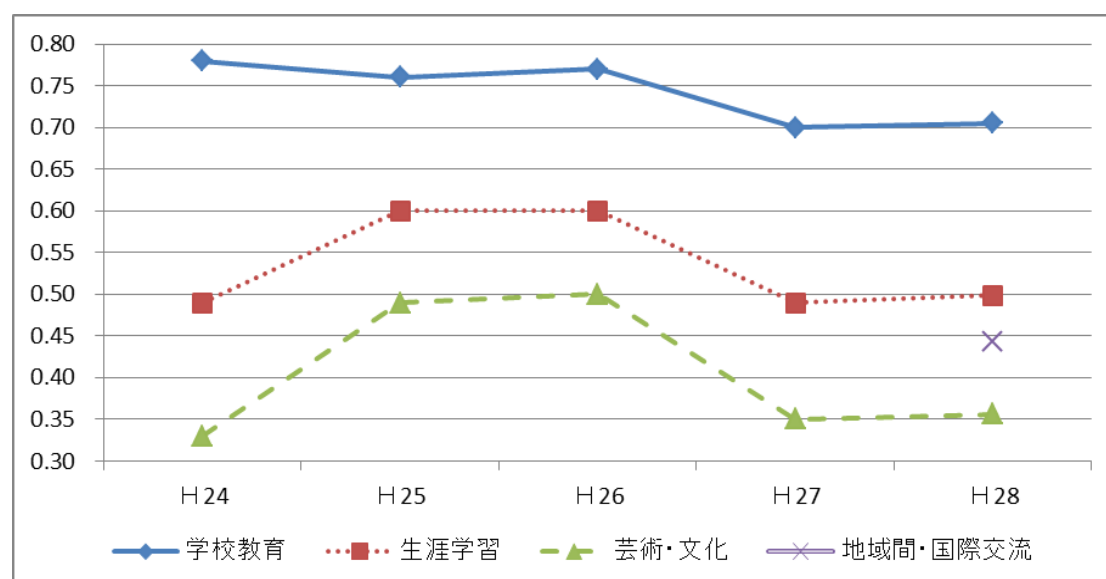
満足度	H24	H25	H26	H27	H28
学校教育	3.41	3.47	3.41	3.56	3.46
生涯学習	3.26	3.22	3.18	3.34	3.30
芸術・文化	3.17	3.12	3.04	3.21	3.17
地域間・国際交流	—	—	—	—	3.05 新規



重要度	H24	H25	H26	H27	H28	
学校教育	4.19	4.23	4.18	4.26	4.17	
生涯学習	3.75	3.82	3.78	3.83	3.80	
芸術・文化	3.50	3.62	3.54	3.56	3.53	
地域間・国際交流	—	—	—	—	3.49	新規



要望度	H24	H25	H26	H27	H28	
学校教育	0.78	0.76	0.77	0.70	0.71	
生涯学習	0.49	0.60	0.60	0.49	0.50	
芸術・文化	0.33	0.49	0.50	0.35	0.36	
地域間・国際交流	—	—	—	—	0.44	新規

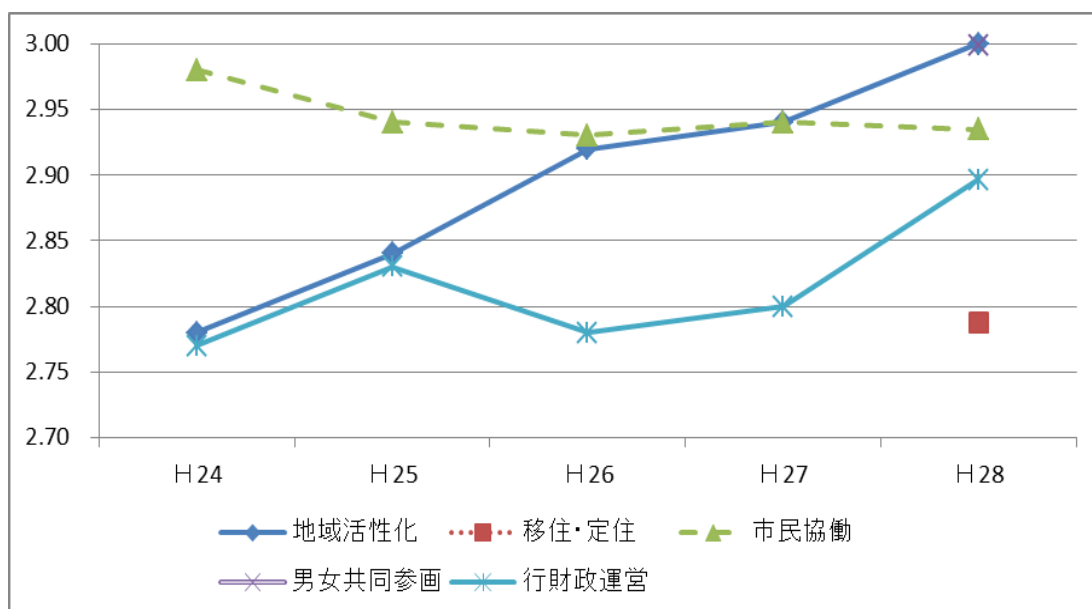


V 時代に合った地域を創ります！

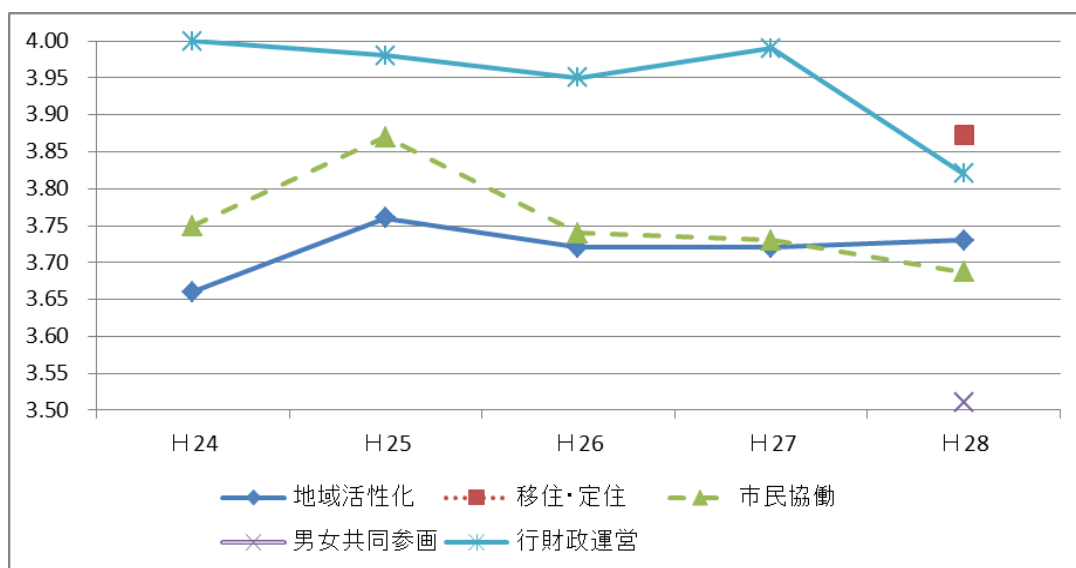
～地域社会の維持・活性化、市民との協働、行財政運営など～

全項目に対する満足度が上昇し、要望度に低下傾向が見られる。

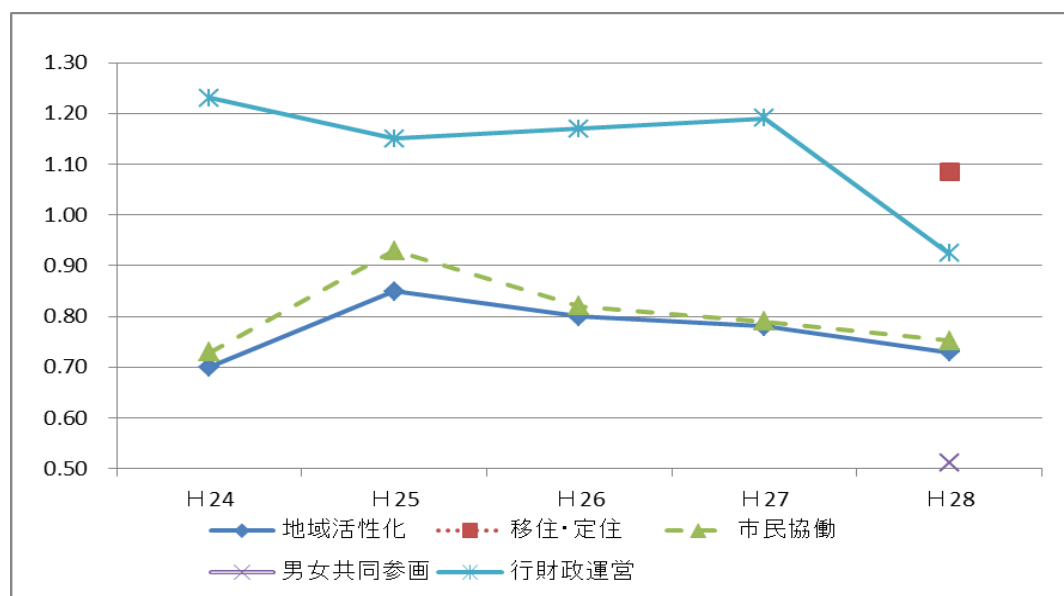
満足度	H24	H25	H26	H27	H28	
地域活性化	2.78	2.84	2.92	2.94	3.00	
移住・定住	—	—	—	—	2.79	新規
市民協働	2.98	2.94	2.93	2.94	2.93	
男女共同参画	—	—	—	—	3.00	新規
行財政運営	2.77	2.83	2.78	2.80	2.90	



重要度	H24	H25	H26	H27	H28	
地域活性化	3.66	3.76	3.72	3.72	3.73	
移住・定住	—	—	—	—	3.87	新規
市民協働	3.75	3.87	3.74	3.73	3.69	
男女共同参画	—	—	—	—	3.51	新規
行財政運営	4.00	3.98	3.95	3.99	3.82	



要望度	H24	H25	H26	H27	H28	
地域活性化	0.70	0.85	0.80	0.78	0.73	
移住・定住	—	—	—	—	1.08	新規
市民協働	0.73	0.93	0.82	0.79	0.75	
男女共同参画	—	—	—	—	0.51	新規
行財政運営	1.23	1.15	1.17	1.19	0.92	



2.5 自由記述の類型化（抜粋）

市民評価に寄せられた自由意見を分野ごとにまとめた。

産業分野

(1) 農林水産業について

- 給食に、地場野菜をもっと活用してほしい。国のセシウム下限値が高くて信頼できない。（大曲 40代女性）
- バイオによる農水産物の生産、販売。（大曲 50代男性）
- 農家の所得が潤えば、地域はもっと活性化して来ると思うが、国の政策や考えが農家をないがしろにしている。（神岡 40代男性）
- 農業をしている家としては後継者問題について考えさせられる。今の50～70代が後期高齢者になった時の状態を考えると、負担が大きいのではないかと不安だ。（神岡 70代男性、中仙 30代女性）
- 農地の区画整理が進むことで作業効率が向上し、生産性が多くなることはよいと思うが、その地域でしか食べられないものや、その地域でしか作れないものなどに対して、もっと市が支援・宣伝していくことで、ブランド的な特産物が多くなり、それと共に大仙市の知名度も広く知ってもらえるようになれば、地域の活性化につながるのではないか。（中仙 40代女性）
- 生產品の独自販路拡大。（中仙 50代男性）
- 市が先導して山の幸を発信できるような仕組みはないだろうか。（南外 40代男性）
- 南外地区で薬草栽培をした方がよいと思う。富山県内では直売所でも薬草を売っているそうなので、勉強しに行ってみよう。（南外 70代女性）

(2) 商工業について

- 中小企業は毎年ベースアップすることもなく大変だ。花火産業だけでなく、とにかくもっと産業を活性化させ、最低賃金を上げ、市民の数を増やす根本の対策が一番必要だと思う。（大曲 30 代女性）
- 県外から秋田県や大仙市にお金が入ってくる（食える産業）を育てること。国外との取引はリスク。（中仙 50 代男性）
- 加工所やレストランなどを行うとき、行政がもっと積極的に動いてほしい。（中仙 50 代女性）
- 行政支援による地元企業の促進。（協和 50 代男性）
- 大手企業（製造等）に特化した企業誘致。商業（売買）ばかりでは大きなお金は動かない。大手企業が入れば他から（県外）入るお金が地元市民の給料となり、さらには消費拡大につながると思う。（仙北 30 代女性）
- 消費型より産業（生産）型の発展になればいい。（太田 60 代男性）

(3) 花火産業構想について

- 大曲の花火は日本一の花火大会だと思う。その知名度を今以上に上げれば、来場者数が増え、リピーターになったり、魅力的に感じた人たちが大仙市に移住しに来たりなど、経済的波及効果が少なからずあると思う。そのためにも市民参加型のイベントや、ギネス記録挑戦などといった面白いことを行えばいいと思う。現代においてマスメディアやロコミの力は思わぬ反響を生むので、それを利用して日本や世界に名を広めていけば、街全体が活気付くのではないかな。自分は大曲出身だと誇りたい。（大曲 20 代男性）
- ここ何年かですごく感じていることだが、花火の枚数増加と値上がり幅が大きいと思う。それに伴い、自由席が少なくなっている。昔から大曲の祭りとして市民も楽しみにしているものなので、大曲市民にとって得なことがないとダメではないかな。予算確保は市の仕事なので、十分に確保してもらい、市民に何か還元するようなことを考えてほしい。（大曲 30 代男性）

- 唯一の花火大会をもっとしっかり行ってほしい。金もうけに走りすぎで、このままではダメになる。せっかく大曲に来てくれた人に、がっかりしてほしくない。（大曲 30 代女性）
- 大学（専門学校）の誘致。花火やその原料に関する専門的な分野の設置。花火の規模に対して、大仙市内の宿泊地・観光地が少ない。通過的な観光地となっている。花火で来ても、他地域に泊まらなければいけないのはどうかと思う。（大曲 40 代女性）
- 大きな花火大会だけ告知するのではなく、広報などを利用して、花火が上がる日程を記した花火カレンダーのようなものを作ってほしい。花火を推しているのは伝わるが、空回りしている感じが否めない。（大曲 50 代男性）
- 毎年楽しみにしている大曲の花火だが、ここ数年観光客向けになり、近所に住んでいる住民でも、以前のように花火を見られなくなっているのが残念。自由席も隅に追いやられ、ほぼ有料席になってしまい、その有料席さえ手に入らない状況だ。（大曲 50 代女性）
- 花火産業だけでなく、別の産業や観光を。（大曲 60 代男性）
- 花火産業はあまり重要ではないと思う。1年に1度ならまだいいが、毎月上げているし、一瞬で終わる花火に予算を使うより、もっと別に使用すべきだと思う。（中仙 50 代男性）
- 花火の町大曲と言われるが、花火産業とはごく一部の人たちで盛り上がっているように思える。8月の花火大会も、規制がありすぎて年々一般市民が出向いていくのを狭められているようだ。昔は地元住民もゆっくりと鑑賞できたはず。（南外 50 代女性）
- 花火産業にかかわる人（実際に仕事をしている）はどのくらいいるのか。（仙北 60 代男性）
- 大曲の花火についてだが、トイレを汚される、畑を荒らされる、栈敷席で雨の時に傘をさす、土足で横断する等、マナーが悪い人が多い。（太田 20 代女性）

(4) 観光について

- 私は10年ほど前に大仙市に移住してきたが、花火や納豆汁など分かりやすいものでアピールしているが、どこか違う気がした。大仙市を違う形でアピールする方法が、他にあるのではないか。新しい町づくりをどんどん発信していったほしい。これからの大仙市の発展、住みよい町づくりに期待している。（神岡 30代男性）
- 全国的にアピールするための宣伝力が薄い。ゆるキャラ開発、土産物などをもっと展開すべき。（協和 50代男性）

(5) 雇用・就労について

- 今は学生だが、帰ってきても仕事が少なく賃金が低いため、生活が苦しくなると思う。工業団地などへの企業誘致と、地元雇用に力を入れてほしい。（大曲 10代男性）
- 大仙市に住みたい人がたくさんいると思うが、働く場所が少なく、県外へ流出しているのではないか。行政で企業の誘致などに力を入れてもらい、就業環境を改善して欲しい。収入がなければ大仙市に住めない。（大曲 40代女性）
- 大仙市の人口を増やすには、良さをもっとアピールすることと、雇用の確保が大切であると思う。良さのアピールのためには、難しいだろうが雪の苦労を減らすことが必要であり、「秋田はいいところだけど雪が…」と言わせず、「雪が降っても大丈夫。対策が万全だから。」と人々が言えるようになればいいと思う。そして雇用があれば、県外の大学に行った子供も、いずれ戻ってくる。都会に住みたい若者ばかりではない。災害対策が万全で、安心・安全な大仙市をアピールできるようになることを願っている。（大曲 40代女性）
- 中途採用者への支援。（西仙北 60代女性）
- 若い人たちの雇用体制を今より良いものにしてもらいたい。Aターンといっても、仕事がなければ戻ってこようとしても戻ってこられない。私自身、一旦県外に出て戻ってきて就職したが、若い人たちが働く環境としては厳しい

ものがあると感じている。戻ってきたいという人はたくさんいると思う。低い賃金で、移動手段は車のため維持費はそれなりにかかるし、そんな中で結婚なんて考えられない。（協和 20代女性）

- 少子化による市の衰退が心配だ。働く場がなければ、人が流出するのは明らかなので、魅力ある企業の誘致や、学校のクラブ活動の支援で、市外からの就学者を呼び込むなどの企画をお願いしたい。（協和 50代男性）
- 去年の地域商品券を売る方の対応が悪かったように、市民の気持ちや今の時代の予測など、市政と市役所でもっと考えて行動して欲しい。市民の税金をもっと良い方向に使ってほしい。定年後はシルバーやボランティアなどに参加人数を増やして、若い人を職場に雇用したり、農業に若い担い手を育成したりして欲しい。（仙北 20代女性）
- 土地・上下水道・交通の便を整えて、大手企業（製造等）を誘致して欲しい。それによって雇用は生まれるし、お金を得ると消費も増える。住む所と働く所が充実すれば、ここに定住・移住する人も増える。若い人たちがここで働いて生活できれば、子どもも生まれる。「働けるのに働かない・働けるのに働けない」人が多い。老若男女、人はたくさんいるのだから、みんな働けばいい。動けば健康にもなる。無駄に病院へ行く時間も無くなる。本当に必要な人だけ病院に行けば、無駄な医療費もカットできるし、医師不足にも対応できる。まずは雇用と環境を整えてほしい。（仙北 30代女性）
- 子どもにお金をかけて教育し、東京などの大学へ行き、そこで生活し、地元には戻ってこない。地元に戻りたくても就労できるところがない。もっと地場産業があれば若者も地元にとどまることができるし、地域も活性化していくと思う。（太田 50代女性）

(1) 出会い・結婚について

- もっと若者たちが楽しく出会えるイベント等を増やすべき。
(大曲 20 代男性)
- 仲介役を育成し、イベント以外での出会いを進める。
(神岡 40 代女性、太田 60 代男性)
- 少子化対策として、結婚したら祝金を 10 万円、子どもが生まれたら 1 人につき 20 万円の祝金を。(西仙北 60 代男性)
- 少子化で地域も元気がない。独身の人たちが結構いる。出会いの場など、たくさんあったらいいと思う。(協和 50 代女性)
- 恥ずかしいという気持ちがあって、婚活イベントになかなか参加できない人が結構いる。そのため婚活・出会いと前面に押し出さず、ビアガーデンなど楽しいイベントを開催した方が、参加人数も増えると思う。
(仙北 30 代女性)
- 結婚したいので、夜だけではなく、昼でもそういった出会いのイベントを企画して欲しい。(太田 20 代女性)

(2) 子育てについて

- 保育園を選ぶ時期に「すくすくだけっこ園」を見学しに行った。当時私は無職だったので、親の就労状況は問わない認定こども園が良かったからだ。しかし見学した時に長男は 2 才 7 か月で、他の子供との交流がほとんどなかったので興奮して暴れてしまって、園長先生から「うちでこの子を預かるのはちょっと・・・」と言われてしまった。自閉傾向のある子ということを伝えていたのにも関わらずだ。現在通っている保育園の先生も、障害に対して少し勉強不足だと感じる時もあるので、先生の方々に障害、またはその傾向を持っている子どもへの接し方などの研修を徹底してほしい。
(大曲 20 代女性)

- 仕事をしたいから保育所に子供を預けたいのに、仕事がない母親はなかなか預けられない現状。職場は子供ができたなら辞めなくてはいけない空気のため、受入先をもっと増やしてほしい。（大曲 20 代女性）
- 保育士の確保と質の向上、保育士の待遇改善（大曲 30 代男性）
- 世帯収入に対して子どもの保育料が高すぎる。例えば新宿区より高い保育料で、どうやって移住・定住を進めるのか。首都圏より低い収入で高い保育料ではだれも戻ってきたいとは思わないだろう。隣の仙北市は第2子以降の保育料が無料になったので、見習ってほしい。このままでは将来の大仙市を支える子育て世代が、仙北市に移っていくのではないか。市政には子育て・人口減対策に、もっと積極的に対応して欲しい。花火産業構想よりも先に優先すべきことがたくさんあると思う。（大曲 30 代男性）
- 保育園児が2人いるが、現状では日曜・祝日以外の日中の仕事しかできない状態だ。大曲駅前こども園で夜間保育が始まったが、土曜・日曜・祝日の日中の保育をしてくれる機関がたくさんあれば、女性も仕事を選ばずに働きやすくなると思う。（大曲 30 代男性）
- 保育料はとても良心的な金額でありがたいが、保育園からお尻拭きガーゼ代や保護者会費などの請求、尿検査容器代など月に色々な請求が来るのが困る。決して大きい額ではないが、意外と辛い。尿検査容器代などは家庭で頼んでやってもらっているものではないので、園や市で負担できないものか。お尻拭きガーゼも1回で16円のものを2枚使われ、排便回数が多いと月に千円近く支払わなければならない、市販のお尻ナップの方が安上がり。他の園ではナップOKなので、他と統一して欲しい。（大曲 30 代女性）
- 保育園の予約。育休を1年取りたいが、保育園は4月から入園させないとなかなか入れないので、とても困る。（大曲 30 代女性）
- 子供の急病（発熱など）により、園や学校からの勤務中の保護者への呼び出し時に代行できる体制。結婚する二人に、低家賃の（市営）住宅の提供。
（大曲 60 代男性）
- 保育料を一定にして、もっと親が子育てしやすくして欲しい。
（神岡 30 代男性）

- より良い保育を子どもたちに提供し、自然豊かな環境ですくすくと育ててあげるために、保育士の給料を上げることや、臨時の雇用形態を見直してほしい。農業の面でも、大仙市には素晴らしい自然が多くあると思うので、地域交流を交えた上で、その素晴らしさを子供たちに伝える活動や機会を増やしてほしい。（西仙北 10 代女性）
- 6才と3才の娘がいるが、こども園にお世話になっている。上の娘の時は入園式があったが、下の娘が保育園に入るときは何もなく、入園した時の写真もない。下の娘には悪いことしたような気持ちだ。このようなことが無いように、工夫して欲しい。（西仙北 30 代女性）
- 安定した子育てが行える給与待遇の拡充。（太田 20 代男性）

健康福祉分野

(1) 保健・医療について

- 子宮頸がんワクチンなど、アメリカで既に死亡例や障害が発生していたにも関わらず、推進したり、補助をしたりしないでほしい。市でもきちんと調査をして。（大曲 40 代女性）
- 1ヶ月10万円前後の年金で生活しているが、辛いとも思わず過ごしている。しかし医療費に充てる余裕もなく、我慢していることも度々ある。健康づくりの施設に行ってみたいと思うが、お金の負担がある。
（大曲 60 代女性）
- 高度な医療センター（がんセンターなど）や、大学病院のように高度な（最先端の）検診や治療ができる医療施設の増設。リハビリが充実化されれば、車イスで大曲の花火にも行けると思う。（大曲 40 代女性）
- 「大曲厚生医療センター」を受入体制と診療体制には納得できない。医師、看護師ともに無責任な態度、誤診とも思われるような判断ミス。何のために多くの予算をかけ、あれだけの建物を作ったのか。内容が以前より良くなると思いきや、以前の方がまだましだ。何らかの方法で投書してみたいと考えている。市の責任とは思っていないが、センターの内容は地域に根差したものでないと意味がないと思う。（大曲 60 代女性）

- 団塊の世代が健康のためにウォーキングをしているのをよく見かける。このような方々に地域見守り隊や、交通安全等に協力してもらうなど、人材の活用に力を入れてほしい。（中仙 30 代女性）
- 残業時間の短縮と、健康づくりに使用できる給与増額。（太田 20 代男性）
- 禁煙率の向上（太田 40 代男性）
- カウンセリングを気軽にできるようにする。（地域・年代・性別不明）

(2) 社会福祉について

- 福祉にお金をかけすぎではないか。（大曲 20 代男性）
- 福祉行政が機能していないのが現状だと思う。（大曲 60 代男性）
- 元気な高齢者のボランティアの利活用の推進。（大曲 60 代男性）
- 高齢者介護施設の事業化。（中仙 70 代男性）
- 高齢者のためにも、移動販売を今よりも身近なものにすると、助かる人が多く出てくると思う。移動するのが大変な人のために、訪問診察があればよい。（太田 10 代男性）

(3) 社会保障について

- 1 日働いているのに、生活保護の方が月額が高い。生活保護の金額が高い気がする。（大曲 20 代女性）
- 私は最低賃金で 1 日 8 時間日給で働いており、そこから税金や社会保険などが引かれている。そういった中で目に付くのは母子家庭や生活保護で暮らしている人たちだ。税金免除や様々な手当てがあり、良い生活をしている人がたくさんいることだ。中には大変な人もいると思うが、見直してほしい。（大曲 40 代女性）
- 母子家庭手当をもらうためにアパートを借りているが、普段は実家で暮らしている人はどうかと思う。生活保護も本当に体が悪くて働けないのなら仕方

ないが、支給金額が多すぎるのではないか。見直しが必要だと思う。

(大曲 50 代女性)

- 少ない年金生活では長生きしても、人生に不安を感じる。
(大曲 60 代男性)
- 中学生までの医療費補助は本当にありがたい。今後もぜひ継続して欲しい。
(西仙北 30 代女性)
- 外国人に生保の支給及び納税の免除は法に反する。(中仙 50 代男性)
- 高齢者で生活に余裕がある人がたくさんいる。公平にサービスしてほしい。
(中仙 50 代女性)
- 生活保護制度の内容をもっとよく調べて支給してほしい。
(中仙 70 代男性)
- 生活保護を受けている人の通帳預金が、百万単位あるのはどうかとを感じる。
ある程度の金額まで打ち切るといったものはないのか。働いていてもむなしく
感じる。(協和 50 代女性)
- 医療費控除を高校生まで対象にしてほしい。児童手当を両親の所得で受ける
ことができるようになってほしい。(南外 40 代女性)

都市基盤分野

(1) 空き家対策について

- もう少し若者に魅力のある町にしてほしい。空き家などをリノベーションし
て、若者の活動の場などを提供するのでもいいのではないか。
(大曲 30 代男性)
- 旧町村庁舎の整理、有効活用。(中仙 70 代男性)
- 廃校で使用されていない校舎の利活用。(協和 60 代女性)

(2) 公共交通について

- 高齢化により、交通弱者が買い物に行けずにいる。自転車に乗っても近くに商店が無いため困る。乗り合いバスでは限界がある。よねやさんのように移動スーパーをやっている所などに働きかけ（助成など）、希望者の多い所に行くサービスがほしい。コープさんは配達料がかかるし、コンビニにおいてはシステムが面倒で利用しにくいそうだ。（中仙 30 代女性）

(3) 地域情報化について

- ネット社会と言われているが、情報の発信力がナンセンスだ。昨今 SNS などが流行しているし、もっと深く考えて、面白いアイデアを期待している。地域発展を望む若者はたくさんいるので、そういった人々をオファーして、秋田を面白くして欲しい。（大曲 20 代男性）
- 結婚して他県からこちらに住んでいるが、結婚・妊娠・出産の制度がどうなっているのか、情報が欲しい。人口が減っている中で、進んで配信してほしい。（大曲 20 代女性）
- 防災無線が聞こえにくい。市の HP に無線の内容を掲載したり、メール配信を行ってもらったりすると、スマホからでも確認できるので便利だと思う。（大曲 30 代女性）
- 発泡スチロールの廃棄を電池や電球のように、庁舎で処分するためのスペースを設置することは出来ないのか。広報で収集日を確認しているが、その日まで保管しておくのは大変だ。ゴミ収集日に出してもよいとのことだが、かさばるし、不要な衣類等も同様だ。市の広報車で呼びかけが聞こえない。広報車の通る道路沿いの住宅はよいが、裏通りの住宅には内容が聞き取りづらい。広報で市の取り組みや情報を入手している。今後も役立つ情報の企画、発信を期待している。（大曲 60 代女性）
- 市民と行政の相互での情報交換が必要。（中仙 60 代男性）

- ホームページを充実させるなどして、市政ではこういう活動や支援をしていると、もっとアピールしてほしい。各地域の支所に行けば、市政がよく分かるなどの工夫も大切ではないか。（協和 40 代男性）

(4) 市街地について

- 再開発した駅前の良い場所に、商工会議所のような閉鎖的なビルが出来てもったいない。会議する場所や職場は郊外でもいい。広い緑地にした方がまし。ラーメンミュージアムでも作ってほしい。（大曲 40 代男性）
- あまりに駅前が閑散としてしまって、せっかく交通の便が良くても、どこに行くのも不便になってしまっている気がする。徐々に色々できてはいるが、商業施設や観光など、駅前が賑わうようなものがまだまだないのが残念なところである。これから高齢化していくことを考えると、コンパクトシティ化していった方がいいのではないか。（大曲 40 代女性）
- 市役所を中心とした旧大曲地域の空洞化が目立つ。原因としては道路に対して間口が狭く、奥が深い敷地と裏道の狭さがあると思う。この地域の再開発または区画整理が今後の防災・防犯、コンパクトな市街地等の観点から重要になると考える。（大曲 50 代男性、60 代男性）
- 駅東方面に住んでいるが、駅通りに行くバスがあればと思う。コンビニはあるが、遠くに行かないと私たちが着る衣料品店がない。大型店は必要ないが、私たちが着られるものがある店が欲しい。（大曲 60 代女性）
- 車通勤でも通勤しやすくして欲しい。市営住宅やマンションの1階、または近所にスーパーやコンビニが欲しい。持家や車を持たずに生活できれば、都市に比べて低い賃金でも生活にゆとりができると思う。
（神岡 20 代男性）
- 大曲地域のみが潤うだけの町づくりや、花火のイベントが多いような気がする。他の地域でもイベントがあるが、集客が見込めるくらいのゲストに予算を充てられないものか。せっかく作ったのだから、ヒカリオをもっと有効に使用すればいいと思う。（中仙 40 代女性）

- 旧大曲市内だけに工事が集中している様に見える。一度に行うということは難しいことであるかもしれないが、今後の計画をどうするかを市民に知らせるのも一考ではないか。（中仙 70 代男性）
- 大曲地域だけ開発されており、他は置いていかれているように思える。
（中仙 70 代男性）
- 大仙市の中心地域である大曲の声の多さを、そのまま反映させることによって一極集中を進めるのではなく、むしろそれを抑えるような働きを市政に期待したい。観光資源が、大曲の花火の一点張りというのも、周辺地域軽視のようで寂しく思える。かつての町村の数だけあった特色が、うまく大仙市の魅力として昇華されるような取り組みがあっても良いと思う。
（協和 20 代男性）
- 大仙市は様々な整備を行ってきたが、いつも中心市街だけで、それ以外の地域はあまり整備がされていないように思える。山岳地域の方にも観光客が来られるような施設があればよいのではないか。大仙市は何かにつけて花火に頼りすぎのような気がするので、それ以外のもので観光客を呼ぶようにしたらどうか。（南外 40 代男性）
- 大曲駅東口の空スペースを駐車場に開放。（仙北 60 代男性）
- 厚生医療センター周辺の無料駐車場の設置・開放。駅前再開発によって道路網が困惑したので、大曲市街地駅前半径 1km 位の道路地図の作成と配布。
（太田 60 代男性）

(5) 交通インフラについて

- 大曲～山形～東京へと黙って居眠りしていても、安心して乗れる奥羽本線にしてほしい。花火大会も大々的になるので、たくさんのお客さんが来てくれるように、線路にも力を入れてほしいと思う。（大曲 20 代男性）
- 交通手段の確保。循環バス、市民バス、コミュニティバスの新たなルート展開。地域の利用料金やサービス内容を見直し、格差をなくしてほしい。
（大曲 40 代女性）

- 市道から自宅までの間が小道のため、緊急時に車両が入ってこられない。大仙市民には私と同じ思いをしている人がたくさんいると思う。高齢の母親がいるので、元気なうちに対応してほしい。（大曲 50 代男性）
- 免許を返納しても、生活や買い物等不安。（大曲 60 代女性）
- IC 付近に、工業団地や流通団地を設置してみてはどうか。
（西仙北 20 代男性）
- 新規ではなく、既設のインフラの老朽化の改善。（中仙 50 代男性）
- 幹線交通はこれ以上必要なし。予算をもっと減らすべき。
（協和 40 代男性）
- 買い物バスを各地域で走らせることが出来ないか検討して欲しい。
（協和 70 代男性）
- 南外市道 1 号線の整備が進んでおらずでこぼこであり、ダンプとすれすれ、車のサスペンションはオイル漏れするなど、個人の費用はかかるばかりだ。
（南外 50 代男性）
- 市道や林道アスファルトのクラックが、非常に多くなっているが、全面舗装が財源的に無理ならば、路面が崩落する前にクラックにアスファルトタールを流しこんで、補修して欲しい。そうすれば雨水が浸透したり、草が生えたりしない。心掛けてほしい。（南外 70 代男性）
- 市街地以外の市道の整備がなされていない。各支所の予算を増やして、整備してもらいたい。（仙北 50 代男性）

(6) 上・下水道について

- 上水道整備は良いが、他国では外国企業の参入で倍以上の値上がりがあったという事例も発生しているので、外国企業への委嘱は絶対にやめてほしい。各地で事故が発生しているので、学校のフッ素洗口はやめてほしい。
（大曲 40 代女性）
- 排水路の整備・維持・掃除（個人の排水路以外、公の排水路、国道や市道の脇）（大曲 70 代男性）
- 下水を利用するのであれば、もっと値下げを。（神岡 30 代男性）
- 私のところには下水道が無い。（中仙 70 代男性）

(7) 住環境について

- 子供たちが遊ぶ場所（公園、広場）の増加や整備。
（大曲 20 代男性、30 代女性、神岡 30 代男性、中仙 20 代女性）
- 花火ロードより南の地域の空き地整理をしてほしい。
（大曲 60 代男性、南外 50 代女性）
- 郊外に老若男女が楽しめる素晴らしい大きな公園を造ってほしい。
（大曲 60 代女性）
- サギの被害に苦労している。林の間伐も必要だと思う。
（大曲 70 代男性）
- 公園遊具が使用禁止のままになっているところが多い。せっかくある遊具なのだから、整備して利用できるようにしてほしい。今のままでは危険なだけで、公園としての意味がない。（中仙 30 代女性）
- 協和にスーパーやコンビニ、飲食店、居酒屋などを増やしてほしい。駅に自由に車を止められる駐車場が欲しい。（協和 20 代女性）
- 南外にはスーパーが無いので、小さくてもよいので、店舗が欲しい。できれば小型の道の駅など。（南外 70 代男性）
- 太田町は電車もなければ、スーパーも 1 店しかない。バス路線も無くなっていくので、車が無ければ生きていけない。大曲地域が中心なのは良いが、他地域のことも考えていくべきだ。このままでは廃れていくだけなので、花火産業よりもこのようなことに目を向けるべきだ。（太田 40 代男性）

環境・安全分野

(1) 自然・衛生環境について

- 8000 ベクレル以下で一般ごみという指定廃棄物の新ルールが決定して、とても怖い。市としての対策は取れないものか。（大曲 40 代女性）
- ゴミの分別について、もう少し細かく分別した方がよいと思う。分別を見直すことにより、ゴミの量が減少するのではないか。（大曲 60 代男性）

- 各河川と周囲の美化。整備への支援。（大曲 60 代男性）
- 駅前に緑が少なすぎる。暗いイメージなので、草木などを植えた方が良いと思う。また、人が集えるような公園・広場を駅前に整備できないのか。
（仙北 40 代女性）

(2) 安全・安心体制について

- 除雪の体制を整えてほしい。空地の前の道路にまで雪が迫り出して危ない。未然にトラブルや事故を防ぐためにも、綿密なスケジュールを組んで、市民にストレスのない通勤通学をさせてほしい。
（大曲 20 代男性、40 代女性、50 代男性）
- 除雪の人による差がありすぎる。車の運転が大変なくらいデコボコしていて危ない。（大曲 20 代女性）
- 家の前の道路が狭く除雪車が入らないので、消融雪の設備をもう少ししっかりやってほしい。雪が多い日の朝は車が通れない。（大曲 30 代女性）
- 冬期の除雪について、一生懸命行ってくれているが、ほとんど積雪がないのに早朝除雪車が来ることがある。騒音がひどく眠れないので、本当に必要な時だけにしてほしい。（大曲 50 代女性）
- 冬の除雪に困り果てている。自家消雪設備があるが、ブルドーザーが置いていった雪は消すのに一苦労。（大曲 60 代男性）
- 個人として、冬季の雪対策が体力的に限界。設備にも資金不足。
（大曲 60 代女性）
- 地域の高齢化、人口減少などから、除雪が大変難儀になっている。対策を考えてほしい。（西仙北 60 代男性）
- 私の住んでいる場所は水害のことで毎年心配なのが悩みの種だ。別のところへ移り住みたいが、今まで住みなれた所からは中々離れられないのが現状だ。この先水害の心配をせずに、安心して暮らしたい。（西仙北 70 代女性）
- 災害時に若干離れた地域と協力する。国家として、タックスヘブンの規制をさせる。（中仙 50 代男性）
- 防災への取り組みが先進的で、安心して住めると感じている。
（中仙 60 代男性）

- クマが出ない町にしてほしい。(中仙 60 代女性)
- 私の地域(下淀川字川原)では近年ゲリラ的な豪雨により淀川が氾濫し、床下浸水や寸前まで水が来るといことが増え、避難することも多くなった。また、大事な生活道路である国道 341 号線が水没し、通行止めになる。そのため、おのずと若者世帯などは出て行き、空き家、一人暮らしが増えた。温暖化のため、この状況がもっと悪くなると思うと、とても不安だ。早急な河川改修をお願いしたい。(協和 50 代男性)

教育・スポーツ分野

(1) スポーツについて

- 県レベルの競技を行えるスポーツ施設が少なすぎる。(大曲 30 代男性)
- トライアスロンの大会を市で開催して欲しい。(大曲 30 代男性)
- 子どものスポーツについてだが、大仙市では男子の選択肢が少なすぎる(バレーボールやバスケットボールなど)。(仙北 30 代男性)
- オール芝のサッカー場の建設を望む。息子がサッカーのチームに入っているが、大会を開催する場所が主に大曲河川敷の荒れたコートであり、選手たちがかわいそう。それと西仙北中にサッカー部を作ってほしいと要望している。西仙北 F C の子供たちが、中学校進学後の部活に不安を抱いている。前向きに検討して欲しい。(西仙北 40 代女性)

(2) 学校教育について

- P T A の在り方を見直す。(大曲 30 代女性)
- 「特化」することが大事であると思う。例えば秋田県の学力が全国 1 位という結果から、子育て・教育に特化すれば、移住・定住・A ターンにつながるのではないかと。(大曲 40 代男性)
- 中学校に上がり、部活動での金銭的負担があまりにも大きすぎるような気がする。2 人とも運動部で、大会などのたびに万単位の費用がかかるので、移

動手段（バスなど）の支援・負担などはないものか。児童手当一時金（3000円）などではなく、学校用品の一部支給などの方が助かると思う。

（大曲 40 代女性）

- 大人へのモラル教育を。大仙市のモラルの低さは日本一。
（大曲 60 代男性）
- 学校の統合。（中仙 60 代男性）
- 学校教育内容の適正化。（中仙 50 代男性）
- 教員の適正な人材の配置。（南外 40 代男性）
- 少子高齢化対策による児童数確保、教育水準の維持。（太田 20 代男性）

（3）生涯学習について

- 24 時間使用できる図書館や学習室を設けてほしい。（大曲 30 代男性）
- 市の図書館が使いづらい。（大曲 40 代女性）
- 読書は子供たちの情緒を豊かにし、人間性を育む大切な行動なので、図書館をもっと利用しやすい場所に移動して欲しい。駐車場がきちんとあって、小中学生も利用しやすく、明るく入りやすい建物にしてほしい。

（大曲 60 代女性）

- 子供たちがもっと学びやすく、安全に生活できる町づくり。
（神岡 30 代男性）
- 現在中仙地域の学童にお世話になっているが、4 校で 1 つの学童しかなく、6 年生まで学童に入ってもよいことにはなっているが定員数が少なく、高学年になると辞めざるを得ないし、現在も入りたくても入れない子がいる。中仙地域でもう 1 つ学童があってもよいのではないか。（中仙 40 代女性）

（4）芸術・文化について

- 市民会館で全く良いコンサートが無いので、もっとたくさんの人が来るようなイベントやコンサートをやってもらいたい。会館がもったいない。

（大曲 30 代女性）

- マーチングの活躍は目覚ましく、大会ではかなりの方々が観覧しに来るので、マーチング会場になれる大きな体育館（音楽に適した会場）を誘致し、東北大会も可能なホームを作ってはどうか。（大曲 40代女性）
- 旧家を観光に活かす。池田家のように、大仙市の旧家を文化財保護の目的で保存し、旧家めぐりルートを作る。市内の旧家も所有者が高齢化し、今後維持が難しい状況が予想されるので、立派な家を保存し、学校教育の立場で見学や、昔の暮らしを学ぶ場にしても良いと思う。（神岡 40代女性）
- 先人顕彰（学校教育を含む）の動きが見られないのは残念である。（例えば 榊田清兵衛、池田亀治、池田文太郎、等々）自分の住む地域の歴史はアウトラインでもいいので、知っていることが大切だと思う。
（西仙北 80代男性）
- 芸術・文化活動施設の拡大。（中仙 50代男性）
- 市民会館でコンサートを見た時に、「人を育てる」という意味で、中高生の方にも見せたいと思った。市内の学校に呼びかけて、関心のある生徒にはいくらかの助成金を出してもいいと思うし、そのような機会は大切だと思う。
（仙北 70代女性）
- 払田の柵のPR（地域・年代・性別不明）

交流・行政運営分野

(1) 地域間・国際交流について

- 小さい子供を連れていて少し不便だと感じることもあるが、周りが声をかけてくれて、手を貸してくれることもあるので、とても温かい街だと思う。観光振興や施設も重要だと思うが、多少不便でも一人ひとりが思いやりを持ち助け合えば、もっと良い町になると思う。「人づくり」というのも、重要な課題の一つだと感じる。（大曲 30代女性）

(2) 地域活性化について

- 大仙市のアピールを他県にももっと発信していてもいいのではないか（例えばポスターなどを利用する等）。自然もあって住みやすいが、イベントが「花火」だけであり、それが行われる場所も大体決まっているので、マンネリ化しないように若者たちの発想をヒントにしたらいいいのではないか。活性化することで、街が生き生きとしてもっと住みやすくなると思う。
（大曲 40 代女性）
- 地域産業でも地域振興でも、具体的な方向性が定まっていな感じがする。民間と協力してでも、全国に売り出していけるものが必要ではないか。
（中仙 30 代男性）
- 自助の面から、高齢化であればあるほど、お年寄りには他人に迷惑をかけない、自分のことは自分でやろうとする気力を増やす政策に期待している。公助には限界があるので、共助の部分が大切になってくると思う。町内会・同級会・サークル会など、さまざまな場面でお互いを助け合い、支え合い、自立して生きがいを持てる政策を行ってほしい。（大曲 60 代男性）
- 集落支援員と自治会の連携が最重要。（中仙 60 代男性）
- 地域内でお金が回るような取り組み。（仙北 60 代男性）

(3) 移住・定住について

- 大仙市にしかできない住みやすい街づくりを行って、誰もが住みたいと思う田園交流都市を作ってほしい。（大曲 30 代男性）
- 人口減少社会の今、若者が大仙市に残って生活が出来るような取り組みをしてほしい。仕事、子育て、政策は大変だと思うが、なんとか頑張ってほしい。花火だけに偏らず、他の観光も頑張ってほしい。古き良きものと現代の暮らしが合わさり、益々良い大仙市になるよう努力してほしい。
（神岡 40 代女性）
- 専門学校等の設立。若い人たちが増えないと先が全く見えなくなるので、他県・他地域からでも入りたいがる学校があるとよいと思う。そのためには交通や遊び場等を充実していった方がよいと思う。（西仙北 40 代男性）

- 花火産業と観光と特産品を組み合わせ、広く全県、全国、さらに海外へと売り出し外貨を取り込むことを市民と考えたらどうか。そうすれば雇用や就労につながって、若者の定住や財政の安定に結び付くと思う。
(仙北 70代女性)

(4) 市民協働について

- もっと市民の声に耳を傾けてほしい。若い人たちの意見も聞いてほしい。
(大曲 20代女性)
- 行政運営を活性させるためにはもっと市民の意見を取り入れる場が必要。
(大曲 30代女性)
- 市民に色々な意見を聞いて形にするのがベスト。職員よりも豊かな発想を持っている市民・町民・村民がたくさんいるので、活用すべき。
(大曲 60代男性)

(5) 男女共同参画について

- 女性の職場環境の見直し（給与体制など、労働基準や条件が悪い）。そもそも求人数が少なく、働く場所がないので、求人を生み出せるような社会を作ってほしい。男性が働いても給与がなかなか上がらない時代なので、家庭内でも女性が働く必要があるが、小さい子供がいたり、介護が必要な家族がいたりして、労働・応募条件をクリアできない場合が多い。そのために医療・介護・保育・子育て・商業の向上政策を求める。（大曲 30代女性）

(6) 行財政運営について

- 仙北市出身だが、大仙市に住むようになってから税金がとても高いと思った。大仙市は住みやすいが、ゴミ袋の代金やガス代など、金銭的にもう少し改善して欲しいと感じた。（大曲 20 代女性）
- 市議会議員の給料が高く、その他の手当も多いので、見直しすべき。議員定数も削減して欲しい。（大曲 30 代男性）
- 議員の人数が多すぎる。市役所の人員を削減し、人件費の削減。給料の削減。（大曲 50 代男性）
- 保健センターからの健診の案内が、地域のボランティアに頼って直接手渡しで配布しているようだが、ボランティアの負担が大きいの、郵送にできないものか。（大曲 50 代女性）
- 一般企業の良い点を見習って、工夫・向上してほしい。（大曲 60 代女性）
- 何かのイベントの際に、経済効果だとか、街のにぎわいにつながるだとか、地域の活性化だとかではなく、もっと純粋にイベントを開催して欲しい。毎月花火など打ち上がらなくてもよい。花火が上がっても、またか、というくらい気持ちしかない。（大曲 70 代男性）
- ふるさと納税制度の拡充。（大曲 70 代男性）
- 国の補助に頼らない市になってほしい。（西仙北 40 代男性）
- 人口比率から考えれば仕方がないが、大曲地域を中心に予算が配分されていて、地方はそのしわ寄せとなっている気がする。土川、大沢郷、強首の公民館では今年から自動販売機が撤去され、どちらかというと高齢者が利用する機会が多いのに、夏場とかは特に困る。予算が無いからとよく聞くが、市としては予算を増やすためにどのように考え、努力しているか見えない。（西仙北 50 代男性）
- 生活資金の調達がなかなか難しい現状。金融機関の貸し渋りもあり、市での貸付制度をもっと充実してもらえればと感じている。（西仙北 50 代男性）
- 若い人たちが希望を持てる住みやすい大仙市に。一部の人たちだけが得する税金の使い方はいかなものか。全地域平等な行政の情報を。（西仙北 50 代女性）

- 貧富の拡大が大きく、末端情報が届いていないと感じる。各分野に助成金などがあるが、一部の人だけに偏りを感じる。もっと幅広く情報が届くように工夫され、公平な生活が生き届くように、より一層の努力を期待する。
(中仙 50 代男性)
- 世代間不平等は社会の活性化を阻害するので、市財政の健全化など、若い世代に負担をかけない財政運営を希望する。(中仙 60 代男性)
- 最大限効果のある予算の使い方が求められる。(中仙 60 代男性)
- 市長、市議、行政が、もっと民間に寄り添った給与・退職金にすべき。
(協和 40 代男性)
- 市の財政運営の見直し・削減・自助努力。(仙北 30 代男性)
- 地域枠予算の実施内容のチェック機能はどこでやるのか。
(仙北 60 代男性)

その他

- 同封の「第2次大仙市総合計画基本構想」を大変興味を持って読んだ。私は現在、大学で地域社会や地域公共政策について勉強している。将来はこの大仙市で「将来都市像を実現するためのまちづくり」の活動にぜひ参加したいと考えている。(大曲 10 代女性)
- 市政について興味がない。市長給料もらいすぎではないか。本当にきちんと仕事を行っているのか。新聞とかについているのは写真だけだし、テレビで見るのは1分ぐらい。そんなのやっているふりにしか見えない。書類は課が作ったやつを読んでいるだけとか。(大曲 20 代男性)
- アンケートの内容についてだが、自分の年齢では項目の内容や仕組み等分からないものもあり、答えに困るのが多くあった。そうすると、どうしても3を選んでしまう。設問に対して具体的な意味がピンと来なかったので、少し説明書きがあれば答えやすかったり、考えさせられたりして、自分なりの意見がもう少し出せたのではないかと思った。(大曲 20 代男性)

- 希望の保育園に入園できなかった。自分の家を持ちたいが、場所・予算の問題で実現できていない。（大曲 30 代男性）
- 本庁や支所で職員対応の差が激しく、がっかりさせられる人も多数いる。大仙市の名が入った公用車を色々な場所で見かけるが、仕事（業務）であるのか疑わしい光景もある。人事考課、能力考課を確実に実施して、限りある市の財政を有効に活用して欲しい。（大曲 30 代男性）
- 田園都市を掲げているが、役所の取り組みが不透明。役所職員が、一人ひとり農家へ定期的に手伝いに行ってはどうか。（大曲 30 代男性）
- 現在は農繁期であり、その他にも仕事や介護、子育てをしている人などさまざまいると思う。真剣にアンケートに答えるためにも、アンケートの時期をずらすか、締切期間を長くするかの配慮がほしかった。もう少し分かりやすく、具体的な市政の情報も見なかった。（大曲 30 代男性）
- 評価しようにも中身（内容）が分からない項目ばかりで困った。市のホームページの更新が非常に遅く、見づらいし、使いづらい。市役所に行くたびに暇そうな人が目に付く。時代錯誤も甚だしい。（大曲 30 代女性）
- 市役所へ電話した時の対応が悪かったので直してほしい。
（大曲 40 代男性）
- 正直アンケートの内容がよくわからない。抽象的で答えづらい。ただやっただけという形が欲しいだけで、このアンケートが本当に今後の市政に役立つのか。
（大曲 40 代男性）
- 市内（大曲）には温泉施設がない。市経営の施設があってもいいと思う。
（大曲 40 代男性）
- イベント開催における年齢制限に幅を。（大曲 40 代男性）
- いろいろな意味で、大仙市は遅れていると感じる。（大曲 40 代女性）
- 市民会館に高圧的な人が多い。（大曲 40 代女性）
- 55 才以上の PC 教室の開設と無料化。（大曲 50 代男性）
- 行政の推進に関して、新しく挑戦する姿勢があまり見えないように感じる。特色のある町づくりを期待する。アンケートと一緒に、市の基本指数とか国や県のデータもあると、評価の際に非常に参考になるので、資料の添付を望む。（大曲 60 代男性）

- 集計が済んだら、広報で紹介して欲しい。次回は「住民が市政に一番要望していることはどんな事か」のアンケートをしたらどうか。色々な意見が聞けると思う。（大曲 60代女性）
- 大曲に温泉がないので作ってほしい。仙北や刈和野、太田などに行くしかないので、近くにあれば私たち年寄りには本当にありがたい。
（大曲 60代女性）
- 太田町には大台スキー場という素晴らしい場所があるが、冬のスキー場だけでなく、春から秋にかけても少し手を加えれば、人気のスポットとして活用できるのではないか。例えば遊具を置いたり、カフェなどを置いたりすれば最高だと思う。そうすれば太田町ももっと活気が出てくると思う。
（大曲 60代女性）
- 各分野における基本構想は素晴らしい。これが実現できる細部の計画実行を期待する。確実にステップを積み上げて、大仙市が向上していったほしい。
（大曲 60代女性）
- 諦めている。この年でどうするの。（大曲 60代女性）
- 大仙市内には様々なPCサークルの活動があり、素晴らしい。
（大曲 60代女性）
- こんなアンケート自体が無意味で税金の無駄。市がやる気がないのでは真面目に書いてもどうにもならない。役人はみんなやる気がないし、働かない。
（大曲 70代男性）
- 教員の負担軽減。（大曲 70代男性）
- どこまでこのアンケートが市政に反映されるのか、ただ集計して終わりでは意味がないと思うので、それを考えてほしい。（神岡 50代女性）
- 設問項目での現状が分からないうえでの満足度回答になってしまった。
（西仙北 30代男性）
- 人口減少対策が最重要課題だと思う。（西仙北 40代男性）
- 市政関係者、皆様日々頑張っていると思うが、なかなか成果として見えにくいのが現状であると思う。（西仙北 60代男性）
- 市政に関しては不満ばかりだが何ともならない。よく分からない。
（西仙北 60代男性）

- 旧大曲市内の花火に限らず、広く大仙市全体を見てほしい。
(中仙 20 代男性)
- 市職員の住民への対応が不満足。真剣さが足りない。公僕の意味を再度認識すべき。まず自分たちの行動を正してから、市政への信頼を得ることが一番の課題ではないか。(中仙 50 代女性)
- 市政に限ったことではないが、仕事に事務処理が増え、現場に足が遠のいていくので、どうにかならないものか。(中仙 60 代男性)
- 家にばかりいるので、行政のことがよく分からない。広報によって少し分かり、私でも参加できるイベント等ないか調べている。ドンパルで1週間に1回体操に行くが、器具が壊れていても、いつまでたっても修理してもらえなくて困っている。八乙女温泉も狭いので何とかしてほしい。大曲地域だけでなく、他の地域も良くなるようにしてほしい。(中仙 60 代女性)
- 設問より、意見を聞く様式にしてほしい。(中仙 70 代男性)
- 市民への文書通知が上から目線なので、廃止すべき。市長や民生委員について質問したが、未だに返答がない。(中仙 70 代男性)
- 大型車等の道路使用料の徴収。(中仙 70 代男性)
- 市の印刷物が多すぎる。(中仙 70 代女性)
- 分からないところは○をしていない。(中仙 70 代女性)
- 行政の人間が、ケアマネより知識がなさすぎることに残念。今の行政はヒエラルキーになっておらず、定年前でもリストラすべき。(協和 40 代男性)
- このアンケートが何らかの形で反映されることを願う。(協和 50 代女性)
- 大曲ばかりではなく、他の地域ももっと考慮してほしい。セブンイレブンを協和にも作ってほしい。(協和 50 代女性)
- 今回のアンケートにより、高齢の私たちがより住みやすい大仙市になることを願う。(協和 70 代女性)
- 夏は花火など、外に出るイベントがあっていいが、冬も楽しめる、交流が出来る機会を増やしてほしい。(南外 20 代男性)
- 市役所(各支所)の一角に、ひと休み出来るスペースがあると、何となく気持ち的にプラスになる気がする。(南外 50 代女性)
- 南外にはスーパーが無い。小さくてもよい。(南外 70 代男性)

- 職員がなぜあんなにパソコンに向かっているのか。パソコンで市内のことや市民の動き、思い、要望などが分かるのか。もっと街中や山間部に行って実情や現状を見聞きし、施策に反映すべきではないか。「予算にないからやらない、やれない」ではなく、良いことであれば工夫で何とかやるようにするのが職員の仕事ではないのか。そのためにも眠っている市民の能力をもっと使うことなども、どんどん考えるべきではないか。（仙北 60 代男性）
- 設問項目に、設問事項について「よく分からない」という項目があるべきではないか。分からないままに選択するのは変だ。まったく異なる市街地域と山間部では対応がかなり違うはずだから、本来合併しないでそこに合った施策を取るのが「地域の生き方」だと思う。しかし合併したのだから仕方ないので、市役所（支所も含めて）で市街地担当と山間部担当を分けたらどうか。（仙北 60 代男性）
- 突然考える場をもらい、久しぶりに悩む時間を通越した。本当は常に関心を持ち、行動を伴って生活すべきだろうが、このようなアンケートがない限り無縁だ。しばしの勤勉の場をありがとうございました。（仙北 60 代女性）
- 農業にも商業にも関係なく、年金暮らしの高齢者にとって今回のアンケートは難しすぎて、どれに○を付けていいのか分からなかった。70 を過ぎると自分の健康の事で一杯なので、行政については分からないことだらけだ。（仙北 70 代女性）
- 市営住宅に住んでいるが、予算が無いということでなにも改善してくれない。毎月納めている家賃はどこに行っているのか。また、花火ばかりで大仙市を進めるのはどうかと思う。もっと大曲地域以外を見てほしい。（太田 30 代男性）
- 市では大曲に最も力を入れているように感じられる。8 市町村で大仙市だと思う。（太田 50 代女性）

3 資料

平成 28 年度「市民による市政評価」調査票

平成28年度市民による市政評価

日頃から市政の推進に対してご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

大仙市では、『人が生き人が集う夢のある田園交流都市』を将来都市像とし、平成28年度から37年度までの10年間におけるまちづくりの「新たな羅針盤」として、平成28年3月に「第2次大仙市総合計画基本構想」を策定し、推進しています。

この調査は、市民の皆さまのお考えやご要望を市政に反映させるために、大仙市民1,000人及び希望者の方々にご回答をお願いするものです。

お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解の上、アンケートにお答えくださいますようお願いいたします。



平成28年5月

大仙市長 栗林次美

●お願いしたいこと

アンケート調査表にご記入の上、同封の返信用封筒に入れて返送してください。

●1,000人の選び方

18歳以上の市民の方々の中から、性別・年齢層・地域を考慮しながら無作為に選ばせていただきました。

●今回お送りしたもの

アンケート調査表、返信用封筒、第2次大仙市総合計画基本構想（概要版）

※第2次大仙市総合計画基本構想（本体）は市ホームページでご覧いただけます。

●プライバシーの保護には十分配慮します

ご記入いただいた回答は、全て統計処理いたしますので、個人に関する情報が明らかになることはありません。

《ご回答にあたって》

◆ご使用いただく筆記用具はどのようなものでも構いません。

◆ご回答はあてはまるところ（番号）に○印をつけるか、あるいは「その他（ ）」に具体的な内容をご記入ください。

《アンケート用紙の提出について》

◆ご記入いただいたアンケート用紙は6月6日（月）までに同封の封筒に入れてご投函ください。（切手不要）

問 1 施策の満足度と重要度について

あなたは、次の表の各設問について、大仙市の現状にどのくらい満足していますか。また、これからの大仙市のまちづくりにとってどのくらい重要であるとお考えですか。

設問ごとに「満足度」と「重要度」についてあなたのお考えに一番近いものをそれぞれ1つ選び、番号を○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

I 魅力ある産業のまちを創ります！～産業振興・雇用など～

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらでもない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらでもない	2 あまり重要ではない	1 重要ではない
	〈記入例〉	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①	【農林水産業】 農畜水産物の消費拡大や生産基盤整備などの取り組み・支援について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②	【商工業】 魅力ある産業の創出や地場産業への支援及び企業誘致について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③	【花火産業構想】 さまざまな分野における大曲の花火ブランドの戦略的推進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④	【観光】 豊かな地域資源や交通の利便性を活用した観光振興について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤	【雇用・就労】 地元の若者やAターン希望者などの就業希望者に対する各種支援について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Ⅱ みんなの元気を応援します！～出会い・結婚・子育て、健康・福祉など～

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらとも いえない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらとも いえない	2 あまり重要 ではない	1 重要ではない
	〈記入例〉	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①	【出会い・結婚】 出会い・結婚の促進に向けた取り組みについて	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②	【子育て】 安心して子育てできる社会環境の整備について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③	【保健・医療】 健康増進にすすんで取り組める環境や医療体制について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④	【社会福祉】 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉などの充実について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤	【社会保障】 国民健康保険、生活保護制度等の適正な実施について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥	【スポーツ】 スポーツを通じた地域のにぎわい創出や交流人口の拡大について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1



Ⅲ 住みよいまちを築きます！～安全・安心、都市整備など～

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらとも いえない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらとも いえない	2 あまり重要 ではない	1 重要ではない
	〈記入例〉	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①	【自然・衛生環境】 緑豊かな自然環境の保全と環境にやさしいまちづくり	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②	【安全・安心体制】 消防・防災体制や雪対策の強化について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③	【空き家対策】 空き家の適正管理と利活用の推進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④	【公共交通】 長寿社会に対応した公共交通の確保について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤	【地域情報化】 情報基盤の整備と地域の情報発信の推進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥	【市街地】 既存市街地を中心としたコンパクトな市街地の整備について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦	【交通インフラ】 利便性の高い幹線道路と生活を支える道路の整備について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧	【上・下水道】 快適な暮らしの基盤となる上・下水道等の整備について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑨	【住環境】 市営住宅や宅地、公園、緑地の整備について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Ⅳ 豊かな心と創造力を育みます！～教育、生涯学習、芸術・文化など～

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらとも いえない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらとも いえない	2 あまり重要 ではない	1 重要ではない
	〈記入例〉	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
①	【学校教育】 学習意欲と能力を養う学校教育の充実について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②	【生涯学習】 多様な学習機会から生涯を通じて学び、活かせる暮らしについて	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③	【芸術・文化】 芸術、文化活動、文化財に触れる機会の創出について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④	【地域間・国際交流】 地域間ネットワークの強化や国際化の推進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

V 時代に合った地域を創ります！～地域社会の維持・活性化、市民との協働、行財政運営など～

①	【地域活性化】 住民によるまちづくりが可能な地域社会の形成について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
②	【移住・定住】 市の魅力発信等による、移住・定住の促進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③	【市民協働】 市民と行政などが協働により推進する地域づくりについて	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④	【男女共同参画】 男女共同参画意識の醸成と女性の参画推進について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤	【行財政運営】 市の行財政運営の効率化等について	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問2 今後、さらに推進すべき取り組みについて

設問1 あなたが「産業分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。

あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 農業の担い手確保、育成 | 2 農業生産基盤の整備 |
| 3 農産品の振興 | 4 農村生活・就業環境の整備 |
| 5 畜産業、林業、水産業の振興 | 6 既存企業の振興 |
| 7 商業環境の整備 | 8 企業誘致の強化 |
| 9 花火産業の振興 | 10 イベント、民俗行事への支援 |
| 11 観光誘客の推進 | 12 特産品の振興 |
| 13 雇用・就労への支援 | 14 Aターン希望者への支援 |
| 15 その他 () | |

設問2 あなたが「出会い・結婚・子育て分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。

あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 結婚相談会の実施 | 2 出会い創出イベントの開催 |
| 3 不妊、不育症治療費の助成 | 4 母子保健の充実 |
| 5 子育て支援体制の充実 | 6 医療費の軽減 |
| 7 保育ニーズ量に対応した受入体制 | 8 保育料の軽減 |
| 9 夜間・休日保育の実施 | 10 放課後児童クラブ・子供教室の充実 |
| 11 虐待防止対策の実施 | 12 ワーク・ライフ・バランスの推進 |
| 13 その他 () | |

設問3 あなたが「健康福祉分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。

あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 からだの健康づくりの推進 | 2 こころの健康づくりの推進 |
| 3 高度先進医療の充実 | 4 地域医療体制の整備 |
| 5 病気予防体制の充実 | 6 住民による支え合い体制の構築 |
| 7 母子、父子福祉の充実 | 8 障がい福祉サービスの充実 |
| 9 高齢者福祉の充実 | 10 介護予防の充実 |
| 11 国民健康保険などの社会保障の促進 | 12 社会保障制度の周知 |
| 13 生活保護制度の適正な実施 | 14 福祉施設、福祉住宅等の整備 |
| 15 その他 () | |

設問4 あなたが「都市基盤分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。

あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 地域や生活の実情に即した公共交通の整備 | 2 駅舎、駐車場の整備・維持管理 |
| 3 市内の情報網、通信網の整備 | 4 行政情報の提供と公開 |
| 5 計画的な市街地整備 | 6 主要道路網の整備促進 |
| 7 生活道路の整備 | 8 幹線道路の整備促進 |
| 9 安全で安定した水道水の供給 | 10 水道未普及地区の解消 |
| 11 下水道施設の整備 | 12 下水道未処理地区の解消 |
| 13 その他 () | |



設問 5 あなたが「環境・安全分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。
あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 自然環境の保全 | 2 自然とふれる場の創出 |
| 3 交通安全、防犯体制の強化 | 4 交通弱者への福祉施策の推進 |
| 5 消防・防災体制の充実 | 6 除排雪体制の充実 |
| 7 消融雪施設の整備 | 8 空き家の管理と利活用の推進 |
| 9 廃棄物の排出抑制・適正処理 | 10 再生エネルギー導入の促進 |
| 11 河川とその周辺環境の保全・整備 | 12 市営住宅の整備・管理 |
| 13 住宅地の整備・供給 | 14 公園・緑地の整備、緑化の推進 |
| 15 その他 () | |

設問 6 あなたが「教育・スポーツ分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。
あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 学校教育の充実 | 2 幼児教育の充実 |
| 3 家庭教育、地域教育の推進 | 4 学校施設の整備 |
| 5 児童生徒の課外活動、校外活動の充実 | 6 生涯学習支援体制 |
| 7 学習成果の活用と社会参加活動への支援 | 8 学習情報の提供 |
| 9 生涯学習機会の増加 | 10 非核平和の啓発 |
| 11 芸術・文化活動の振興 | 12 文化財の保護保全・整備と活用 |
| 13 スポーツ活動の充実 | 14 スポーツ施設の整備 |
| 15 その他 () | |

設問 7 あなたが「交流・行政運営分野」で、さらに推進すべきであるとする取り組みはどれですか。
あてはまる番号をすべて○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 市内地域間交流の促進 | 2 他市町村との連携強化 |
| 3 国際交流の促進 | 4 地域活動の情報提供 |
| 5 自治組織づくり、自治会活動への支援 | 6 小規模集落・高齢化集落の維持 |
| 7 移住・定住への支援 | 8 市の魅力の発信・発見 |
| 9 行政への市民参加の機会拡大 | 10 男女共同参画社会の形成 |
| 11 事務組織の見直しと職員資質の向上 | 12 市予算の財源確保 |
| 13 公共施設の見直し | 14 公文書館の整備と利用促進 |
| 15 その他 () | |

問 3 大仙市の住みやすさについて

設問 1 大仙市は、住みやすいまちだと思いますか。あなたのお考えに一番近いものを1つ選び、番号を○で囲んでください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 住みやすい | 2 どちらかといえば住みやすい |
| 3 どちらかといえば住みにくい | 4 住みにくい |

設問 2 これからも大仙市に住み続けたいと思いますか。あなたのお考えに一番近いものを1つ選び、番号を○で囲んでください。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 今の場所に住み続けたい | 2 市内の別の場所へ移りたい |
| 3 市外に移りたい | 4 住み続けたいが、移らざるを得ない |



■ あなたご自身のことについてお伺いします。

・あなたの性別を、次の中から1つ選び、番号を○で囲んでください。

1 男性 2 女性

・あなたの年齢を、次の中から1つ選び、番号を○で囲んでください。

1 10代	2 20代	3 30代	4 40代
5 50代	6 60代	7 70代	8 80代以上

・あなたの居住地域を、次の中から1つ選び、番号を○で囲んでください。

1 大曲地域	2 神岡地域	3 西仙北地域	4 中仙地域
5 協和地域	6 南外地域	7 仙北地域	8 太田地域

■ 自由意見

今回のアンケートの内容に関わらず、市政に関してご意見・ご提案などがありましたらご記入願います

以上で、アンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。

アンケート用紙は、同封した封筒に入れて、6月6日（月）までに投函（切手不要）していただきますよう、お願いします。

平成 28 年度

「市民による個別事業評価」

結果報告書

平成 29 年 5 月

秋 田 県 大 仙 市

目 次

1 調査概要	1
1.1 調査の目的について	2
1.2 調査の対象、手法、期間について	2
1.3 調査の内容について	2
1.4 回収結果について	3
1.5 集計・分析上の注意事項について	3
1.6 回答者の属性について	3
2 調査結果【基本分析－全体・性別・年代別】	7
2.1 「雇用や就労のための支援事業」について	8
2.2 「農業の担い手支援事業」について	23
2.3 「大仙市花火産業構想」について	32
2.4 「むすび・サポート事業」について	42
2.5 「地域子育て支援拠点施設」について	53
2.6 「高齢者生活支援サービス事業」について	70
2.7 「地域交通対策事業」について	82
2.8 「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について	90
2.9 「住宅リフォーム支援事業」について	99
2.10 「コミュニティFM関連事業」について	113
2.11 「学校生活支援事業」について	134
2.12 「移住・定住への支援事業」について	143
3 自由意見（分野別）	163
4 分析結果・今後の取組（テーマ別）	169
5 資料【平成 28 年度「市民による個別事業評価」調査票】	201

1. 調査概要

1.1 調査の目的について

市が実施している事業等に関する市民の「評価、要望」を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結びつけるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

1.2 調査の対象、手法、期間について

(1) 対象

18歳以上の市民の中から無作為に抽出した1,000人（性別、年齢、地域については考慮）

(2) 手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

(3) 期間

平成28年12月15日（木）～平成29年1月6日（金）

1.3 調査の内容について

本調査では、市が実施している事業をテーマとして設定した設問項目について、「認知度」、「評価」、「要望」等を調査した。

◆対象事業一覧

- | | |
|------------------|----------------------|
| ①「雇用や就労のための支援事業」 | ②「農業の担い手支援事業」 |
| ③「大仙市花火産業構想」 | ④「むすび・サポート事業」 |
| ⑤「地域子育て支援拠点施設」 | ⑥「高齢者生活支援サービス事業」 |
| ⑦「地域交通対策事業」 | ⑧「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」 |
| ⑨「住宅リフォーム支援事業」 | ⑩「コミュニティFM関連事業」 |
| ⑪「学校生活支援事業」 | ⑫「移住・定住への支援事業」 |

1.4 回収結果について

回収数…………… 609 人

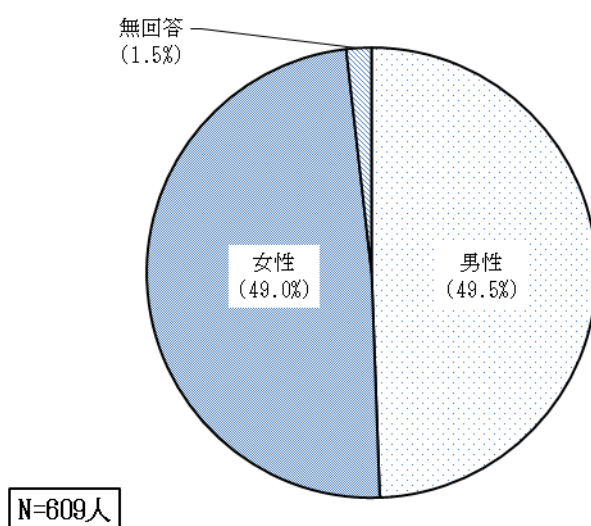
回収率…………… 60.9%

1.5 集計・分析上の注意事項について

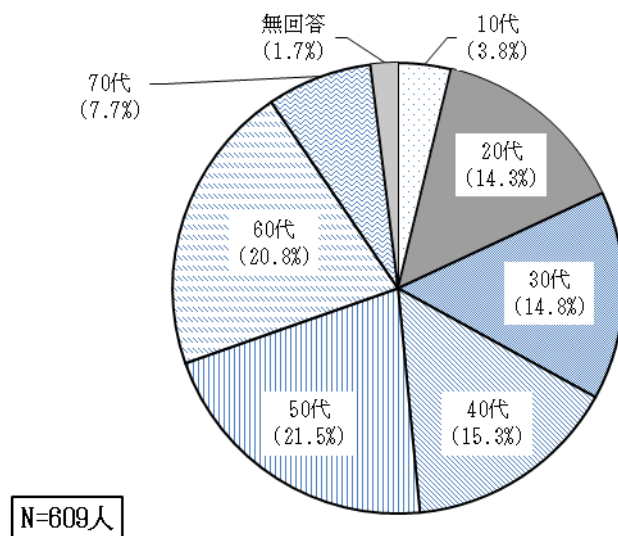
報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で表記している。ただし、複数回答型の設問については、無回答を「N」に含めない。また、図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。

1.6 回答者の属性について

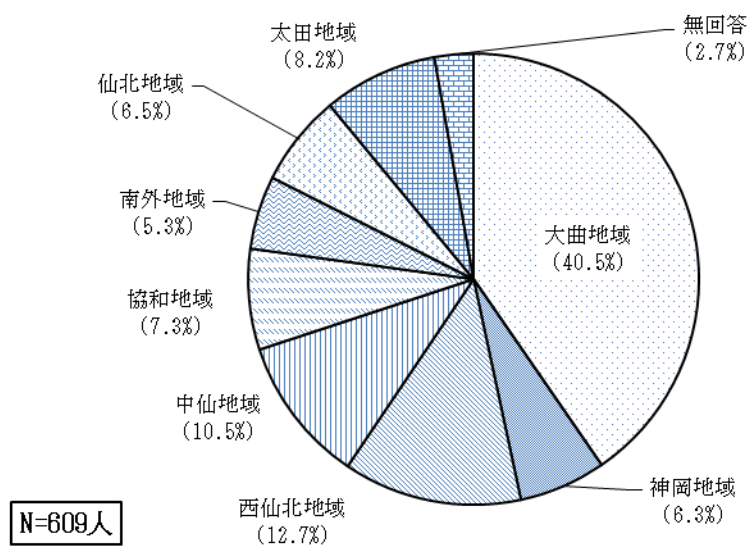
■ 回答者の性別の内訳



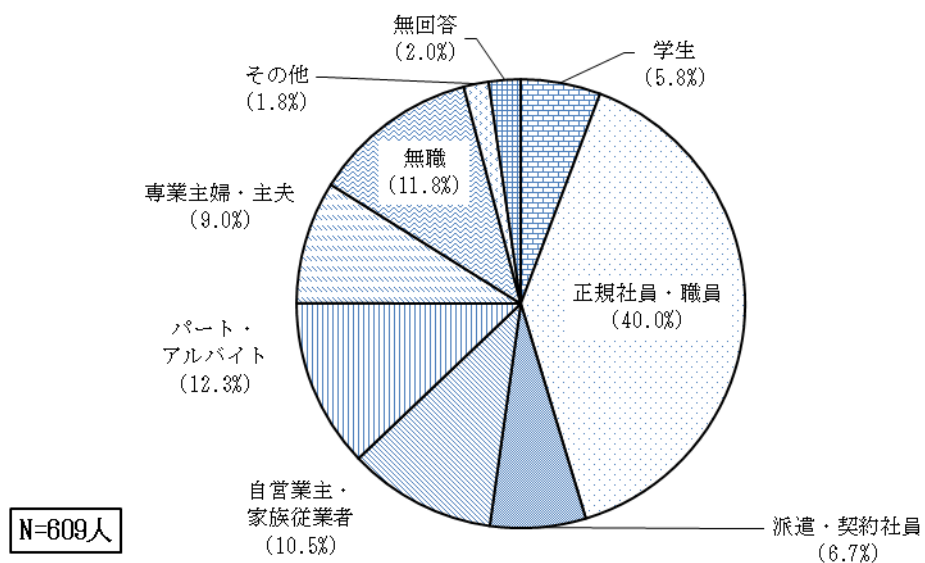
■ 回答者の年齢の内訳



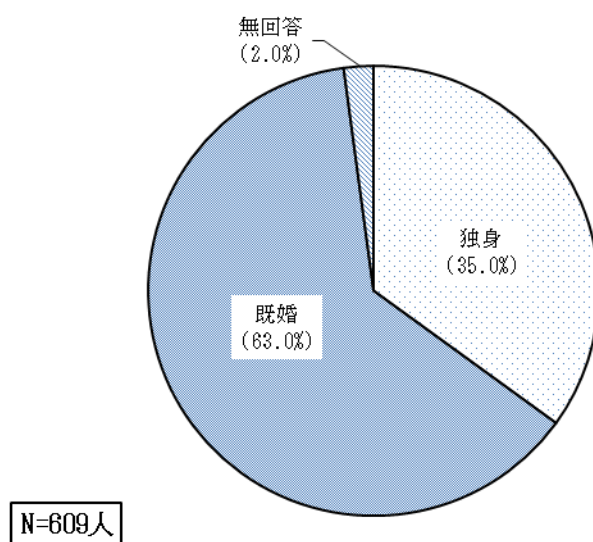
■ 回答者の居住地域の内訳



■ 回答者の職業の内訳



■ 回答者の独身・結婚の内訳



2. 調査結果【基本分析－全体・性別・年代別】

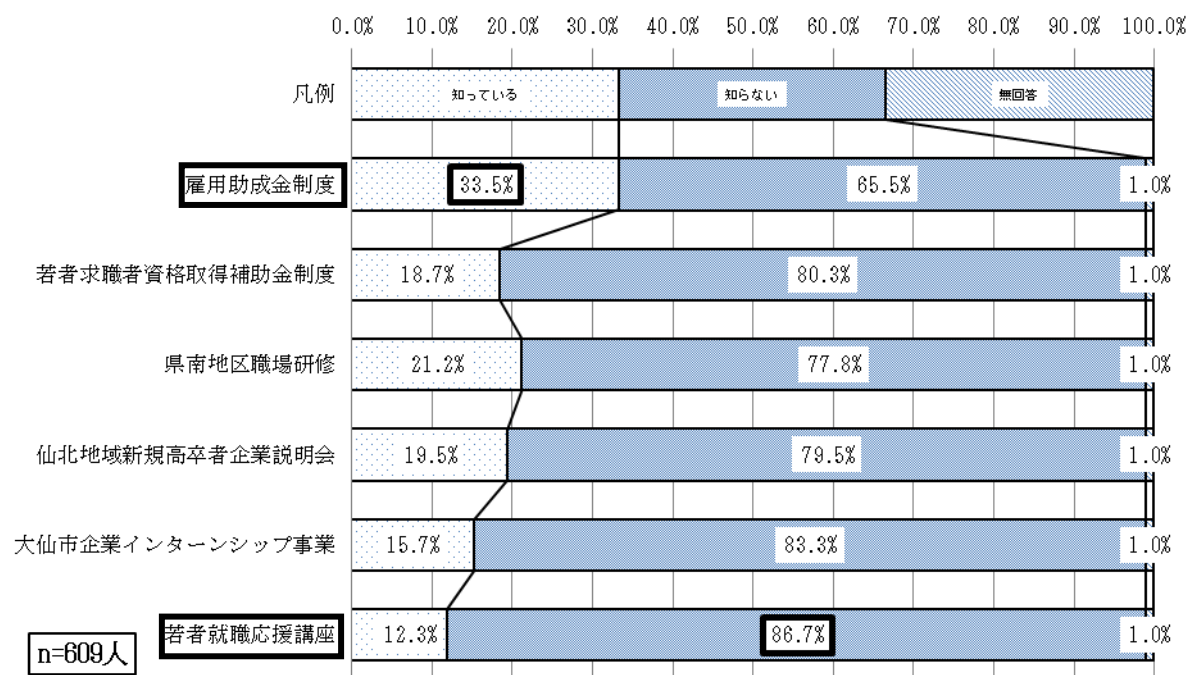
2.1 「雇用や就労のための支援事業」について

【問1】市が実施している雇用・就労施策について、知っているものの番号に○印をつけてください。

【全体】

○認知度が高い雇用・就労施策については、「雇用助成金制度」を「知っている」の割合が33.5%と最も高く、次いで「県南地区職場研修」が21.2%となっている。

○一方、認知度が低い雇用・就労施策については、「若者就職応援講座」を「知っている」の割合が12.3%と最も低く、次いで「大仙市企業インターンシップ事業」が15.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「雇用助成金制度」を「知っている」の回答割合が、男性 37.5%、女性 29.6%と最も高くなっている。

○男女どちらにおいても「若者就職応援講座」を「知らない」の回答割合が男性 87.0%、女性 87.2%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

《性別》		有効回答数 (N)	知っている	知らない	無回答
雇用助成金制度	全体	609	33.3%	65.7%	1.0%
	男性	301	37.5%	61.8%	0.7%
	女性	297	29.6%	69.4%	1.0%
若者求職者資格取得補助金制度	全体	609	18.6%	80.5%	1.0%
	男性	301	20.3%	79.1%	0.7%
	女性	297	17.2%	81.8%	1.0%
県南地区職場研修	全体	609	21.2%	77.8%	1.0%
	男性	301	24.9%	74.4%	0.7%
	女性	297	18.2%	80.8%	1.0%
仙北地域新規高卒者企業説明会	全体	609	19.5%	79.5%	1.0%
	男性	301	21.6%	77.7%	0.7%
	女性	297	17.8%	81.1%	1.0%
大仙市企業インターンシップ事業	全体	609	15.3%	83.7%	1.0%
	男性	301	15.0%	84.4%	0.7%
	女性	297	16.2%	82.8%	1.0%
若者就職応援講座	全体	609	12.0%	87.0%	1.0%
	男性	301	12.3%	87.0%	0.7%
	女性	297	11.8%	87.2%	1.0%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い施策

下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い施策

【年代別】

○10代、20代を除く全年代において、「雇用助成金制度」を「知っている」の回答割合が高くなっている。

○10代において、「県南地区職場研修」を「知っている」の回答割合が34.8%と最も高くなっている。

○20代において、「大仙市企業インターンシップ事業」を「知っている」の回答割合が25.3%と最も高くなっている。

《年代別》		有効 回答 数 (N)	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
雇用助成金制度	全体	609	33.3%	65.7%	1.0%
	10代	23	17.4%	82.6%	0.0%
	20代	87	18.4%	81.6%	0.0%
	30代	91	34.1%	65.9%	0.0%
	40代	94	30.9%	68.1%	1.1%
	50代	129	39.5%	60.5%	0.0%
	60代	127	40.9%	57.5%	1.6%
	70代	46	39.1%	56.5%	4.3%
若者求職者資格取得補助金制度	全体	609	18.6%	80.5%	1.0%
	10代	23	8.7%	91.3%	0.0%
	20代	87	5.7%	94.3%	0.0%
	30代	91	16.5%	83.5%	0.0%
	40代	94	10.6%	88.3%	1.1%
	50代	129	27.1%	72.9%	0.0%
	60代	127	24.4%	74.0%	1.6%
	70代	46	30.4%	65.2%	4.3%
県南地区職場研修	全体	609	21.2%	77.8%	1.0%
	10代	23	34.8%	65.2%	0.0%
	20代	87	23.0%	77.0%	0.0%
	30代	91	19.8%	80.2%	0.0%
	40代	94	21.3%	77.7%	1.1%
	50代	129	27.9%	72.1%	0.0%
	60代	127	16.5%	81.9%	1.6%
	70代	46	13.0%	82.6%	4.3%
仙北地域新規高卒者企業説明会	全体	609	19.5%	79.5%	1.0%
	10代	23	21.7%	78.3%	0.0%
	20代	87	18.4%	81.6%	0.0%
	30代	91	14.3%	85.7%	0.0%
	40代	94	17.0%	81.9%	1.1%
	50代	129	25.6%	74.4%	0.0%
	60代	127	21.3%	77.2%	1.6%
	70代	46	15.2%	80.4%	4.3%
大仙市企業インターンシップ事業	全体	609	15.3%	83.7%	1.0%
	10代	23	21.7%	78.3%	0.0%
	20代	87	25.3%	74.7%	0.0%
	30代	91	12.1%	87.9%	0.0%
	40代	94	10.6%	88.3%	1.1%
	50代	129	24.0%	76.0%	0.0%
	60代	127	8.7%	89.8%	1.6%
	70代	46	6.5%	89.1%	4.3%
若者就職応援講座	全体	609	12.0%	87.0%	1.0%
	10代	23	13.0%	87.0%	0.0%
	20代	87	17.2%	82.8%	0.0%
	30代	91	6.6%	93.4%	0.0%
	40代	94	6.4%	92.6%	1.1%
	50代	129	14.7%	85.3%	0.0%
	60代	127	11.0%	87.4%	1.6%
	70代	46	19.6%	76.1%	4.3%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

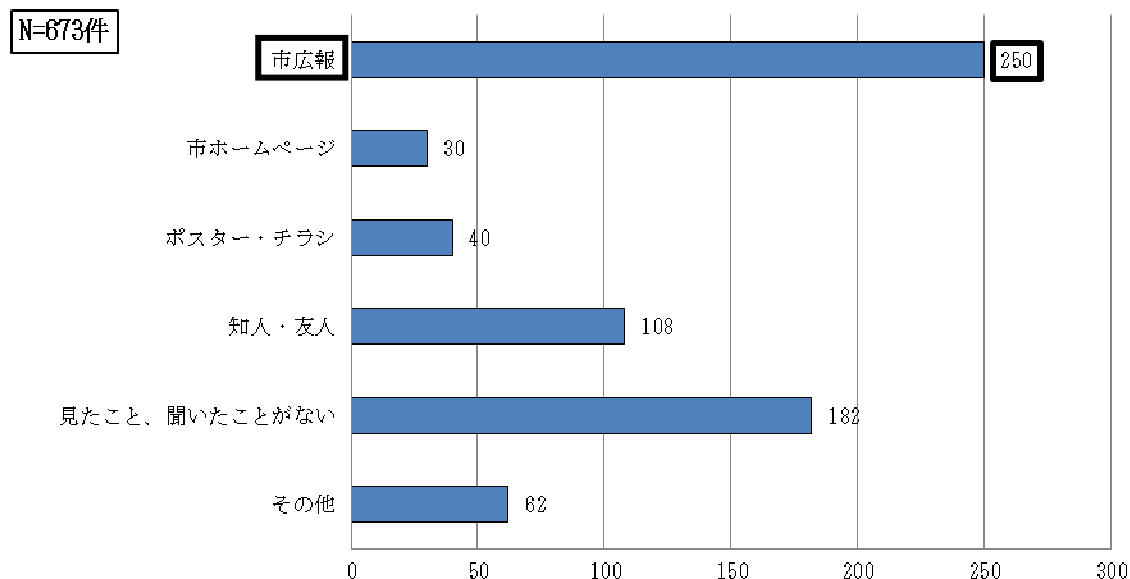
下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問2 市が実施する雇用・就労施策に関する情報をどこで知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施する雇用・就労施策に関する情報を知る手段については、「市広報」が250件と最も多くなっている。

○一方、「見たこと、聞いたことがない」が182件と、全体で2番目に多くなっている。



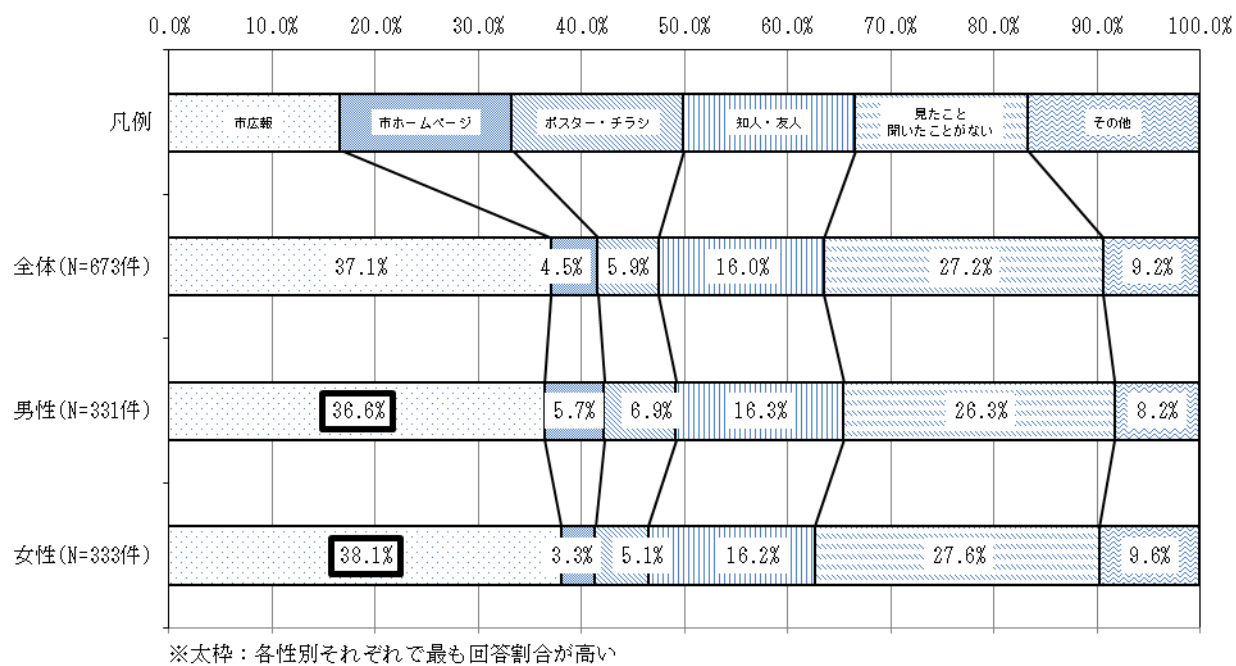
◆「その他」意見（抜粋）

- ・学校。（男性／10代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・会社。（男性／20代／太田／正規社員・職員／独身）
- ・テレビ。（男性／40代／西仙北／その他／独身）
- ・SNS。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・直接問い合わせ。（女性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・雇用開発協会。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・職業安定所。（女性／60代／中仙／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・家族。（女性／60代／太田／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性 36.6%、女性 38.1%と最も高くなっている。

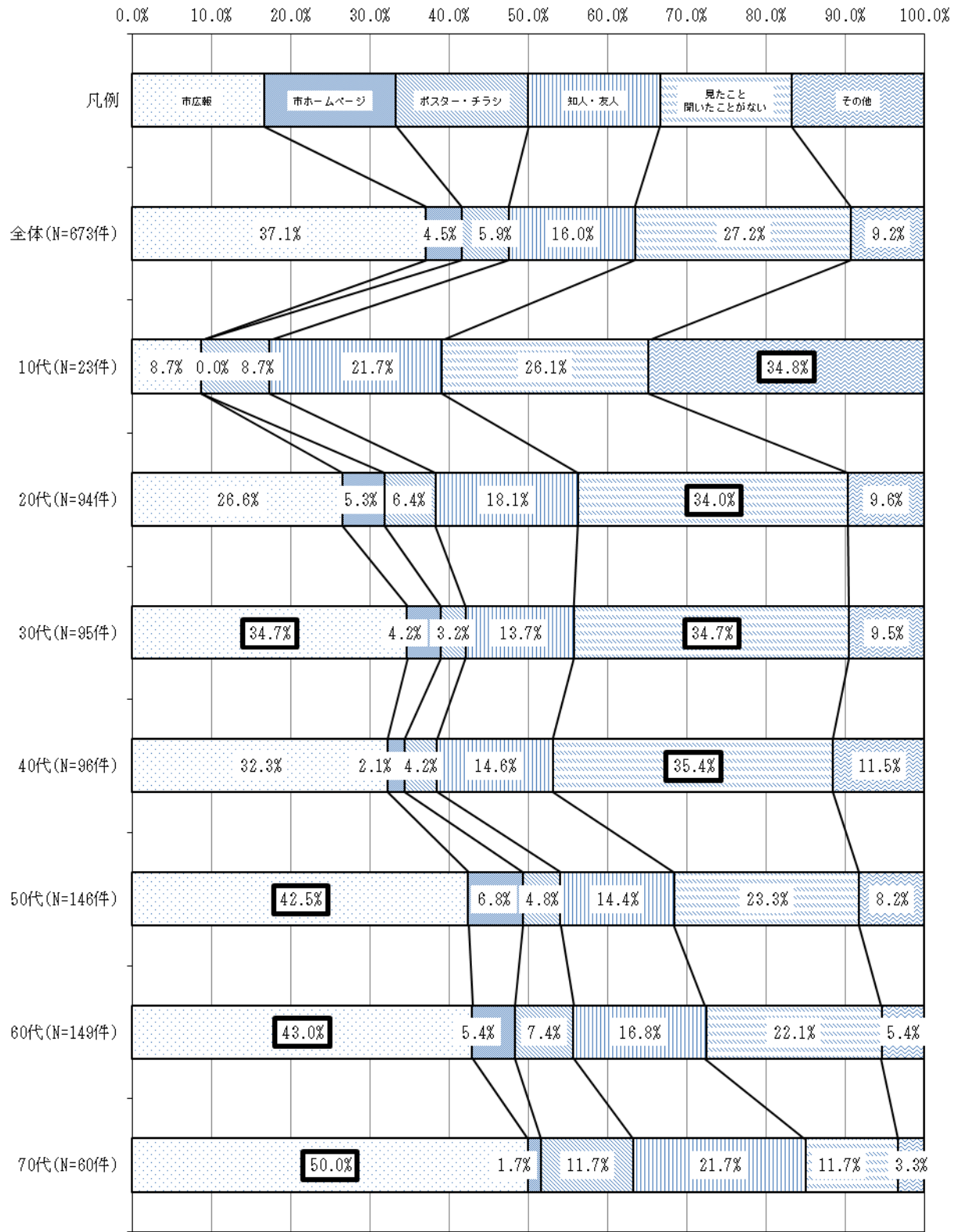
○全体的に、男女に大きな差は見られない。



【年代別】

○20代から40代において、「見たこと、聞いたことがない」の回答割合が最も高くなっている。

○50代から70代においては、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

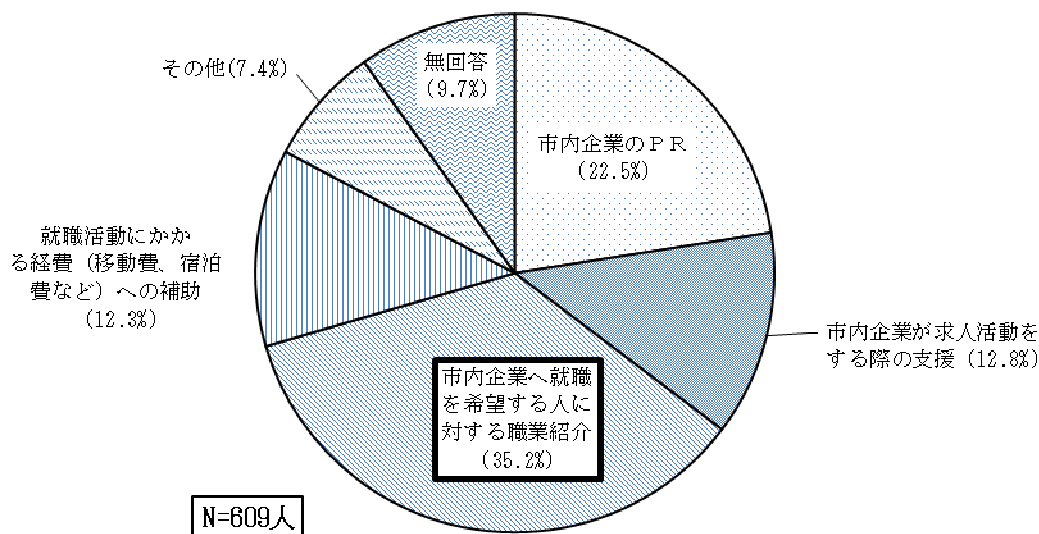


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 現在、地元の高校を卒業する人の約30%が就職、約70%が進学等となっています。また、就職者のうち約30%が県外へ就職しています。市では、進学等により県外へ転出した人の市内企業への就職を促進したいと考えていますが、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○進学等により県外へ転出した人の市内就職を促進するための取り組みに対する要望については、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」が35.2%と最も高く、次いで「市内企業のPR」が22.5%となっている。



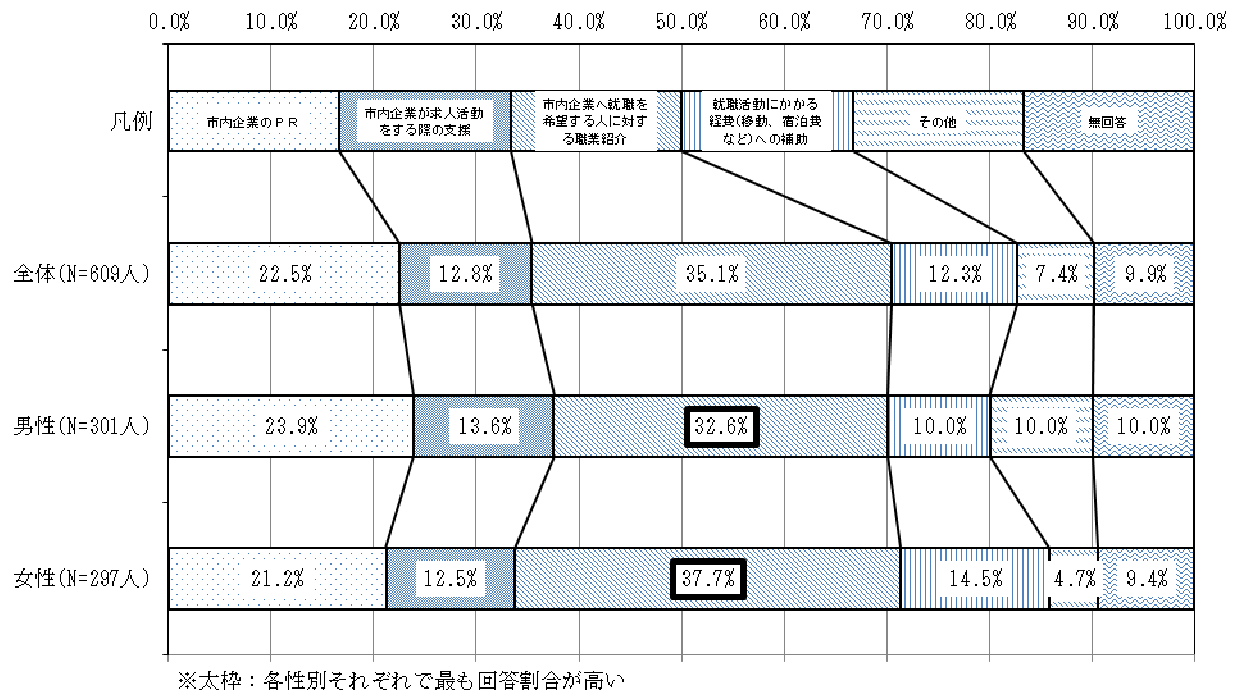
◆「その他」意見（抜粋）

- ・若者に魅力ある企業の誘致。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・雇用の拡大。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・市内企業へ就職した人への就職準備金の補助。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・若者の意識改善。（男性／30代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・地元へ定着してもらえるように、町の活性化を重視する。（男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・若者が居たいと思う市にする。（女性／50代／大曲／専業主婦・主夫／既婚）
- ・進路指導の先生の協力。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・安心して働ける企業の誘致。（男性／60代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・労働条件の改善。（男性／70代／協和／無職／既婚）
- ・賃金の上昇。（男性／70代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」の回答割合が、男性 32.6%、女性 37.7%と最も高くなっている。

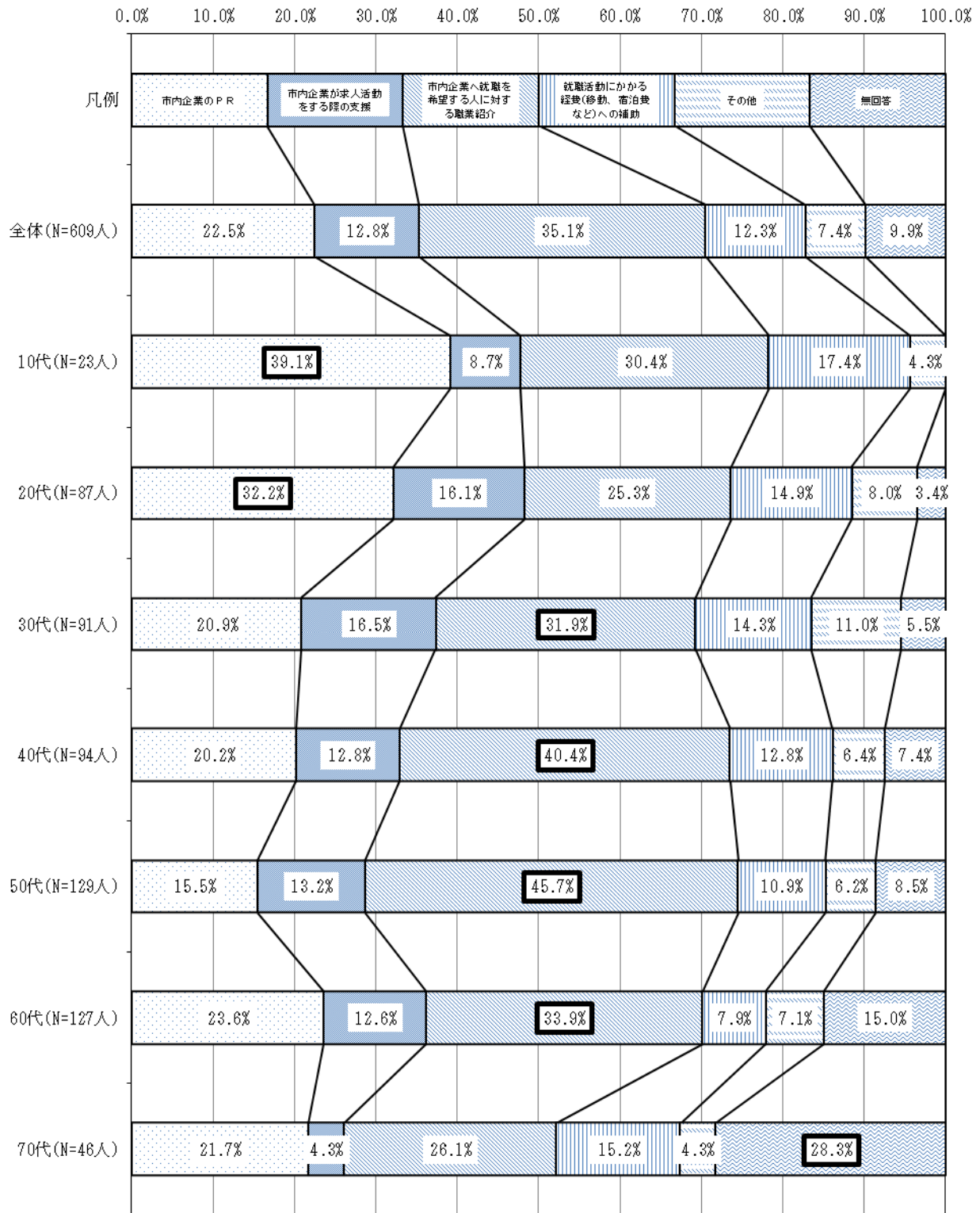
○全体的に、男女に大きな差は見られない。



【年代別】

○10代、20代において、「市内企業のPR」の回答割合が、10代39.1%、20代32.2%と最も高くなっている。

○30代から60代においては、「市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介」の回答割合が、30代31.9%、40代40.4%、50代45.7%、60代33.9%と最も高くなっている。

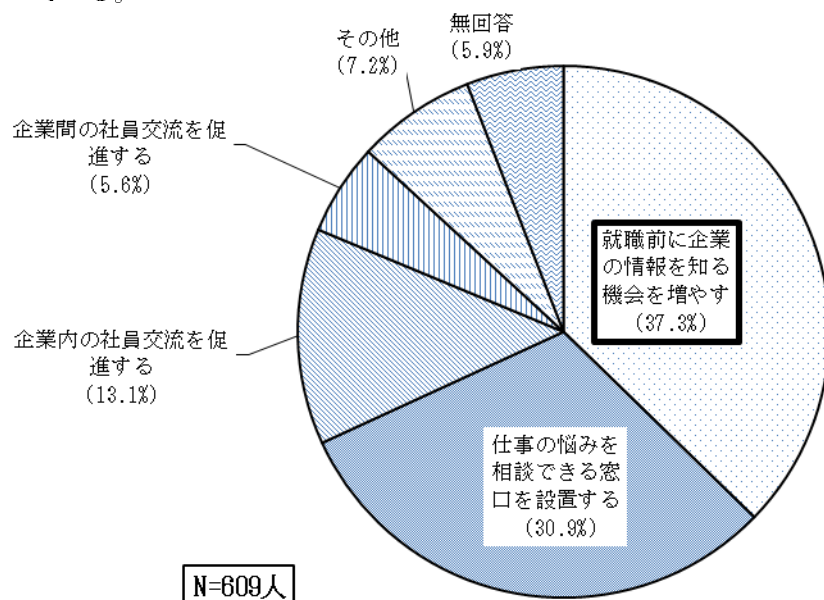


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 現在、秋田県の新規学卒者の就職後3年以内の離職率は、高校、短大等で約40%、大学で約35%となっています。早期離職を予防するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○若者の早期離職を予防するための取り組みに対する要望については、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」が37.3%と最も高く、次いで「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」が30.9%となっている。



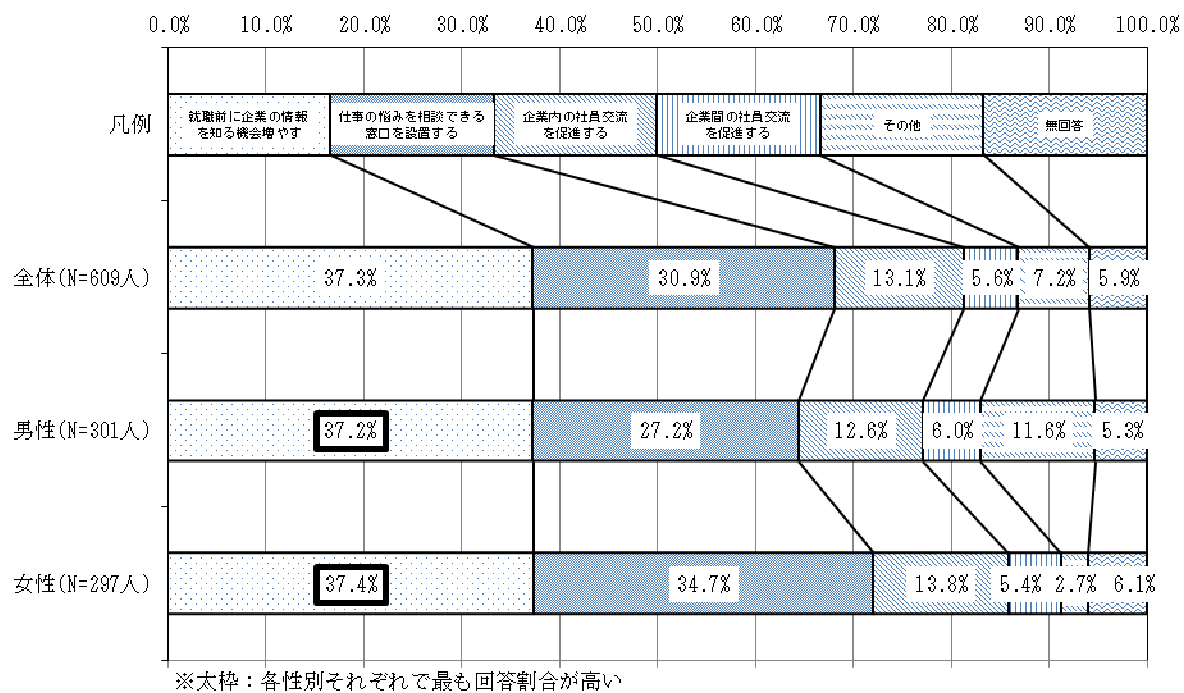
◆「その他」意見（抜粋）

- ・積極的に休暇を取らせる。（男性／20代／大曲／学生／独身）
- ・上司の資質の向上。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・正社員の雇用増加。（女性／20代／仙北／派遣・契約社員／独身）
- ・福利厚生の実施。（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・明確な評価のフィードバック。（女性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・企業側の勉強、改革。（男性／50代／協和／正規社員・職員／既婚）
- ・本人次第。（男性／50代／協和／正規社員・職員／既婚）
- ・仕事内容を正確に把握できるようにする。（男性／60代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・賃金の上昇。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・能力、意識、人生設計等といった職場教育の実施。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が、男性 37.2%、女性 37.4%と最も高くなっている。

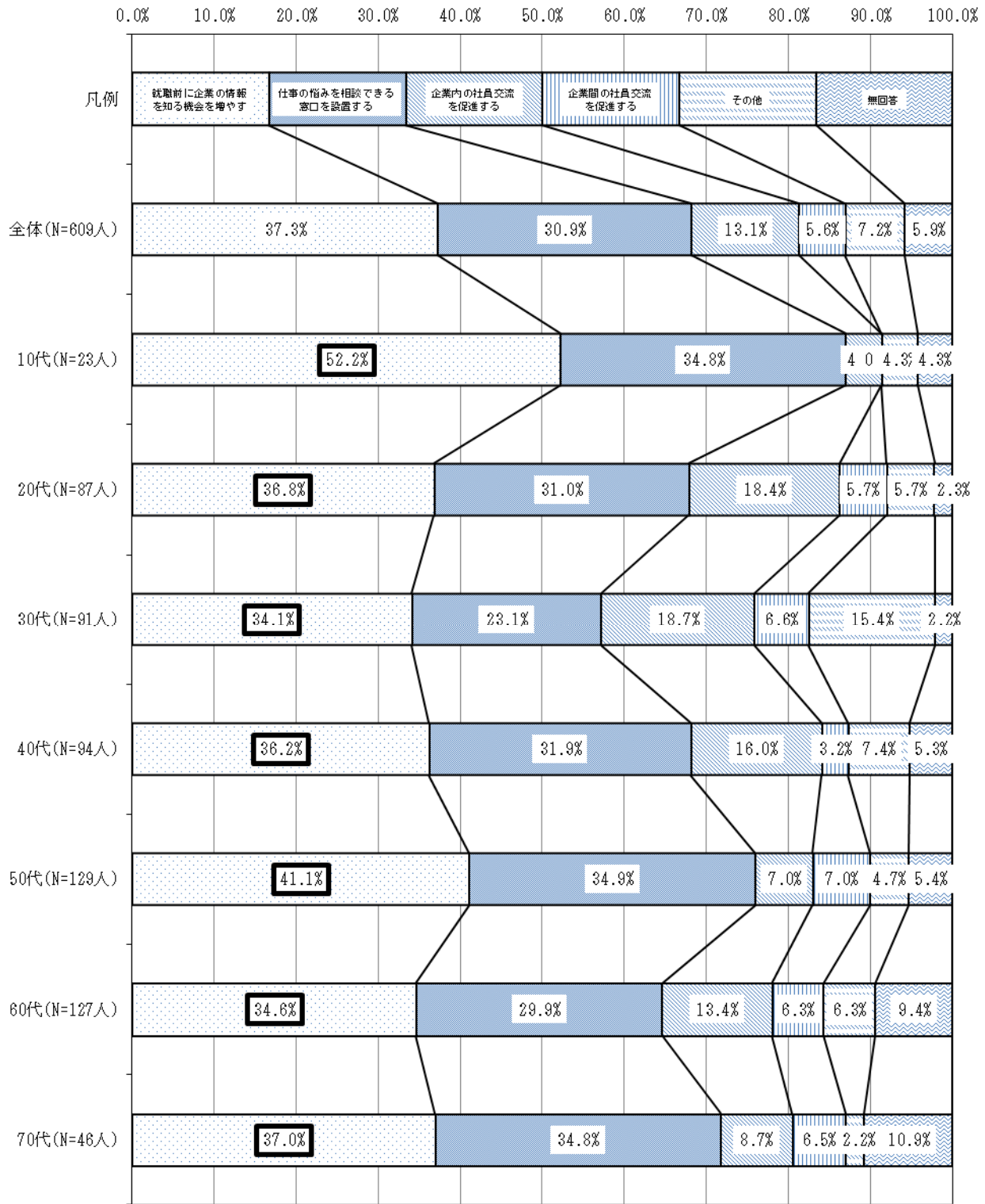
○女性が男性より「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が高く、女性が 34.7%で男性よりも 7.5%高くなっている。



【年代別】

○全年代において、「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が最も高くなっている。

○また、全年代において、「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が上位2位となっている。

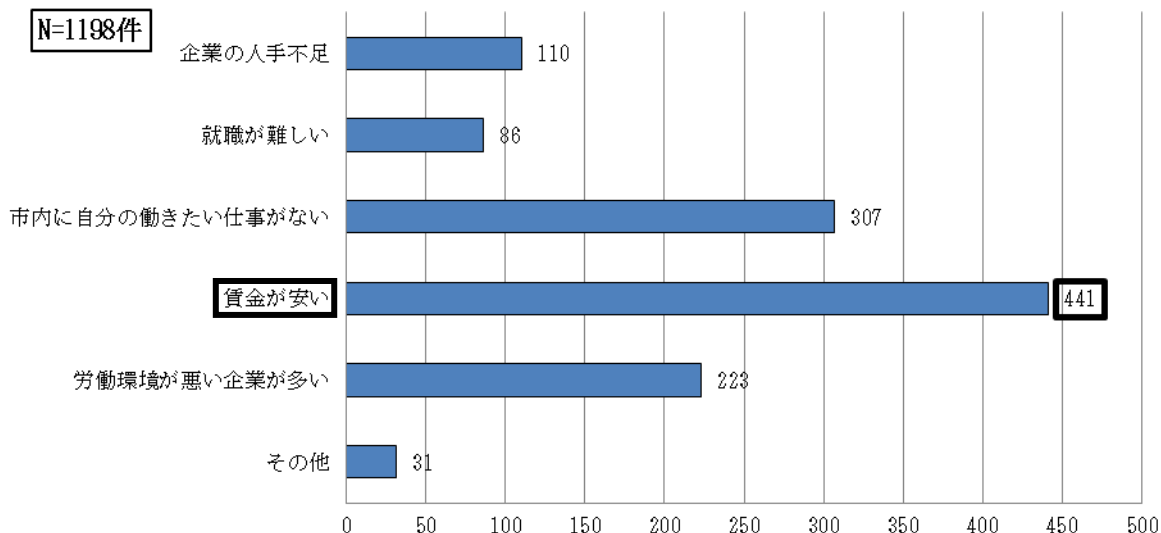


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 現在、市内の有効求人倍率は1倍を超えており、一部の業種によっては2倍以上（求職者1人に対して仕事は2つある状態）となっています。あなたは、現在市内の雇用・就労に関してどのような問題があると思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市内の雇用・就労に関する問題については、「賃金が安い」が441件で最も回答数が多く、次いで「市内に自分の働きたい仕事がない」が307件となっている。



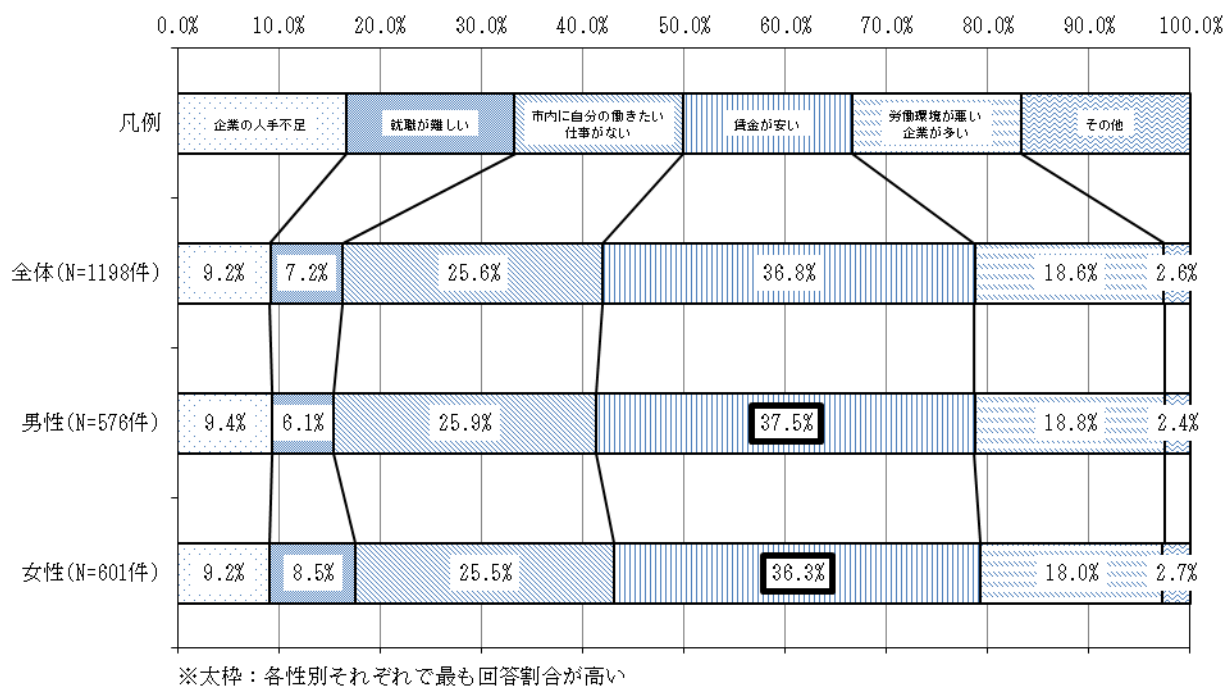
◆「その他」意見（抜粋）

- ・県内での生活に魅力を感じている人が少ない。（女性／20代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・企業内の教育が不十分。（女性／40代／大曲／正規社員・職員／独身）
- ・企業側と就労側の考えの食い違い。（女性／40代／南外／パート・アルバイト／独身）
- ・職種の偏り。（女性／50代／大曲／その他／既婚）
- ・雇用する側の意識の低さ。（女性／50代／西仙北／派遣・契約社員／既婚）
- ・就労者のやる気や根気が足りない。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・高齢化。（男性／60代／太田／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・人間関係が悪い。（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「賃金が安い」の回答割合が、男性 37.5%、女性 36.3%と最も高くなっている。

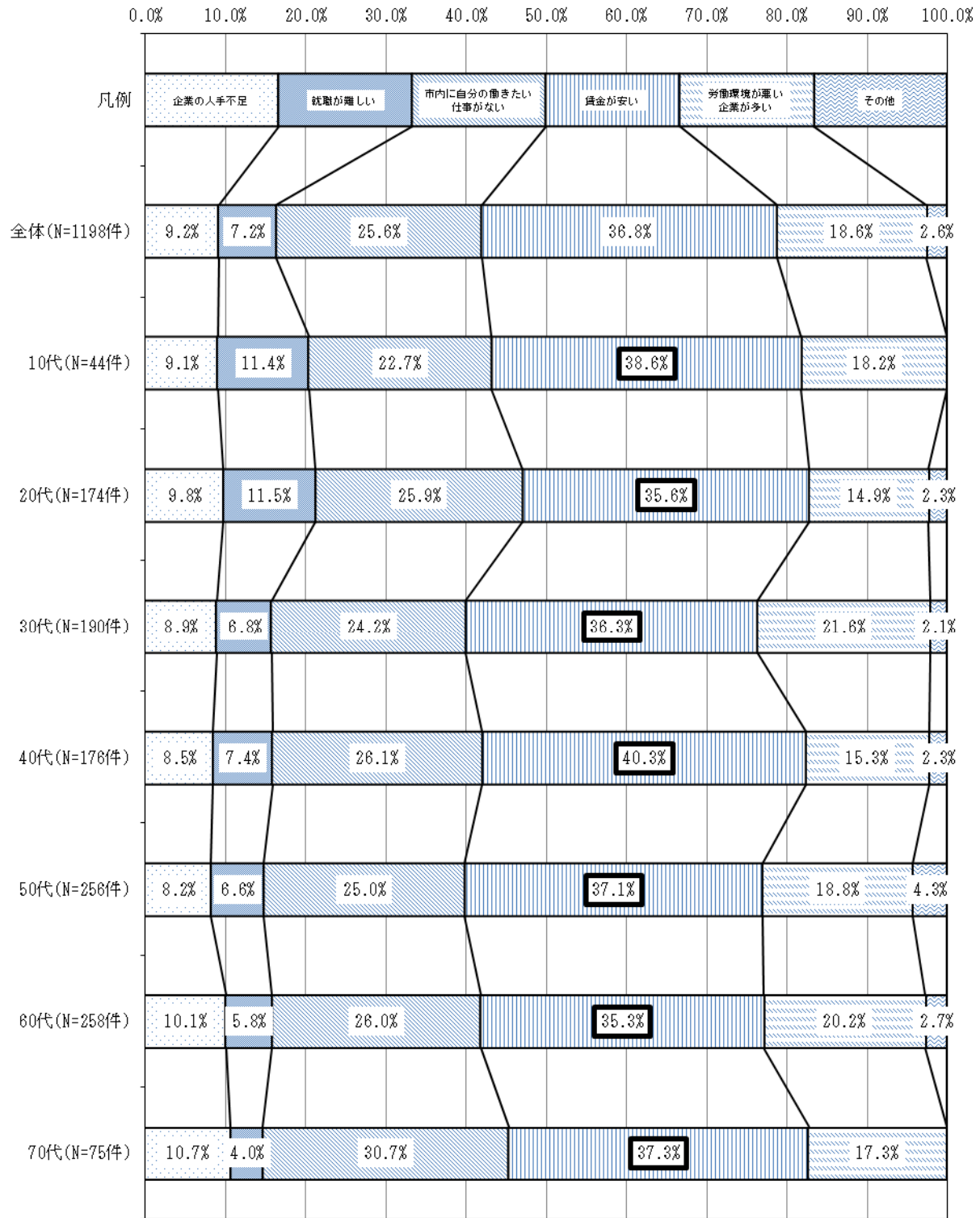
○男女で大きな差は見られない。



【年代別】

○全年代において、「賃金が安い」の回答割合が最も高くなっている。

○10代、20代において、「就職が厳しい」の回答割合が、10代11.4%、20代11.5%と他の年代に比べて高くなっている。



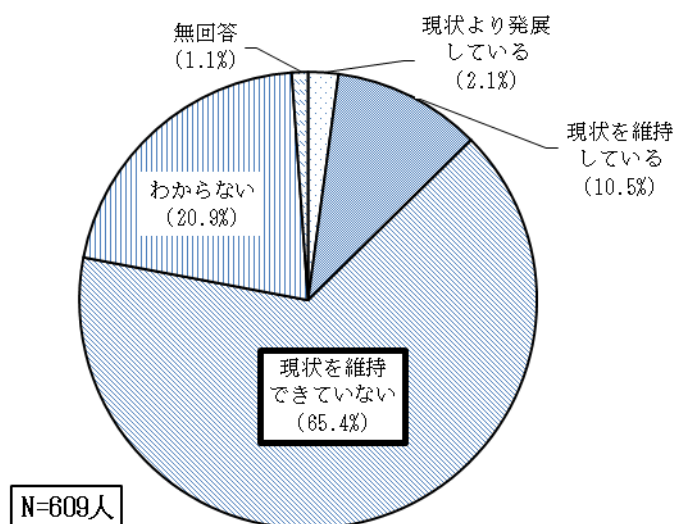
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.2 「農業の担い手支援事業」について

問1 あなたの地域の農業は、10年後どのようなになっていると思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

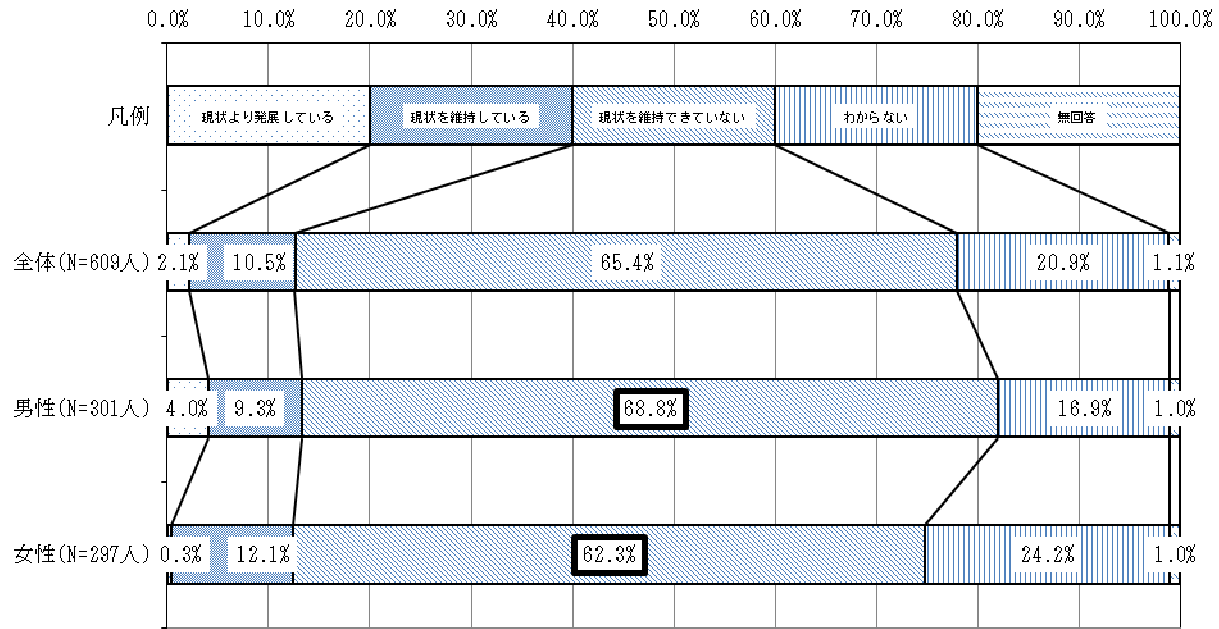
○回答者の地域の農業の10年後については、「現状を維持できていない」が65.4%で最も高く、次いで「わからない」が20.9%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「現状を維持できていない」の回答割合が、男性 68.8%、女性 62.3%と最も回答割合が高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

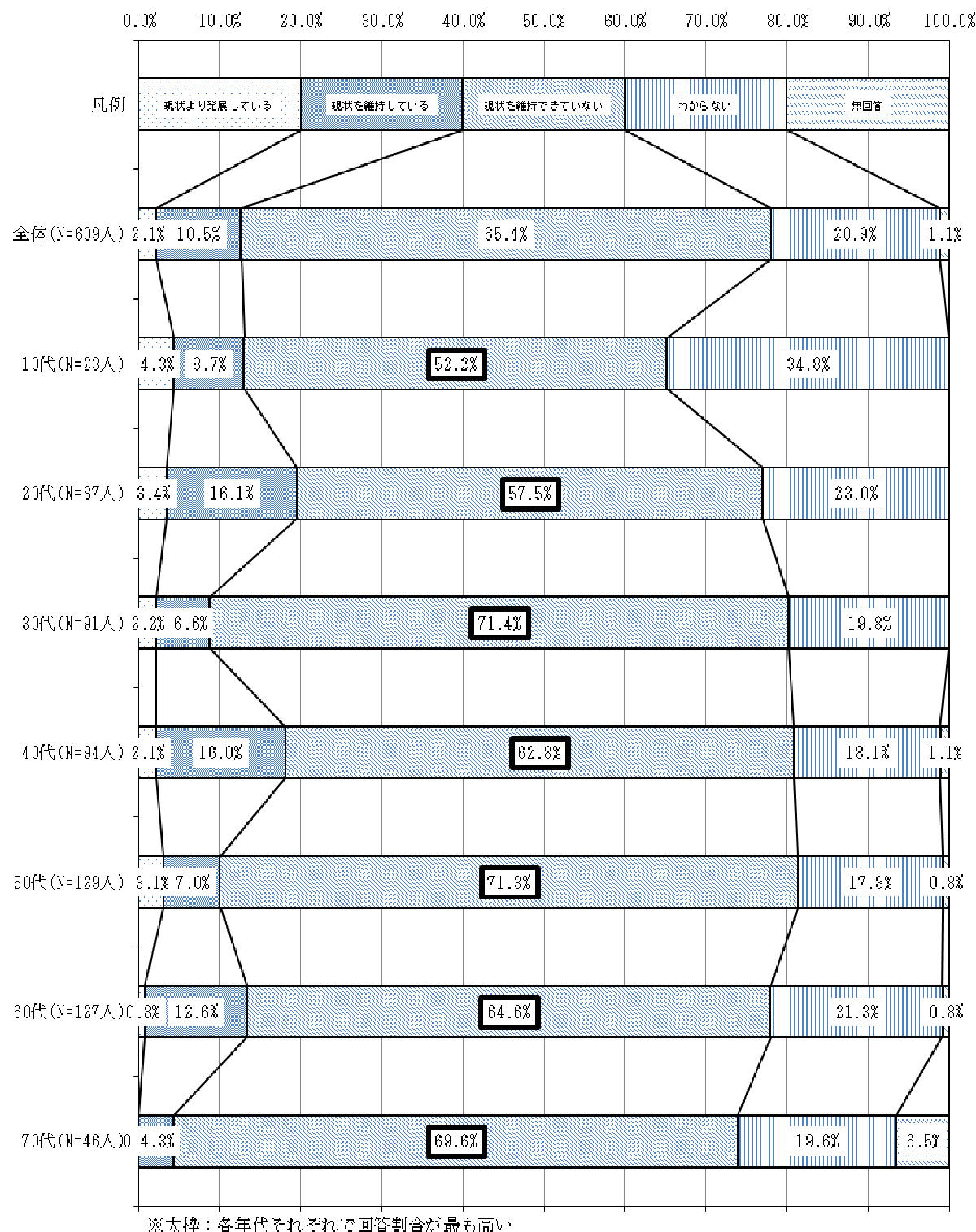


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「現状を維持できていない」の回答割合が最も高くなっている。

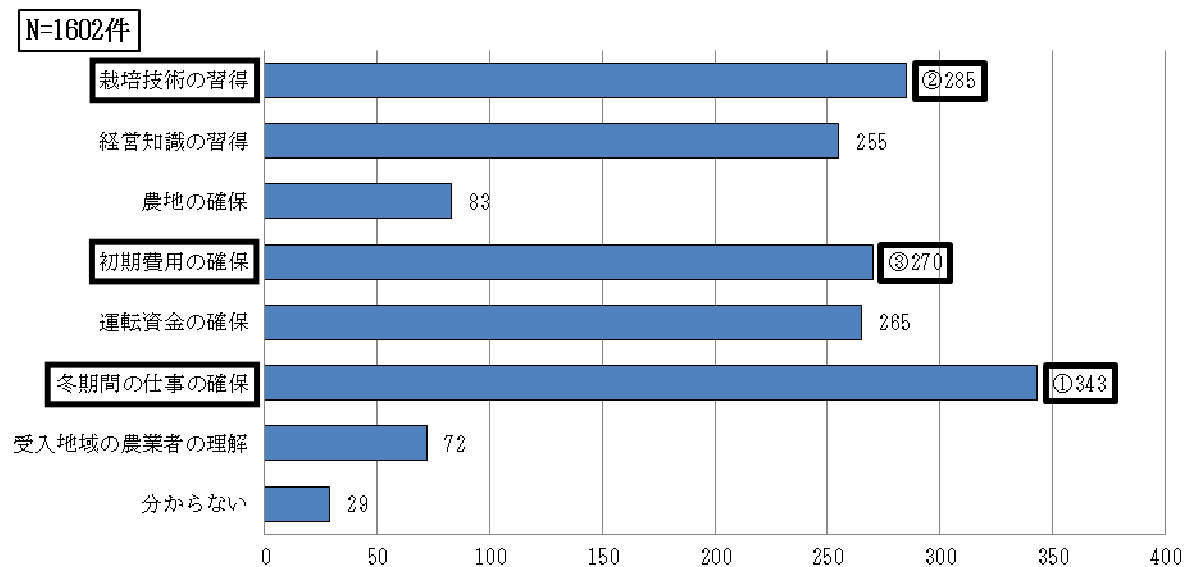
○10代、20代の「現状を維持できていない」の回答割合が、10代 52.2%、20代 57.5%と他の年代と比べて低くなっている。



問2 もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。

【全体】

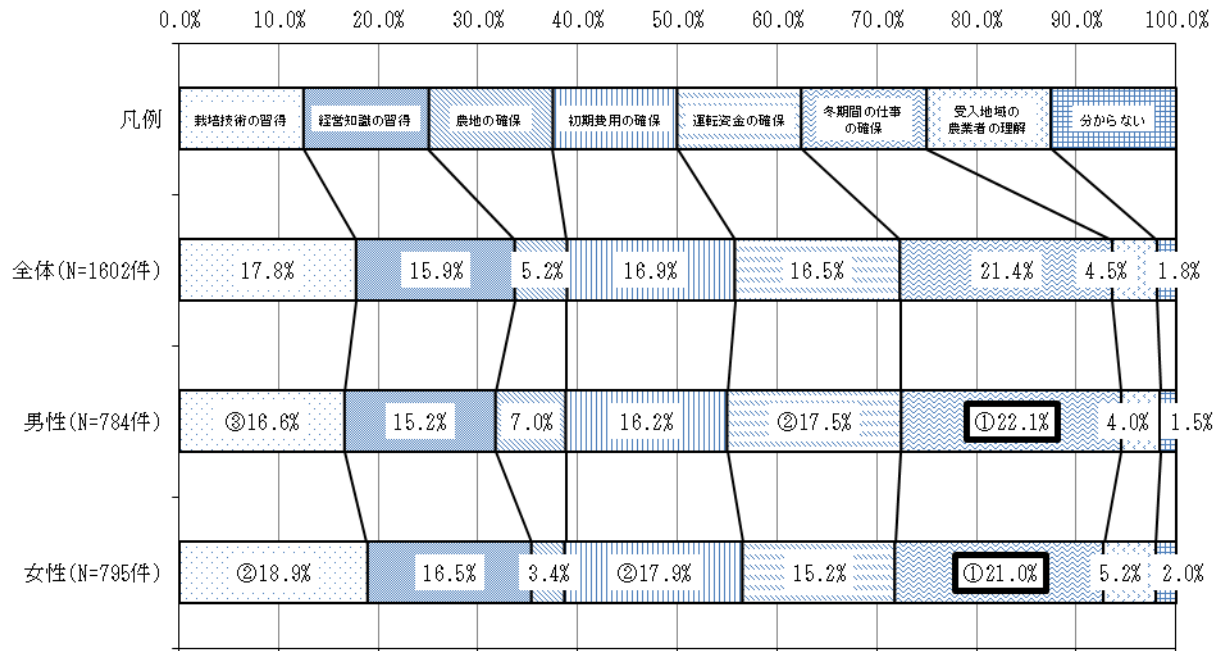
○今後農業を始める場合の課題については、「冬期間の仕事の確保」が343件と最も多く、次いで「栽培技術の習得」が285件、「初期費用の確保」が270件となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「冬期間の仕事の確保」の回答割合が、男性 22.1%、女性 21.0%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

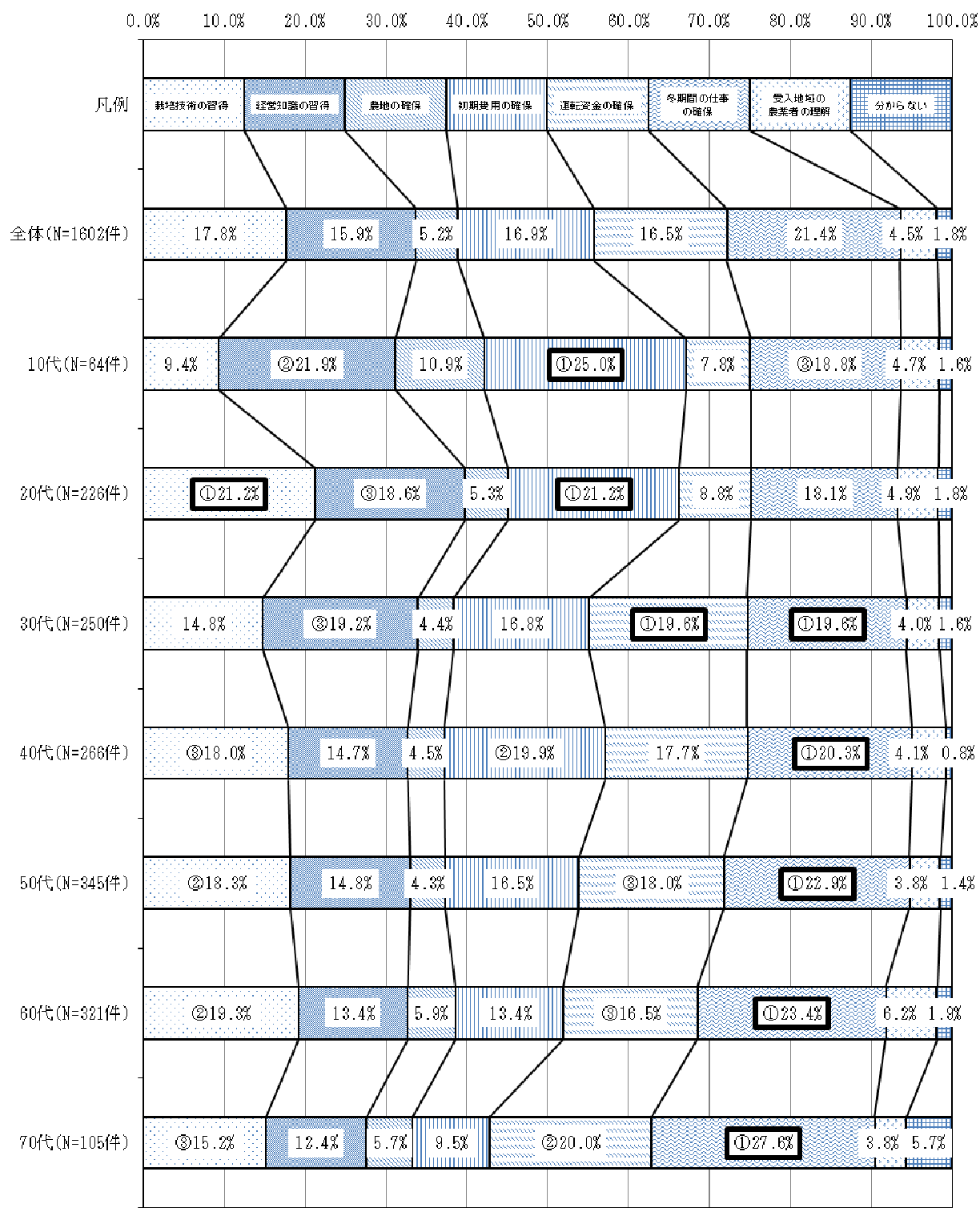


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10代、20代では「初期費用の確保」の回答割合が最も高くなっており、30代から70代までは「冬期間の仕事の確保」の回答割合が最も高くなっている。

○年代が高くなるにつれて、「冬期間の仕事の確保」の回答割合が高くなっている。

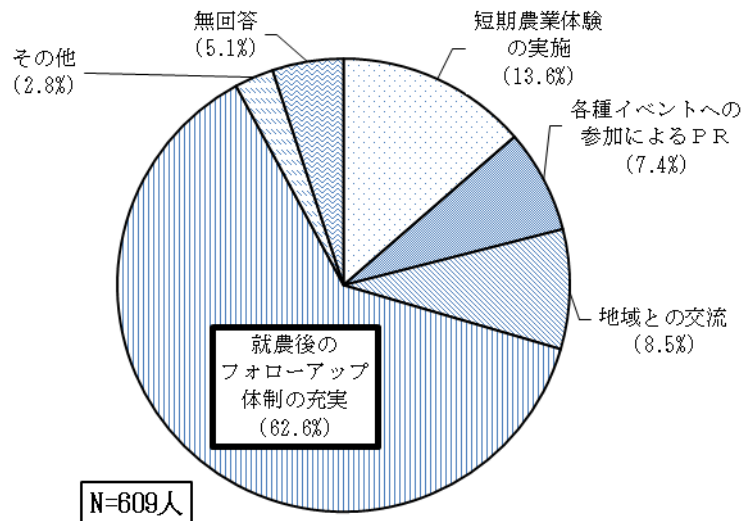


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○新規就農研修施設で今後さらに新規就農者を確保するための取り組みについては、「就農後のフォローアップ体制の充実」が62.6%と最も高く、次いで「短期農業体験の実施」が13.6%となっている。



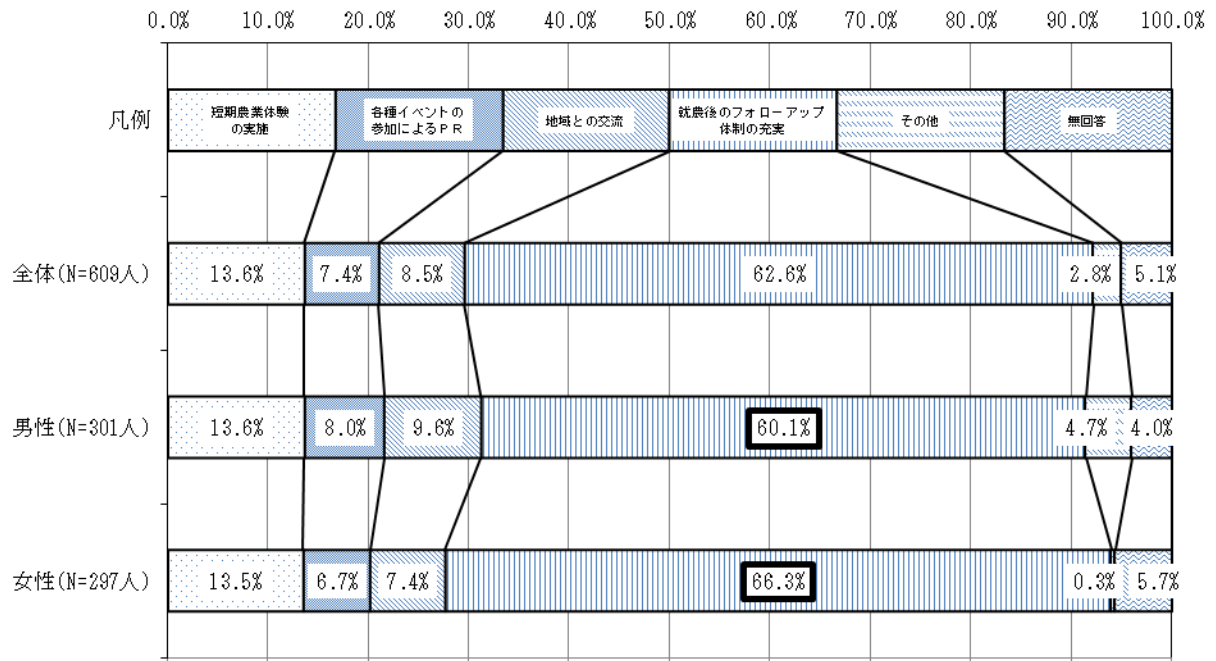
◆「その他」意見（抜粋）

- ・地元で栽培可能な農産物の紹介や、栽培指導。（男性／20代／神岡／正規社員・職員／独身）
- ・現在農業をしている人の地域すべてに、新規就農者研修施設の建設や、農地の確保、差別の解消、大仙市内のすべての農地を市有にして、1つの大きな会社のようにする等の取り組み。
（男性／20代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ・軌道に乗るまでの資金援助。（男性／20代／仙北／正規社員・職員／独身）
- ・より技術的な指導。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・賃金の安定。（男性／30代／大曲／自営業主／家族従業者／既婚）
- ・国内外における成功事例を学ぶ。（男性／30代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・加工・販売・デザインといったアイディアの深化。（男性／30代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・農業に従事する誇りを伝えていくこと。（男性／40代／神岡／正規社員・職員／既婚）
- ・受け入れ人数の増加。（男性／50代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・大仙市にしかないものや、全国的に有名な作物の栽培。（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が、男性 60.1%、女性 66.3%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

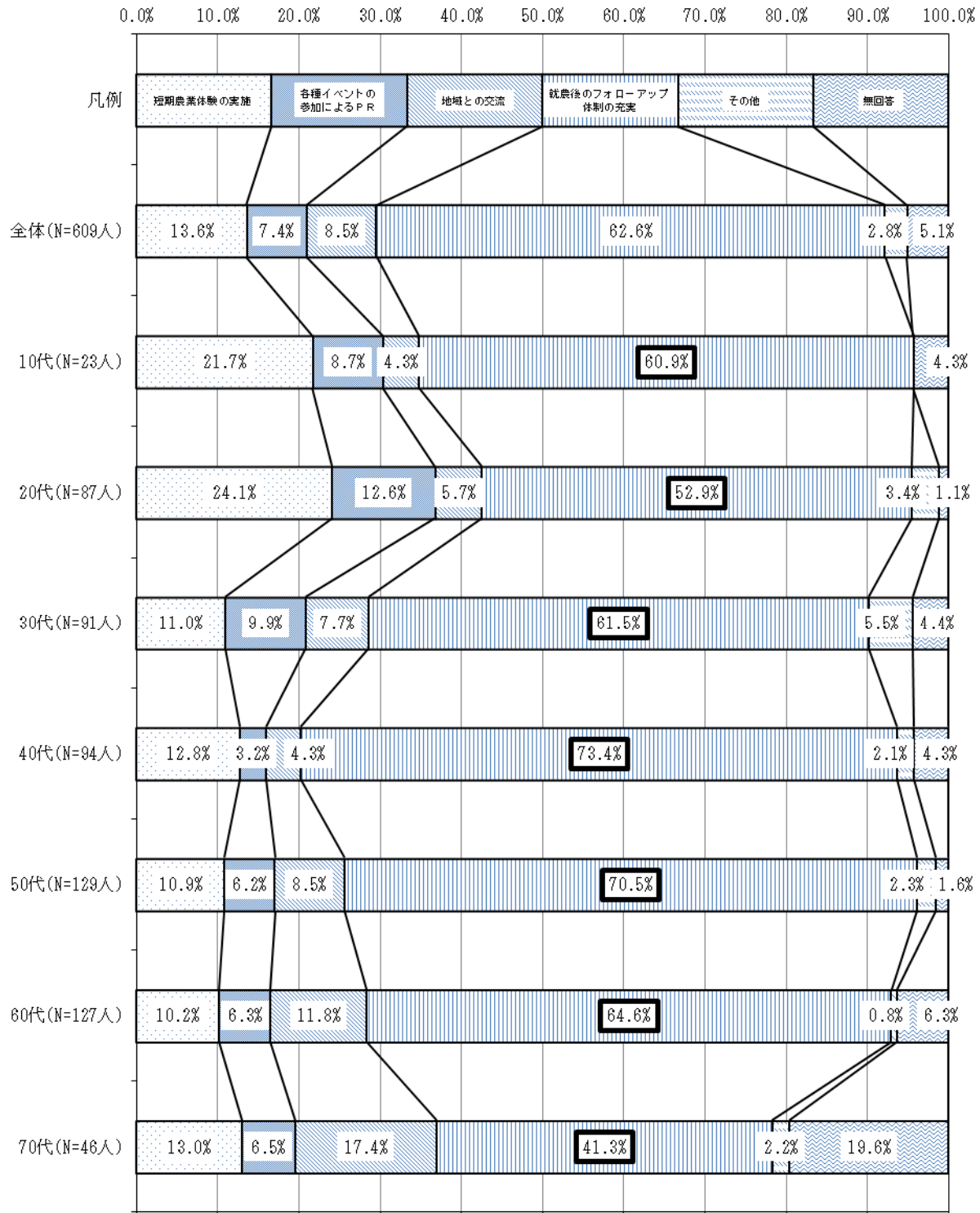


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が最も高くなっている。

○10代、20代において、「短期農業体験の実施」の回答割合が、10代21.7%、20代24.1%と他の年代と比べて高くなっている。



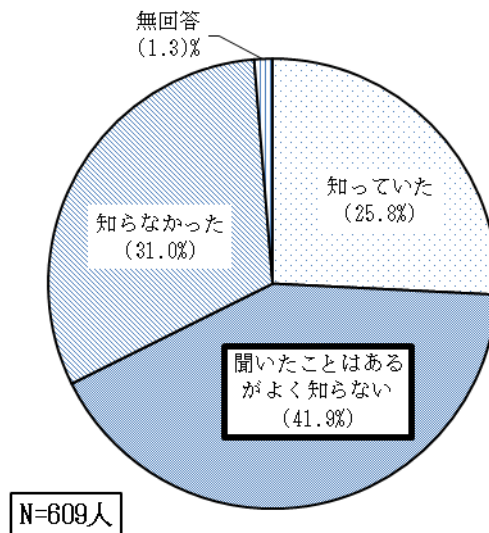
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.3 「大仙市花火産業構想」について

問1 市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

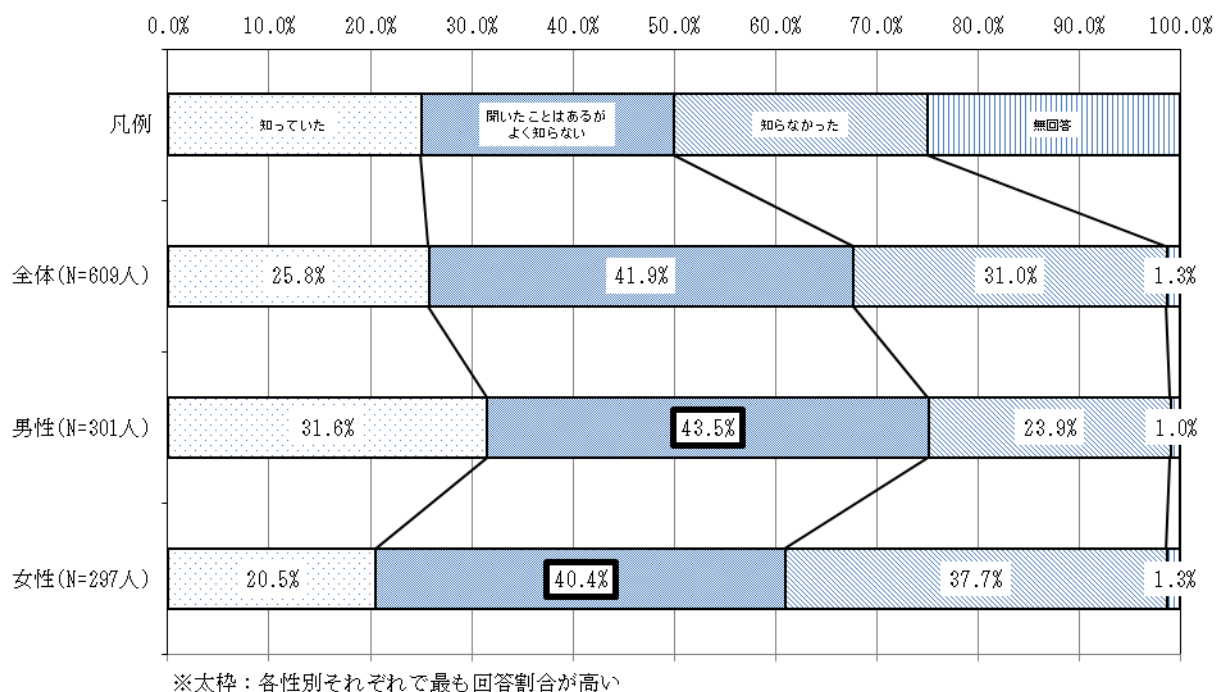
○花火産業構想の認知度については、「聞いたことはあるがよく知らない」が41.9%と最も高く、次いで「知らなかった」が31.0%となっている。



【性別】

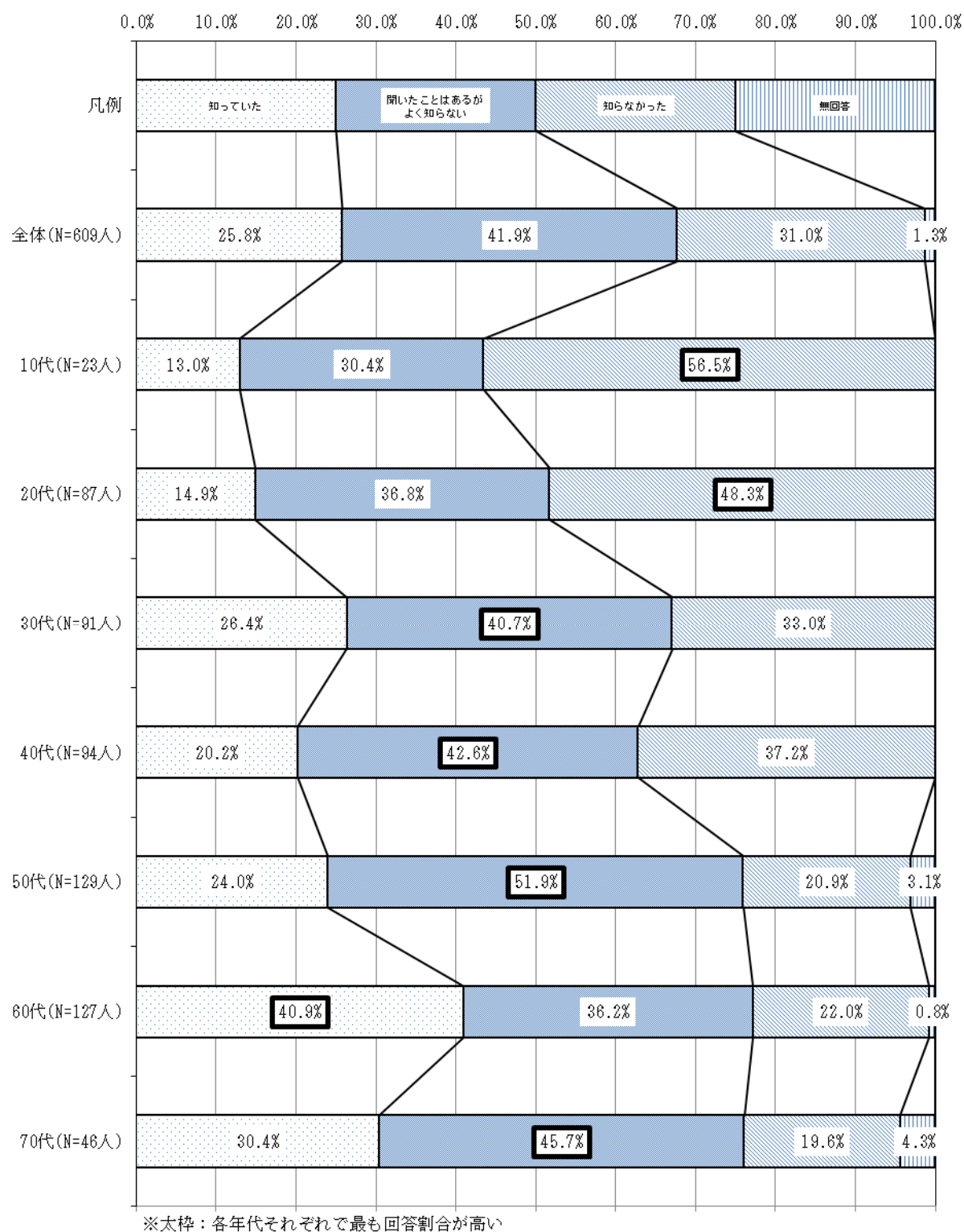
○男女どちらにおいても、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が、男性 43.5%、女性 40.4%と最も高くなっている。

○女性が男性より「知らなかった」の回答割合が高く、女性が 37.7%で男性よりも 13.8 ポイント高くなっている。



【年代別】

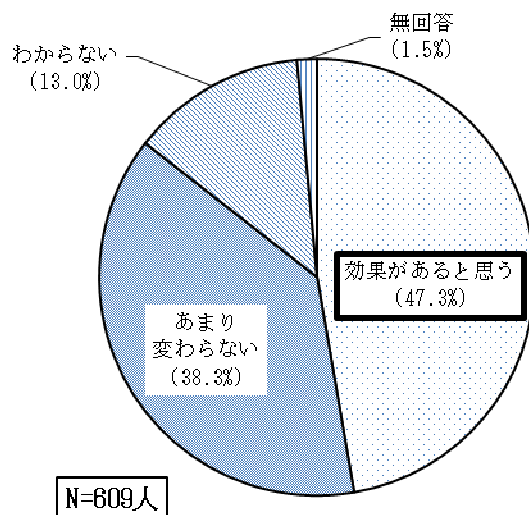
○10代、20代においては、「知らなかった」の回答割合が高くなっており、60代を除く30代から70代までの年代においては、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が高くなっている。
○60代のみ「知っていた」の回答割合が40.9%と最も高くなっており、最も低い10代の回答割合13.0%と比べると、27.9ポイントの差がある。



問2 市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

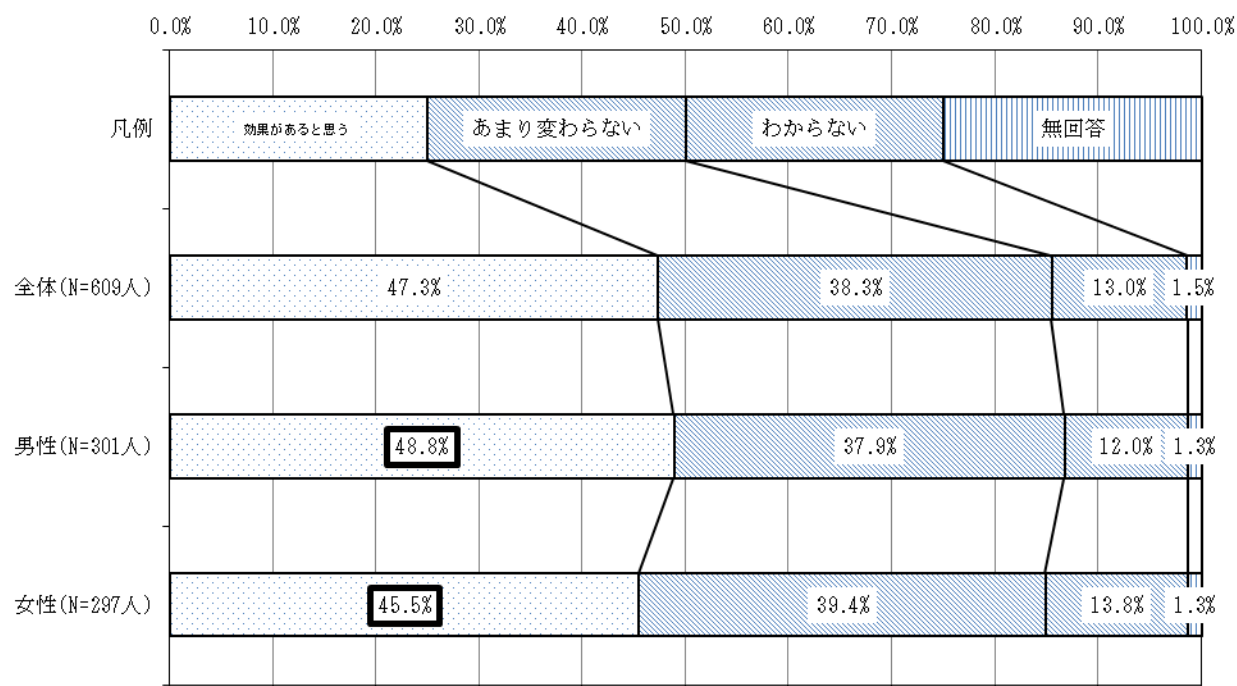
○市が花火で地域活性化を図っていくことについては、「効果があると思う」が47.3%と最も回答割合が高く、次いで「あまり変わらない」が38.2%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「効果があると思う」の回答割合が、男性 48.8%、女性 45.5%と最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

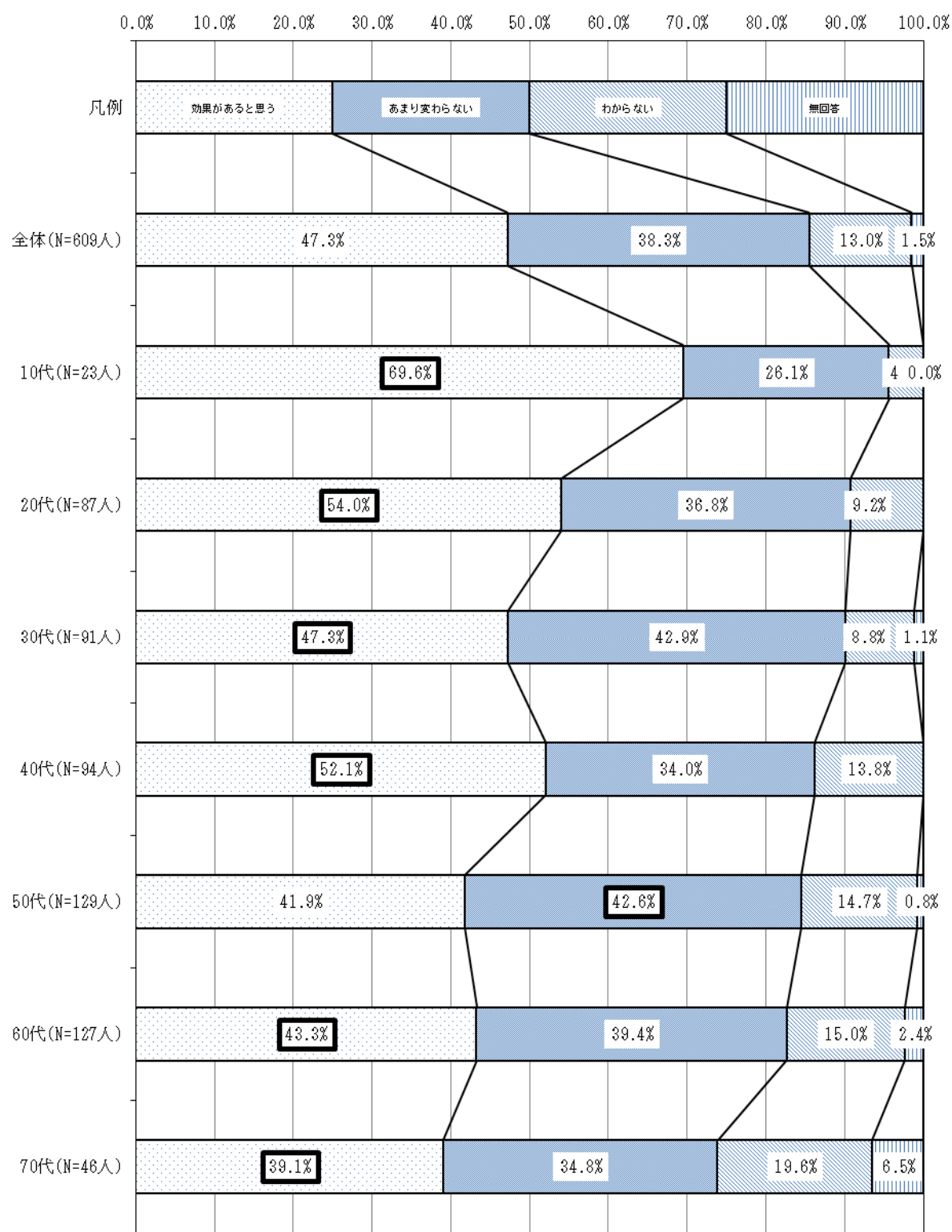


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○50代を除く全年代において、「効果があると思う」の回答割合が最も高くなっている。

○50代のみ「あまり変わらない」の回答割合が42.6%と最も高くなっている。

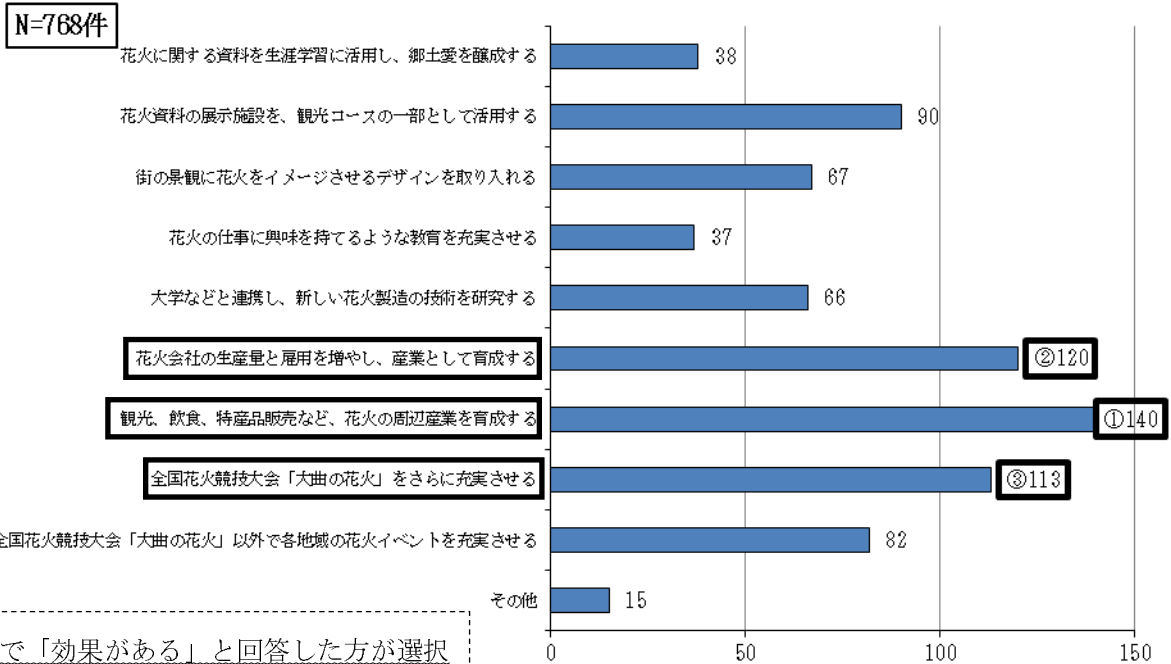


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 問2で「1」に○印をつけた方にお聞きします。花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取り組みはどれですか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。

【全体】

○花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取り組みについては、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」が140件と最も多く、次いで「花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する」が120件、「全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる」が113件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・他県へ花火をアピールし、郷土愛を育てる。(女性/20代/西仙北/正規社員・職員/独身)
- ・大仙市のみならず、秋田県内の素晴らしい観光地等とタイアップし、ツアーを組んだり、栈敷券とセットプランを作ったりして、大仙市にフィードバックされる仕組みを作る。
(女性/30代/大曲/派遣・契約社員/既婚)
- ・空き家やアパートの空室等を宿泊施設として活用する。(男性/60代/大曲/派遣・契約社員/既婚)
- ・前夜祭等といった、花火大会前後の工夫。(男性/60代/大曲/無職/既婚)
- ・高校において花火産業課を作る。(女性/60代/大曲/自営業主・家族従業者/無回答)

【性別】

○男女どちらにおいても、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」、「花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する」、「全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる」の3項目が上位となっている。

○男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する」が上位に入っている。

○10代、40代、60代、70代において、「花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する」が上位に入っている。

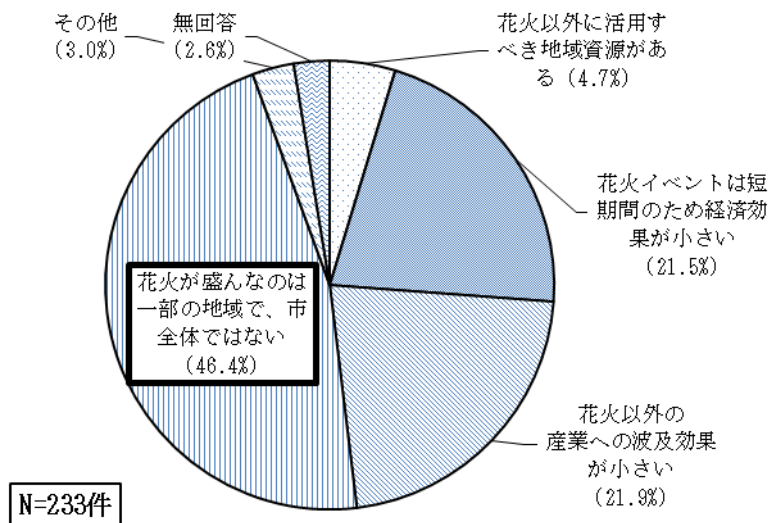
	有効回答数（N）	花火に関する資料を生徒学習に活用し、郷土愛を醸成する	花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する	街の景観に花火をイメージさせるデザインを取り入れる	花火の仕事に興味を持てるような教育を充実させる	大学などと連携し、新しい花火製造の技術を研究する	花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する	観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する	全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる	全国花火競技大会「大曲の花火」以外で各地域の花火イベントを充実させる	その他
全体	768件	4.9%	11.7%	8.7%	4.8%	8.6%	15.6%	18.2%	14.7%	10.7%	2.0%
《性別》											
男性	386件	4.7%	11.9%	7.0%	4.1%	10.4%	①18.4%	②18.1%	③14.0%	9.3%	2.1%
女性	383件	5.0%	11.2%	9.9%	5.5%	10.4%	③12.3%	①17.5%	②14.6%	11.7%	1.8%
《年代別》											
10代	45件	6.7%	①15.6%	6.7%	4.4%	6.7%	①15.6%	①15.6%	①15.6%	13.3%	0.0%
20代	124件	3.2%	9.7%	12.9%	5.6%	8.1%	①16.9%	①16.9%	③16.1%	7.3%	3.2%
30代	117件	5.1%	9.4%	11.1%	3.4%	10.3%	①15.4%	②14.5%	②14.5%	13.7%	2.6%
40代	128件	9.4%	③11.7%	5.5%	3.9%	7.8%	14.8%	①21.9%	10.9%	②14.1%	0.0%
50代	140件	2.1%	9.3%	11.4%	5.7%	6.4%	③13.6%	①21.4%	②16.4%	10.0%	3.6%
60代	150件	4.0%	③14.7%	5.3%	3.3%	12.0%	①18.7%	①18.7%	12.7%	8.7%	2.0%
70代	50件	6.0%	①18.0%	4.0%	②12.0%	6.0%	②12.0%	②12.0%	②12.0%	10.0%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い3項目

問4 問2で「2」に○印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○花火で地域活性化を図ることに关してあまり変わらないと思う理由については、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」が46.4%と最も回答割合が高く、次いで、「花火以外の産業への波及効果が小さい」が21.9%となっている。



※問2で「あまり変わらない」と回答した方が選択

◆「その他」意見（抜粋）

- ・花火関連のイベントが多すぎるから。（女性・20代・大曲・正規社員（職員）・独身）
- ・関心のない人が多いと思うから。（男性・30代・大曲・派遣（契約）社員・既婚）
- ・花火は既に全国的に知られているから。（女性・60代・中仙・パート（アルバイト）・独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が最も高くなっている。

○男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が最も高くなっている。

	有効 回答 数 (N)	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない	花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない
全体	233人	4.7%	21.5%	21.9%	46.4%	3.0%	2.6%
《性別》							
男性	115人	6.1%	20.0%	21.7%	45.2%	3.5%	3.5%
女性	117人	3.4%	22.2%	22.2%	47.0%	2.6%	2.6%
《年代別》							
10代	6人	0.0%	16.7%	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%
20代	32人	6.3%	28.1%	18.8%	37.5%	6.3%	3.1%
30代	39人	0.0%	17.9%	28.2%	41.0%	7.7%	5.1%
40代	32人	6.3%	15.6%	21.9%	46.9%	3.1%	6.3%
50代	55人	3.6%	20.0%	20.0%	52.7%	1.8%	1.8%
60代	51人	7.8%	15.7%	25.5%	49.0%	0.0%	2.0%
70代	16人	6.3%	50.0%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%

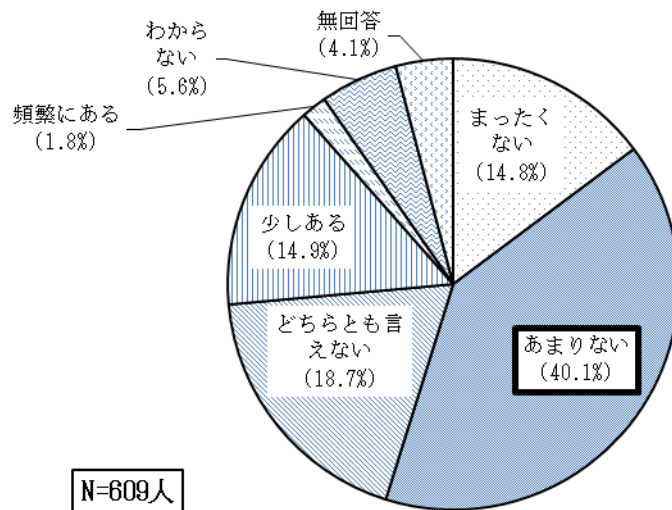
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.4 「むすび・サポート事業」について

問1 普段の生活の中で、将来の結婚相手となるような方と出会う機会がありますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

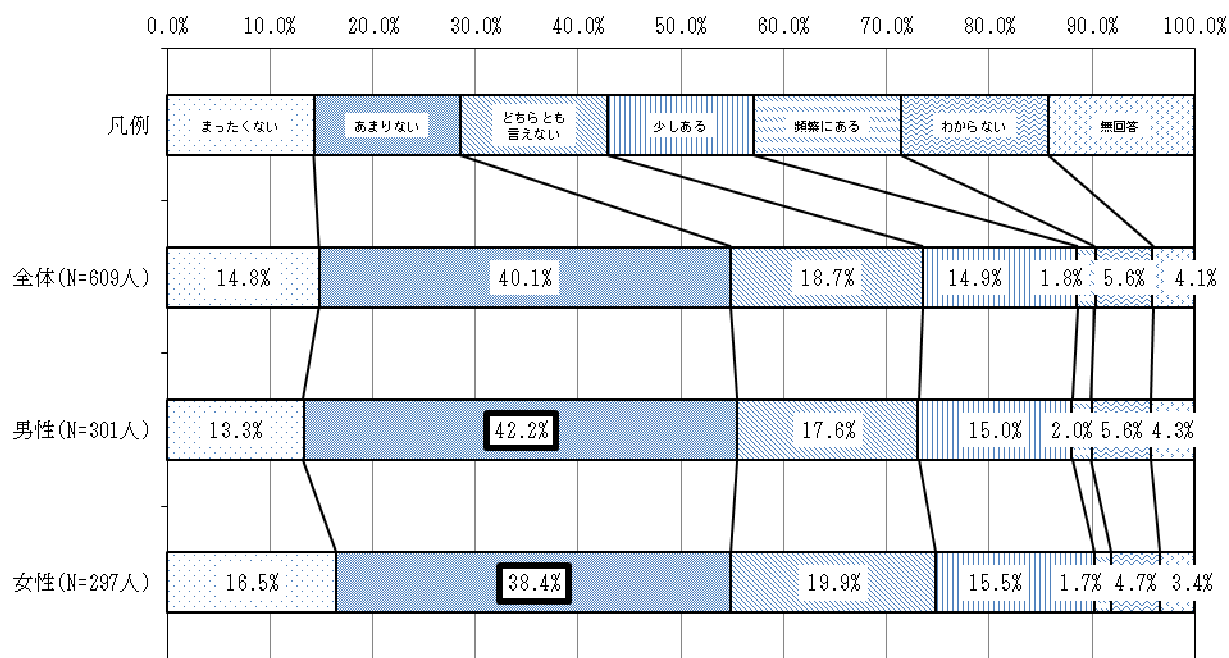
○将来の結婚相手となるような方と出会う機会の有無については、「あまりない」が40.1%と最も回答割合が高く、次いで「どちらとも言えない」が18.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「あまりない」の回答割合が、男性 42.2%、女性 38.4%と最も高くなっている

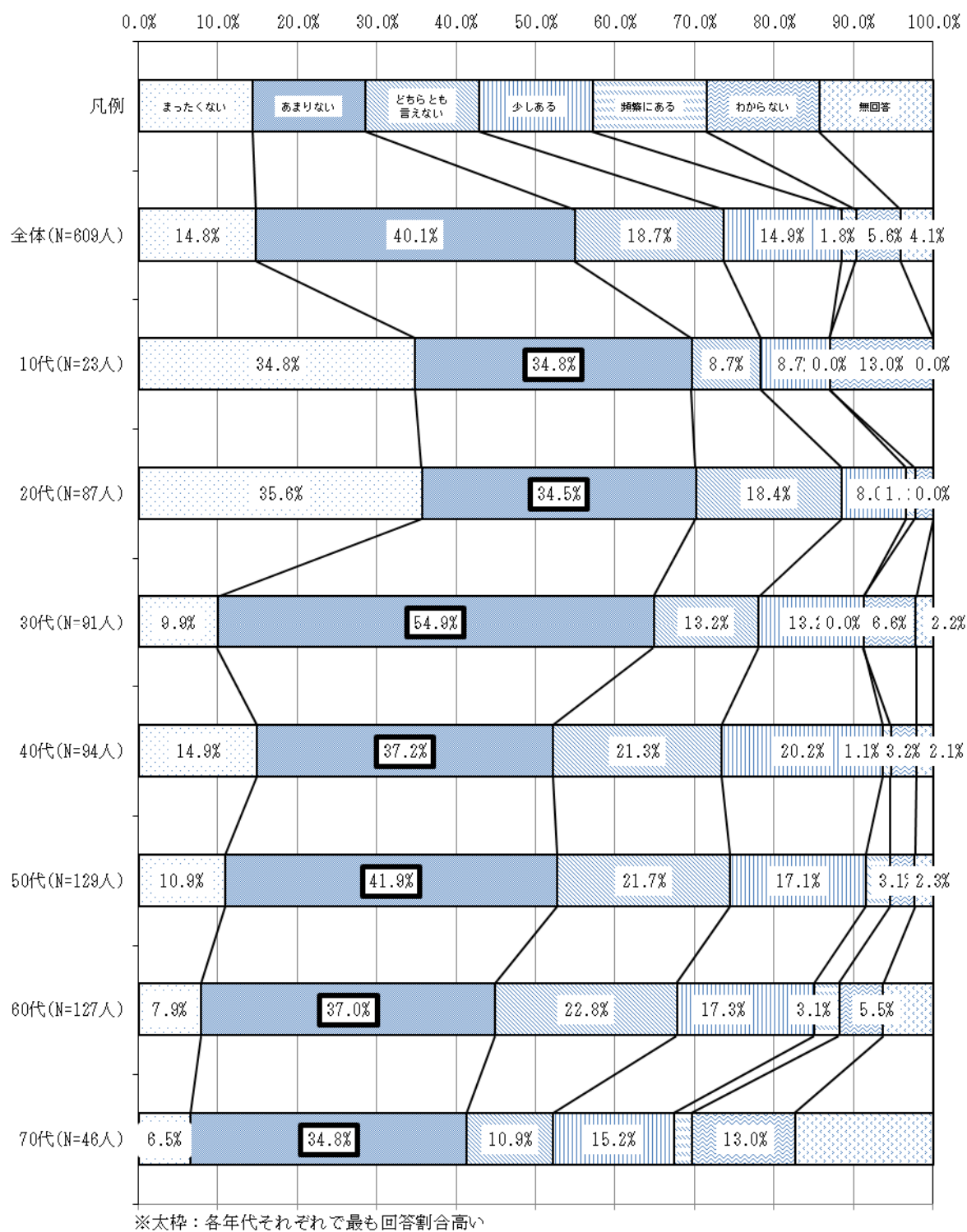
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

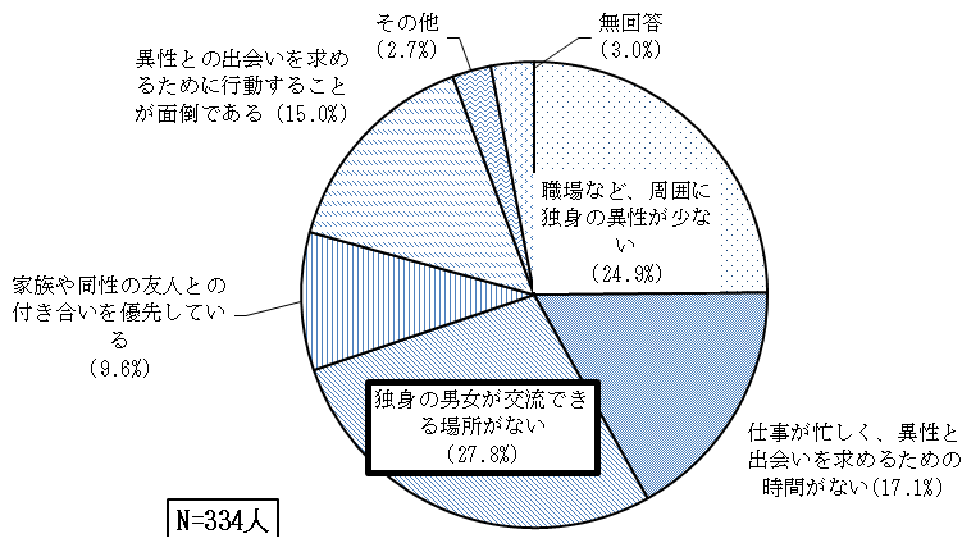
○全年代において、「あまりない」の回答割合が最も高くなっている。



問2 問1で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○将来の結婚相手となるような方との出会いが「まったくない」、「あまりない」と思う理由については、「独身の男女が交流できる場所がない」が27.8%と最も回答割合が高く、次いで「職場など、周囲に独身の異性が少ない」が24.9%となっている。



※問1で「まったくない」、「あまりない」と回答した方が選択

◆「その他」意見（抜粋）

- ・所得が低く、相手を探したり出歩いたりする余裕がないから。
(女性/20代/仙北/派遣・契約社員/独身)
- ・そのうち何とかできるだろうと思っているから。(男性/40代/神岡/正規社員・職員/既婚)

【性別】

○男性においては、「独身の男女が交流できる場所がない」が33.5%と回答割合が最も高く、女性においては、「職場など周囲に独身の異性が少ない」が27.0%と回答割合が最も高くなっている。

○男性が女性より「独身の男女が交流できる場所がない」の回答割合が高く、男性が33.5%で女性よりも11.4ポイント高くなっている。

【年代別】

○10代、40代から70代においては、「独身の男女が交流できる場所が少ない」の回答割合が最も高く、20代、30代においては、「職場など、周囲に独身の異性が少ない」の回答割合が、20代24.6%、30代28.8%と最も高くなっている。

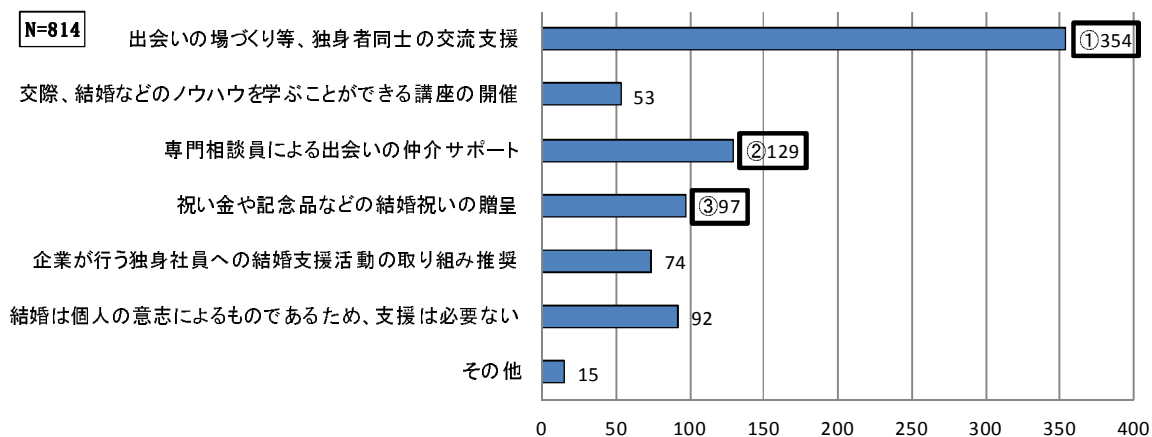
	有効回答数（N）	職場など、周囲に独身の異性が少ない	仕事が多忙で、時間がないため異性と出会うことができない	独身の男女が交流できる場所がない	家族や同僚の友人との付き合いを優先している	異性との出会いを求めるため行動することが面倒である	その他	無回答
全体	334人	24.9%	17.1%	27.8%	9.6%	15.0%	2.7%	3.0%
《性別》								
男性	167人	22.2%	20.4%	33.5%	6.6%	10.2%	4.2%	3.0%
女性	163人	27.0%	14.1%	22.1%	12.3%	20.2%	1.2%	3.1%
《年代別》								
10代	16人	12.5%	18.8%	31.3%	18.8%	12.5%	6.3%	0.0%
20代	61人	24.6%	19.7%	18.0%	14.8%	16.4%	4.9%	1.6%
30代	59人	28.8%	16.9%	22.0%	6.8%	20.3%	3.4%	1.7%
40代	49人	22.4%	18.4%	26.5%	2.0%	14.3%	4.1%	12.2%
50代	68人	30.9%	10.3%	39.7%	5.9%	11.8%	0.0%	1.5%
60代	57人	21.1%	21.1%	31.6%	10.5%	12.3%	1.8%	1.8%
70代	19人	15.8%	15.8%	26.3%	21.1%	21.1%	0.0%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 市が行う結婚支援について、具体的にどのような支援が良いと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が行う結婚支援に対する要望について、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」が354件と最も回答数が多く、次いで「専門相談員による出会いの仲介サポート」が129件、「祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈」が97件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・給料の底上げ。（男性／30代／西仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・個人の希望に沿う結婚支援。（女性／50代／南外／専業主婦／既婚）
- ・結婚を希望するすべての人が登録するシステム。（女性／60代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」の回答割合が、男性 43.5%、女性 43.4%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10代から30代において、「祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈」の回答割合が、10代 16.7%、20代 20.5%、30代 17.7%と他の年代と比べて高くなっている。

○40代から70代において、「専門相談員による出会いの仲介サポート」の回答割合が、40代 15.0%、50代 18.5%、60代 20.6%、70代 16.7%と他の年代と比べて高くなっている。

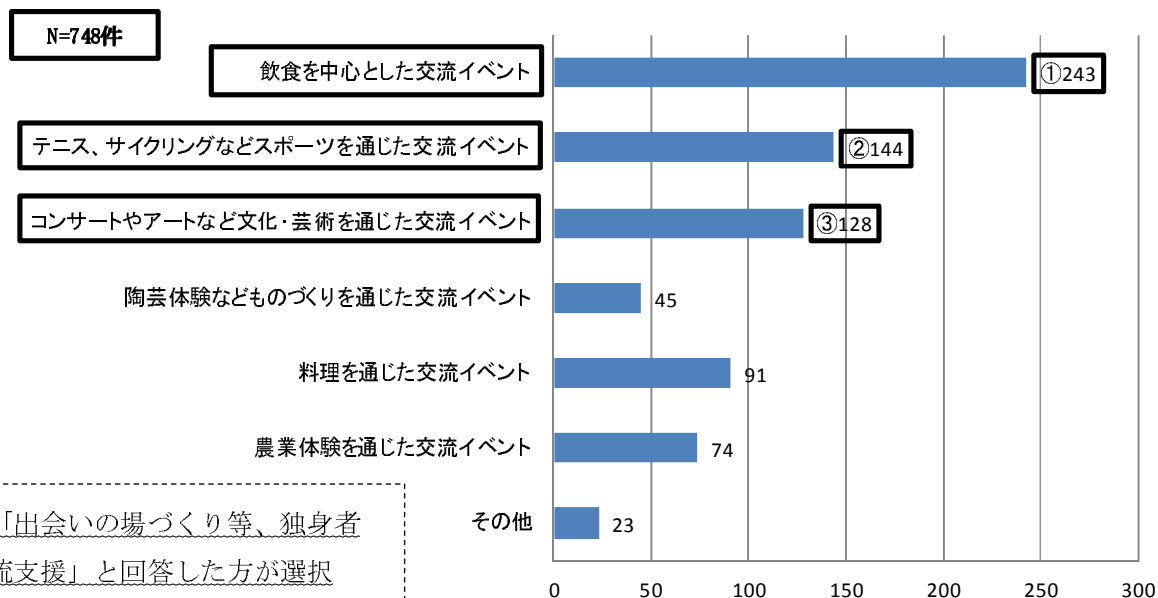
	有効回答数（N）	出会いの場づくり等、独身者同士の交流支援	実際、結婚などの講座の開催	専門相談員による出会いの仲介サポート	祝い金や記念品などの結婚祝い	企業が行う独身社員への結婚支援活動の取り組み推奨	結婚は個人の意志によるもので、支援は必要ない	その他
全体	814件	43.5%	6.5%	15.8%	11.9%	9.1%	11.3%	1.8%
《性別》								
男性	405件	43.5%	6.9%	16.3%	11.6%	8.6%	10.4%	2.7%
女性	399件	43.4%	6.0%	15.5%	12.3%	9.5%	12.3%	1.0%
《年代別》								
10代	30件	50.0%	6.7%	6.7%	16.7%	6.7%	10.0%	3.3%
20代	117件	43.6%	8.5%	11.1%	20.5%	5.1%	10.3%	0.9%
30代	130件	40.0%	5.4%	13.1%	17.7%	11.5%	8.5%	3.8%
40代	113件	46.9%	3.5%	15.0%	11.5%	3.5%	16.8%	2.7%
50代	173件	42.8%	6.9%	18.5%	9.8%	10.4%	10.4%	1.2%
60代	180件	43.3%	6.7%	20.6%	6.1%	11.1%	10.6%	1.7%
70代	60件	43.3%	8.3%	16.7%	5.0%	13.3%	13.3%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 問3で「1」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような出会いの場なら参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○望まれている具体的な出会いの場について、「飲食を中心とした交流イベント」が243件と回答数が最も多く、次いで「テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント」が144件、「コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント」が128件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・食事と運動の両方が充実しているイベント。（男性／10代／西仙北／学生／独身）
- ・1対1の交流イベント。（男性／20代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ・婚活や交流が題目についていないイベント。（男性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・他では仲間が見つかりにくいジャンルに的を絞ったイベント。
（男性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・古民家を利用したのクイズラリー。（男性／40代／神岡／正規社員・職員／既婚）
- ・民泊体験イベント。（男性／40代／神岡／正規社員・職員／既婚）
- ・季節ごとのバスツアー旅行。（男性／40代／南外／正規社員・職員／既婚）
- ・外国のように、中学校や高校でパーティがあればよい。（女性／50代／大曲／正規社員・職員／独身）
- ・地域の特性を利用したイベント。（男性／60代／無回答／無職／既婚）
- ・企業間交流イベント。（女性／60代／大曲／パート・アルバイト／既婚）
- ・年齢別による交流イベント。（女性／60代／協和／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「飲食を中心とした交流イベント」の回答割合が男性 33.6%、女性 31.4%と最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「飲食を中心とした交流イベント」の回答割合が最も高くなっている。

	有効回答数（N）	飲食を中心とした交流イベント	テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント	コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント	陶芸体験などものづくりを通じた交流イベント	料理を通じた交流イベント	農業体験を通じた交流イベント	その他
全体	748件	32.5%	19.3%	17.1%	6.0%	12.2%	9.9%	3.1%
《性別》								
男性	378件	33.6%	19.8%	16.4%	6.3%	10.6%	10.3%	2.9%
女性	360件	31.4%	18.6%	18.1%	5.6%	13.9%	9.2%	3.3%
《年代別》								
10代	28件	39.3%	21.4%	10.7%	7.1%	10.7%	7.1%	3.6%
20代	102件	35.3%	20.6%	15.7%	4.9%	11.8%	7.8%	3.9%
30代	117件	28.2%	17.9%	15.4%	7.7%	17.9%	7.7%	5.1%
40代	118件	33.1%	21.2%	18.6%	5.9%	11.9%	6.8%	2.5%
50代	165件	33.9%	17.0%	13.9%	7.3%	13.9%	11.5%	2.4%
60代	163件	29.4%	20.2%	19.6%	4.9%	8.6%	14.1%	3.1%
70代	46件	37.0%	17.4%	28.3%	4.3%	6.5%	6.5%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 問3で「2」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような講座に参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○望まれている具体的な講座について、「異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座」と「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」が30件と回答数が最も多く、次いで「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」が26件となっている。

N=162

異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座

①30

異性に良い印象を与えるための服装やメイク等のセンスアップ講座

13

将来設計を考えるための貯蓄等のお金に関する講座

19

仕事と子育ての両立に関する講座

21

結婚、出産、育児などのライフプラン講座

16

相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座

①30

結婚相手を見つけるための「はじめの一步」に関する講座

③26

親と子どもを対象とした結婚講座

7

その他

0

※問3で「交際、結婚などのノウハウを学ぶことができる講座の開催」と回答した方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」の回答割合が最も高くなっている。

○全体的に、男女に大きな差は見られない。

【年代別】

○20代から40代においては、「異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座」の回答割合が、20代18.4%、30代26.7%、40代21.4%と最も高くなっている。

○40代、50代、70代においては、「相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座」の回答割合が、40代21.4%、50代22.5%、70代26.7%と最も高くなっている。

	有効回答数（N）	異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座	異性に良い印象を与えるための服装やメイク等のセンスアップ講座	将来設計を考えるための貯蓄等の講座	仕事と子育ての両立に関する講座	結婚、出産、育児などのライフプラン講座	相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座	結婚相手を見つけるための「はじめの一步」に関する講座	親と子どもを対象とした結婚講座	その他
全体	162件	18.5%	8.0%	11.7%	13.0%	9.9%	18.5%	16.0%	4.3%	0.0%
《性別》										
男性	88件	19.3%	8.0%	11.4%	12.5%	8.0%	19.3%	19.3%	2.3%	0.0%
女性	73件	16.4%	8.2%	12.3%	13.7%	12.3%	17.8%	12.3%	6.8%	0.0%
《年代別》										
10代	4件	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
20代	38件	18.4%	7.9%	18.4%	13.2%	10.5%	13.2%	13.2%	5.3%	0.0%
30代	15件	26.7%	0.0%	13.3%	20.0%	6.7%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%
40代	14件	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%	21.4%	14.3%	14.3%	0.0%
50代	40件	15.0%	10.0%	7.5%	15.0%	12.5%	22.5%	15.0%	2.5%	0.0%
60代	35件	20.0%	5.7%	8.6%	11.4%	8.6%	17.1%	25.7%	2.9%	0.0%
70代	15件	13.3%	6.7%	13.3%	13.3%	13.3%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%

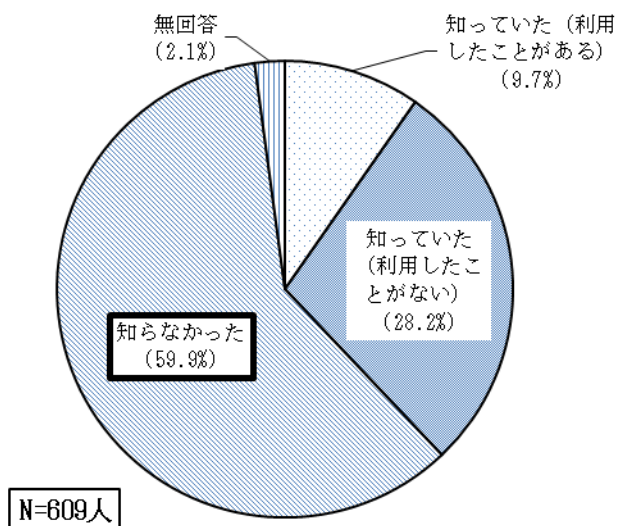
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.5 「地域子育て支援拠点施設」について

問1 あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設を開所していることを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

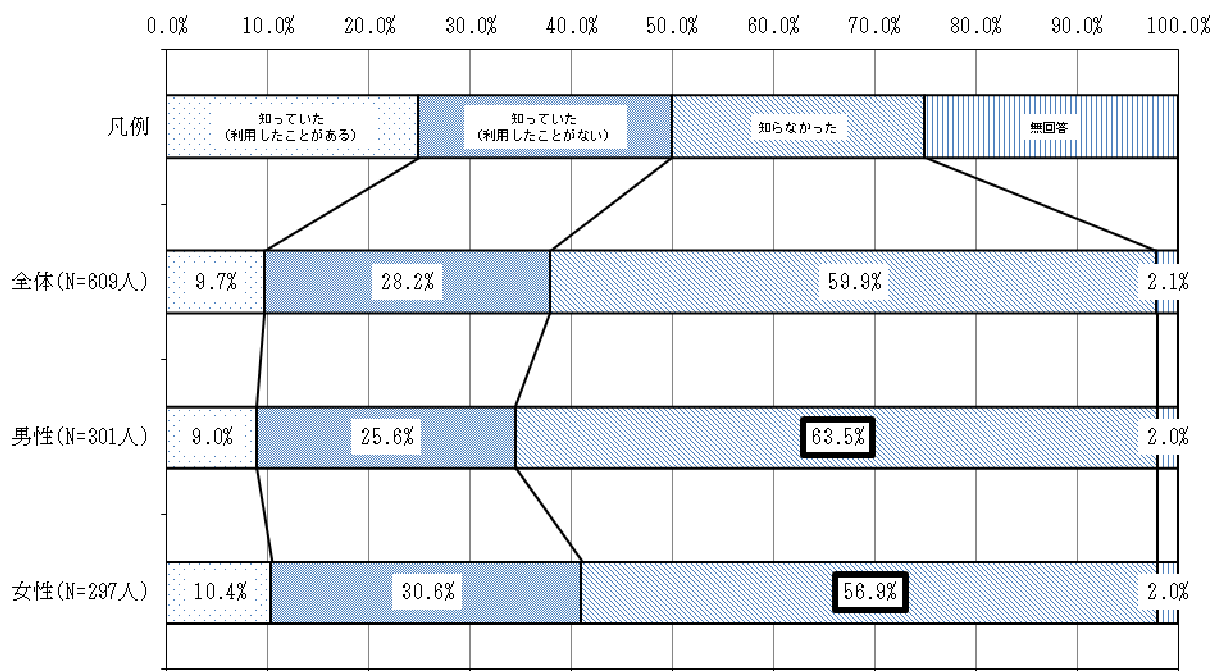
○地域子育て拠点施設の認知度について、「知らなかった」が59.9%と最も回答割合が高く、次いで「知っていた（利用したことがない）」が28.2%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性 63.5%、女性 56.9%と最も高くなっている。

○女性が男性より「知っていた（利用したことがある）」と「知っていた（利用したことがない）」を合算した回答割合が高く、女性が 41.0%で男性よりも 6.4 ポイント高くなっている。

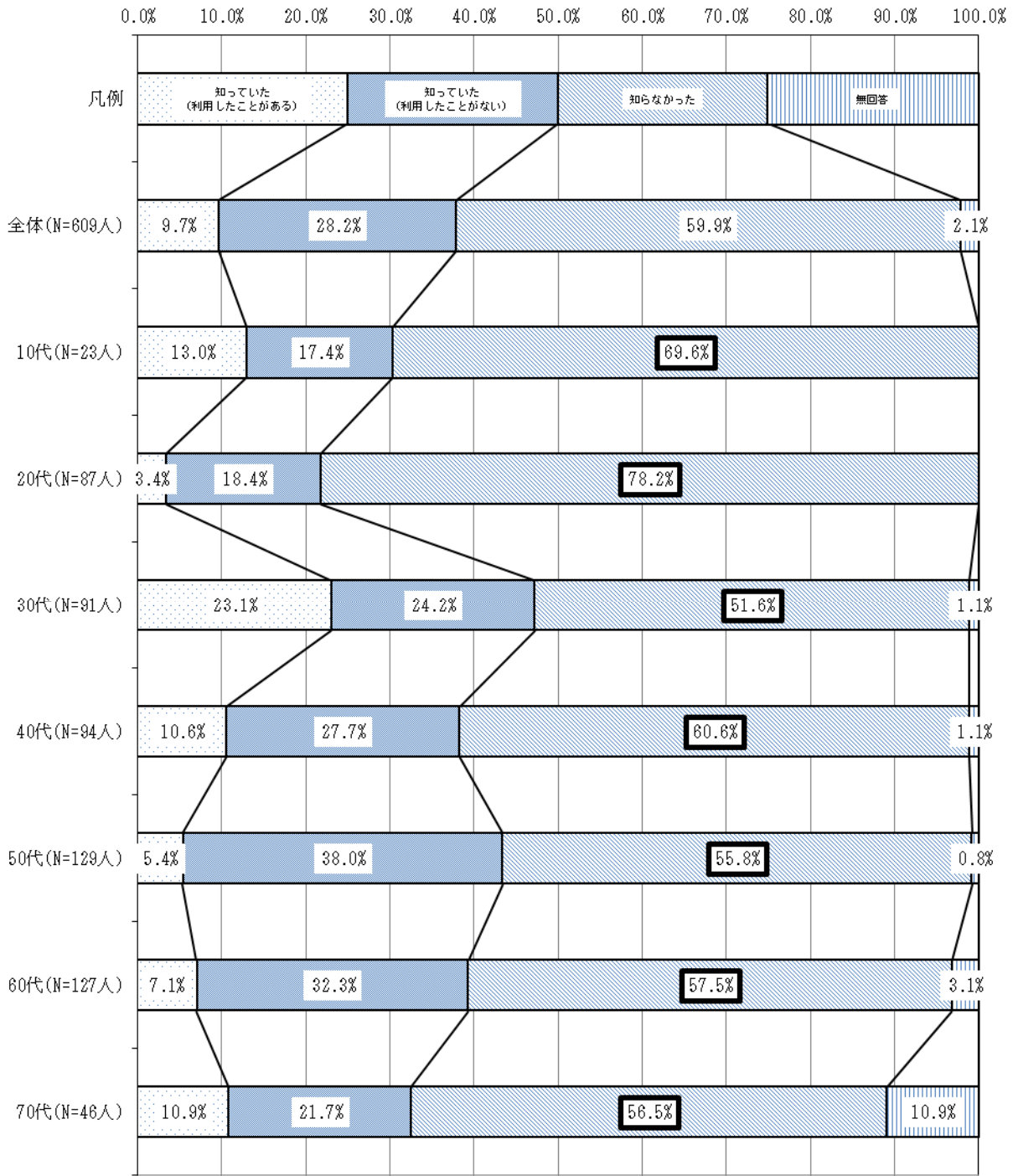


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

○10代、20代において、「知っていた（利用したことがある）」と「知っていた（利用したことがない）」を合算した回答割合が、10代30.4%、20代21.8%と他の年代に比べて低くなっている。



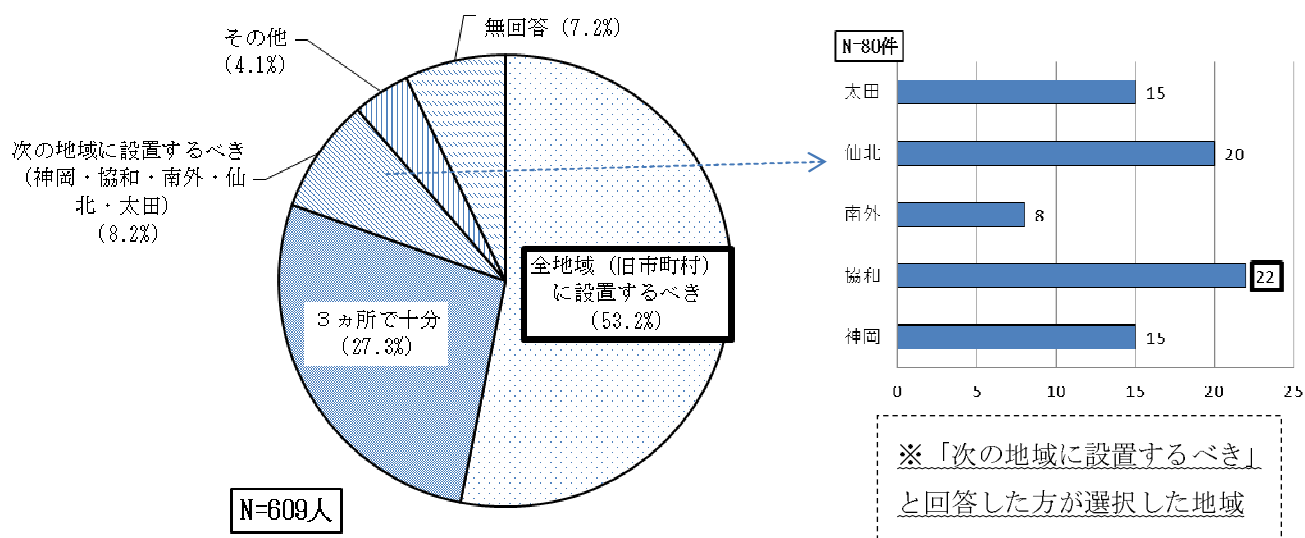
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問2 地域子育て支援拠点施設は市内3カ所（大曲、中仙、西仙北）に開所していますが、同様の施設はさらに必要ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。
また、「3」を選ばれた方は、希望する地域に○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て拠点施設の開所状況について、「全地域（旧市町村）に設置すべき」が53.2%と最も高く、次いで「3カ所で十分」が27.3%となっている。

○「次の地域に設置すべき（神岡・協和・南外・仙北・太田）」と回答した方が選択した地域の中で、最も選択数が多かった地域は22件で「協和」となっている。



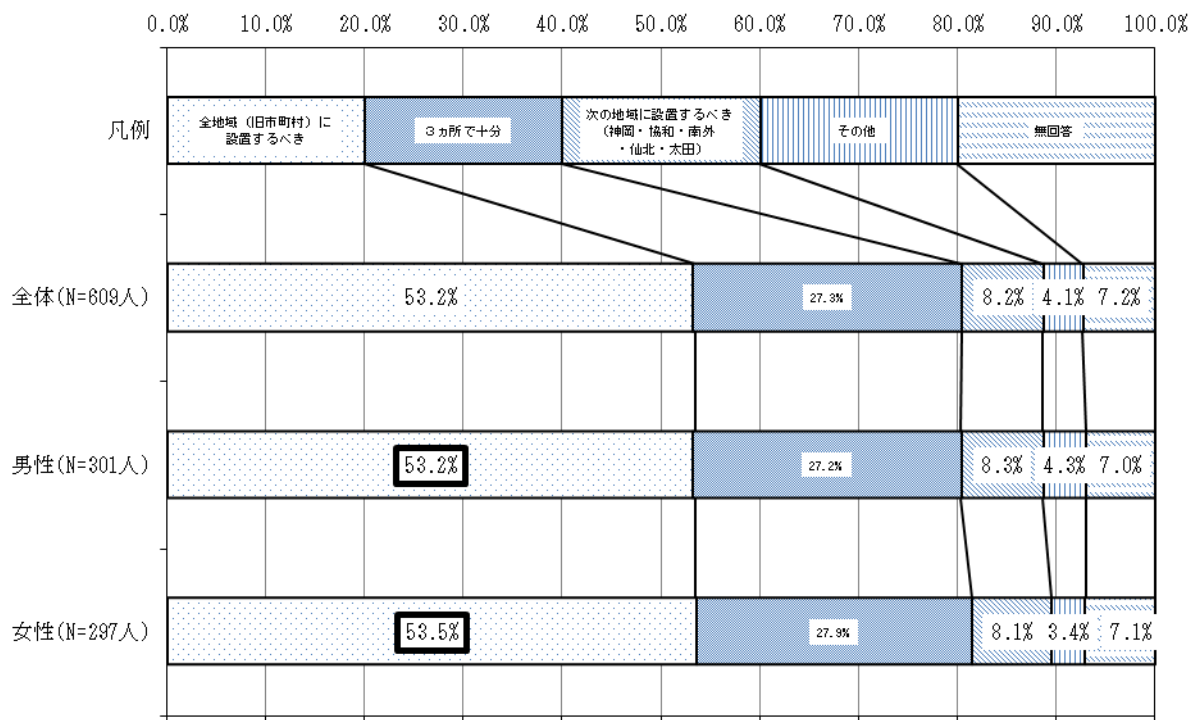
◆「その他」意見（抜粋）

- ・療育センターが必要。（女性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・横手のワイワイプラザのような施設が欲しい。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・少しでも多い方が良い。（男性／40代／西仙北／その他／独身）
- ・大曲に複数あってもよい。（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- ・地域住民の要望があれば設置する。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「全地域（旧市町村）に設置すべき」の回答割合が、男性 53.2%、女性 53.5%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

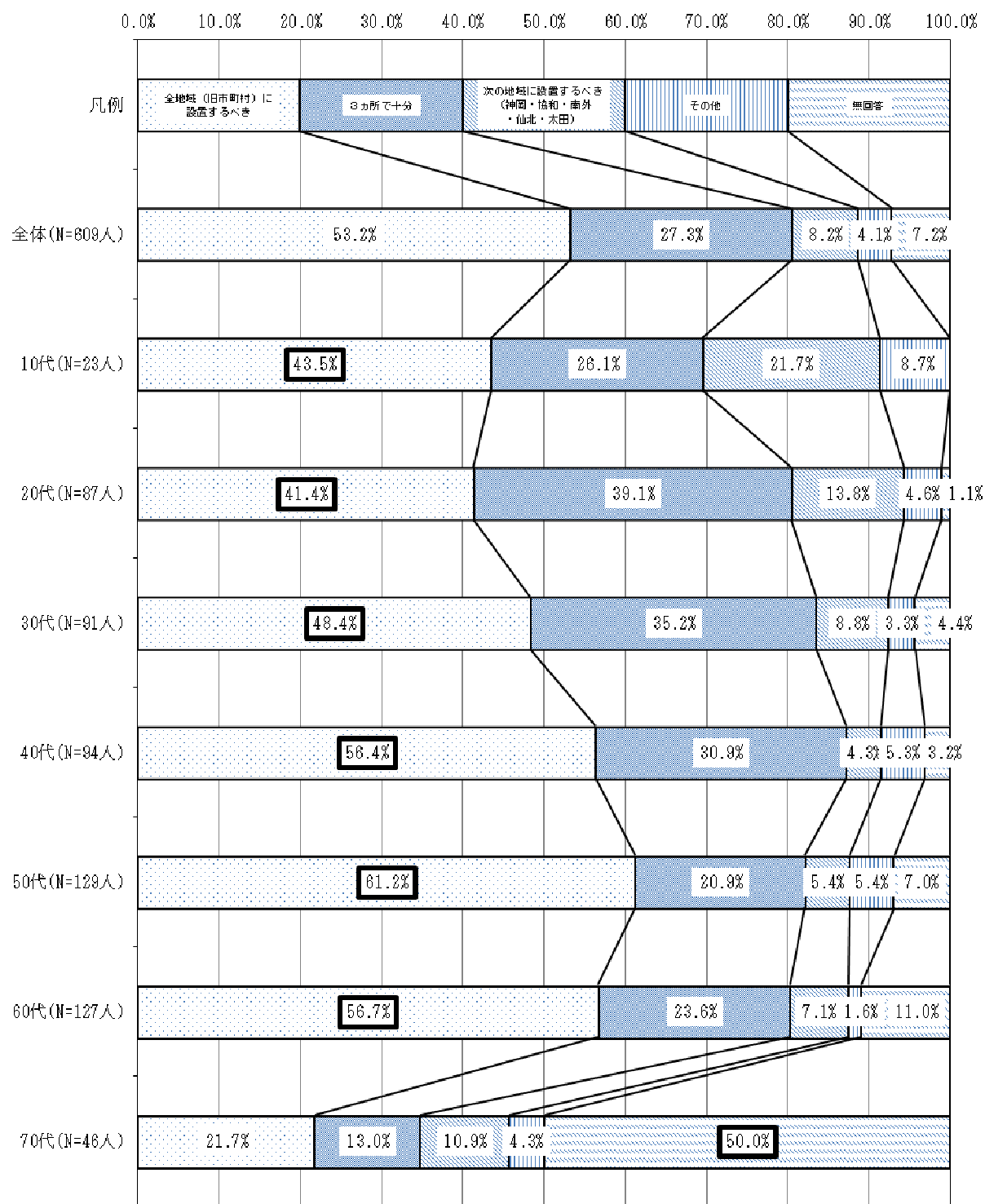


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70代を除く全年代において、「全地域（旧市町村）に設置すべき」の回答割合が最も高くなっている。

○20代、30代において、「3カ所で十分」の回答割合が、20代 39.1%、30代 35.2%と他の年代に比べて高くなっている。

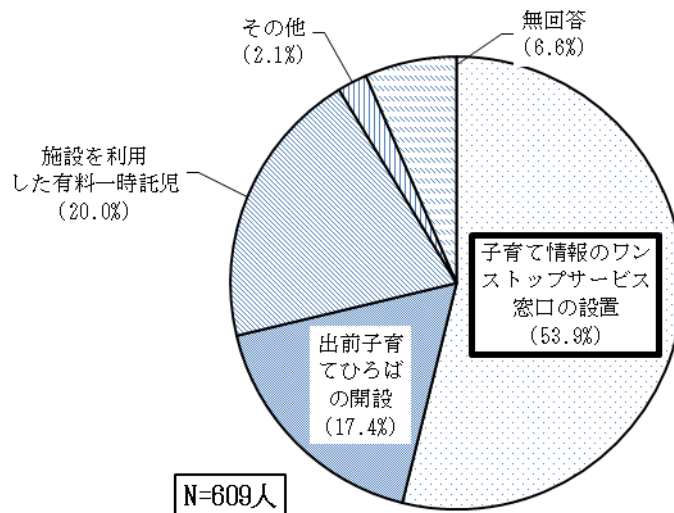


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合に必要なと思う取り組みについて、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」が53.9%と最も回答割合が高く、次いで「施設を利用した有料一時託児」が20.0%となっている。



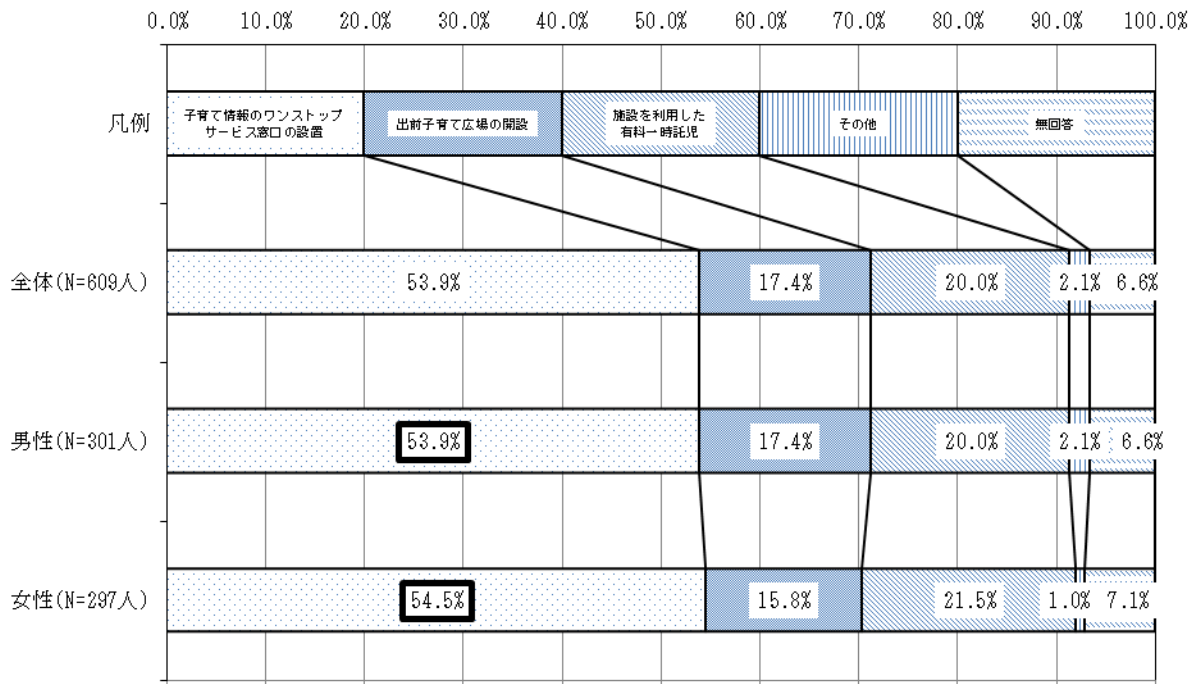
◆「その他」意見（抜粋）

- ・未就学児が遊べるスペースの拡大。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・支援員の教育。（男性／50代／南外／正規社員・職員／既婚）
- ・日曜日に施設を開く。（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）
- ・必要なし。（男性／60代／中仙／正規社員・職員／独身）
- ・各家の訪問等による周知。（無回答）

【性別】

○男女どちらにおいても、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が、男性 53.9%、女性 54.5%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

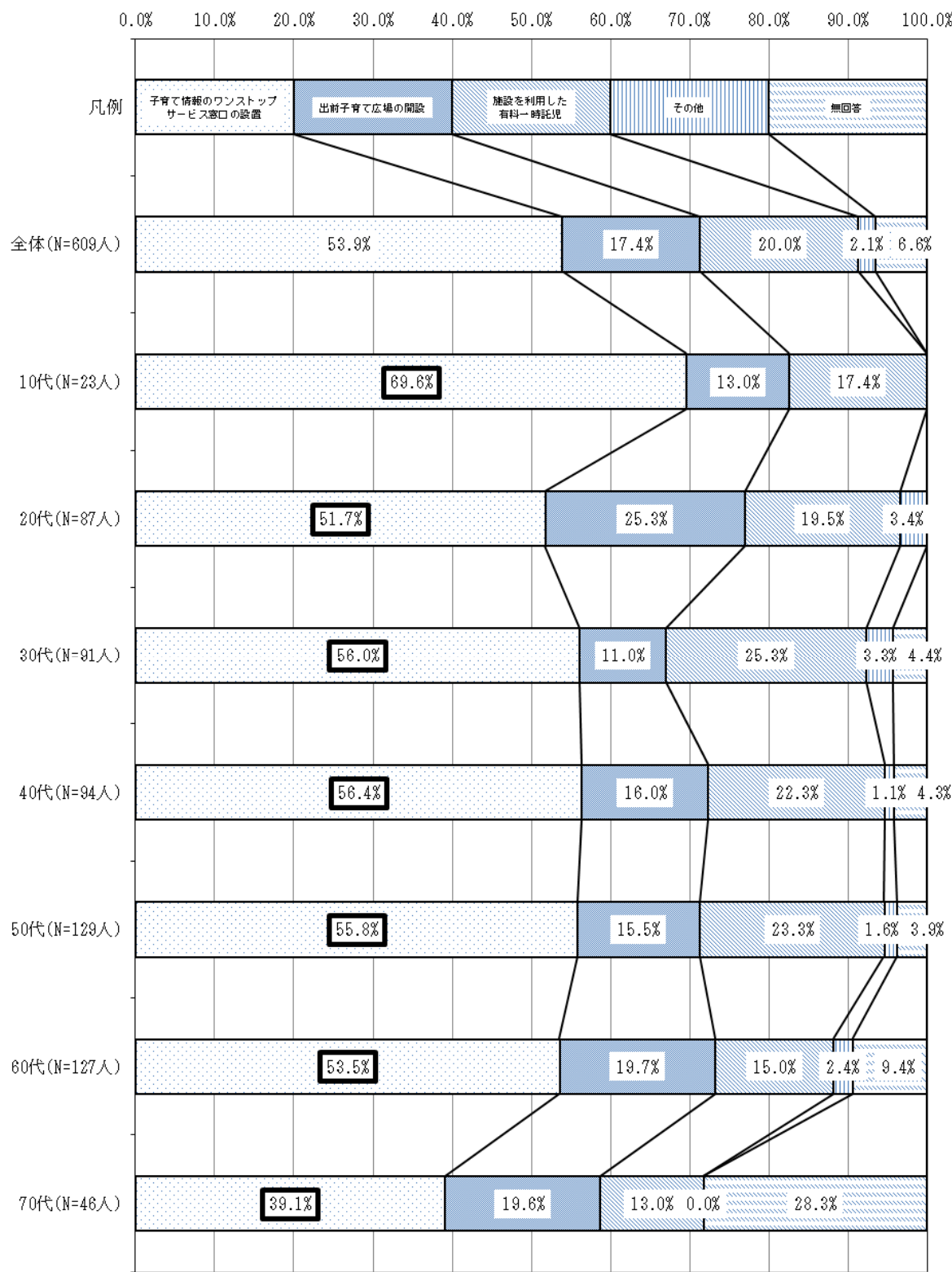


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が最も高くなっている。

○20代において、「出前子育て広場の開所」の回答割合が25.3%と他の年代に比べて高くなっている。

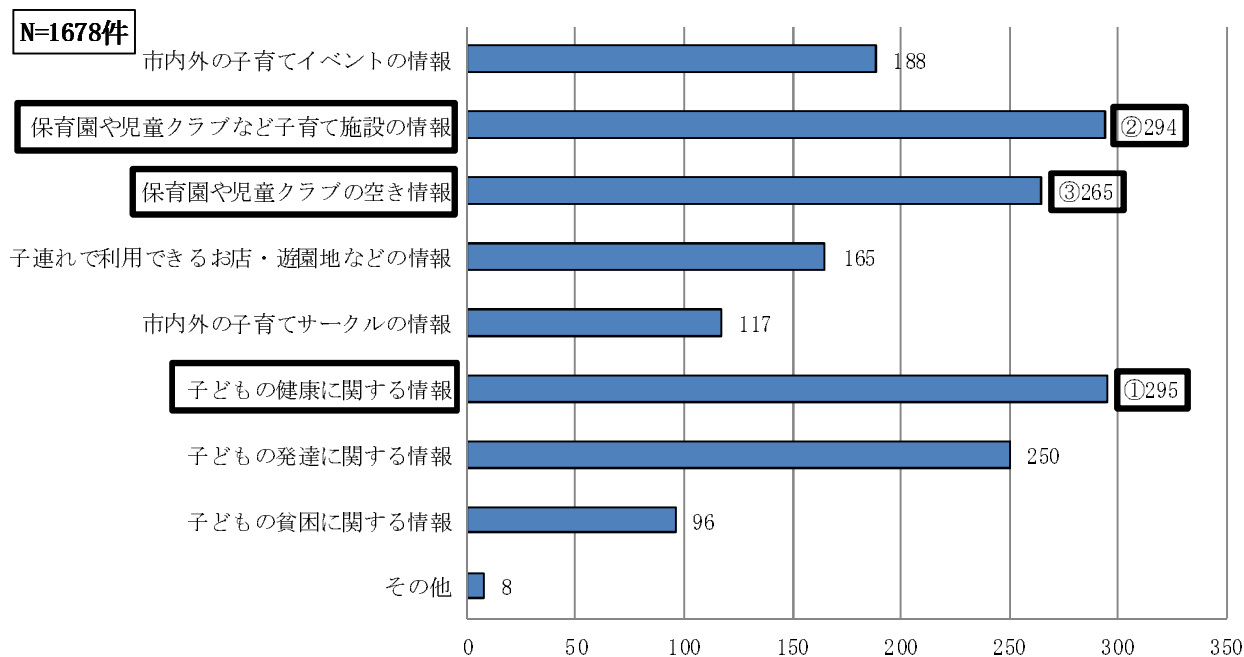


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問 4 地域子育て支援拠点施設でどのような情報が欲しいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て支援拠点施設が提供する情報に対する要望について、「子どもの健康に関する情報」が 295 件と最も回答数が多く、次いで「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」が 294 件、「保育園や児童クラブの空き情報」が 265 件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・転居等の情報。（男性／10代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・必要なし。（男性／60代／中仙／正規社員・職員／独身）
- ・夜間の受診、入院できる病院の情報。（無回答）

【性別】

○男女どちらにおいても、「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」、「保育園や児童クラブの空き情報」、「子どもの健康に関する情報」の3項目が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「保育園や児童クラブのなど子育て施設情報」、「子どもの健康に関する情報」の2項目が上位となっている。

○20代、30代、40代、60代において、「保育園や児童クラブの空き情報」が上位となっている。

○10代、50代、70代において、「子どもの発達に関する情報」が上位となっている。

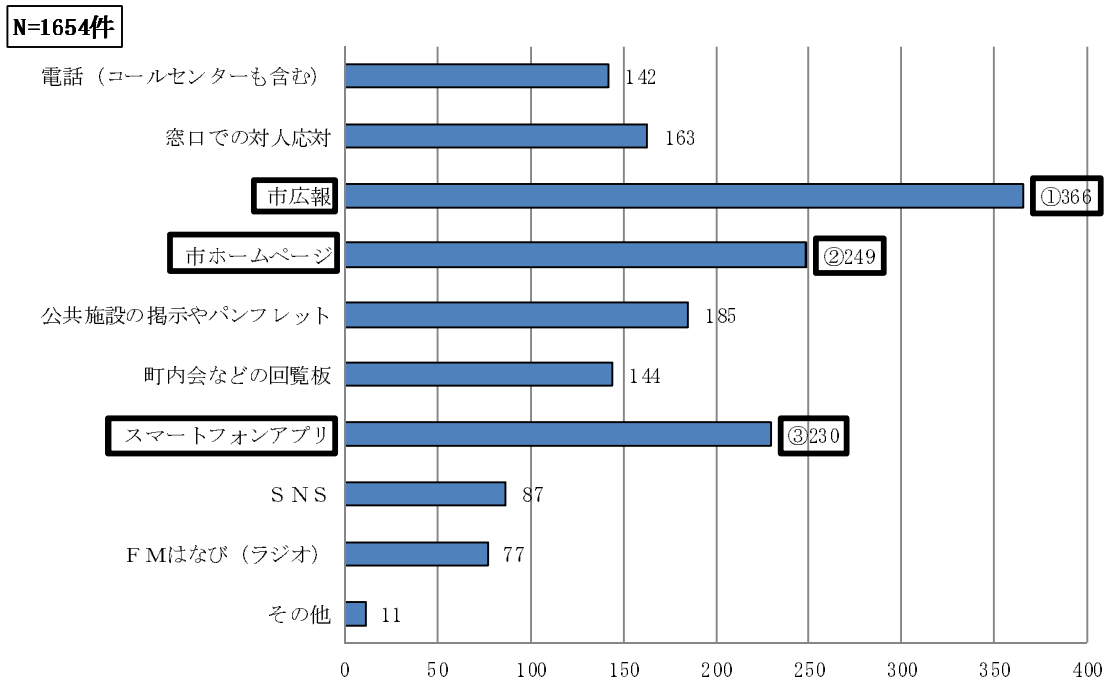
	有効回答数（N）	市内外の子育てイベントの情報	保育園や児童クラブなど子育て施設の情報	保育園や児童クラブの空き情報	子ども連れの利用できるお店・遊園地などの情報	市内外の子育てサークルの情報	子どもの健康に関する情報	子どもの発達に関する情報	子どもの貧困に関する情報	その他
全体	1678	11.2%	17.5%	15.8%	9.8%	7.0%	17.6%	14.9%	5.7%	0.5%
《性別》										
男性	801	11.0%	②17.9%	③15.1%	8.7%	7.9%	①18.4%	14.1%	6.4%	0.6%
女性	855	11.5%	①17.3%	③16.6%	10.8%	6.3%	②16.8%	15.6%	4.9%	0.2%
《年代別》										
10代	70	11.4%	①18.6%	12.9%	10.0%	5.7%	③17.1%	①18.6%	4.3%	1.4%
20代	237	8.9%	①18.1%	②17.7%	13.5%	3.0%	②17.7%	16.0%	3.8%	1.3%
30代	265	11.7%	②19.6%	①20.4%	9.1%	4.9%	③16.2%	13.6%	4.2%	0.4%
40代	250	10.4%	②16.8%	③16.0%	10.8%	5.6%	①20.4%	③16.0%	4.0%	0.0%
50代	366	13.1%	②17.2%	12.8%	7.9%	8.7%	①18.3%	③15.3%	6.3%	0.3%
60代	365	11.0%	①16.7%	②16.4%	9.0%	9.0%	②16.4%	13.2%	7.9%	0.3%
70代	96	11.5%	①16.7%	10.4%	9.4%	13.5%	②15.6%	③14.6%	8.3%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報を得る手段について、「市広報」が366件と最も回答数が多く、次いで「市ホームページ」が249件、「スマートフォンアプリ」が230件となっている。



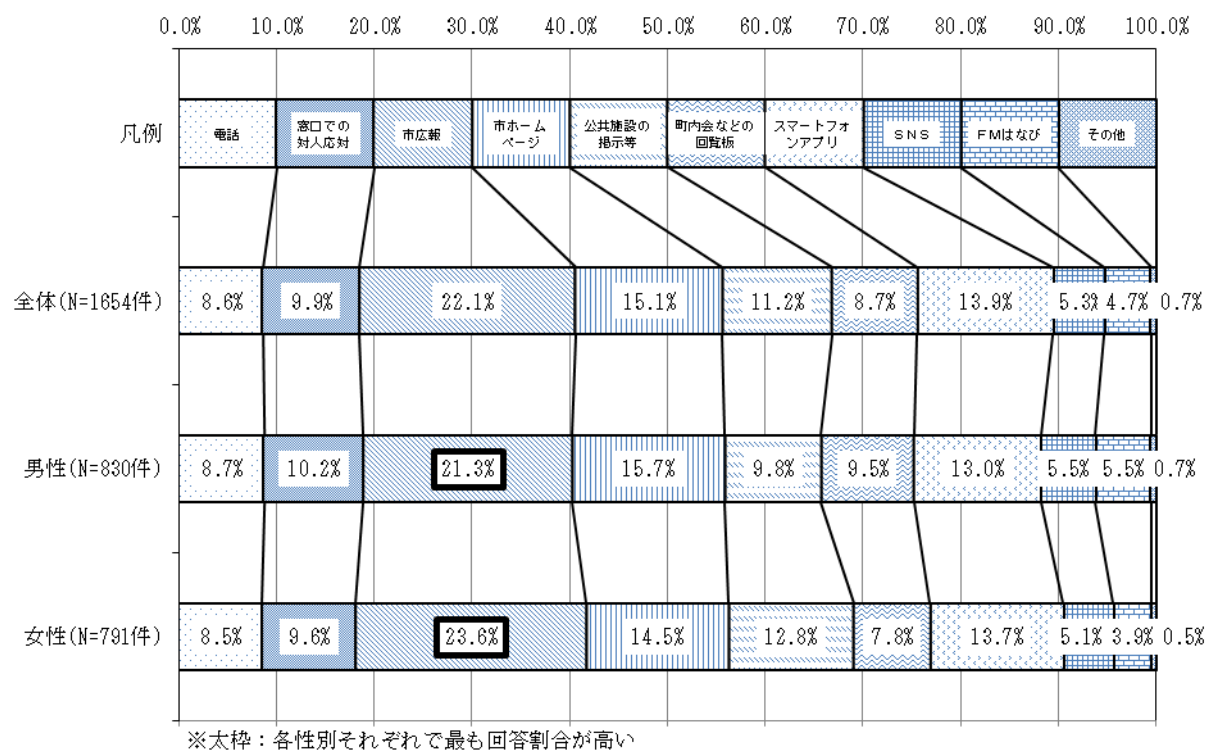
◆「その他」意見 (抜粋)

- ・テレビCM。(男性/30代/太田/派遣・契約社員/既婚)
- ・個人個人に書面で通知する。(女性/30代/西仙北/正規社員・職員/既婚)

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性 21.3%、女性 23.6%と最も高くなっている。

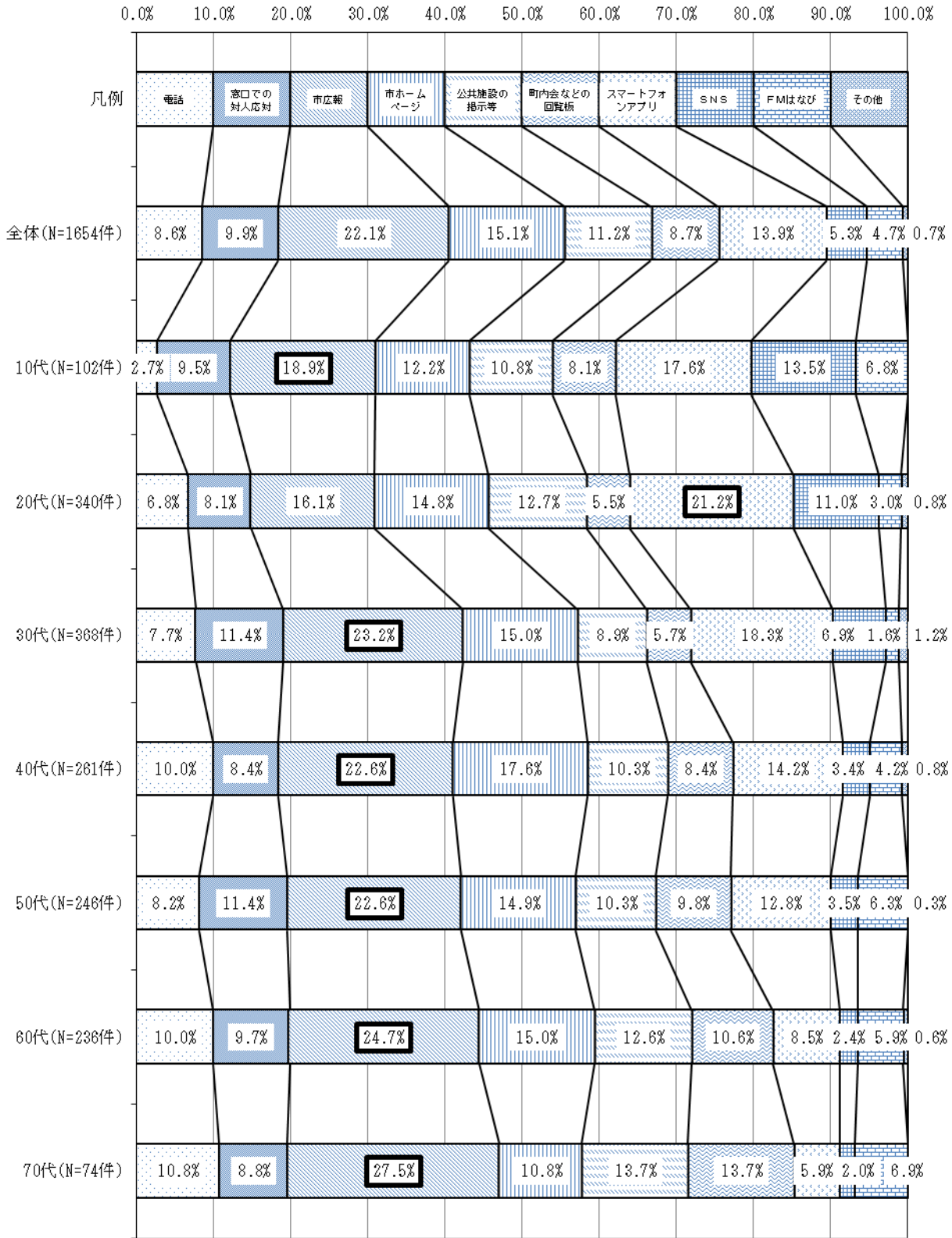
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



【年代別】

○20代を除く全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○20代においては、「スマートフォンアプリ」の回答割合が、21.2%最も高くなっている。

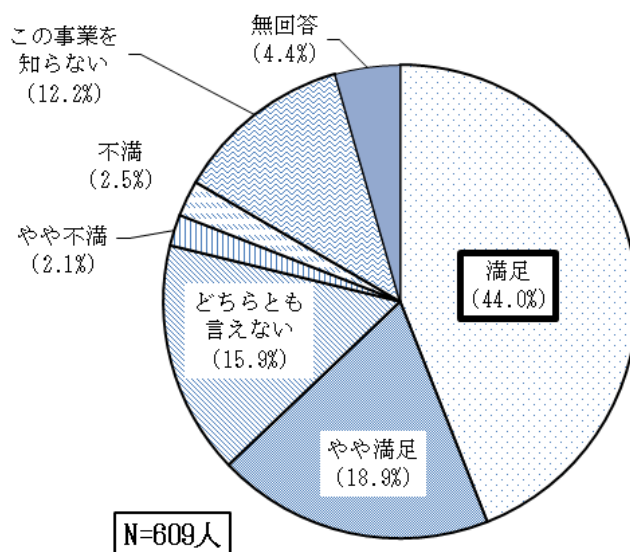


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問 6 市では、子育て世帯への経済的支援として、福祉医療費助成事業（マル福）を行っています。市が行っている福祉医療費助成事業（マル福）では、秋田県の基準を拡大し、中学校修了までの子どもの医療費自己負担分全額を助成しています。あなたはこの福祉医療費助成事業に満足していますか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

【全体】

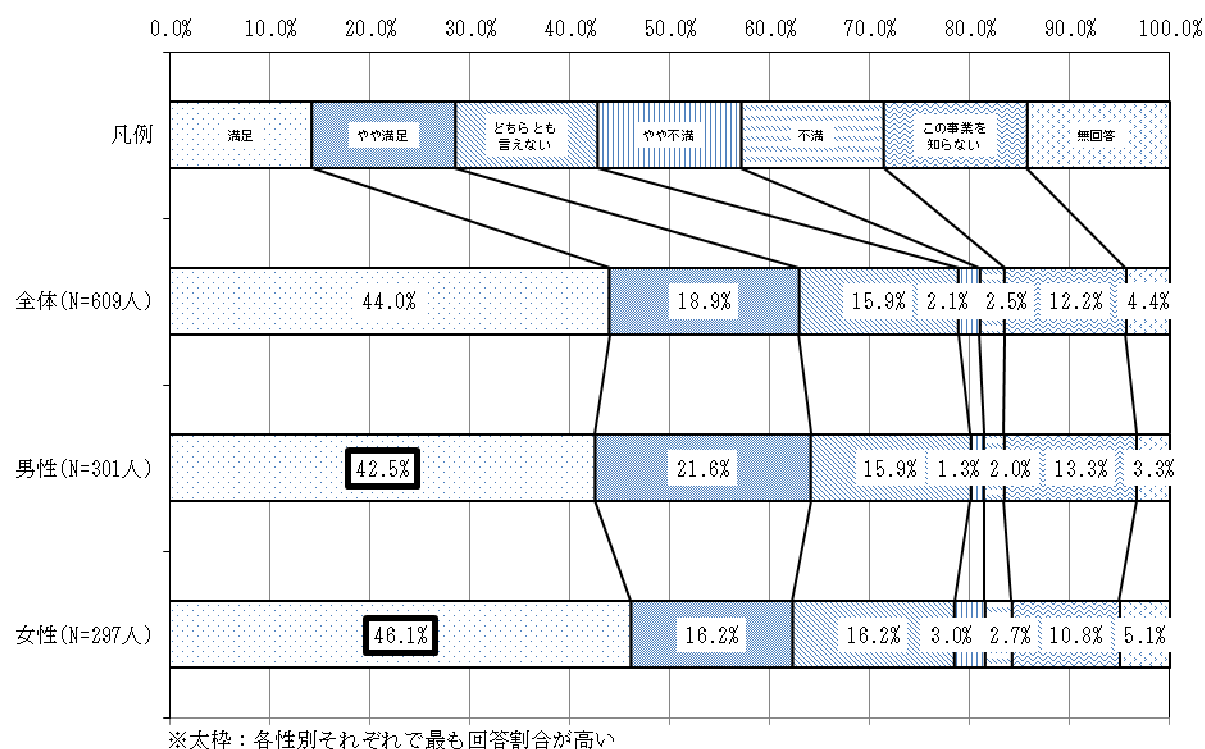
○福祉医療費助成事業（マル福）の満足度について、「満足」が 44.0%と最も回答割合が高く、次いで「やや満足」が 18.9%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「満足」の回答割合が、男性 42.5%、女性 46.1%と最も高くなっている。

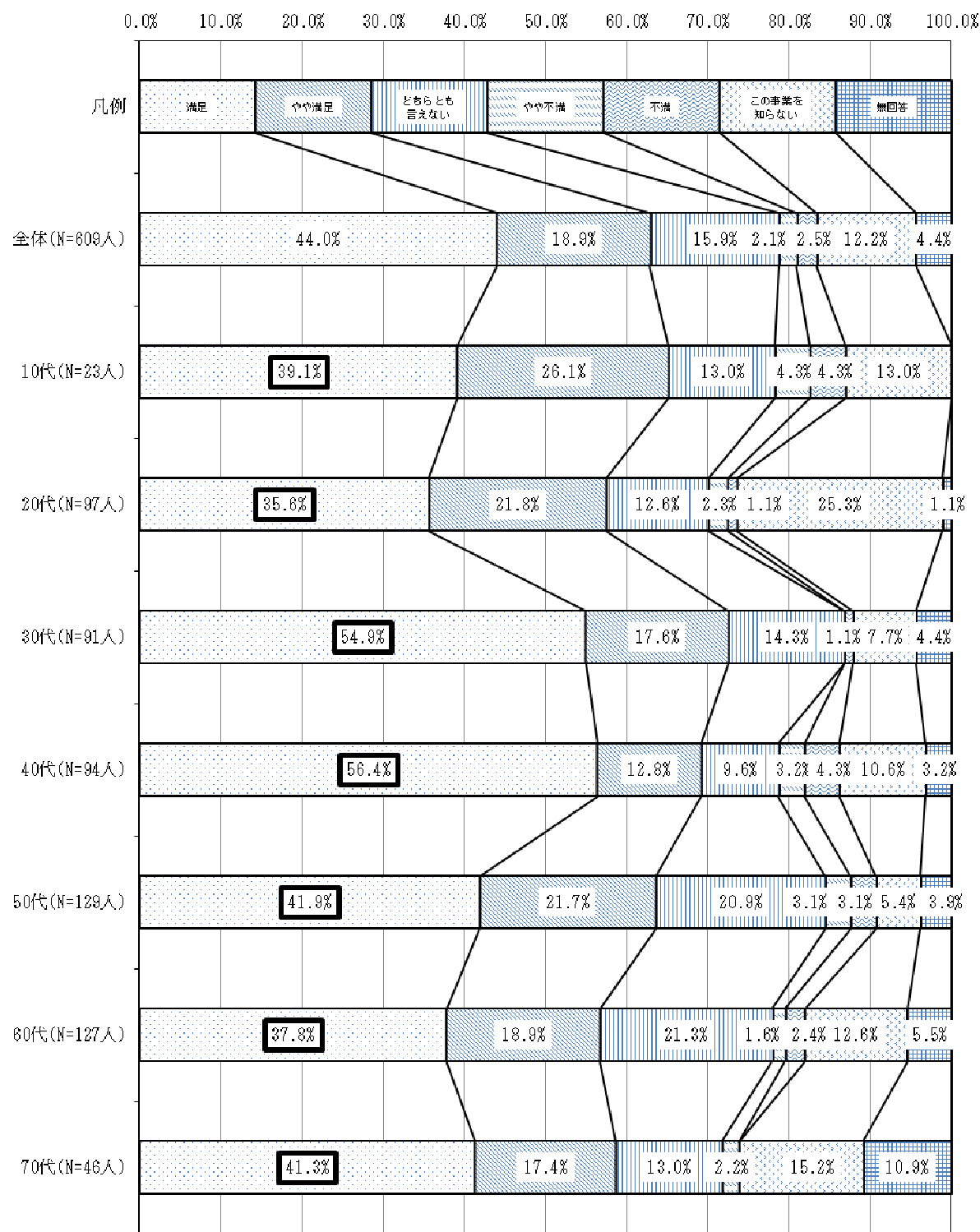
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



【年代別】

○全年代において、「満足」の回答割合が最も高くなっている。

○30代、40代において、「満足」の回答割合が、30代 54.9%、40代 56.4%と他の年代に比べて高い割合となっている。



※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

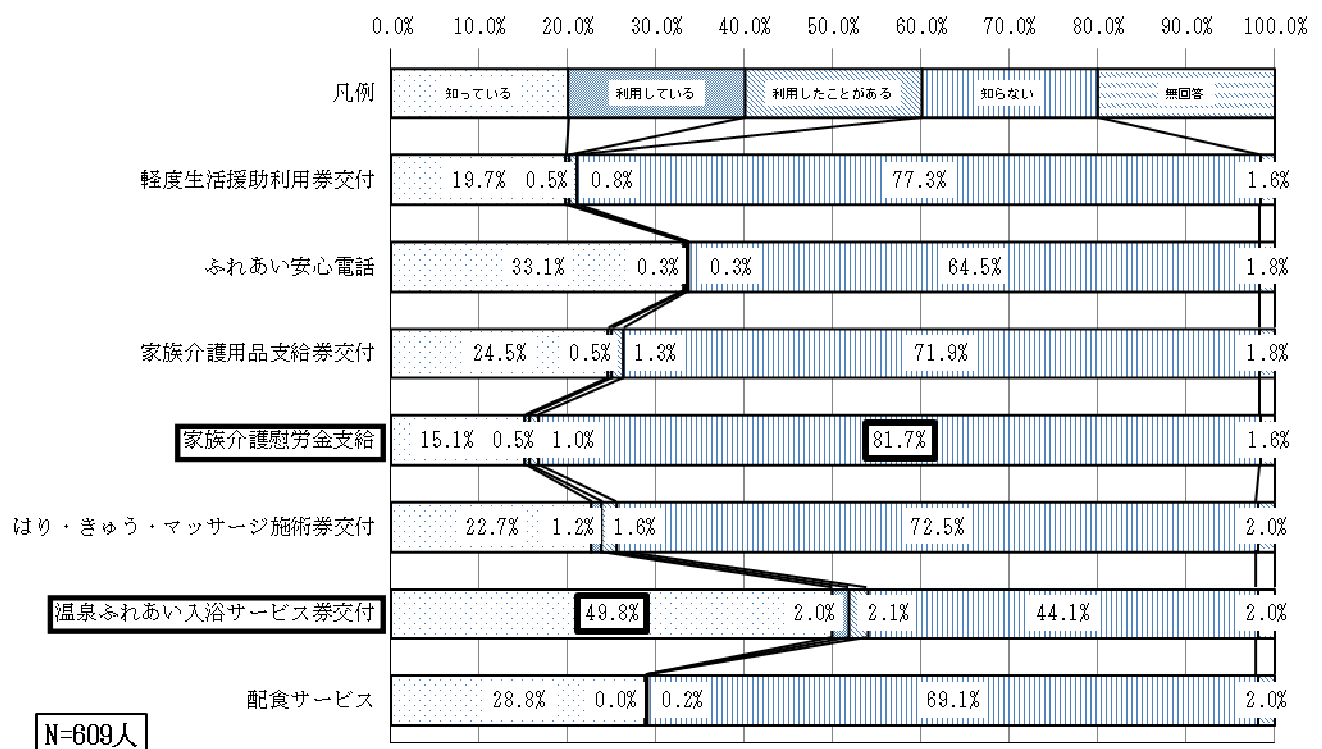
2.6 「高齢者生活支援サービス事業」について

問1 市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「1」、利用しているものには「2」、利用したことがあるものには「3」、知らないものには「4」に○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスの認知度等について、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が49.8%と最も高くなっている。

○「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が81.7%と最も高くなっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が、男性 46.5%、女性 53.9%と最も高く、「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が、男性 83.7%、女性 79.5%と高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

《性別》		有効回答数 (N)	知 つ て い る	利 用 し て い る	利 用 し た こ と が あ る	知 ら な い	無 回 答
軽度生活援助利用券交付	全体	609人	19.7%	0.5%	0.8%	77.3%	1.6%
	男性	301人	17.6%	0.0%	0.0%	80.4%	2.0%
	女性	297人	21.9%	0.7%	1.7%	74.4%	1.3%
ふれあい安心電話	全体	609人	33.1%	0.3%	0.3%	64.5%	1.8%
	男性	301人	29.6%	0.7%	0.0%	67.8%	2.0%
	女性	297人	37.0%	0.0%	0.7%	60.9%	1.3%
家族介護用品支給券交付	全体	609人	24.5%	0.5%	1.3%	71.9%	1.8%
	男性	301人	19.3%	0.3%	2.0%	76.7%	1.7%
	女性	297人	30.0%	0.7%	0.7%	67.0%	1.7%
家族介護慰労金支給	全体	609人	15.1%	0.5%	1.0%	81.7%	1.6%
	男性	301人	13.3%	0.3%	1.0%	83.7%	1.7%
	女性	297人	17.5%	0.7%	1.0%	79.5%	1.3%
はり・きゅう・マッサージ施術券交付	全体	609人	22.7%	1.2%	1.6%	72.5%	2.0%
	男性	301人	16.6%	1.0%	1.0%	78.7%	2.7%
	女性	297人	29.3%	1.3%	2.0%	66.3%	1.0%
温泉ふれあい入浴サービス券交付	全体	609人	49.8%	2.0%	2.1%	44.1%	2.0%
	男性	301人	46.5%	1.0%	1.7%	48.2%	2.7%
	女性	297人	53.9%	3.0%	2.4%	39.7%	1.0%
配食サービス	全体	609人	28.8%	0.0%	0.2%	69.1%	2.0%
	男性	301人	22.9%	0.0%	0.3%	74.8%	2.0%
	女性	297人	34.7%	0.0%	0.0%	63.6%	1.7%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い

【年代別】

○全年代において、「温泉ふれあい入浴サービス券交付」を「知っている」の回答割合が最も高くなっている。70代においては、「ふれあい安心電話」を「知っている」の回答割合が45.7%と最も高くなっている。

○10代、20代において、「はり・きゅう・マッサージ施術券交付」を「知らない」の回答割合が、10代95.7%、20代90.8%と最も高くなっている。30代から70代においては、「家族介護慰労金支給」を「知らない」の回答割合が、年代を通して高くなっている。

《年代別》		有効回答数 (N)	知っている	利用している	利用したことがある	知らない	無回答
軽度生活援助利用券交付	全体	609人	19.7%	0.5%	0.8%	77.3%	1.6%
	10代	23人	8.7%	0.0%	0.0%	91.3%	0.0%
	20代	87人	9.2%	0.0%	1.1%	89.7%	0.0%
	30代	91人	17.6%	0.0%	0.0%	80.2%	2.2%
	40代	94人	9.6%	0.0%	1.1%	89.4%	0.0%
	50代	129人	27.1%	0.0%	0.8%	72.1%	0.0%
	60代	127人	27.6%	0.0%	0.8%	69.3%	2.4%
	70代	46人	28.3%	4.3%	2.2%	54.3%	10.9%
ふれあい安心電話	全体	609人	33.1%	0.3%	0.3%	64.5%	1.8%
	10代	23人	26.1%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%
	20代	87人	20.7%	0.0%	0.0%	79.3%	0.0%
	30代	91人	22.0%	0.0%	0.0%	74.7%	3.3%
	40代	94人	20.2%	0.0%	0.0%	79.8%	0.0%
	50代	129人	38.8%	0.0%	0.8%	60.5%	0.0%
	60代	127人	51.2%	0.8%	0.0%	46.5%	1.6%
	70代	46人	45.7%	2.2%	2.2%	39.1%	10.9%
家族介護用品支給券交付	全体	609人	24.5%	0.5%	1.3%	71.9%	1.8%
	10代	23人	26.1%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%
	20代	87人	12.6%	1.1%	1.1%	85.1%	0.0%
	30代	91人	23.1%	0.0%	1.1%	73.6%	2.2%
	40代	94人	18.1%	0.0%	1.1%	80.9%	0.0%
	50代	129人	31.8%	0.0%	3.1%	64.3%	0.8%
	60代	127人	31.5%	0.0%	0.8%	65.4%	2.4%
	70代	46人	23.9%	4.3%	0.0%	63.0%	8.7%
家族介護慰労金支給	全体	609人	15.1%	0.5%	1.0%	81.7%	1.6%
	10代	23人	13.0%	0.0%	0.0%	87.0%	0.0%
	20代	87人	10.3%	0.0%	1.1%	88.5%	0.0%
	30代	91人	11.0%	0.0%	1.1%	85.7%	2.2%
	40代	94人	6.4%	0.0%	0.0%	93.6%	0.0%
	50代	129人	20.2%	0.8%	1.6%	77.5%	0.0%
	60代	127人	22.8%	0.0%	0.8%	74.0%	2.4%
	70代	46人	19.6%	4.3%	2.2%	65.2%	8.7%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

※次のページに続く

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

《年代別》		有効 回答数 (N)	知 っ て い る	利 用 し て い る	利 用 し た こ と が あ る	知 ら な い	無 回 答
はり・きゅう・マッサージ施術券交付	全体	609人	22.7%	1.2%	1.6%	72.5%	2.0%
	10代	23人	4.3%	0.0%	0.0%	<u>95.7%</u>	0.0%
	20代	87人	9.2%	0.0%	0.0%	<u>90.8%</u>	0.0%
	30代	91人	12.1%	1.1%	1.1%	82.4%	3.3%
	40代	94人	14.9%	0.0%	1.1%	84.0%	0.0%
	50代	129人	33.3%	2.3%	0.8%	63.6%	0.0%
	60代	127人	31.5%	0.8%	2.4%	63.0%	2.4%
	70代	46人	43.5%	4.3%	6.5%	34.8%	10.9%
温泉ふれあい入浴サービス券交付	全体	609人	49.8%	2.0%	2.1%	44.1%	2.0%
	10代	23人	43.5%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%
	20代	87人	29.9%	1.1%	0.0%	69.0%	0.0%
	30代	91人	40.7%	0.0%	3.3%	52.7%	3.3%
	40代	94人	45.7%	0.0%	2.1%	52.1%	0.0%
	50代	129人	62.8%	3.1%	1.6%	32.6%	0.0%
	60代	127人	64.6%	0.0%	2.4%	30.7%	2.4%
	70代	46人	45.7%	15.2%	4.3%	23.9%	10.9%
配食サービス	全体	609人	28.8%	0.0%	0.2%	69.1%	2.0%
	10代	23人	30.4%	0.0%	0.0%	69.6%	0.0%
	20代	87人	16.1%	0.0%	0.0%	83.9%	0.0%
	30代	91人	23.1%	0.0%	0.0%	74.7%	2.2%
	40代	94人	18.1%	0.0%	0.0%	81.9%	0.0%
	50代	129人	32.6%	0.0%	0.8%	65.9%	0.8%
	60代	127人	40.9%	0.0%	0.0%	56.7%	2.4%
	70代	46人	41.3%	0.0%	0.0%	47.8%	10.9%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

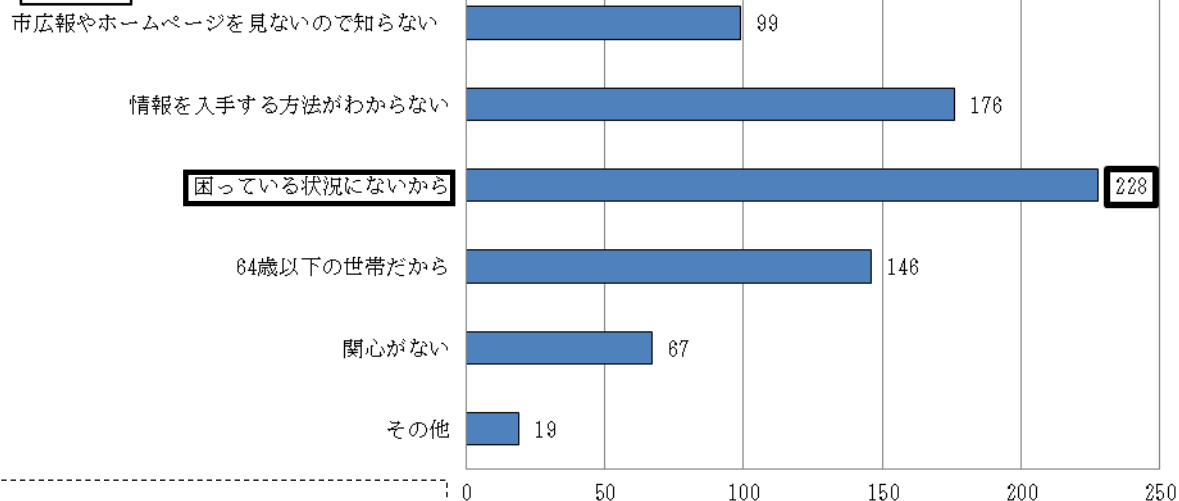
下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問2 問1で「4」というお答えがあった方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスを知らない理由について、「困っている状況にないから」が228件と最も回答数が多く、次いで「情報を入手する方法がわからない」が176件となっている。

N=735件

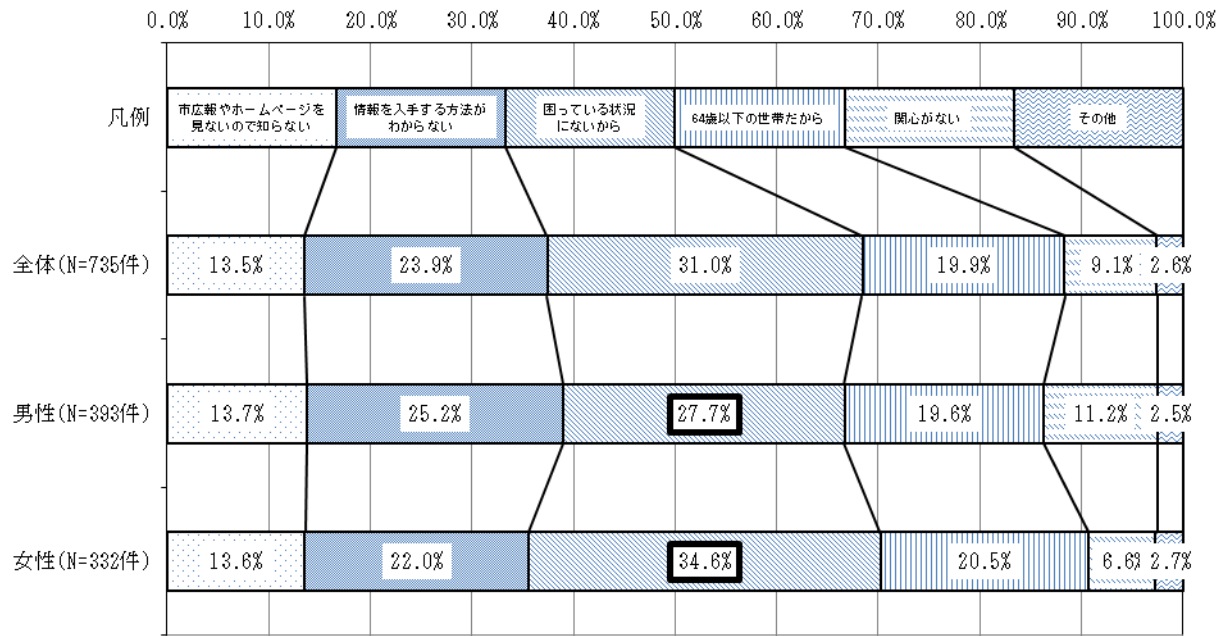


※問1で知らない事業があった方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「困っている状況にないから」の回答割合が、男性 27.7%、女性 34.6%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

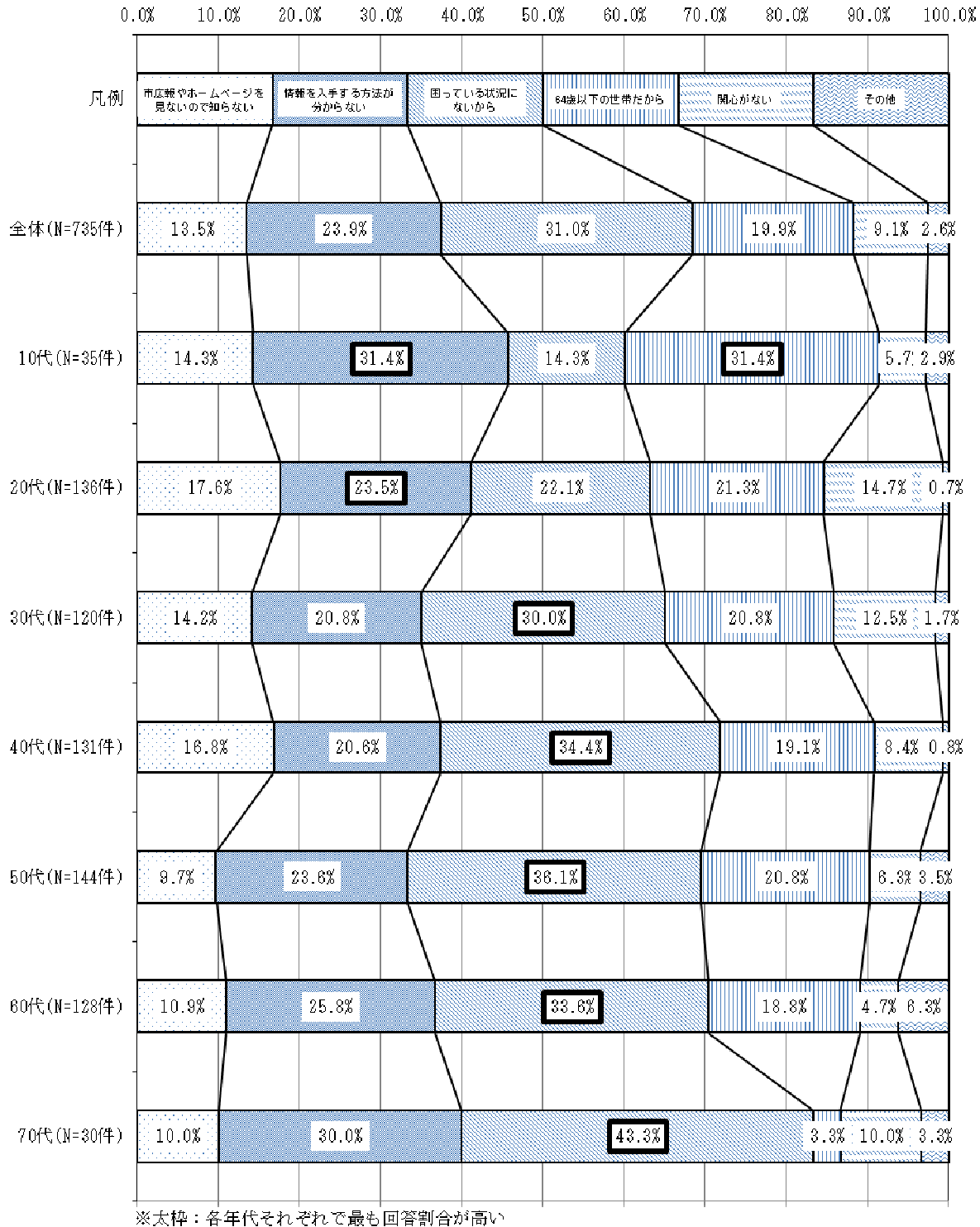


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10代、20代において、「情報を入手する方法がわからない」の回答割合が、10代31.4%、20代23.5%と最も高くなっている。

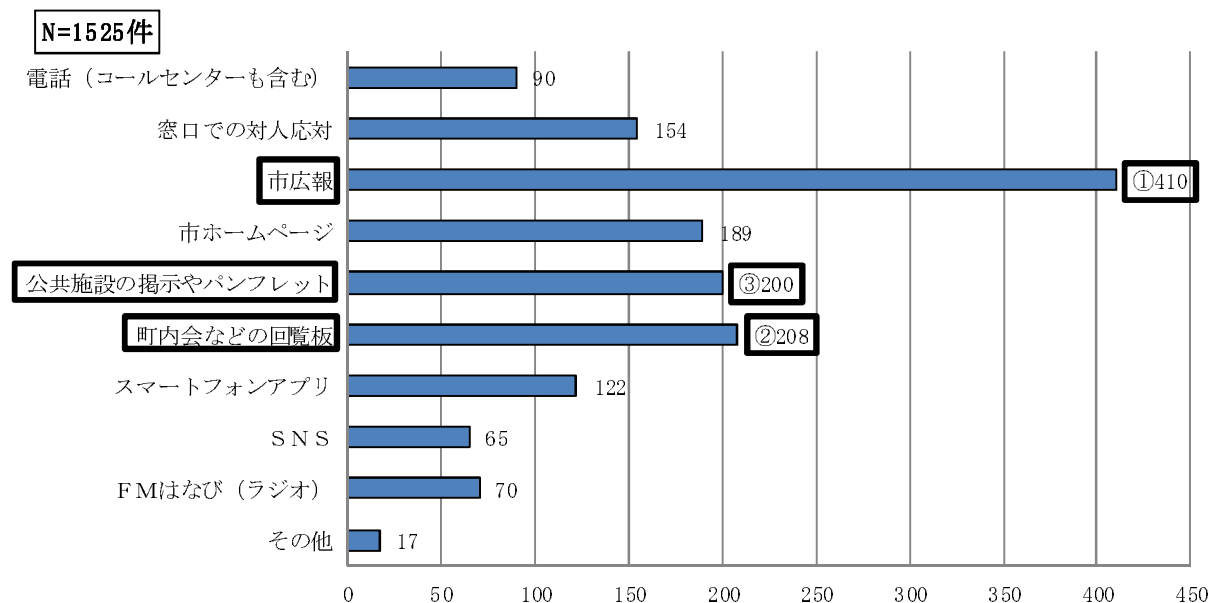
○30代から70代において、「困っている状況にないから」の回答割合が最も高くなっている。



問3 今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している生活支援サービス、家族支援サービスに関する情報を得る手段について、「市広報」が410件と最も多く、次いで「町内会などの回覧板」が208件、「公共施設の掲示やパンフレット」が200件となっている。



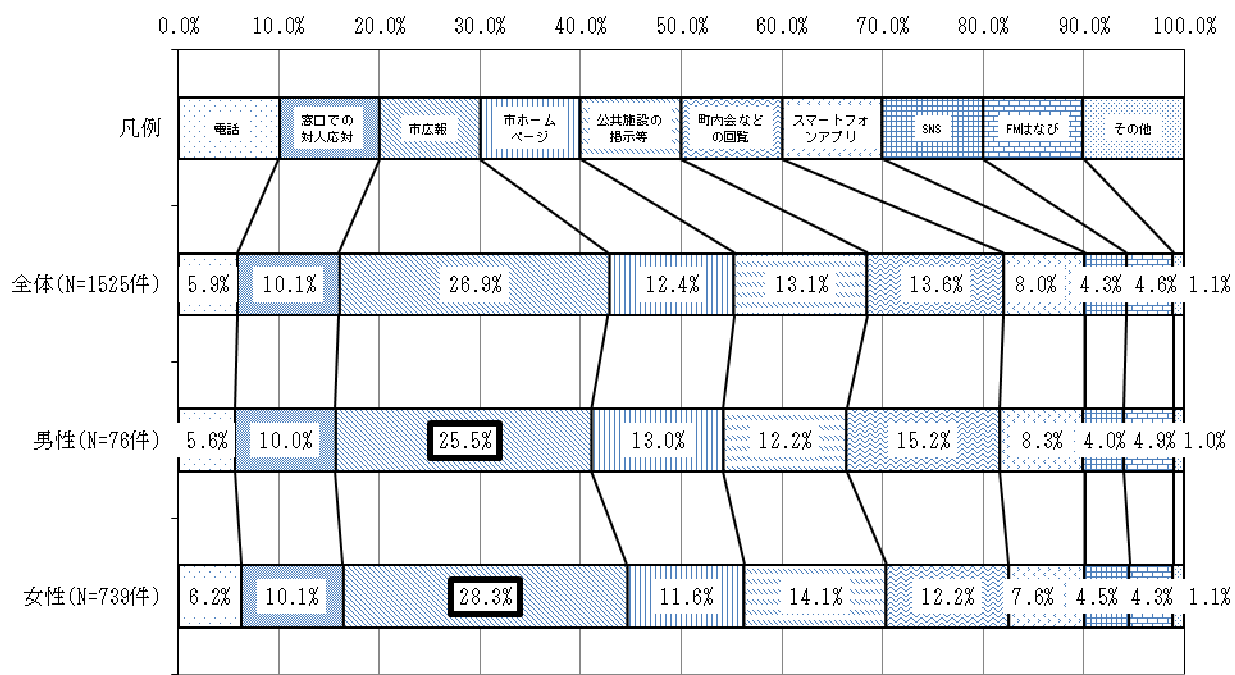
◆「その他」意見（抜粋）

- ・職場を通じて。（男性／10代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・訪問、書面、電話等によって、個別に通知する。（女性／10代／協和／学生／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」、「町内会などの回覧板」が上位となっている。

○男性においては、「市ホームページ」が上位となっている。女性においては、「公共施設の掲示やパンフレット」が上位となっている。



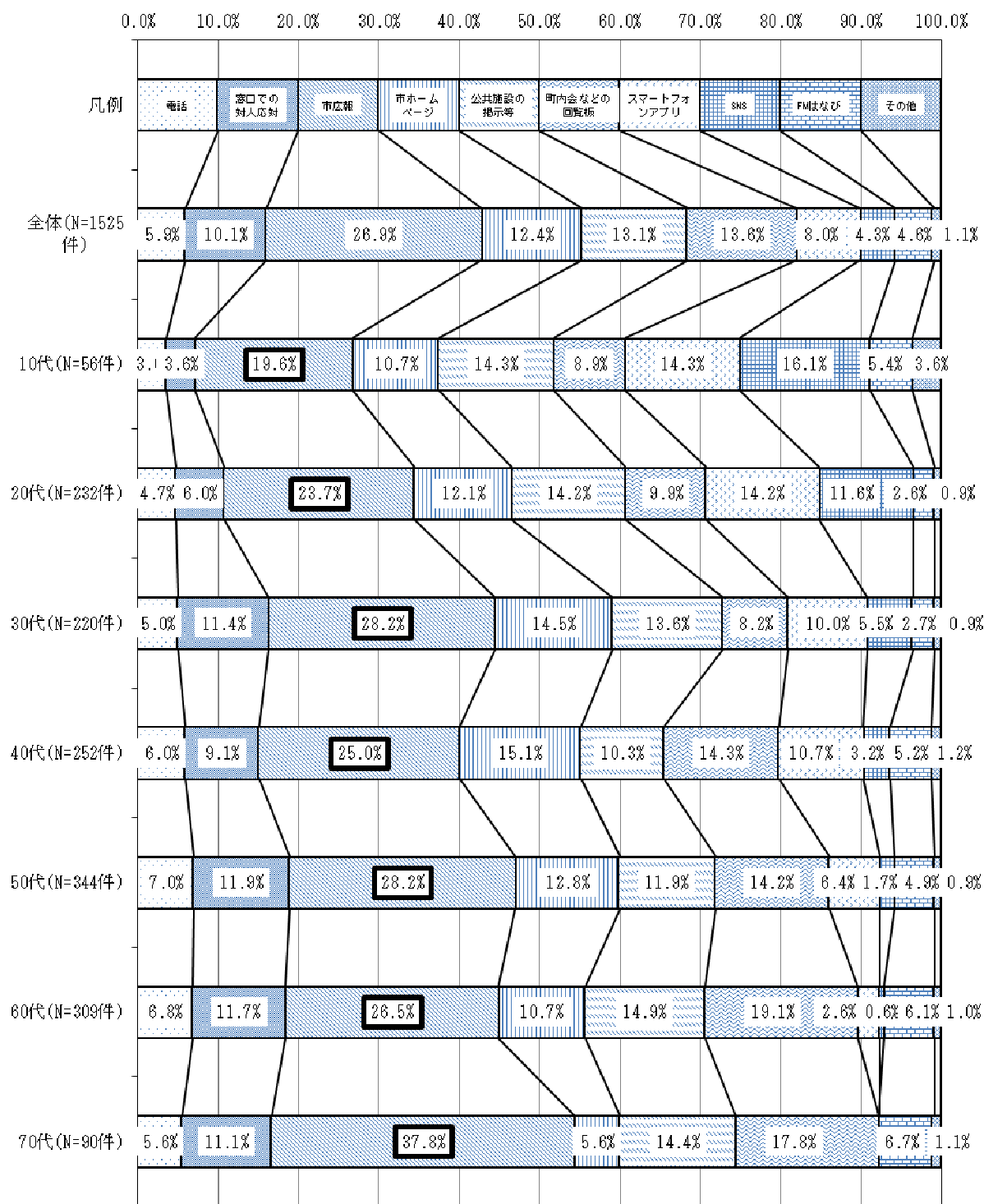
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○10代、20代、30代、60代、70代において、「公共施設の掲示やパンフレット」が上位となっている。

○40代から70代において、「町内会などの回覧板」が上位となっている。

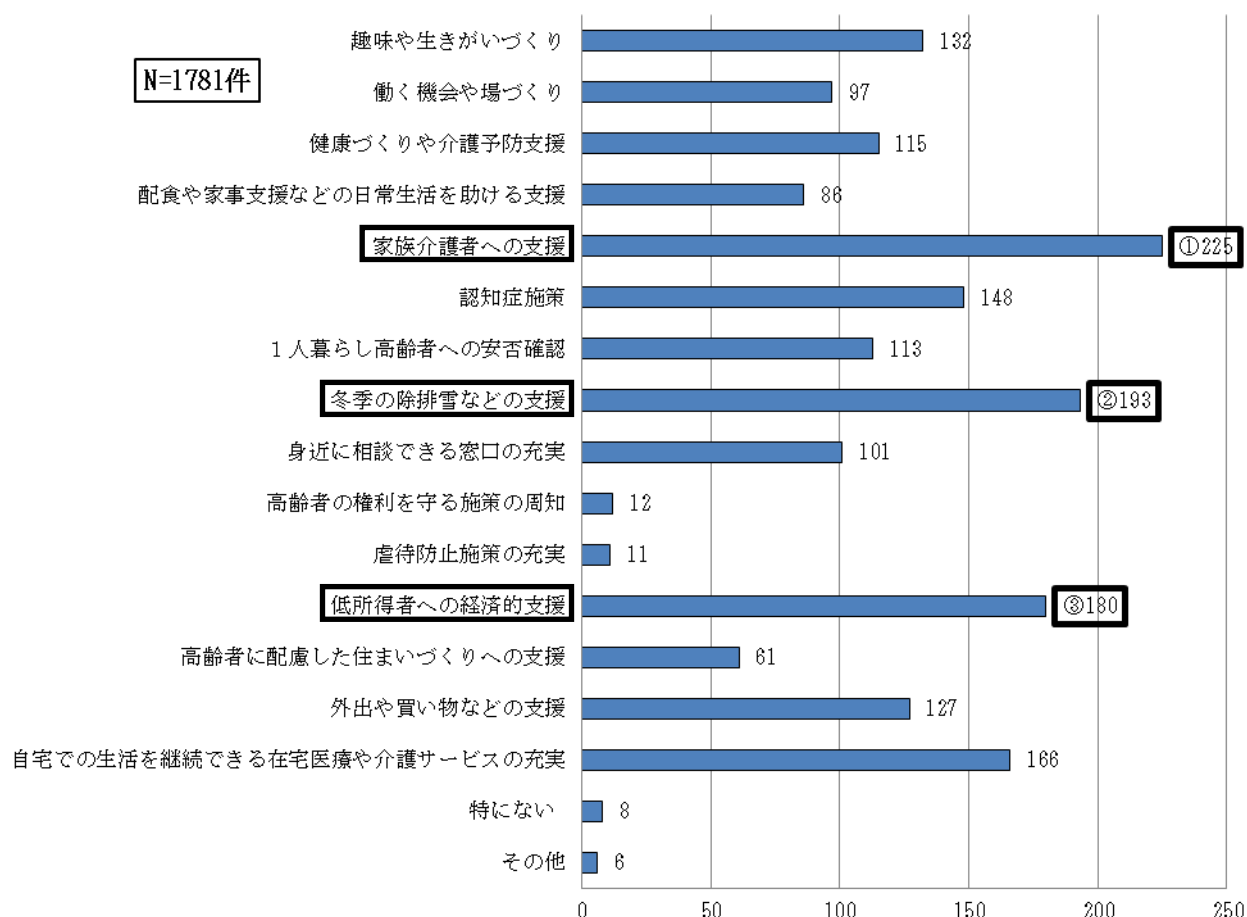


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 今後、より充実してほしい高齢者施策はどのようなものですか。該当する番号3つに○印をつけてください。

【全体】

○今後、より充実してほしい高齢者施策について、「家族介護者への支援」が225件と最も多く、次いで「冬季の除排雪などへの支援」が193件、「低所得者への経済的支援」が180件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・年金を上げる。（女性／20代／南外／正規社員・職員／独身）
- ・中心市街地への移住支援。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・一人暮らしの人の病院送迎。（女性／60代／西仙北／無職／既婚）
- ・料金のかからない支援。（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「家族介護者への支援」、「冬季の除排雪などの支援」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○10代から60代において、「家族介護者への支援」が上位となっている。

○30代から50代、70代において、「冬季の除排雪などの支援」が上位となっている。

○20代、40代、60代、70代において、「低所得者への経済的支援」が上位となっている。

	有効回答数（N）	趣味や生きがいづくり	働く機会や場づくり	健康づくりや介護予防支援	配食や家事支援などの日常生活を助ける支援	家族介護者への支援	認知症施策	1人暮らし高齢者への安否確認	冬季の除排雪などの支援	身近に相談できる窓口の充実	高齢者の権利を守る施策の周知	虐待防止施策の充実	低所得者への経済的支援	高齢者に配慮した住まいづくり	外出や買い物などの支援	自宅で生活を継続できる在宅医療や介護サービスの充実	特にない	その他
全体	1781件	7.4%	5.4%	8.5%	4.8%	12.8%	8.3%	8.3%	10.8%	5.7%	0.7%	0.8%	10.1%	3.4%	7.1%	9.3%	0.4%	0.3%
《性別》																		
男性	853件	8.0%	7.0%	8.0%	4.7%	①13.7%	8.5%	8.7%	⑤10.0%	5.4%	0.7%	0.8%	②10.8%	3.2%	5.4%	7.4%	0.7%	0.4%
女性	889件	7.0%	4.0%	8.8%	5.1%	②11.7%	7.0%	8.1%	①11.8%	5.8%	0.7%	0.6%	8.6%	3.7%	8.5%	③10.8%	0.2%	0.3%
《年代別》																		
10代	88件	①12.1%	①12.1%	①12.1%	4.5%	①12.1%	3.0%	8.1%	10.8%	4.5%	0.0%	3.0%	7.6%	4.5%	3.0%	3.0%	1.5%	0.0%
20代	259件	①12.7%	3.1%	7.3%	2.7%	②11.8%	9.7%	8.8%	10.0%	4.6%	1.2%	0.4%	③11.2%	3.1%	7.7%	8.2%	0.8%	0.8%
30代	266件	4.5%	7.5%	3.8%	5.8%	①14.3%	③9.4%	8.8%	②12.4%	5.6%	0.0%	1.1%	8.6%	2.3%	8.3%	9.0%	0.4%	0.4%
40代	287件	7.7%	8.4%	8.6%	3.5%	②12.5%	8.4%	8.6%	①14.6%	4.2%	0.0%	0.0%	③8.7%	3.8%	7.7%	7.3%	0.0%	0.0%
50代	378件	8.8%	4.2%	5.6%	4.2%	①13.5%	③10.3%	5.8%	②11.1%	5.6%	0.5%	0.3%	9.3%	3.2%	9.0%	9.8%	0.5%	0.3%
60代	381件	5.0%	4.7%	7.5%	7.5%	①12.5%	8.9%	5.3%	7.5%	8.4%	1.4%	0.8%	①12.5%	4.7%	4.4%	①12.5%	0.3%	0.8%
70代	122件	9.0%	2.5%	8.6%	5.7%	9.8%	2.5%	9.0%	⑤11.5%	9.0%	1.8%	0.8%	①12.3%	1.6%	4.9%	①12.3%	0.8%	0.0%

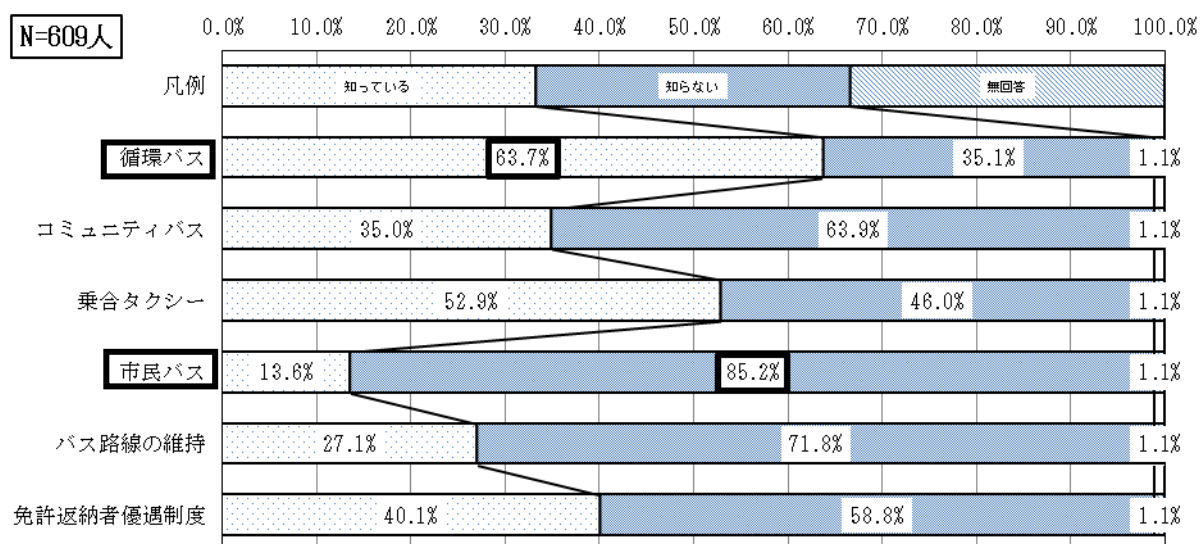
※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い3項目

2.7 「地域交通対策事業」について

問1 市が実施している地域交通対策事業について、知っているものの番号に○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している地域交通対策事業の認知度について、「循環バス」を「知っている」の回答割合が、63.7%と最も高く、「市民バス」を「知らない」の回答割合が85.2%と最も高くなっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「循環バス」を「知っている」の回答割合が、男性 63.5%、女性 64.6%と最も高く、「市民バス」を「知らない」の回答割合が、男性 85.7%、女性 84.8%と最も高くなっている。

○男性が女性より「バス路線の維持」を「知っている」の回答割合が高く、男性が 33.6%で女性よりも 12.4 ポイント高くなっている。

《性別》		有効回答数 (N)	知っている	知らない	無回答
循環バス	全体	609人	63.2%	34.9%	2.0%
	男性	301人	63.5%	35.2%	1.3%
	女性	297人	64.6%	34.7%	0.7%
コミュニティバス	全体	609人	34.7%	63.4%	2.0%
	男性	301人	33.9%	64.8%	1.3%
	女性	297人	36.4%	63.0%	0.7%
乗合タクシー	全体	609人	52.4%	45.6%	2.0%
	男性	301人	52.8%	45.8%	1.3%
	女性	297人	52.9%	46.5%	0.7%
市民バス	全体	609人	13.5%	84.5%	2.0%
	男性	301人	13.0%	85.7%	1.3%
	女性	297人	14.5%	84.8%	0.7%
バス路線の維持	全体	609人	26.9%	71.2%	2.0%
	男性	301人	33.6%	65.1%	1.3%
	女性	297人	21.2%	78.1%	0.7%
免許返納者優遇制度	全体	609人	39.7%	58.3%	2.0%
	男性	301人	43.5%	55.1%	1.3%
	女性	297人	36.0%	63.3%	0.7%

着色部：各性別それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各性別それぞれで「知らない」割合が最も高い

【年代別】

○10代から50代において、「循環バス」を「知っている」の回答割合が最も高くなっている。

○60代から70代において、「乗合タクシー」を「知っている」の回答割合が、60代63.0%、70代60.9%高くなっている。

○全年代において、「市民バス」を「知らない」の回答割合が高くなっている。

《年代別》		有効 回答 数 (N)	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
循環バス	全体	609人	63.7%	35.1%	1.1%
	10代	23人	73.9%	26.1%	0.0%
	20代	87人	59.8%	40.2%	0.0%
	30代	91人	67.0%	30.8%	2.2%
	40代	94人	70.2%	28.7%	1.1%
	50代	129人	65.9%	34.1%	0.0%
	60代	127人	58.3%	39.4%	2.4%
	70代	46人	58.7%	41.3%	0.0%
コミュニティバス	全体	609人	35.0%	63.9%	1.1%
	10代	23人	30.4%	69.6%	0.0%
	20代	87人	32.2%	67.8%	0.0%
	30代	91人	28.6%	69.2%	2.2%
	40代	94人	39.4%	59.6%	1.1%
	50代	129人	40.3%	59.7%	0.0%
	60代	127人	32.3%	65.4%	2.4%
	70代	46人	39.1%	60.9%	0.0%
乗合タクシー	全体	609人	52.9%	46.0%	1.1%
	10代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	20代	87人	40.2%	59.8%	0.0%
	30代	91人	42.9%	54.9%	2.2%
	40代	94人	51.1%	47.9%	1.1%
	50代	129人	61.2%	38.8%	0.0%
	60代	127人	63.0%	34.6%	2.4%
	70代	46人	60.9%	39.1%	0.0%

着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

※次のページに続く

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

《年代別》		有効 回答 数 (N)	知 つ て い る	知 ら な い	無 回 答
市民バス	全体	609人	13.6%	85.2%	1.1%
	10代	23人	13.0%	<u>87.0%</u>	0.0%
	20代	87人	13.8%	<u>86.2%</u>	0.0%
	30代	91人	6.6%	<u>91.2%</u>	2.2%
	40代	94人	8.5%	<u>90.4%</u>	1.1%
	50代	129人	16.3%	<u>83.7%</u>	0.0%
	60代	127人	16.5%	<u>81.1%</u>	2.4%
	70代	46人	23.9%	<u>76.1%</u>	0.0%
バス路線の維持	全体	609人	27.1%	71.8%	1.1%
	10代	23人	26.1%	<u>73.9%</u>	0.0%
	20代	87人	13.8%	<u>86.2%</u>	0.0%
	30代	91人	13.2%	84.6%	2.2%
	40代	94人	21.3%	77.7%	1.1%
	50代	129人	37.2%	62.8%	0.0%
	60代	127人	38.6%	59.1%	2.4%
	70代	46人	37.0%	63.0%	0.0%
免許返納者優遇制度	全体	609人	40.1%	58.8%	1.1%
	10代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	20代	87人	17.2%	82.8%	0.0%
	30代	91人	28.6%	69.2%	2.2%
	40代	94人	33.0%	66.0%	1.1%
	50代	129人	54.3%	45.7%	0.0%
	60代	127人	48.8%	48.8%	2.4%
	70代	46人	58.7%	41.3%	0.0%

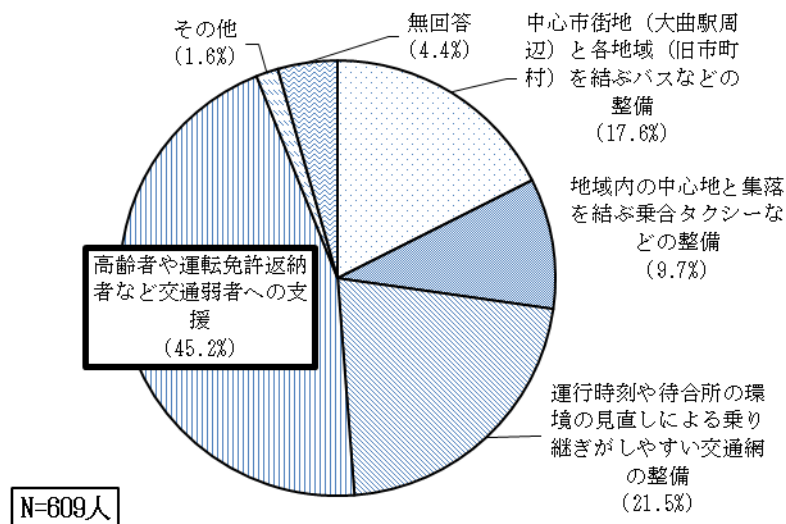
着色部：各年代それぞれで「知っている」割合が最も高い

下線部：各年代それぞれで「知らない」割合が最も高い

問2 市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」が45.2%と最も回答割合が高く、次いで「運行時間や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい環境の整備」が21.5%となっている、



◆「その他」意見（抜粋）

- ・冬場の道路交通事情の向上のために、自然エネルギーを活用してロードヒーティングできる環境の整備。（男性／20代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ・事業のPR。（男性／20代／仙北／正規社員・職員／独身）
- ・上記の事業が可能となるように、人材を確保すべき。（女性／20代／神岡／正規社員・職員／独身）
- ・子どもや家族が利用しやすくする。（男性／40代／太田／正規社員・職員／既婚）
- ・市職員自らが利用する。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」の回答割合が、男性 41.9%、女性 48.8%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○10代を除く全年代において、「高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10代において、「運行時間や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい環境の整備」の回答割合が 65.2%と最も高くなっている。

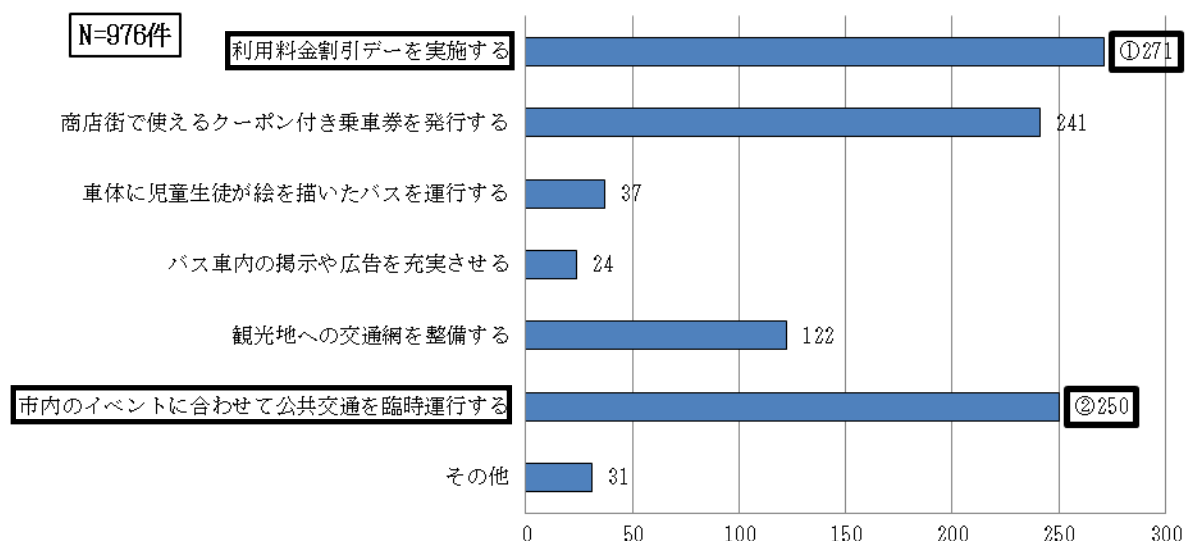
	有効回答数 (N)	中心市街地（旧市町村）を結ぶバスなどの整備	地域内の中心地と集落を結ぶ乗合タクシー	運行時刻や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい環境の整備	高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援	その他	無回答
全体	609人	17.6%	9.7%	21.5%	45.2%	1.6%	4.4%
《性別》							
男性	301人	15.9%	11.0%	23.3%	41.9%	3.0%	5.0%
女性	297人	19.2%	8.1%	19.9%	48.8%	0.3%	3.7%
《年代別》							
10代	23人	13.0%	0.0%	65.2%	17.4%	4.3%	0.0%
20代	87人	28.7%	5.7%	23.0%	37.9%	3.4%	1.1%
30代	91人	14.3%	8.8%	30.8%	41.8%	1.1%	3.3%
40代	94人	23.4%	6.4%	22.3%	44.7%	1.1%	2.1%
50代	129人	15.5%	17.8%	16.3%	45.0%	1.6%	3.9%
60代	127人	13.4%	7.1%	14.2%	56.7%	1.6%	7.1%
70代	46人	10.9%	13.0%	10.9%	52.2%	0.0%	13.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 市では、公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施するべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大2つまで○印をつけてください。

【全体】

○市が実施する公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策に対する要望について、「利用料金割引デーを実施する」が271件と最も回答数が多く、次いで「市内イベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が250件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・市民が利用する頻度の高い施設や店舗だけを回るバス。（男性／20代／大曲／正規社員／職員／既婚）
- ・すべての路線の本数増加。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・冬期間の増便。（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・運転手をやさしい人にする。（男性／30代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）
- ・到着地を増やす。（女性／30代／西仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・バス料金を一定にする。（女性／40代／大曲／パート・アルバイト／既婚）
- ・料金を安くする。（女性／40代／大曲／専業主婦・主夫／既婚）
- ・学生の使用を中心に考える。（女性／40代／南外／パート・アルバイト／既婚）
- ・路線図の明確化。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・家族と一緒に同乗すると、割引になるアプリの発行。（無回答）

【性別】

○男性において、「商店街で使えるクーポン付乗車券を発行する」の回答割合が28.9%と最も高く、女性においては、「利用料金割引デーを実施する」の回答割合が31.6%最も高くなっている。

○男女どちらにおいても、「市内イベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が上位となっている。

【年代別】

○60代を除く全年代において、「利用料金割引デーを実施する」が上位となっている。

○20代、40代から70代において、「商店街で使えるクーポン付乗車券を発行する」が上位となっている。

	有効回答数（N）	利用料金割引デーを実施する	商店街で使えるクーポン付き乗車券を発行する	車体に児童生徒が絵を描いたバスを運行する	バス車内の掲示や広告を充実させる	観光地への交通網を整備する	市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する	その他
全体	976件	27.8%	24.7%	3.8%	2.5%	12.5%	25.6%	3.2%
《性別》								
男性	482件	24.1%	①28.9%	3.9%	2.5%	12.0%	②27.8%	3.7%
女性	481件	①31.6%	23.1%	3.7%	2.5%	12.9%	②23.7%	2.5%
《年代別》								
10代	40件	①27.5%	17.5%	7.5%	5.0%	17.5%	②22.5%	2.5%
20代	145件	①24.8%	②23.4%	3.4%	2.8%	17.2%	②23.4%	4.8%
30代	140件	②22.1%	20.7%	6.4%	0.7%	14.3%	①28.6%	7.1%
40代	155件	①31.0%	②25.8%	4.5%	3.2%	12.9%	19.4%	3.2%
50代	211件	①33.6%	②26.1%	2.4%	2.4%	9.0%	24.6%	1.9%
60代	197件	24.9%	②27.9%	2.0%	2.0%	11.2%	①30.5%	1.5%
70代	73件	②28.8%	21.9%	5.5%	4.1%	8.2%	①31.5%	0.0%

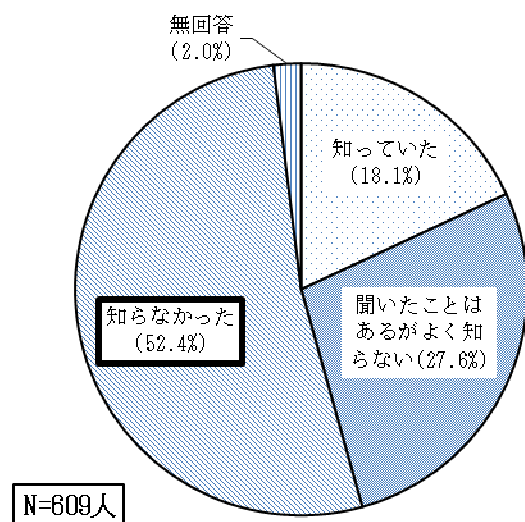
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い2項目

2.8 「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について

問1 市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

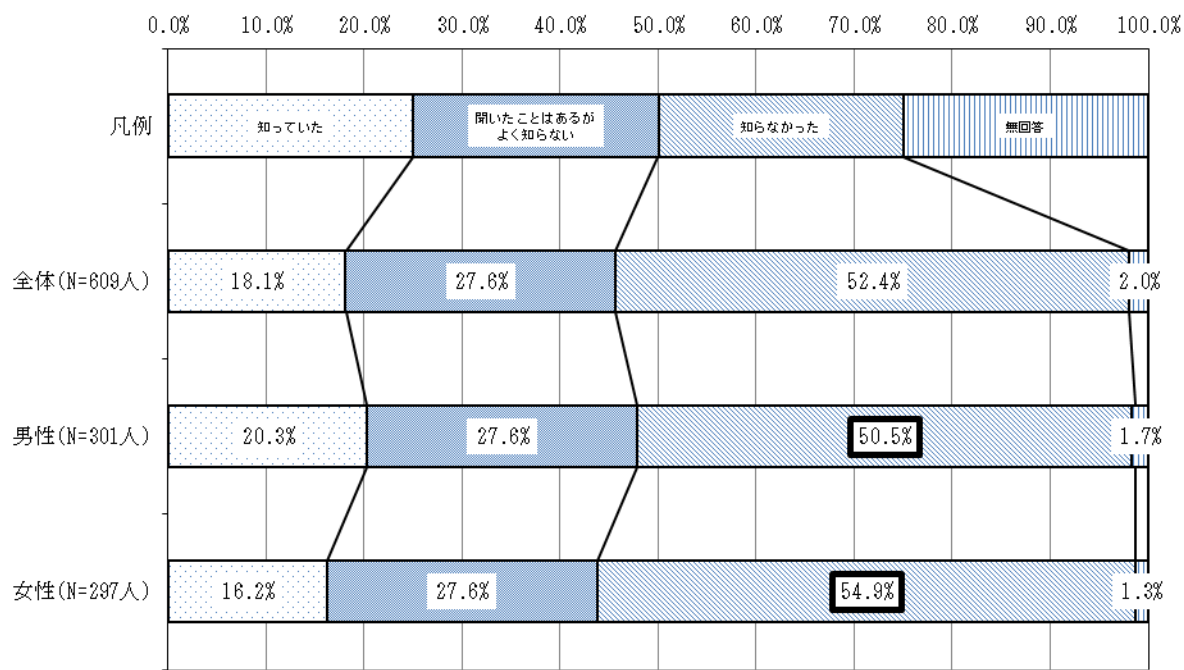
○地域提案型自治会等雪対策モデル事業の認知度について、「知らなかった」の回答割合が52.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」が27.6%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性 50.5%、女性 54.9%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

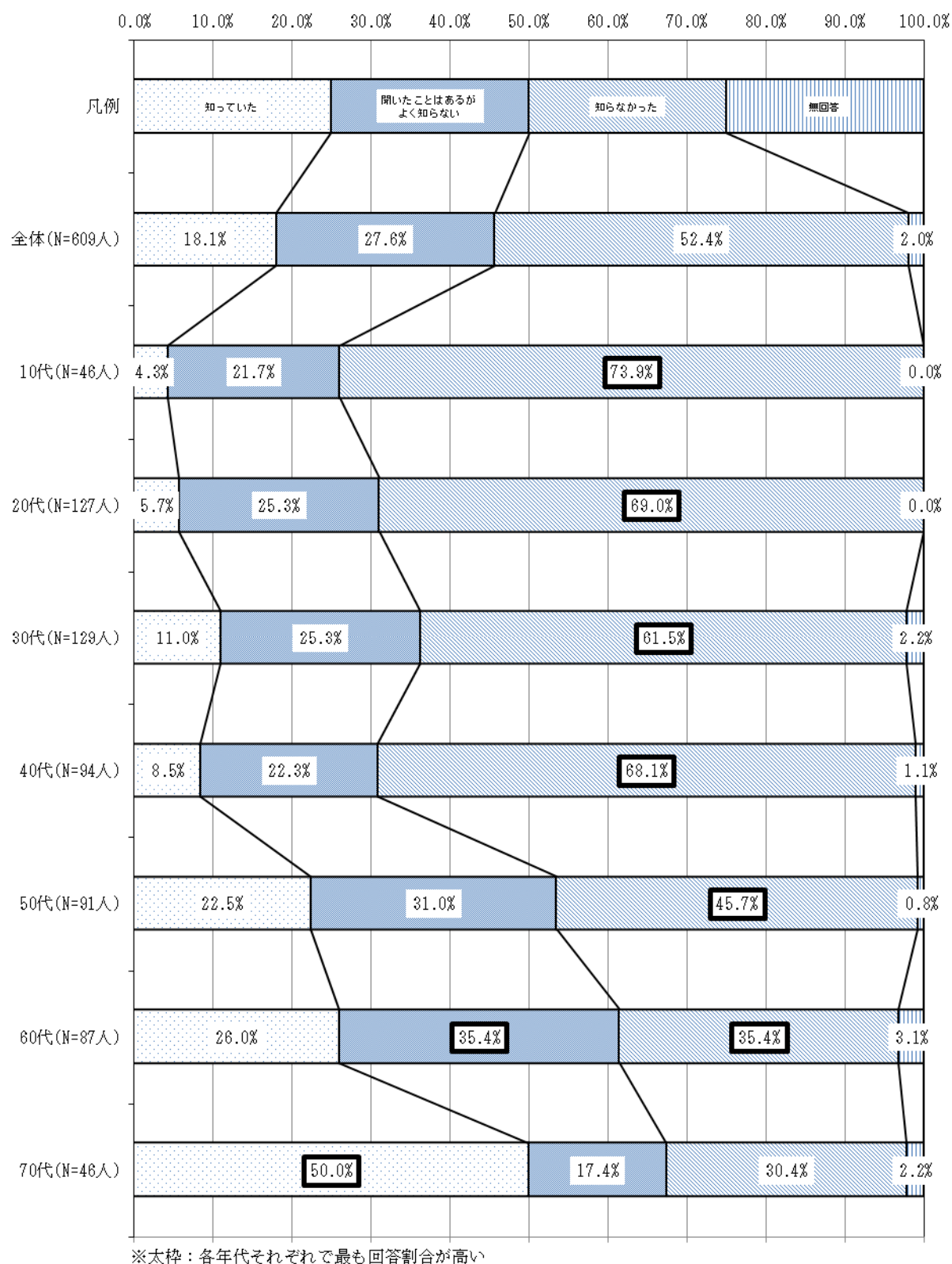


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70代を除く全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

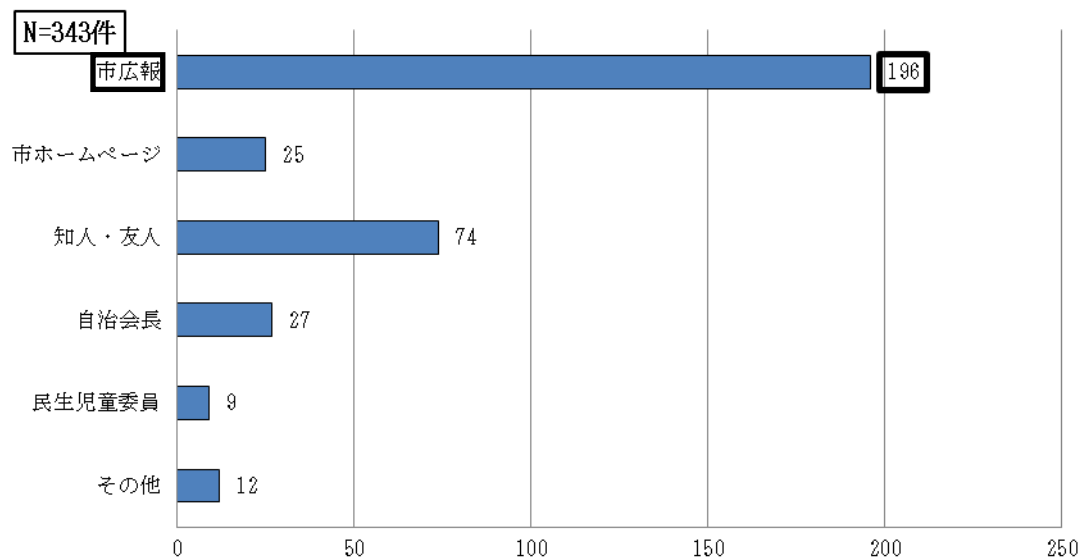
○70代において、「知っていた」の回答割合が50.0%と最も高くなっている。



問2 問1で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○地域提案型自治会等雪対策モデル事業をどのようにして知ったかについて、「市広報」が196件と最も回答数が多く、次いで「知人・友人」が74件となっている。



※問1で「知っていた」、「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した方が選択

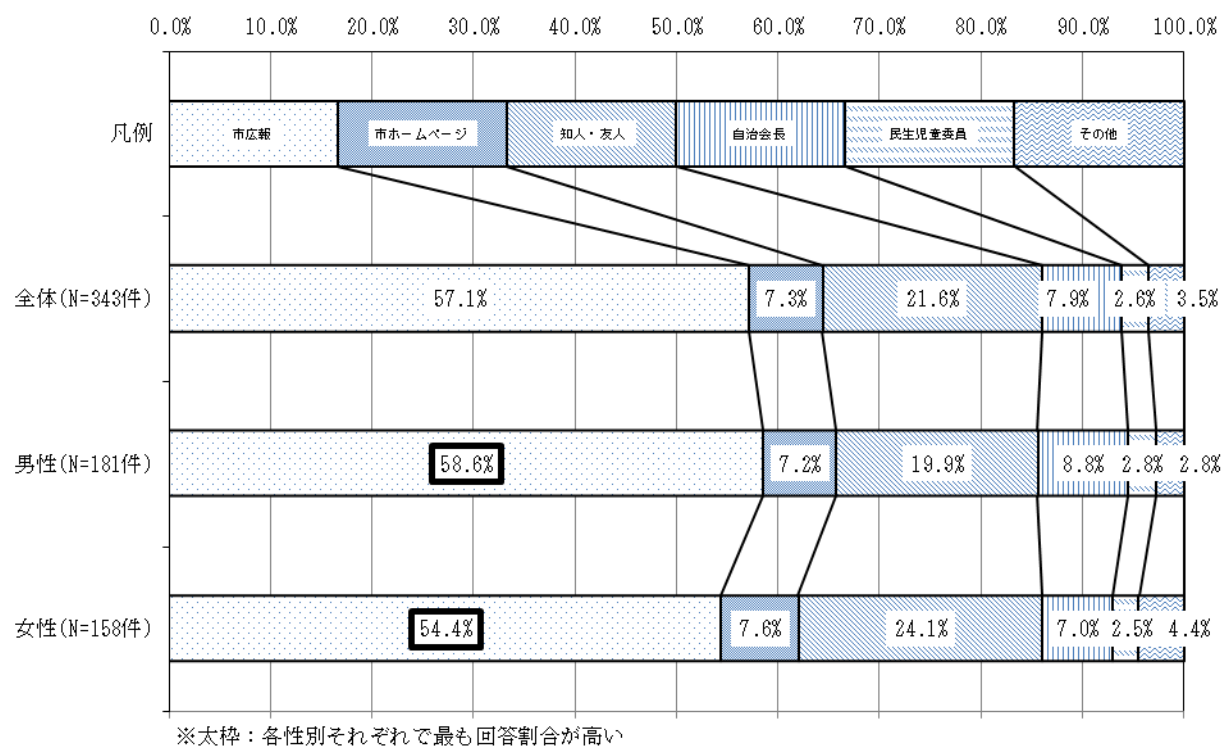
◆「その他」意見（抜粋）

- ・ニュースで見た。（女性／30代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・町の支援員（相談員）から説明があった。（女性／40代／太田／専業主婦・主夫／独身）
- ・仕事場で知った。（男性／60代／大曲／派遣・契約社員／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「市広報」の回答割合が、男性 58.6%、女性 54.4%と最も高くなっている。

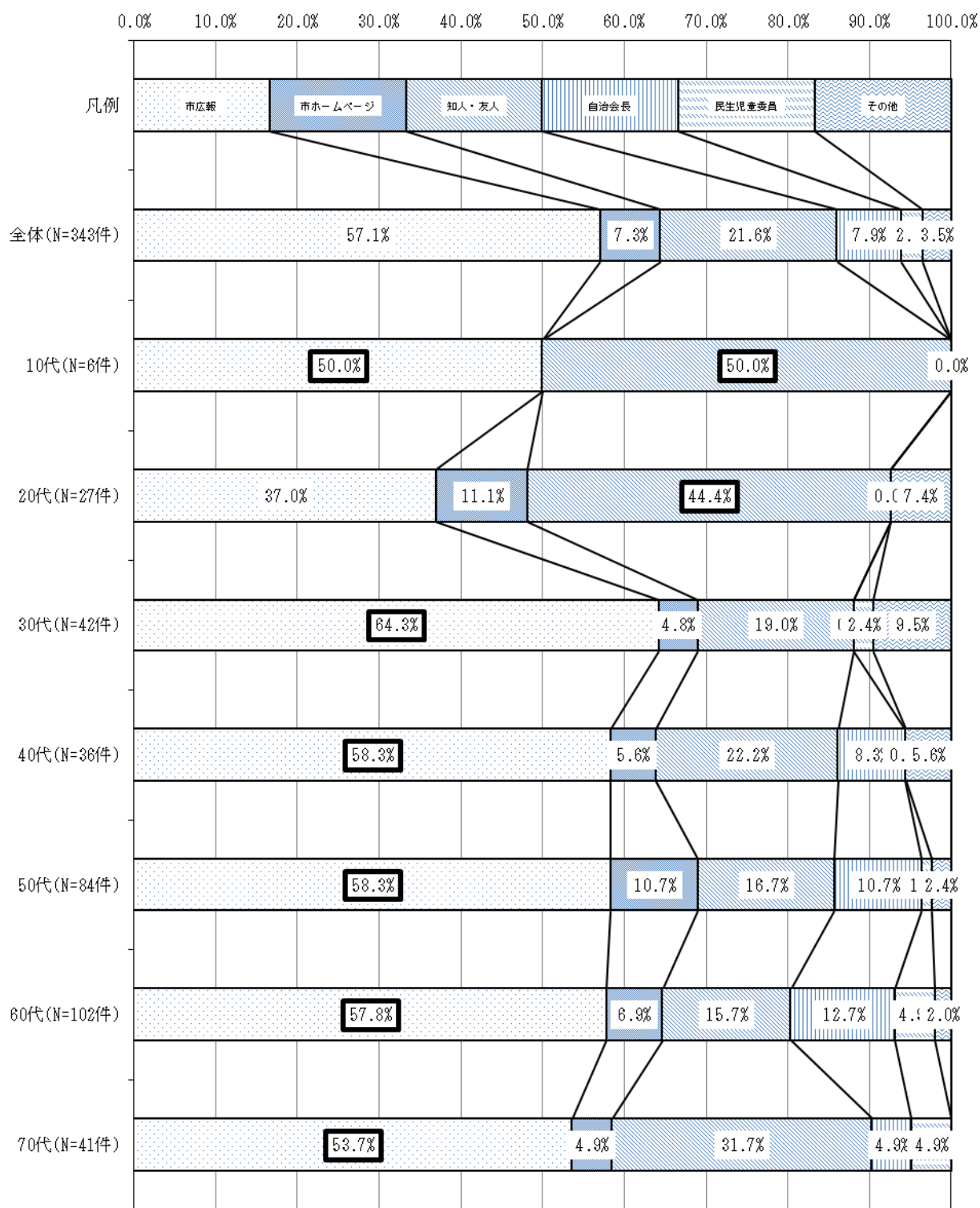
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



【年代別】

○20代を除く全年代において、「市広報」の回答割合が最も高くなっている。

○20代において、「知人・友人」回答割合が44.4%最も高くなっている。

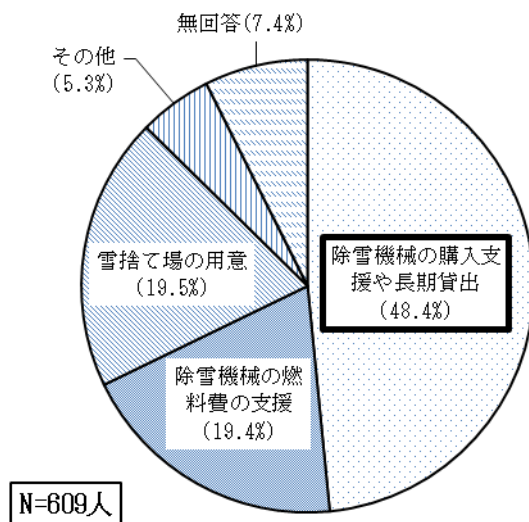


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 今後、この事業に加えて、新たに支援が必要だと思われるものは何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○今後、地域提案型自治会等雪対策モデル事業に加えて、新たに必要な支援に対する要望について、「除雪機械の購入支援や長期貸出」が48.4%と最も回答割合が高く、次いで「雪捨て場の用意」が19.5%となっている。



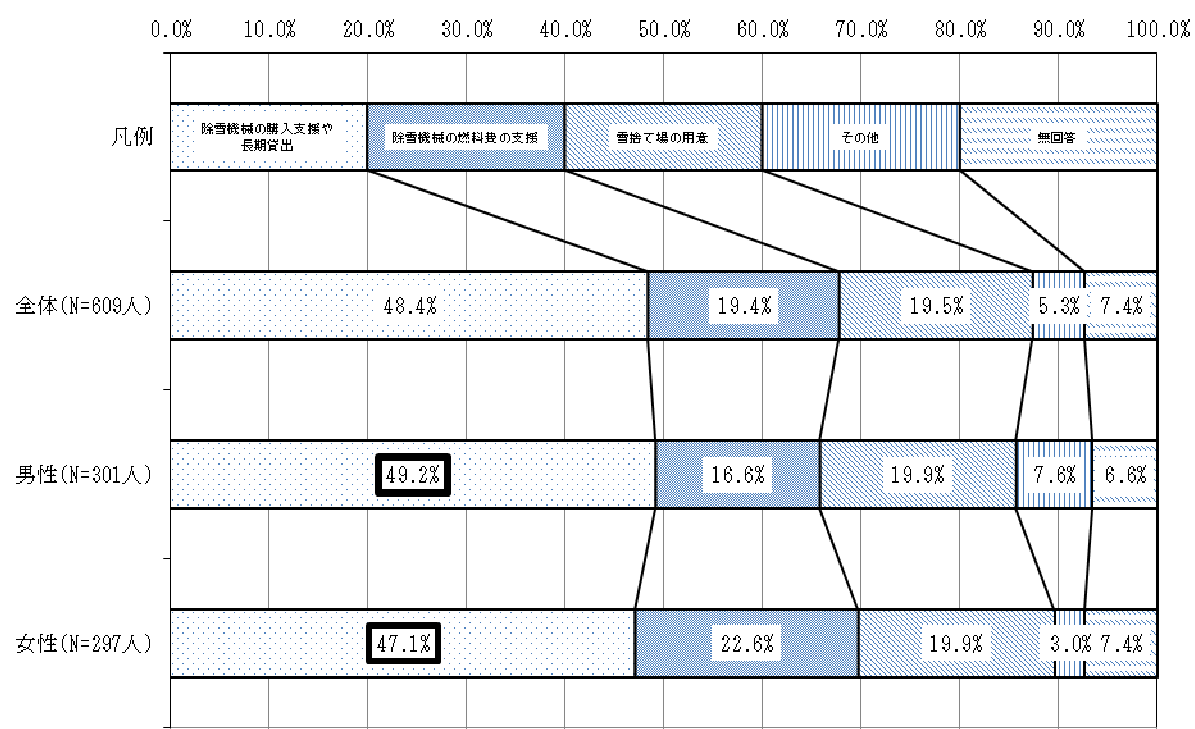
◆「その他」意見（抜粋）

- ・自然エネルギーを利用した、ロードヒーティングが出来る支援（男性／20代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ・より消雪に特化した事業の充実。（女性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・通学路は早めに除雪してほしい。（女性／30代／西仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・成果はあるのか疑問。（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）
- ・時間指定なく排雪できる体制の整備。（男性／50代／無回答／正規社員・職員／既婚）
- ・消雪設備支援金の増額。（男性／70代／大曲／無職／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「除雪機械の購入支援や長期貸出」の回答割合が、男性 49.2%、女性 47.1%と最も高くなっている。

○女性が男性より「除雪機械の燃料費の支援」の回答割合が高く、女性が 22.6%で男性よりも 6.0 ポイント高くなっている。

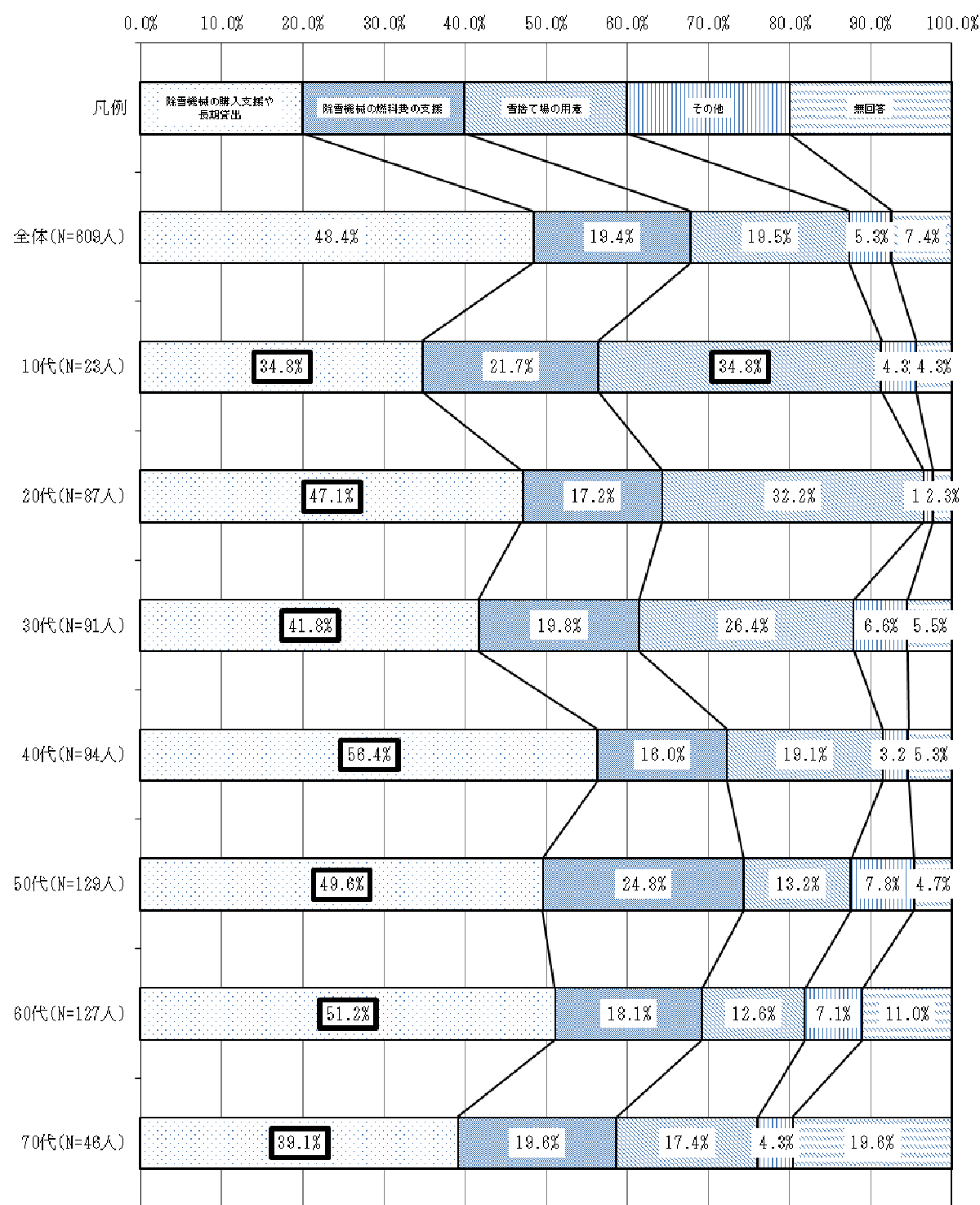


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「除雪機械の購入支援や長期貸出」の回答割合が最も高くなっている。

○10代から30代において、「雪捨て場の用意」の回答割合が高くなっている。



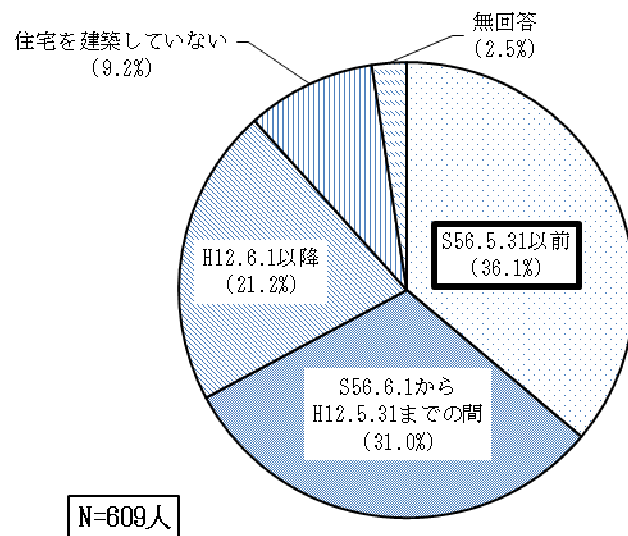
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.9 「住宅リフォーム支援事業」について

問1 国では、昭和56年6月1日以降に建築された建物は耐震性があるとしています。しかし、平成12年6月に耐震基準に新たに3つの項目が追加されたことにより、昭和56年6月1日から平成12年5月31日までの間に建築された建物でも耐震基準を満たさない場合があります。あなたのお住まいの住宅はいつ建設された建物ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

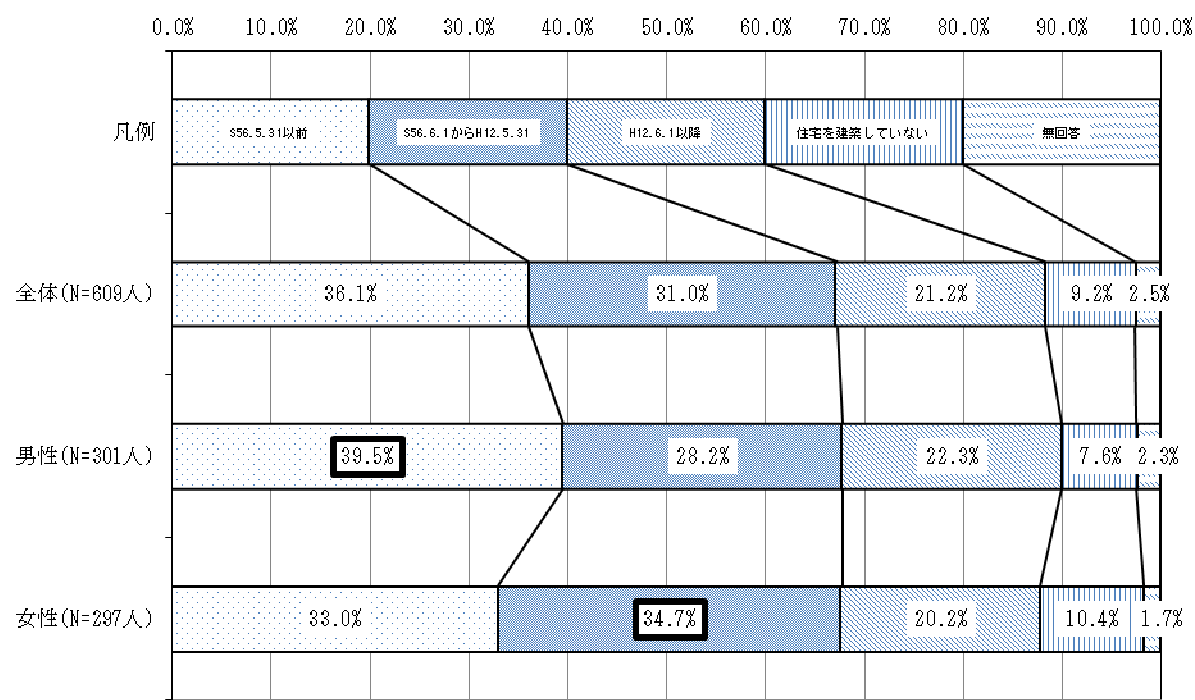
○住宅を建設した時期について、「昭和56年5月31日以前」が36.1%と最も回答割合が高く、次いで、「昭和56年6月1日から平成12年5月31日までの間」が31.0%となっている。



【性別】

○男性において、「昭和 56 年 5 月 31 日以前」の回答割合が、39.5%と最も高くなっている。

○女性において、「昭和 56 年 6 月 1 日から平成 12 年 5 月 31 日までの間」の回答割合が、34.7%と最も高くなっている。



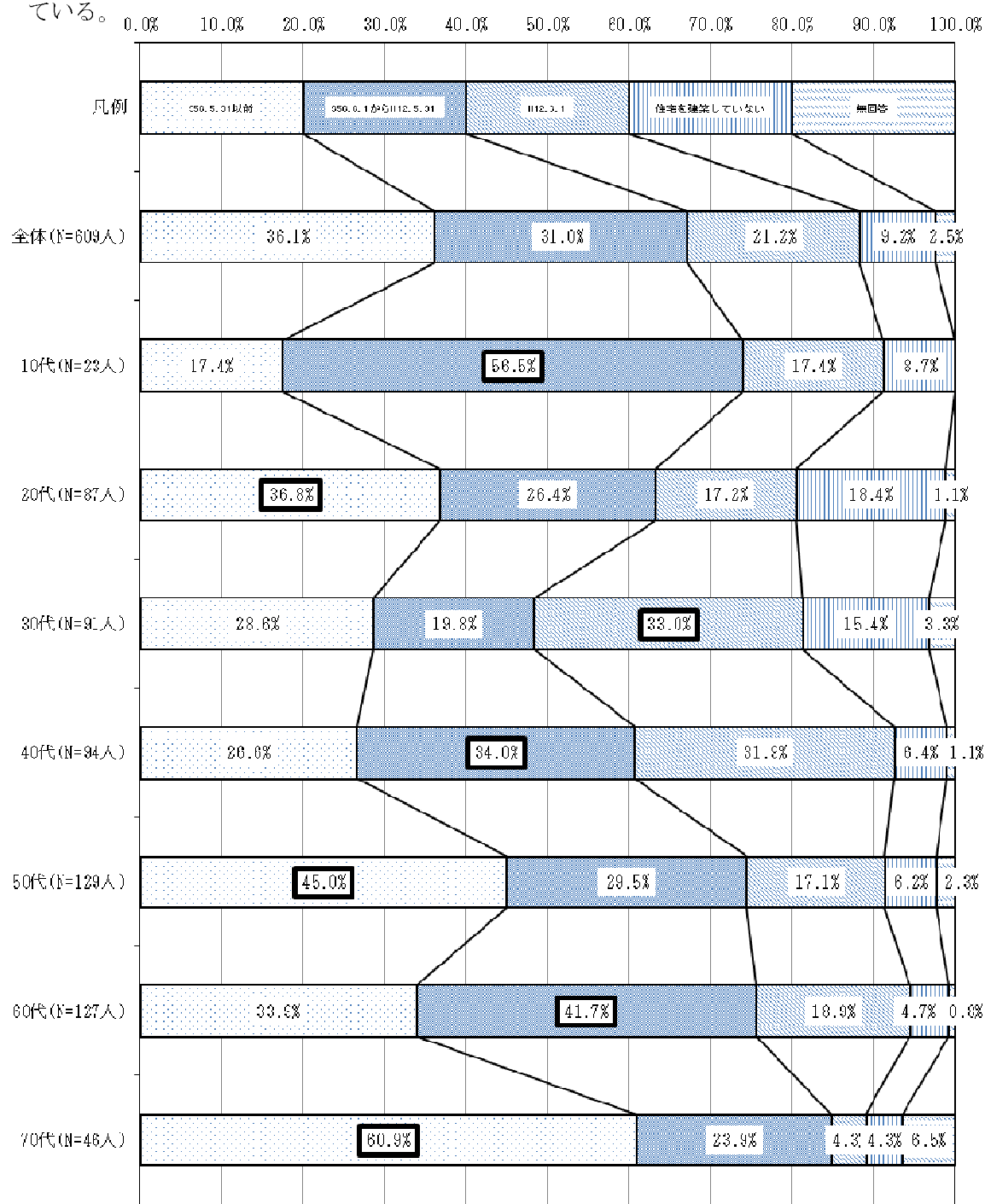
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10代において、「昭和56年6月1日から平成12年5月31日までの間」の回答割合が56.5%と他の年代に比べて高くなっている。

○70代において、「昭和56年5月31日以前」の回答割合が60.9%と他の年代に比べて高くなっている。

○30代から70代において、年代が高くなるにつれて「平成12年6月1日以降」の回答割合が低くなっている。

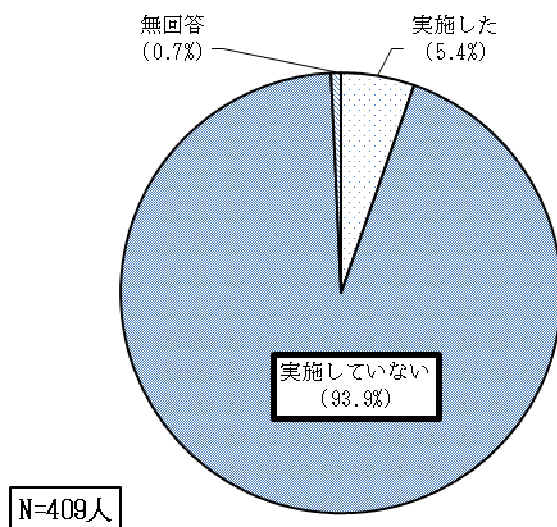


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問2 問1で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅は耐震診断または耐震改修を実施しましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○住宅の耐震診断または耐震改修の実施状況について、「実施していない」が93.9%と最も回答割合が高く、次いで「実施した」が5.4%となっている。

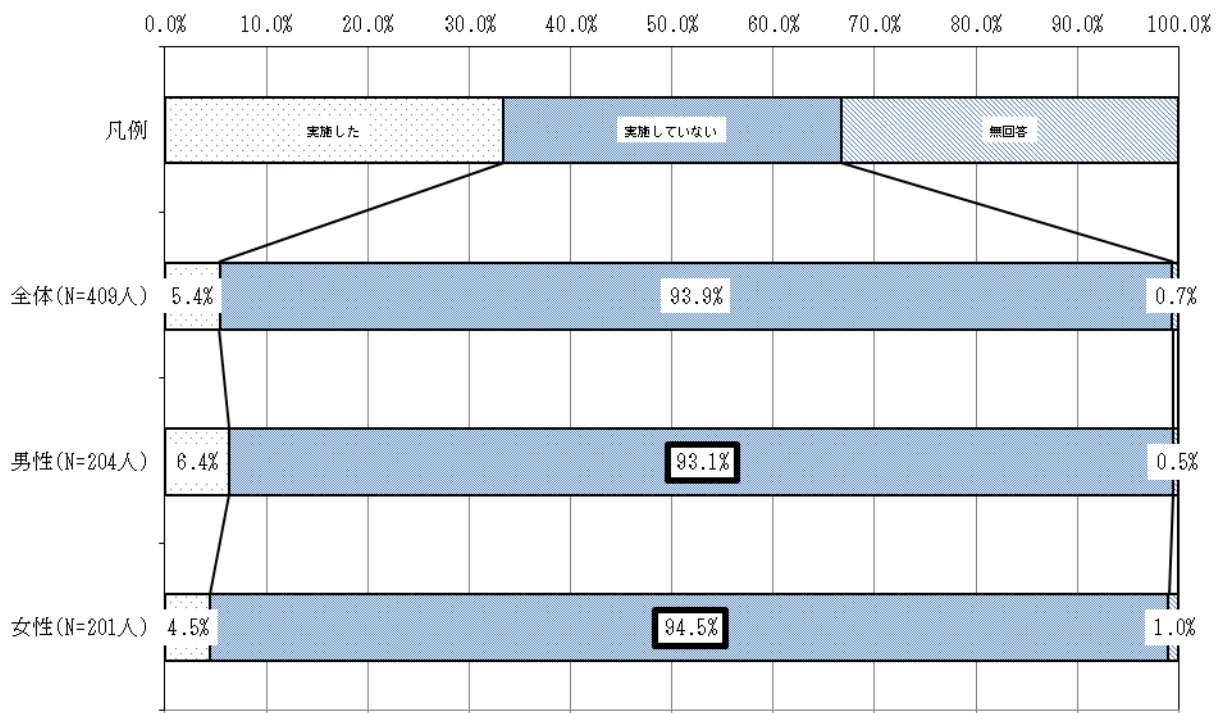


※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでいる方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「実施していない」の回答割合が、男性 93.1%、女性 94.5%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

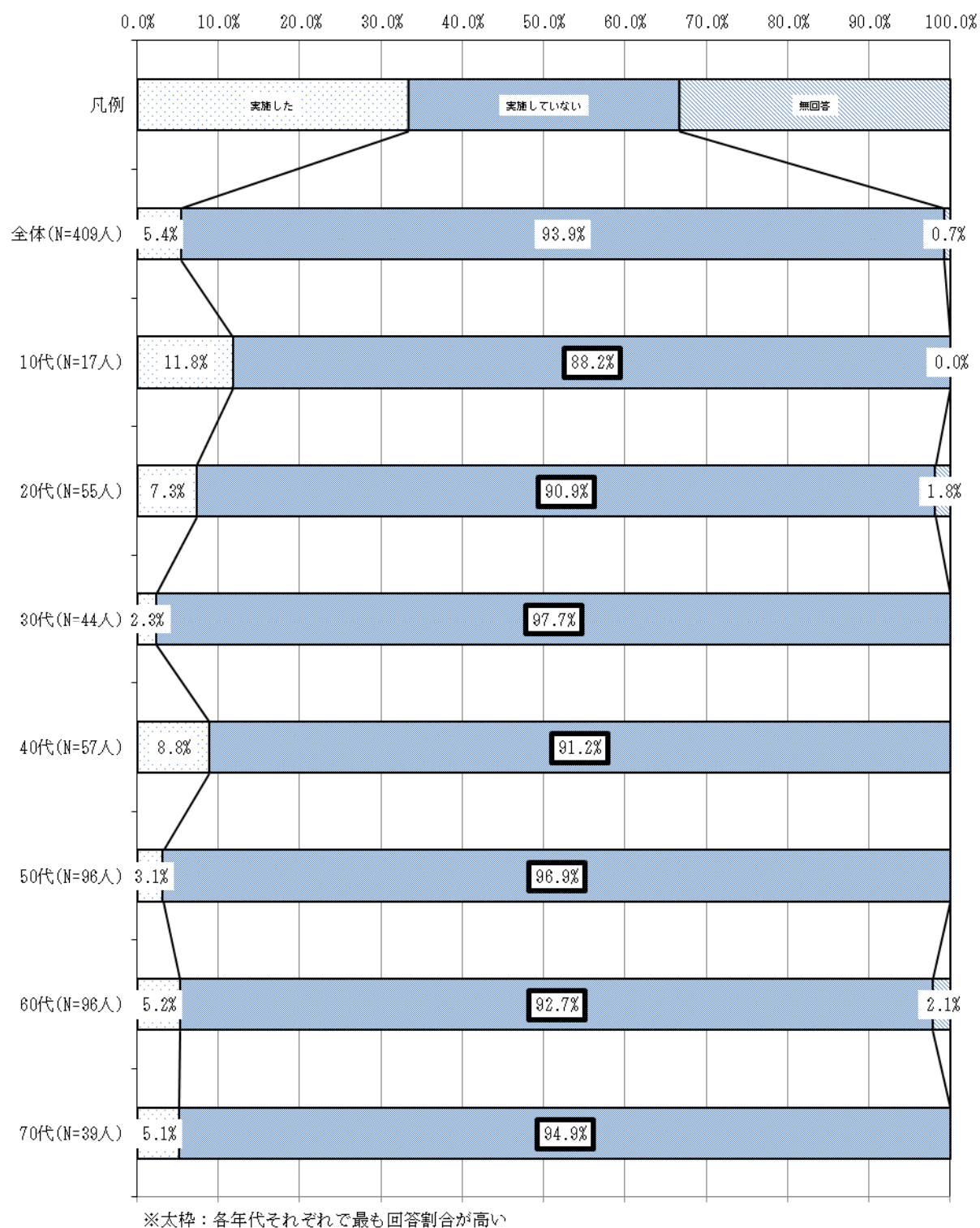


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「実施していない」の回答割合が最も高くなっている。

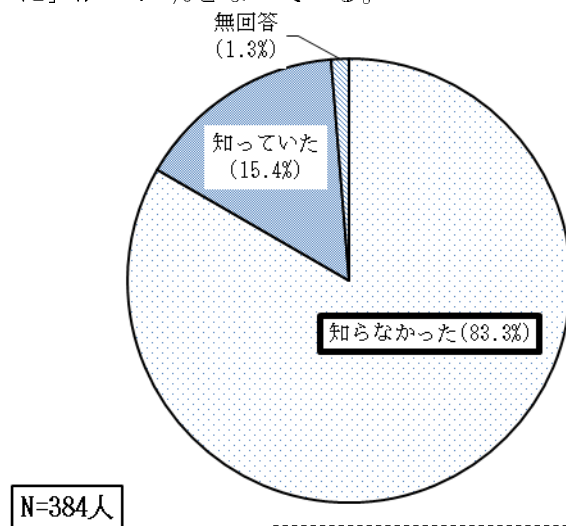
○全体的に、年代で大きな差は見られない。



問3 問2で「2」に○印をつけた方にお聞きします。市が実施している「住宅耐震化支援」について以前から知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○市が実施している住宅耐震化支援の認知度について、「知らなかった」が83.3%と回答割合が最も高く、次いで「知っていた」が15.4%となっている。

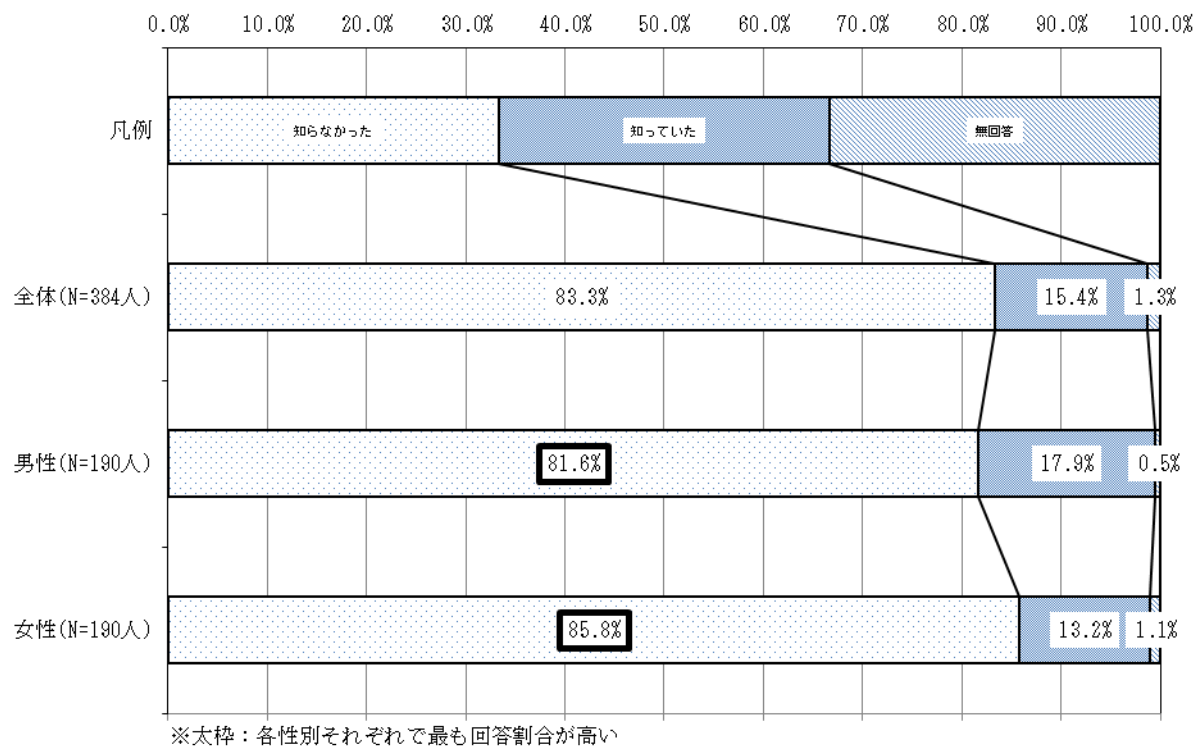


※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、かつ、診断または改修をしていない方が選択

【性別】

○男女どちらにおいても、「知らなかった」の回答割合が、男性81.6%、女性85.8%と最も高くなっている。

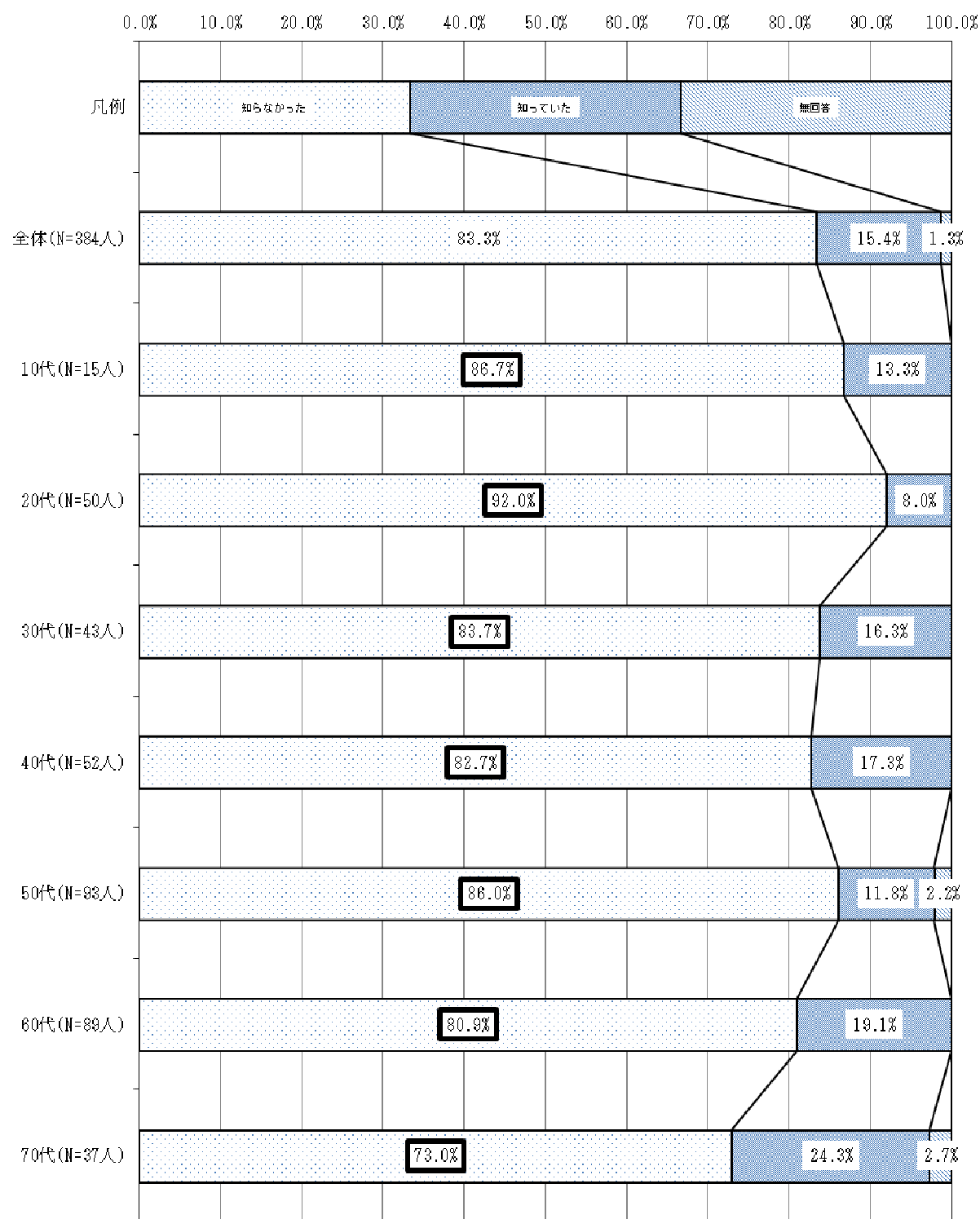
○全体的に、男女で大きな差は見られない。



【年代別】

○全年代において、「知らなかった」の回答割合が最も高くなっている。

○60代、70代において、「知っていた」の回答割合が、60代19.1%、70代24.3%と他の年代に比べて高くなっている。

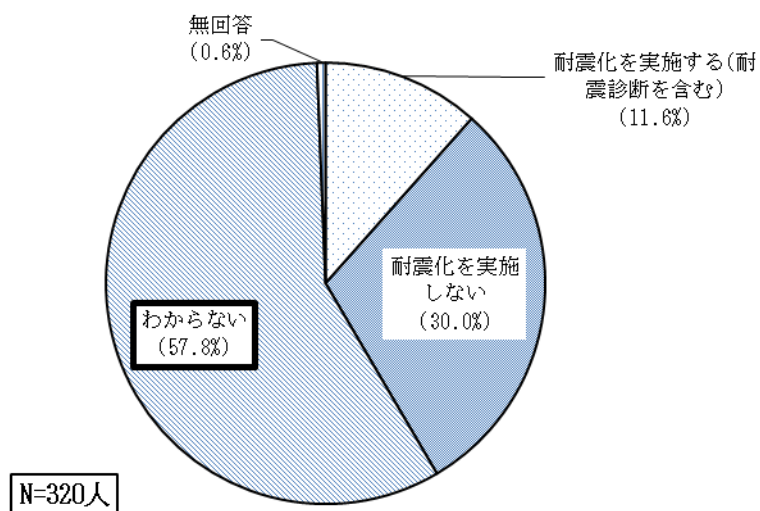


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 問3で「1」に○印をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことで、今後、お住まいの住宅の耐震化をどのようにお考えですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

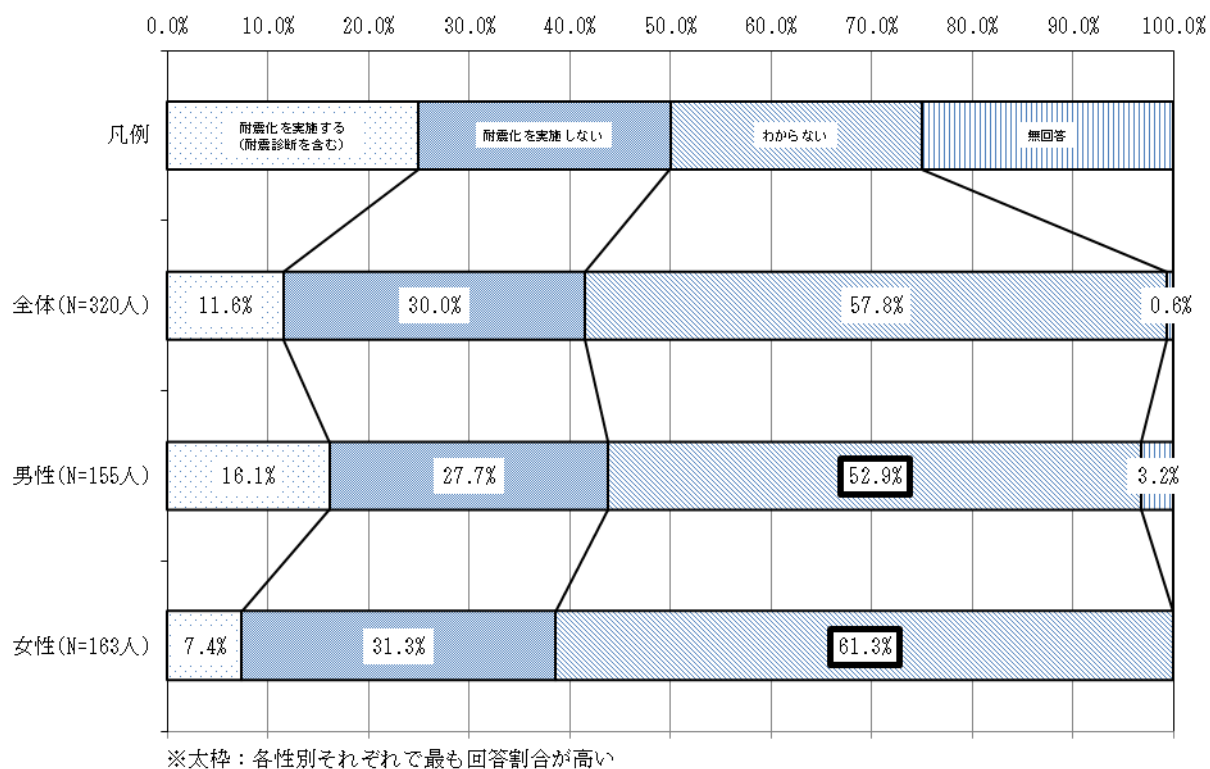
○今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことによる、今後の住宅の耐震化に対する考えについて、「わからない」が57.8%と回答割合が最も高く、次いで「耐震化は実施しない」が30.0%となっている。



※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、なおかつ、診断または改修を実施していない方の中で、今回の調査により市が実施する支援事業を初めて知った方が選択

【性別】

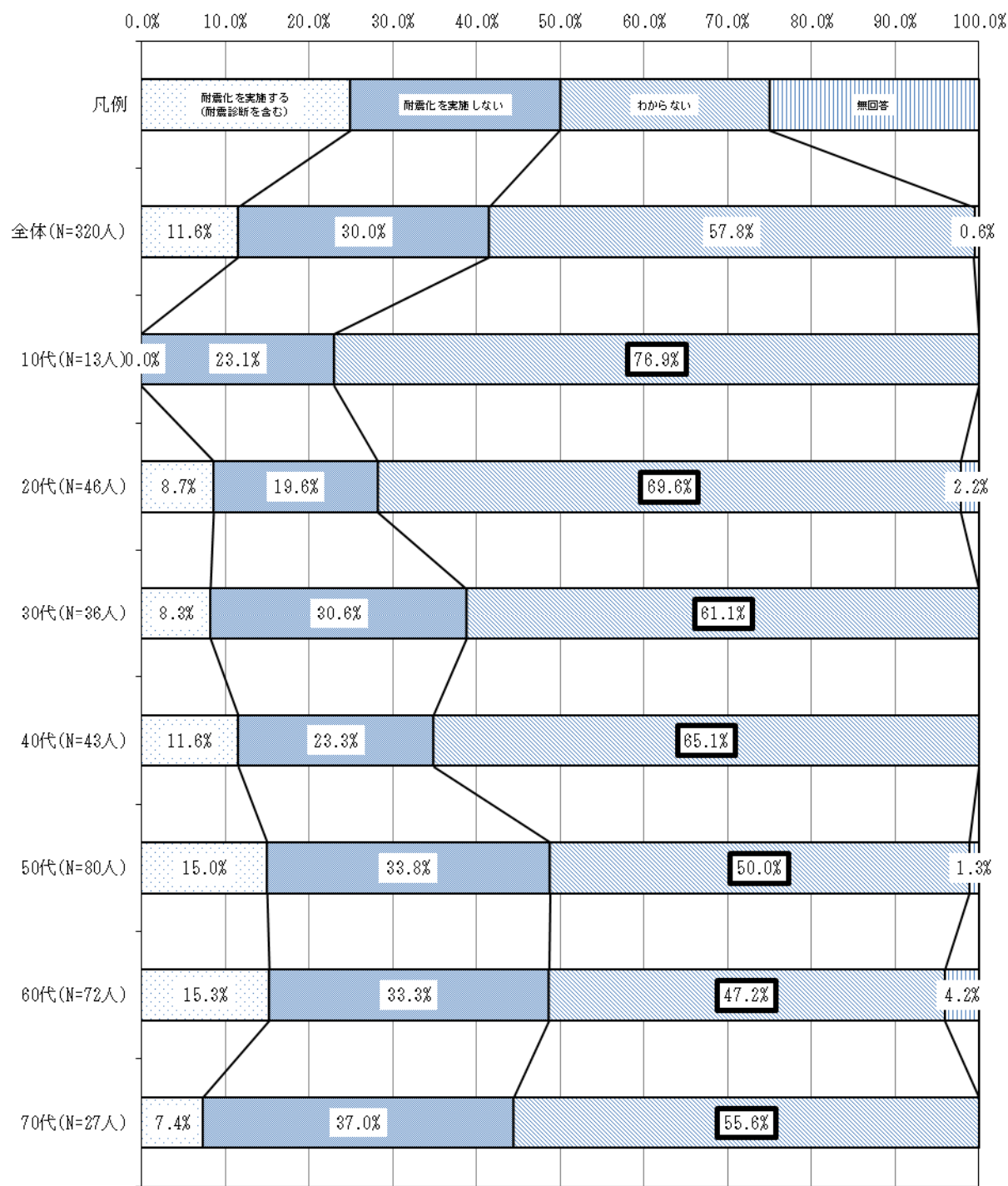
- 男女どちらにおいても、「わからない」の回答割合が、男性 52.9%、61.3%と最も高くなっている。
- 男性が女性より「耐震化を実施する（耐震診断を含む）」の回答割合が高く、男性が 16.1%で女性の 7.4%より、8.7 ポイント高くなっている。



【年代別】

○全年代において、「わからない」の回答割合が最も高くなっている。

○30代、50代から70代において、「耐震化を実施しない」の回答割合が他の年代に比べて高く、30.0%以上となっている。

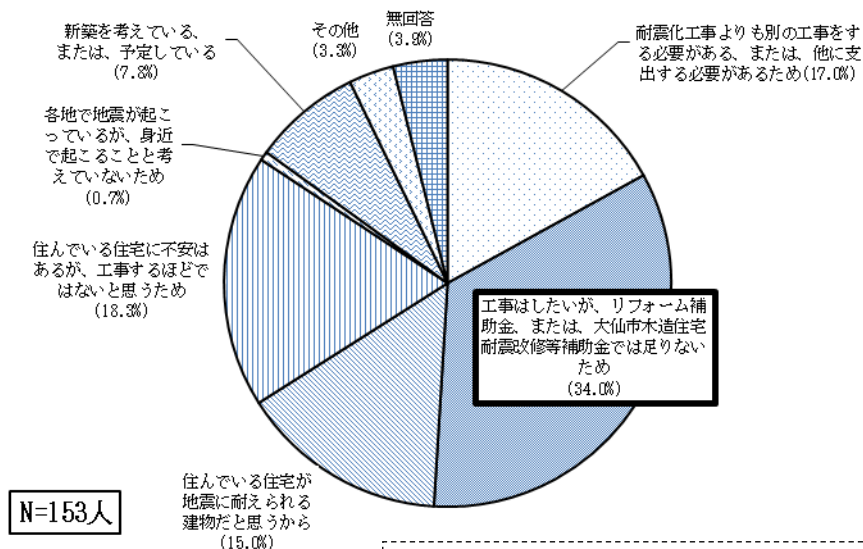


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 問3で「2」、問4で「2」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○耐震診断または耐震改修を実施しない理由について、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」が34.0%と最も回答割合が高く、次いで「住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため」が18.3%となっている。



※耐震診断または耐震改修が必要な住宅に住んでおり、かつ診断、改修を実施していない方の中で、①市が実施する支援事業を知っていた方と、②支援事業を初めて知ったが耐震化を実施しない方が回答

【性別】

- 男女どちらにおいても、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」の回答割合が、男性 33.8%、女性 34.2%と最も高くなっている。
- 男性が女性より「住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから」の回答割合が高く、男性が 19.5%で女性よりも 9.0%高くなっている。

【年代別】

- 全年代において、「工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため」の回答割合が最も高くなっている。
- 40代、70代において、「住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため」が、40代 26.3%、70代 31.6%と他の年代に比べて高くなっている。

	有効回答数（N）	要があるため	耐震化工事よりも別の工事を要する必要がある、または、他に支出する必要があるため	工事、または大仙市リフォーム補助金、または大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため	住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから	住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため、工事する	各地で地震が起こっているが、身近で起こることと考えていないため	新築を考えている、または、予定している	その他	無回答
全体	153人	17.0%	34.0%	15.0%	18.3%	0.7%	7.8%	3.3%	3.9%	
《性別》										
男性	77人	15.6%	33.8%	19.5%	16.9%	1.3%	6.5%	2.6%	3.9%	
女性	76人	18.4%	34.2%	10.5%	19.7%	0.0%	9.2%	3.9%	3.9%	
《年代別》										
10代	5人	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	
20代	13人	15.4%	38.5%	7.7%	7.7%	0.0%	23.1%	0.0%	7.7%	
30代	18人	33.3%	38.9%	5.6%	11.1%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	
40代	19人	10.5%	36.8%	15.8%	26.3%	0.0%	5.3%	5.3%	0.0%	
50代	38人	23.7%	26.3%	18.4%	15.8%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	
60代	41人	9.8%	39.0%	14.6%	19.5%	0.0%	4.9%	7.3%	4.9%	
70代	19人	10.5%	31.6%	21.1%	31.6%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	

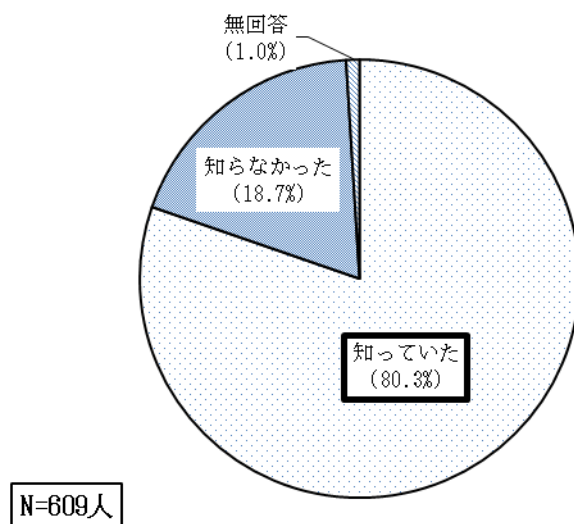
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.10 「コミュニティFM関連事業」について

問1 FMはなびを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

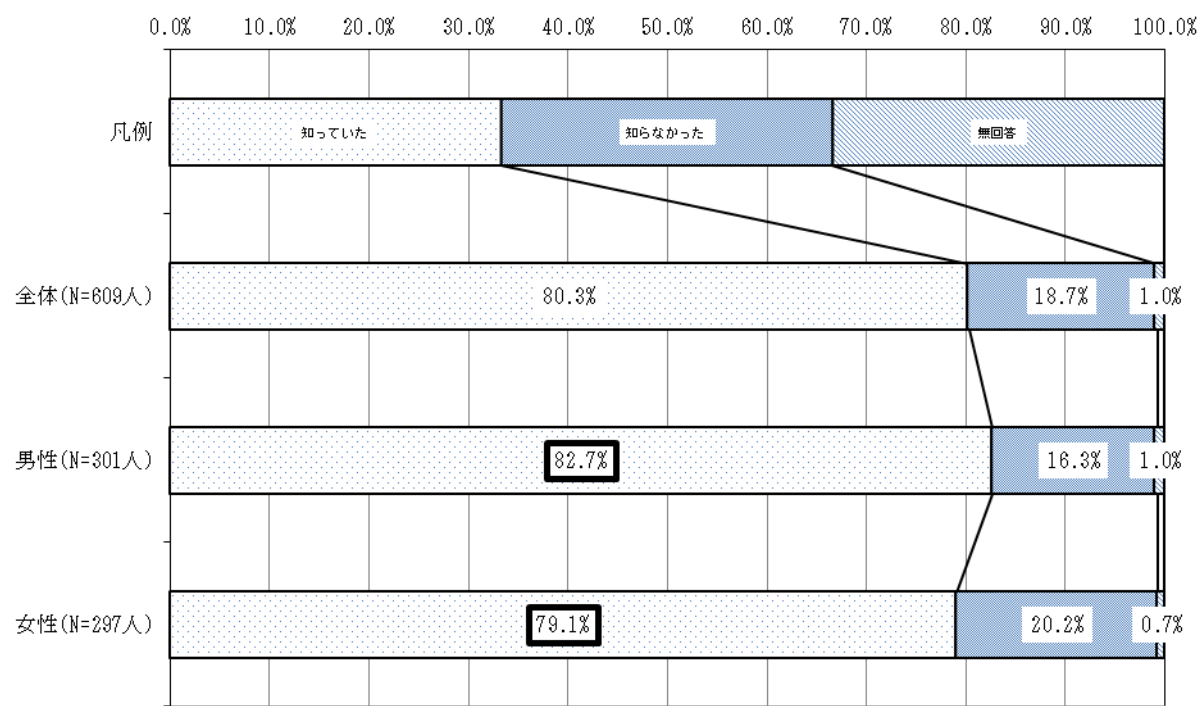
○FMはなびの認知度について、「知っていた」が80.3%と最も回答割合が高く、次いで「知らなかった」が18.7%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「知っていた」の回答割合が、男性 82.7%、女性 79.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

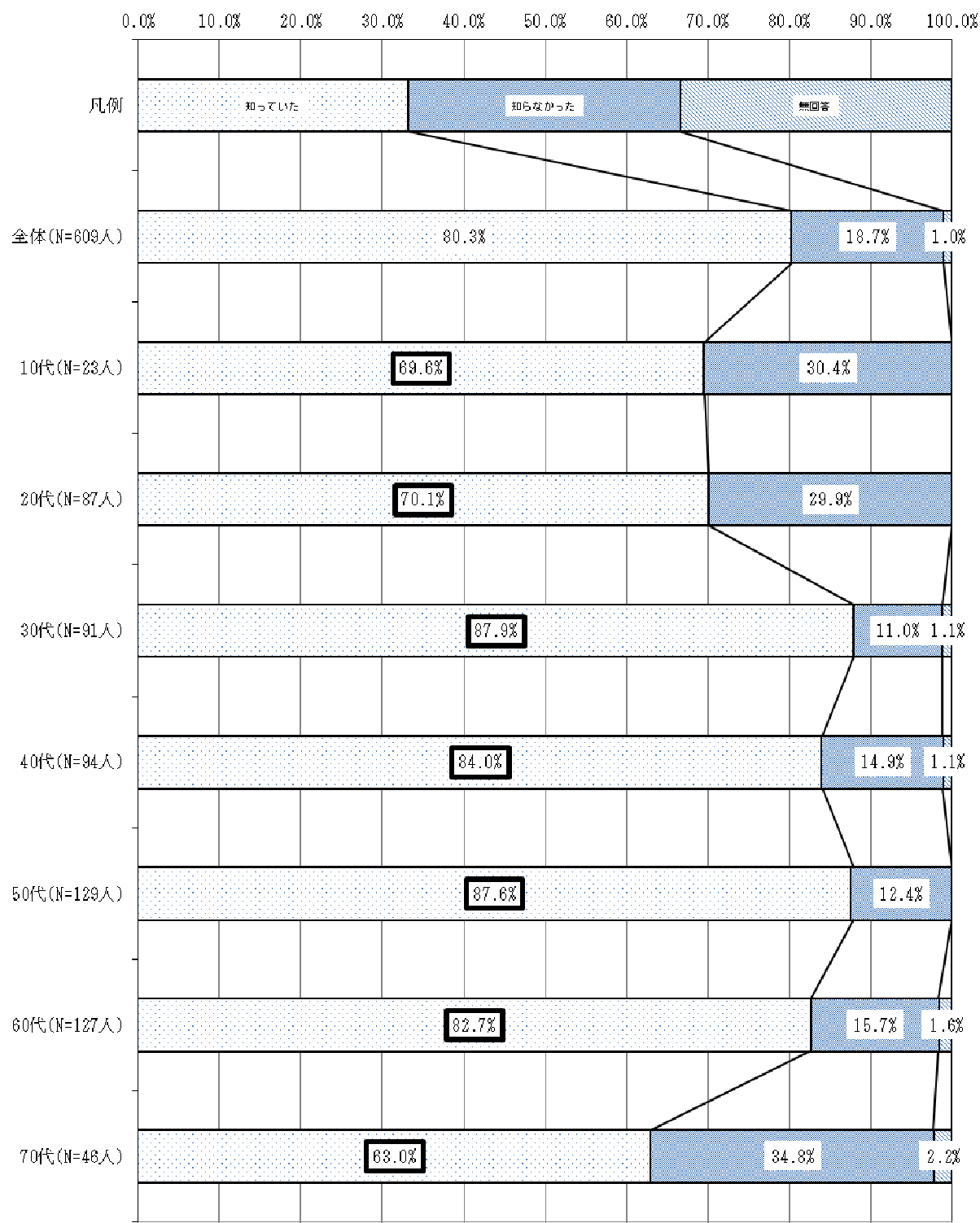


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「知っていた」の回答割合が最も高くなっている。

○30代から60代において、「知っていた」の回答割合が、30代87.9%、40代84.0%、50代87.6%、60代82.7%と他の年代に比べて高くなっている。

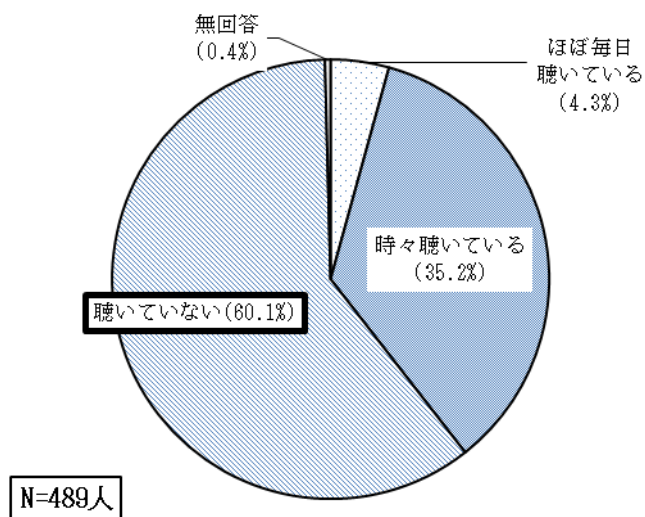


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問2 問1で「1」に○印をつけた方にお聞きします。FMはなびをどの程度聴いていますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

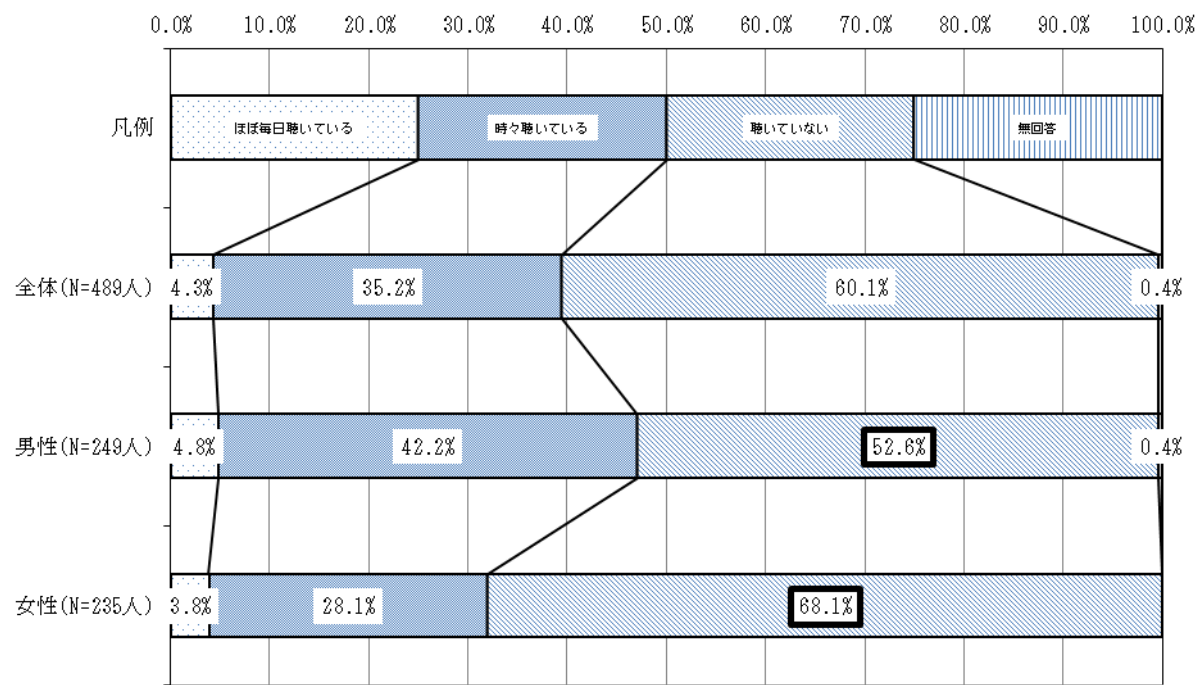
【全体】

○FMはなびの聴取頻度について、「聞いていない」が60.1%と最も回答割合が高く、次いで「時々聴いている」が35.2%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「聴いていない」の回答割合が、男性 52.6%、女性 68.1%と最も高くなっている。



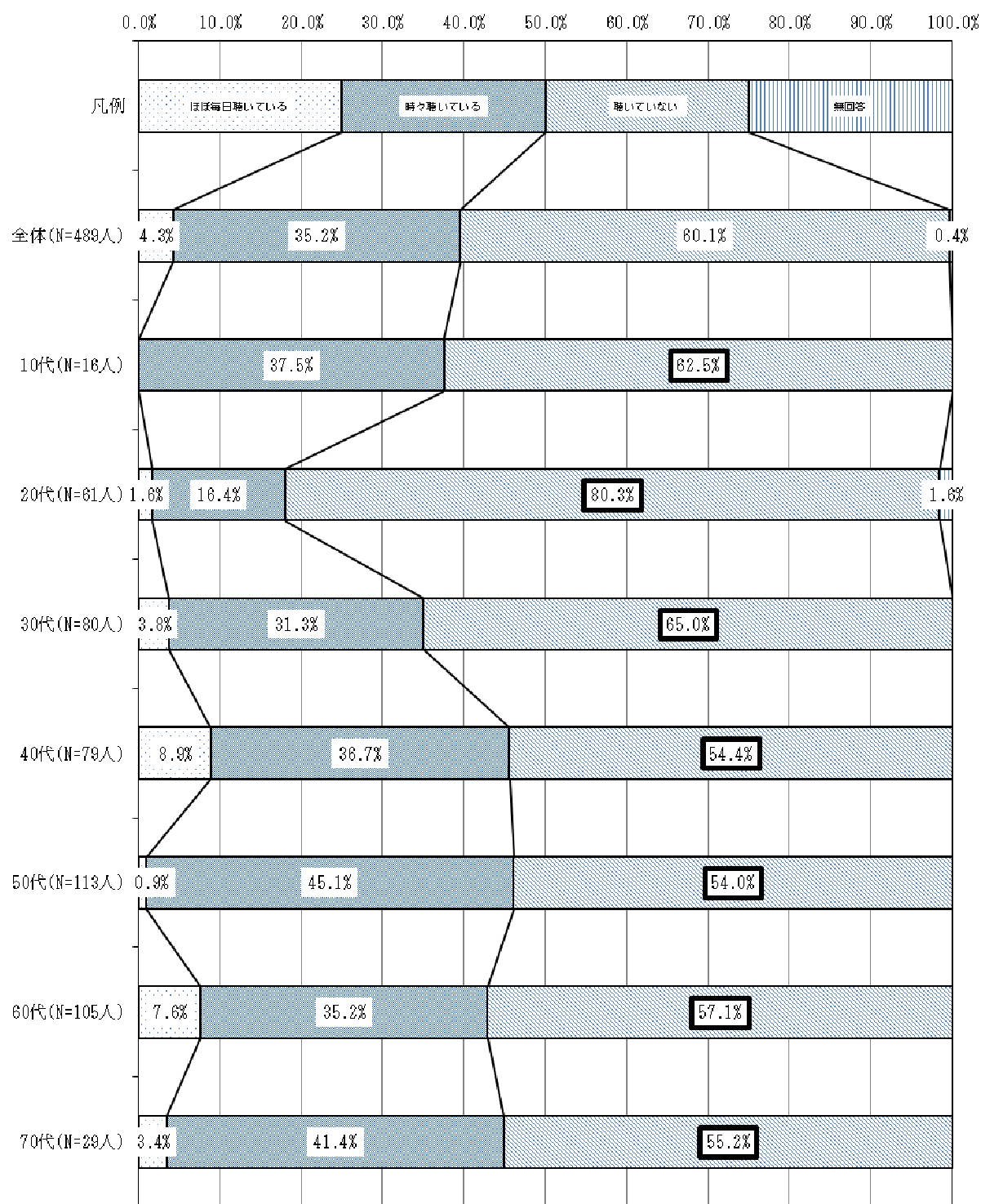
※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「聴いていない」の回答割合が最も高くなっている。

○20代において、「聴いていない」が80.3%と他の年代に比べて回答割合が高くなっている。

○50代、70代において、「時々聴いている」の回答割合が、50代45.1%、70代41.4%と他の年代に比べて高くなっている。

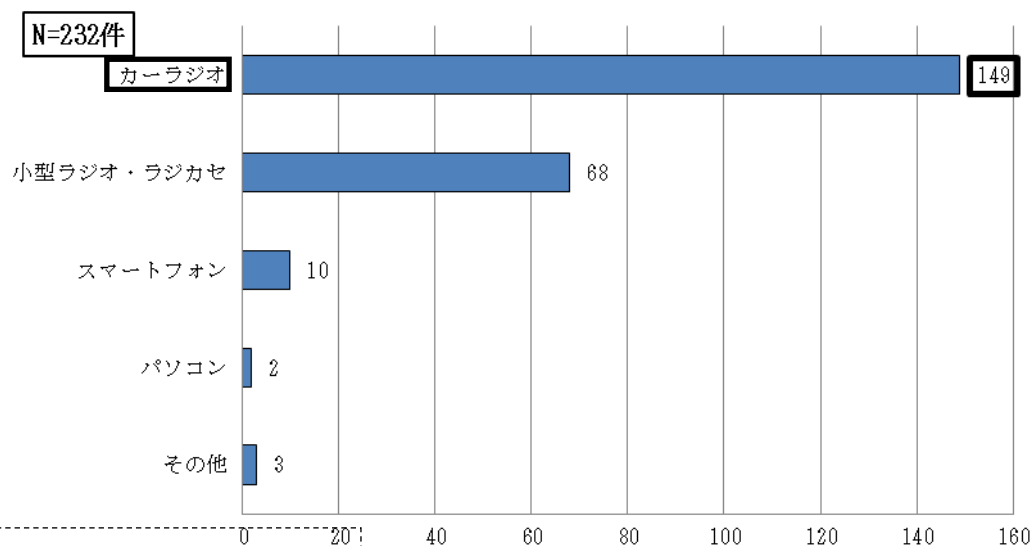


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 FMはなびをどの機器で聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○FMはなびを聴く際に使用する機器について、「カーラジオ」が149件と最も回答数が多く、次いで「小型ラジオ・ラジカセ」が68件となっている。



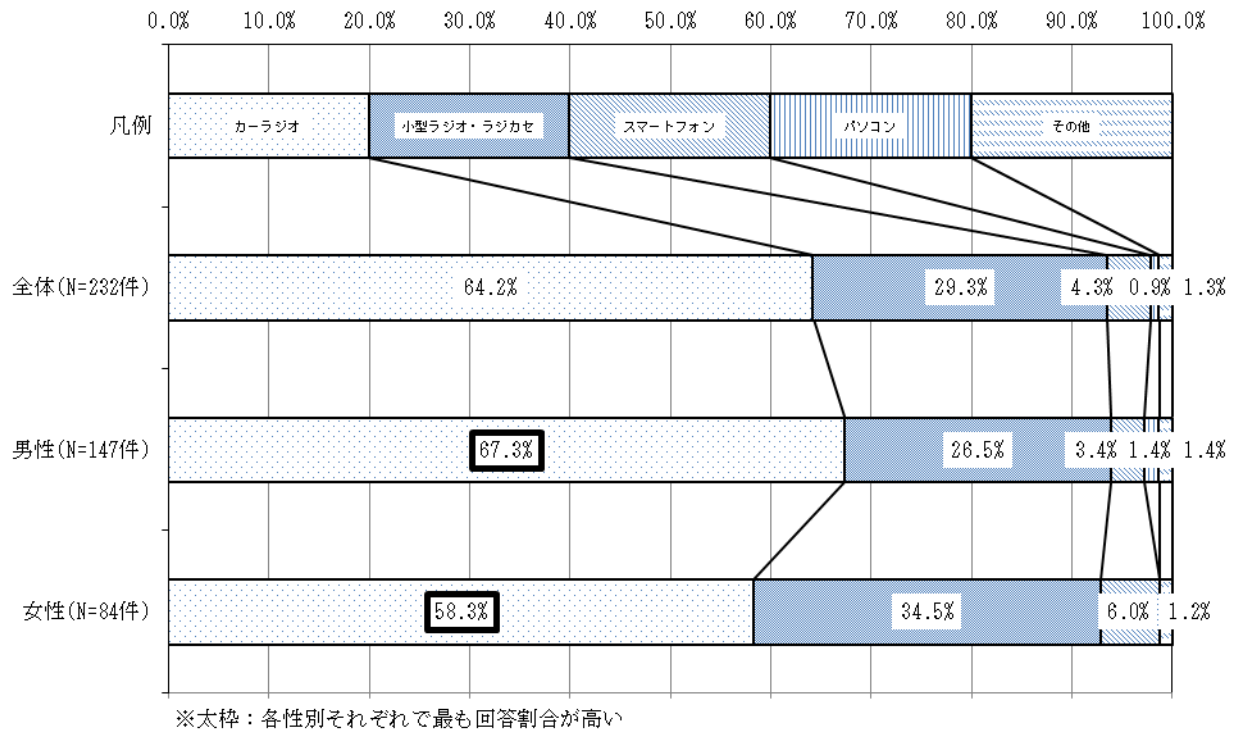
※FMはなびを聴いている方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

・音楽プレーヤー。（男性／10代／大曲／無職／独身）

【性別】

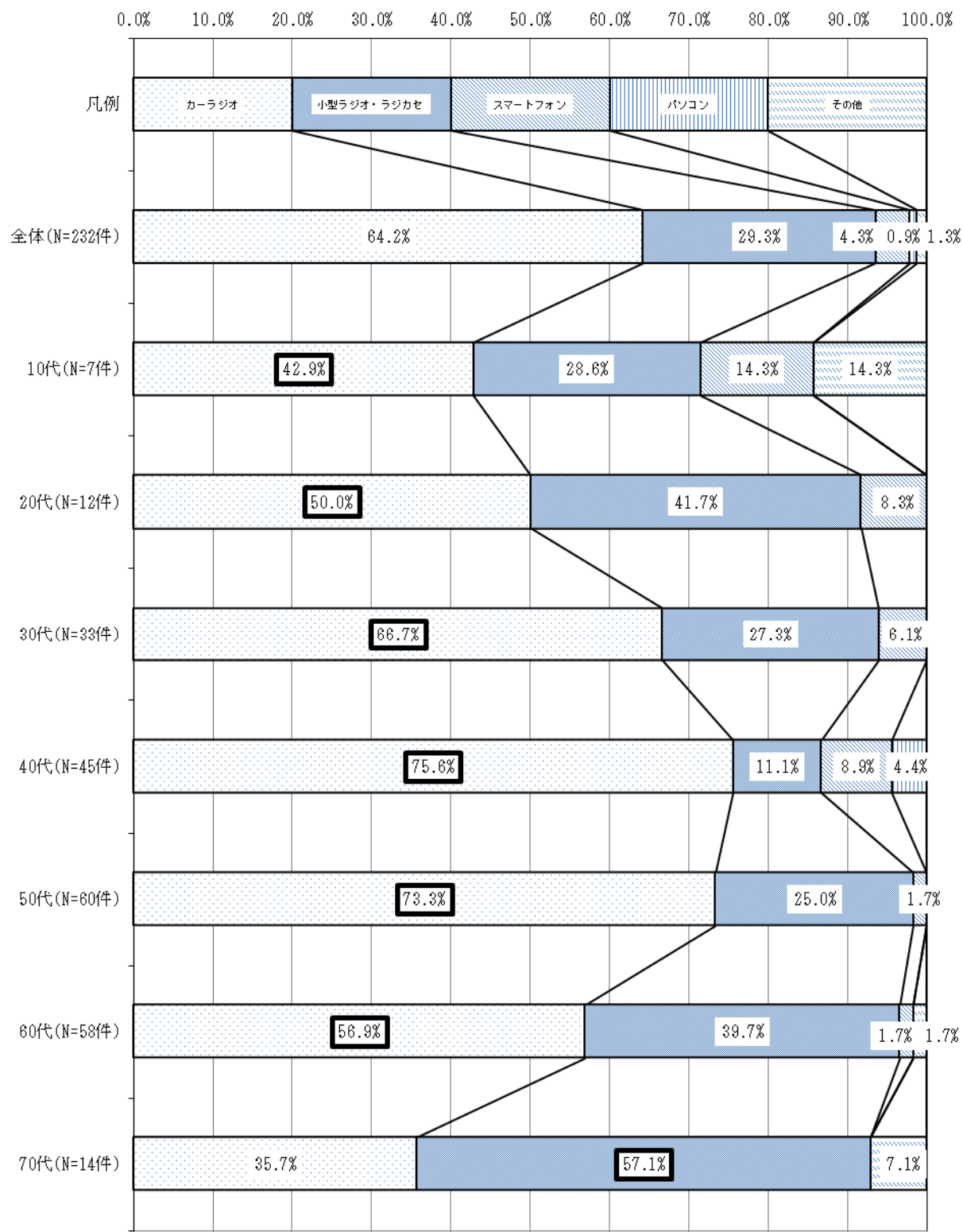
- 男女どちらにおいても、「カーラジオ」の回答割合が、男性 67.3%、女性 58.3%と最も高くなっている。
- 「カーラジオ」は女性より男性の回答割合が高いが、「小型ラジオ・ラジカセ」は男性より女性の回答割合が高い。



【年代別】

○70代を除く全年代において、「カーラジオ」の回答割合が最も高くなっている。

○70代において、「小型ラジオ・ラジカセ」の回答割合が57.1%と最も高くなっている。

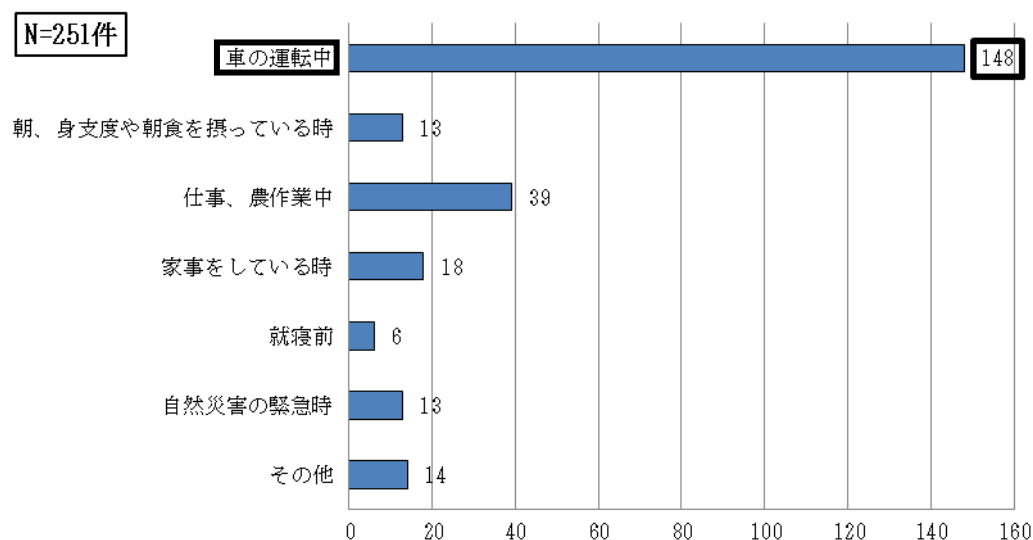


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 FMはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○FMはなびを聴く際の状況について、「車の運転中」が148件と最も回答数が多く、次いで「仕事・農作業中」が39件となっている。



※FMはなびを聴いている方のみ回答

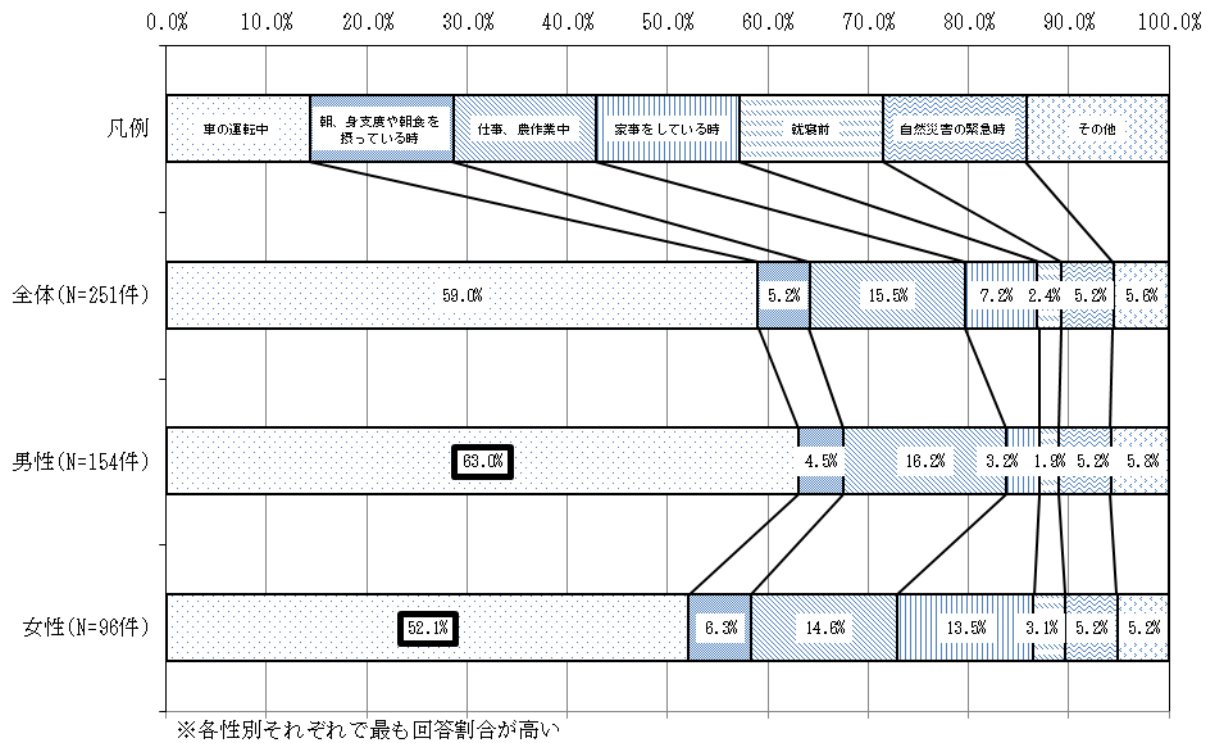
◆「その他」意見（抜粋）

- ・暇な時（男性／10代／大曲／無職／独身）
- ・昼食の時。（男性／20代／南外／自営業主・家族従業者／独身）
- ・大曲の花火の時。（男性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・子どもや知り合いが出る時。（女性／30代／大曲／パート・アルバイト／既婚）
- ・決まっていない。（男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・入院中。（女性／50代／大曲／パート・アルバイト／独身）
- ・趣味の時間。（女性／60代／中仙／専業主婦／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「車の運転中」の回答割合が、男性 63.0%、女性 52.1%と最も高くなっている。

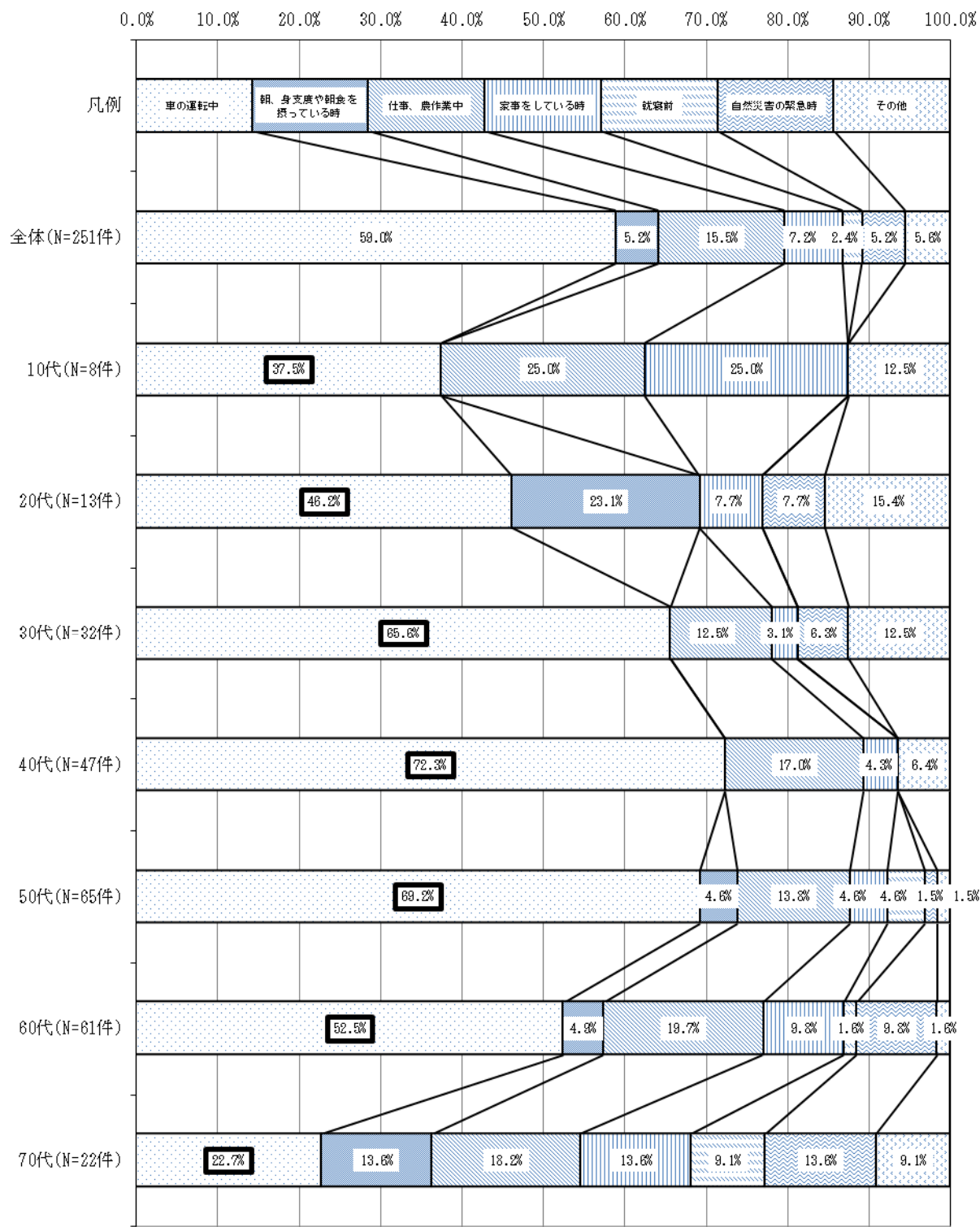
○女性は男性より「家事をしている時」の回答割合が高く、女性が 13.5%で男性よりも 10.3 ポイント高くなっている。



【年代別】

○全年代において、「車の運転中」の回答割合が最も高くなっている。

○30代から50代において、「車の運転中」の回答割合が、30代65.6%、40代72.3%、50代69.2%と他の年代に比べて高くなっている。

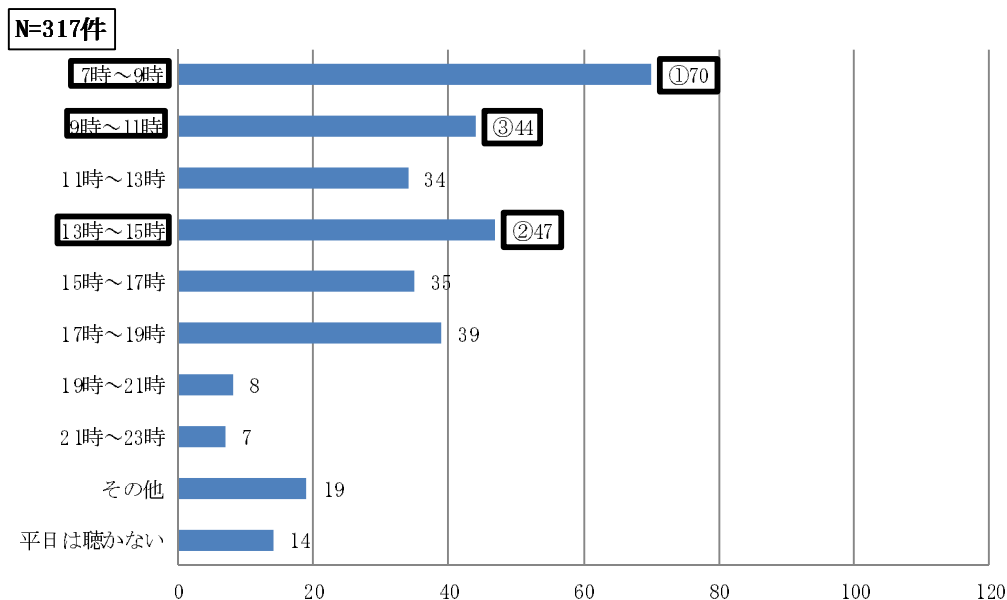


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 平日（月～金）のFMはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○平日のFMはなびを聴く時間帯について、「7時～9時」の回答数が70件と最も回答数が多く、次いで「13時～15時」が47件、「9時～11時」が44件となっている。

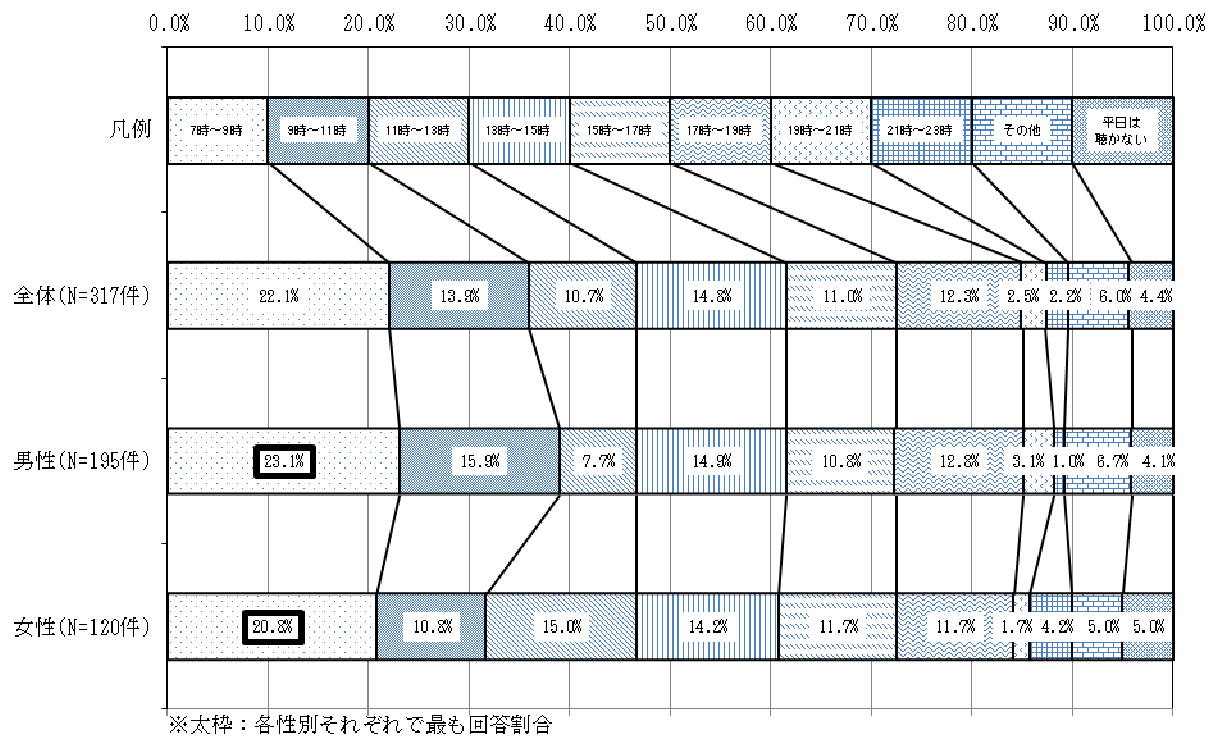


※FMはなびを聴いている方のみ回答

【性別】

○男女どちらにおいても、「7時～9時」の回答割合が、男性 23.1%、女性 20.8%と最も高くなっている。

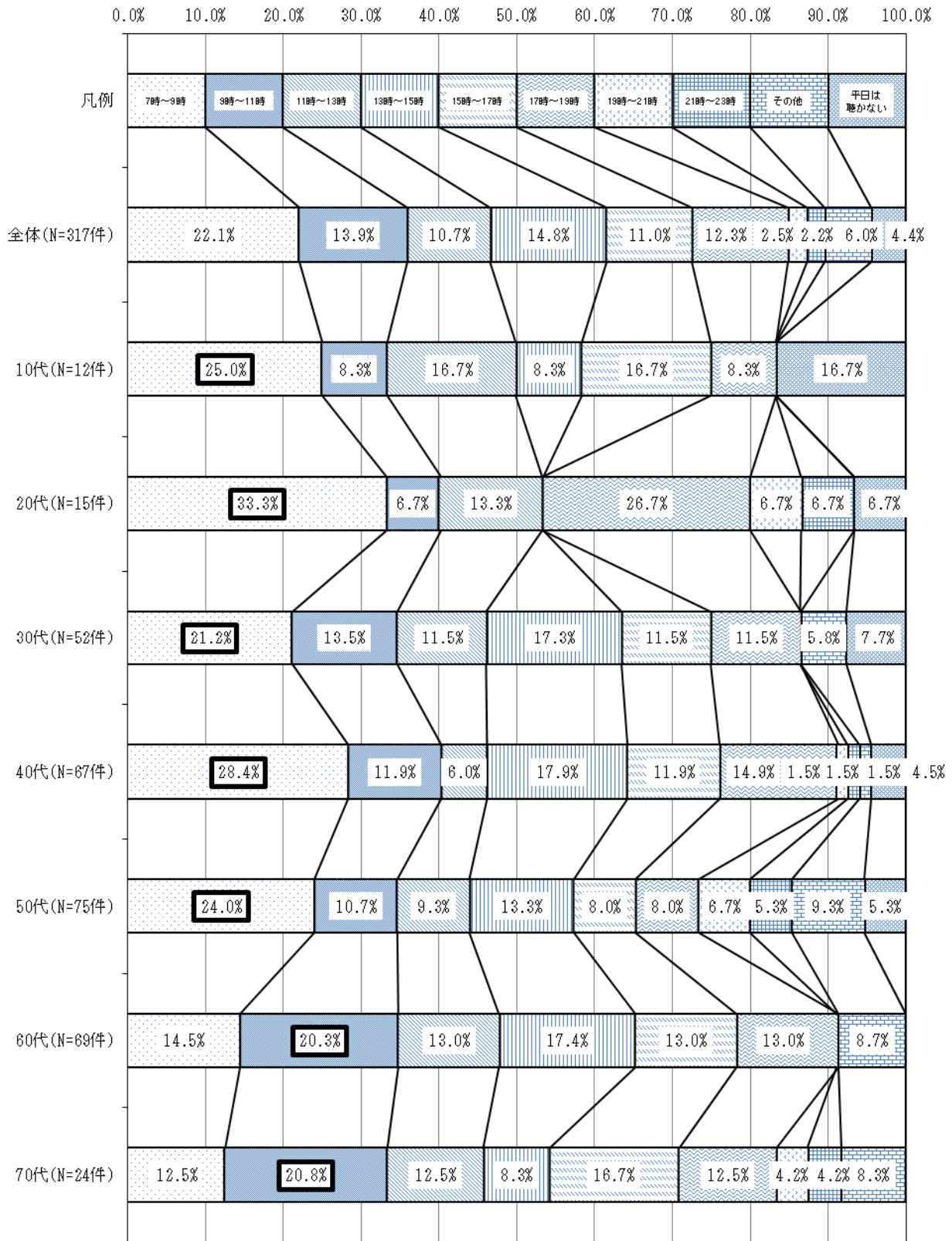
○男性は「7時～11時（「7時から9時」と「9時から11時」を合算）」の回答割合が 39.0%と女性より 7.4 ポイント高く、女性は男性より「11時から15時（「11時から13時」と「13時から15時」を合算）」の回答割合が 29.2%と男性より 6.6 ポイント高くなっている。



【年代別】

○全年代において、「7時～9時」の回答割合が最も高くなっている。

○60代、70代において、「9時～11時」の回答割合が、60代20.3%、70代20.8%と他の年代に比べて高くなっている。

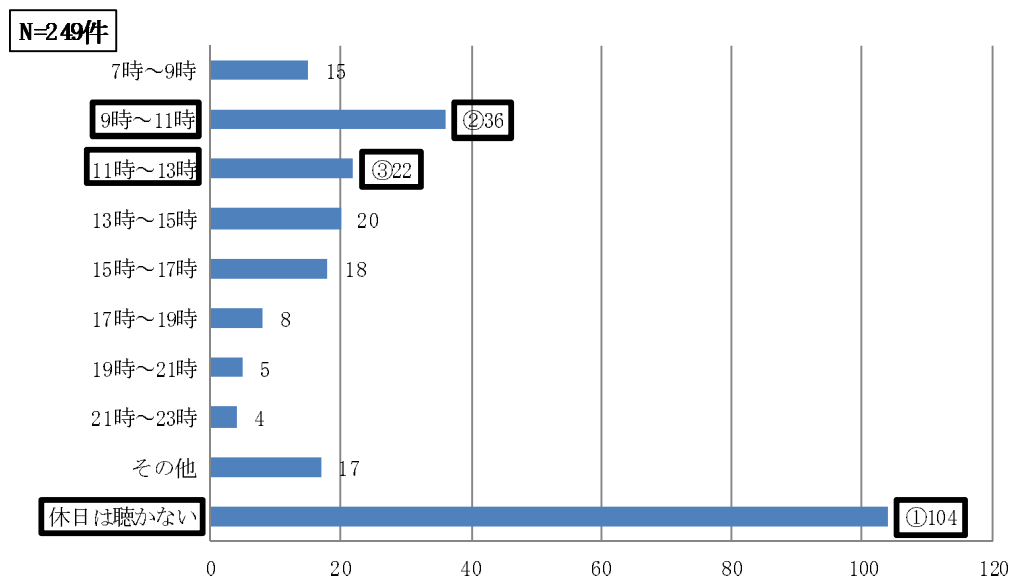


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問 6 休日（土日）のFMはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

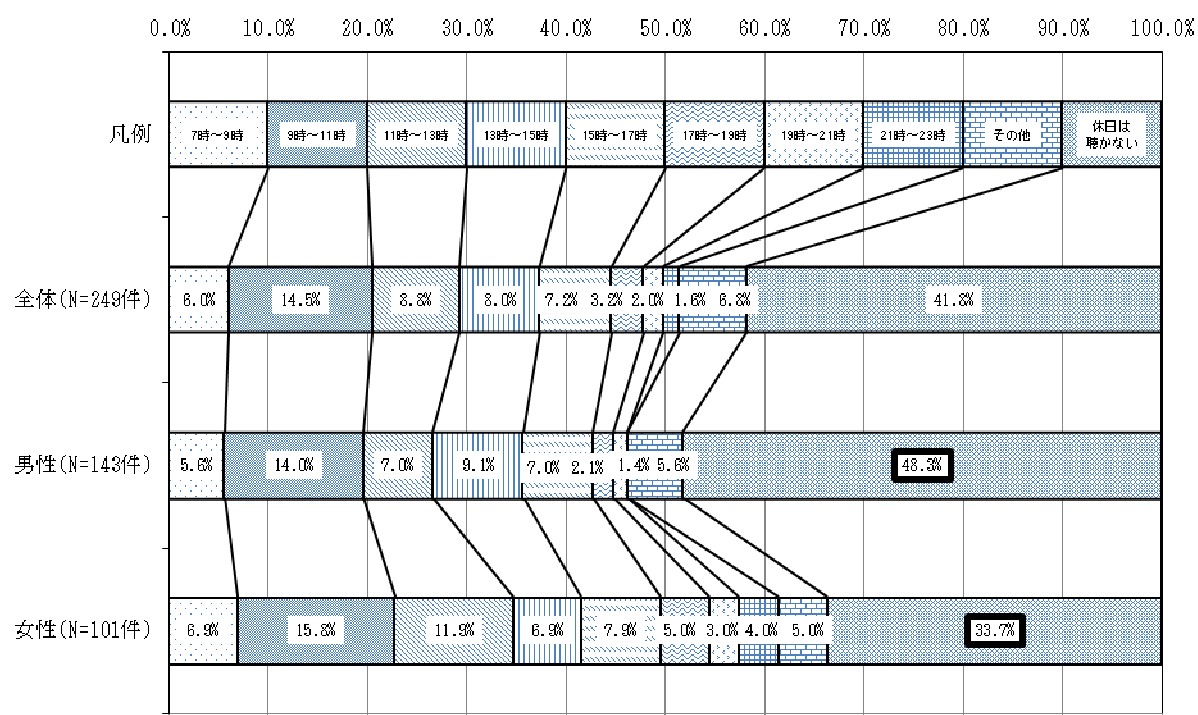
○休日のFMはなびを聴く時間帯について、「休日は聴かない」の回答数が104件と最も回答数が多く、次いで「9時～11時」が36件、「11時～13時」が22件となっている。



※FMはなびを聴いている方のみ回答

【性別】

○男女どちらにおいても、「休日は聴かない」の回答割合が、男性 48.3%、女性 33.7%と最も高くなっている。

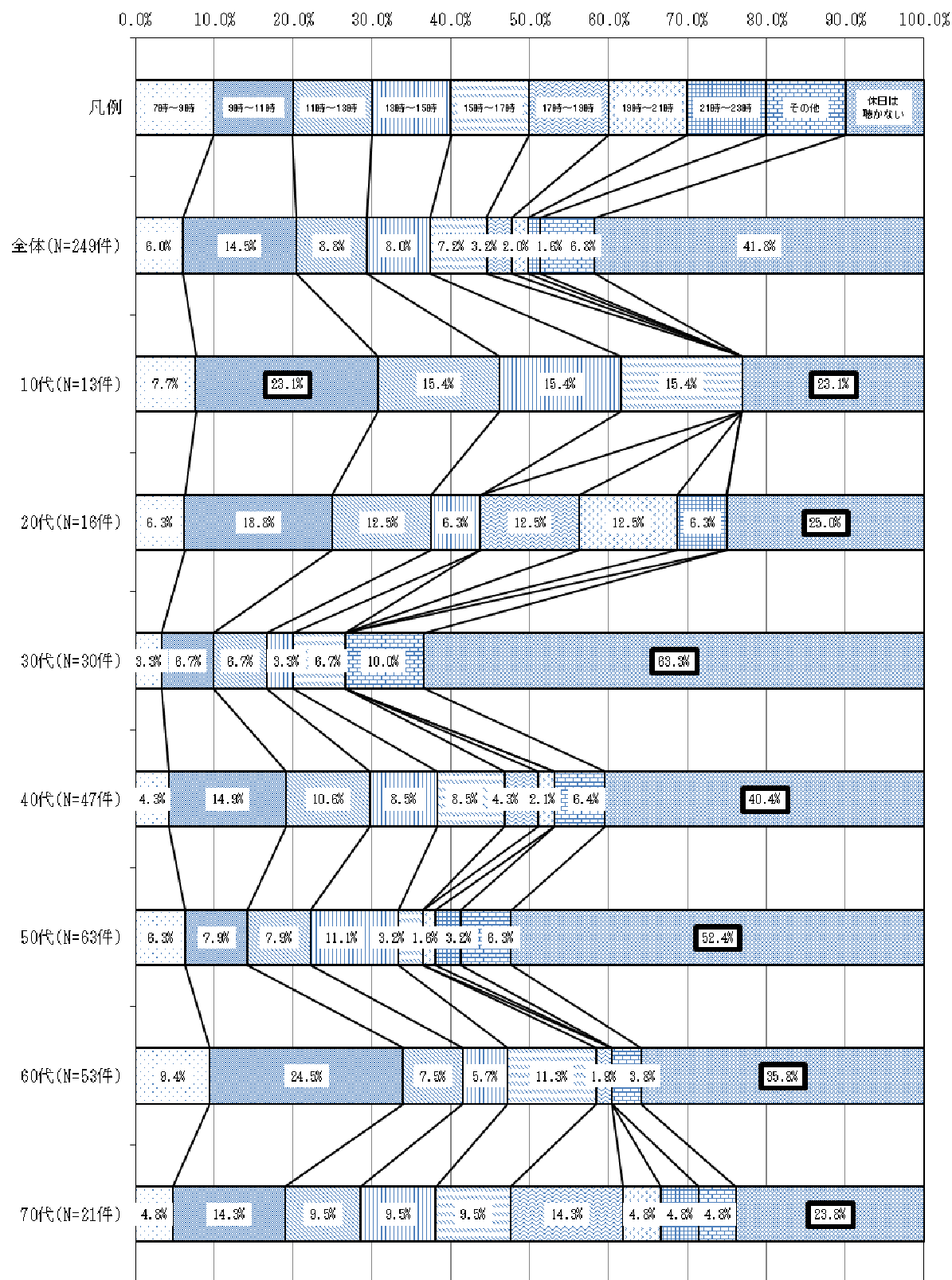


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「休日は聴かない」の回答割合が最も高くなっている。

○全年代において、「9時～11時」の回答割合が上位となっている。



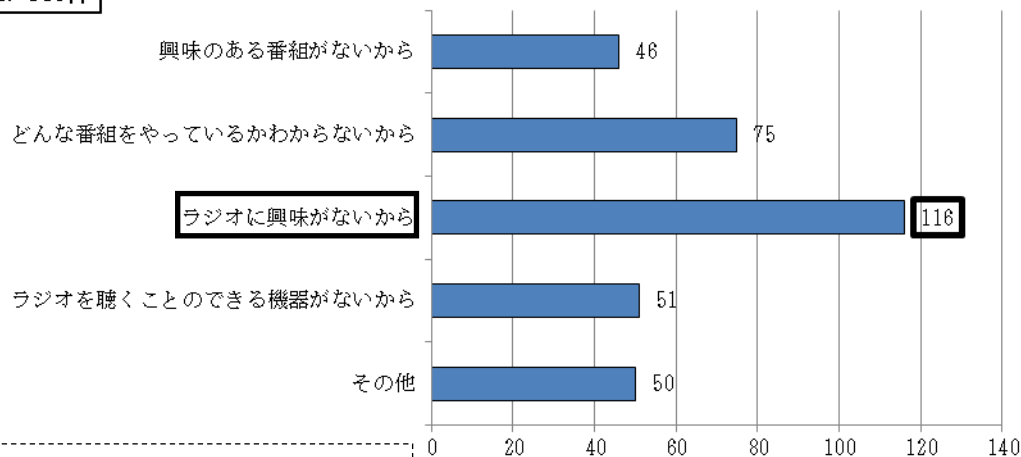
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問 7 問 2 で「3」に○印をつけた方にお聞きします。聴かない理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○FMはなびを聴かない理由について、「ラジオに興味がないから」が 116 件と最も回答数が多く、次いで「どんな番組をやっているかわからないから」が 75 件となっている。

N=338件



※FMはなびを聴いていない方のみ回答

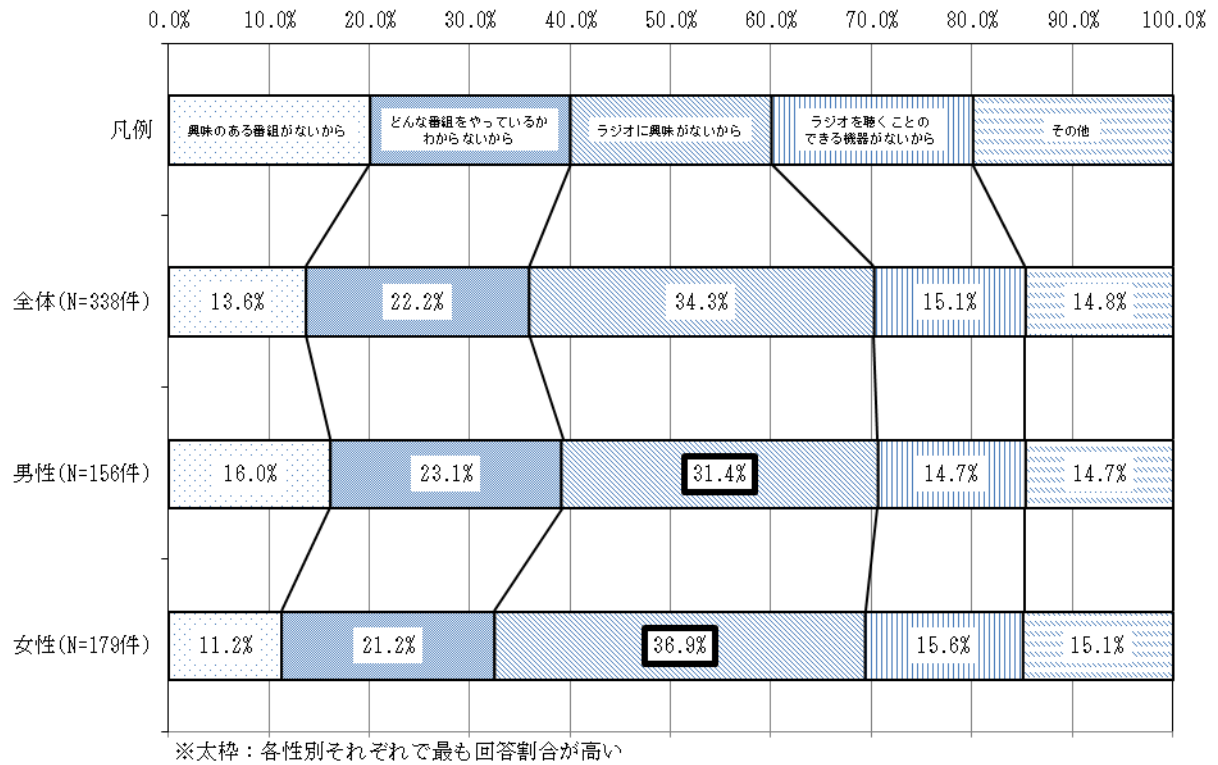
◆「その他」意見（抜粋）

- ・大仙市外で仕事をしているから。（男性／20 代／大曲／正規社員・職員／独身）
- ・スマホで聞きたいが、データを消費するから。（男性／30 代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・聴く時間が無いから。（男性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・テレビを見ているから。（男性／30 代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）
- ・聴く機会がないから。（女性／30 代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- ・他局を聴いているから。（女性／30 代／大曲／パート・アルバイト／独身）
- ・電波環境が悪いから。（女性／40 代／南外／パート・アルバイト／既婚）

【性別】

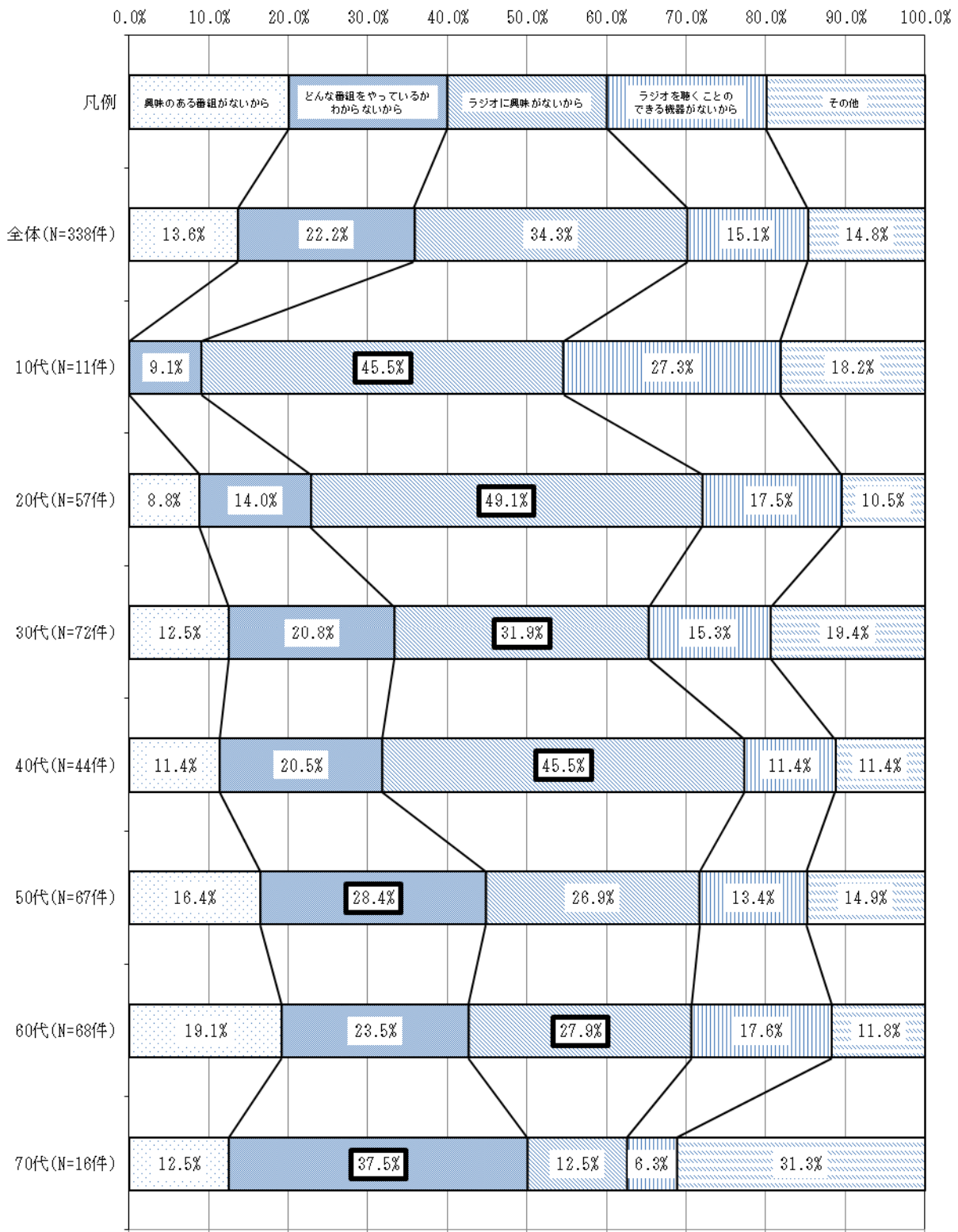
○男女どちらにおいても、「ラジオに興味がない」の回答割合が、男性 31.4%、女性 36.9%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。



【年代別】

- 50代、70代を除く全年代において、「ラジオに興味がないから」の回答割合が最も高くなっている。
 ○50、70代において、「どんな番組をやっているかわからないから」の回答割合が、50代28.4%、70代37.5%と最も高くなっている。



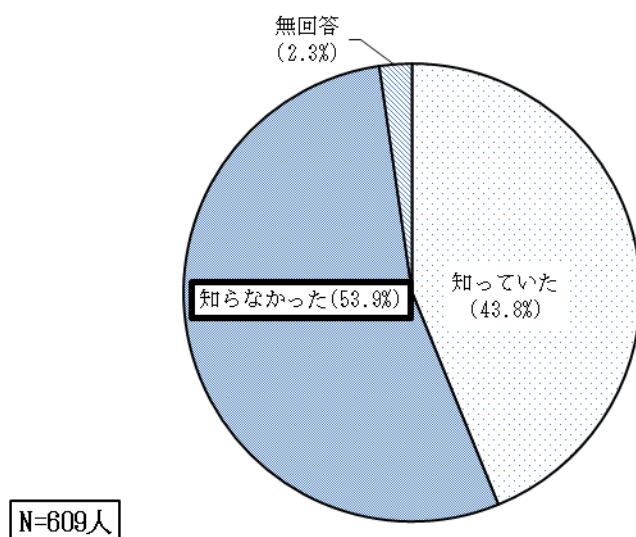
※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

2.11 「学校生活支援事業」について

問1 学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を配置していることを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

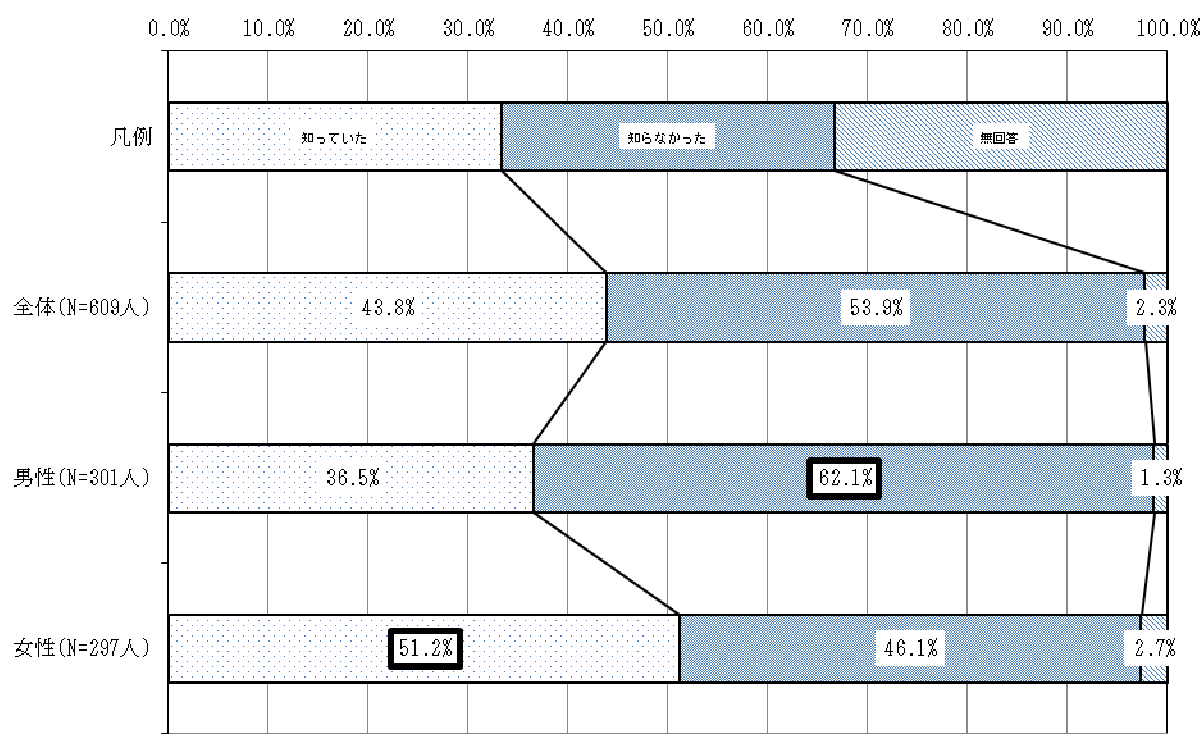
○学校生活支援員等を配置していることに対する認知度について、「知らなかった」が53.9%と最も回答割合が高く、次いで「知っていた」が43.8%となっている。



【性別】

○女性は男性より「知っている」の回答割合が高く、女性が51.2%で男性よりも14.7ポイント高い。

○男性は女性より「知らない」の回答割合が高く、男性が62.1%で女性よりも16.0ポイント高い。

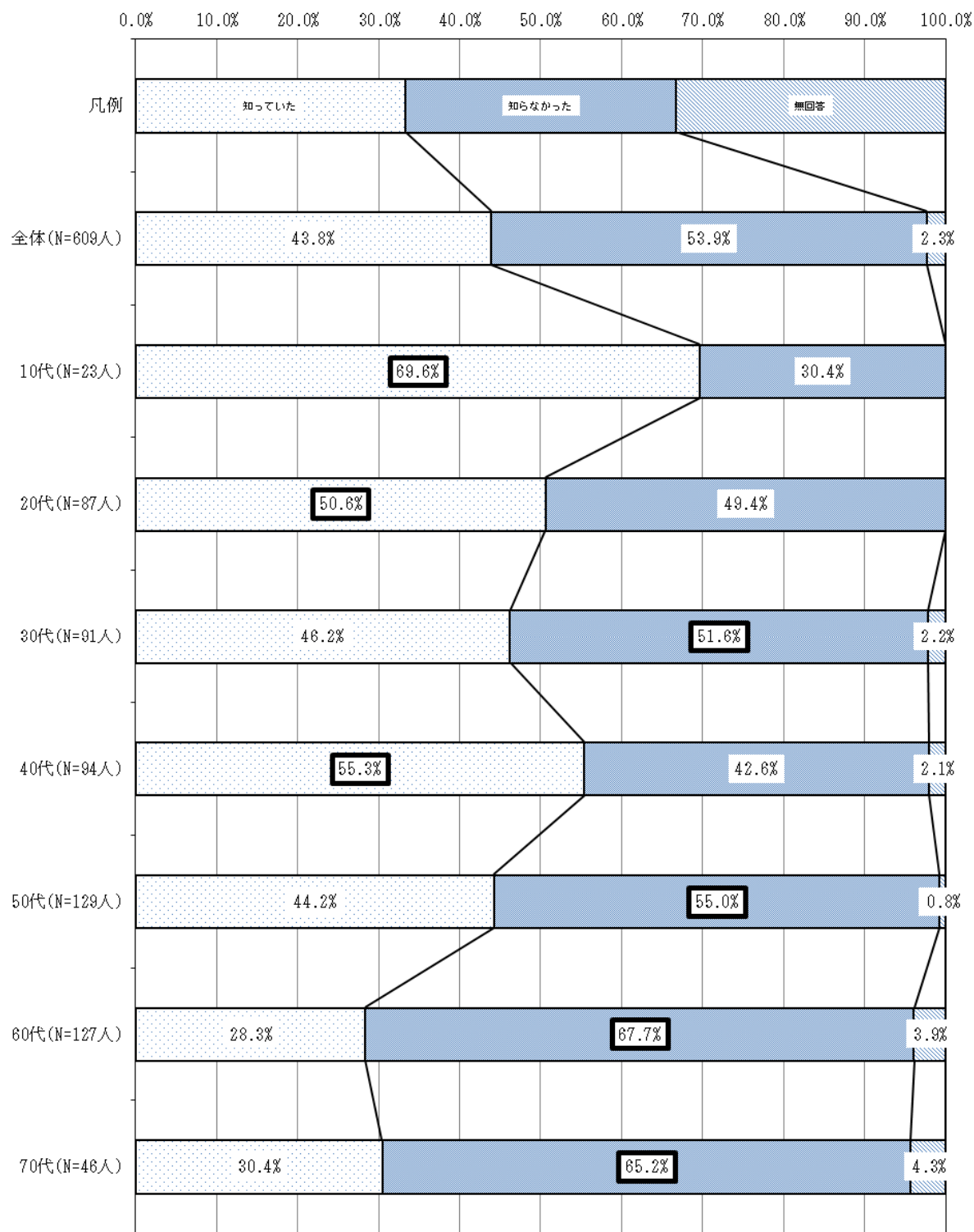


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○10代、20代、40代において、「知っている」の回答割合が、10代69.6%、20代50.6%、40代55.3%と最も高くなっている。

○30代、50代から70代において、「知らなかった」の回答割合が、30代51.6%、50代55.0%、60代67.7%、70代65.2%と最も高くなっている。

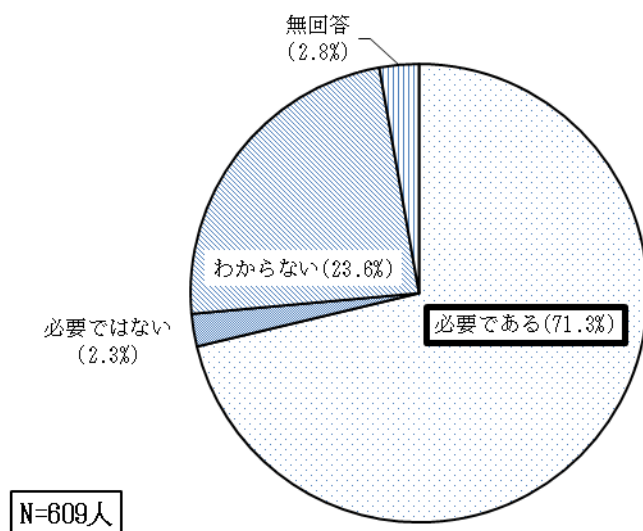


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問2 学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

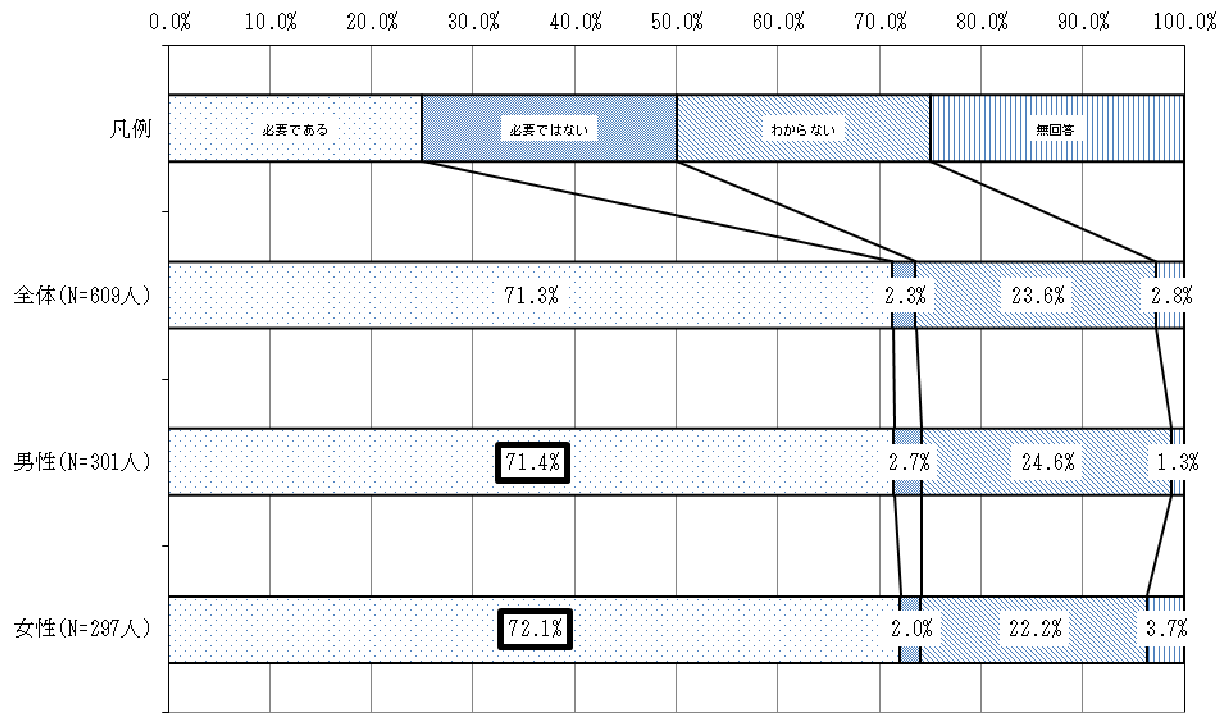
○学校生活支援員等を配置することの必要性について、「必要である」が71.3%と最も回答割合が高く、次いで「わからない」が23.6%となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「必要である」の回答割合が、男性 71.4%、女性 72.1%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

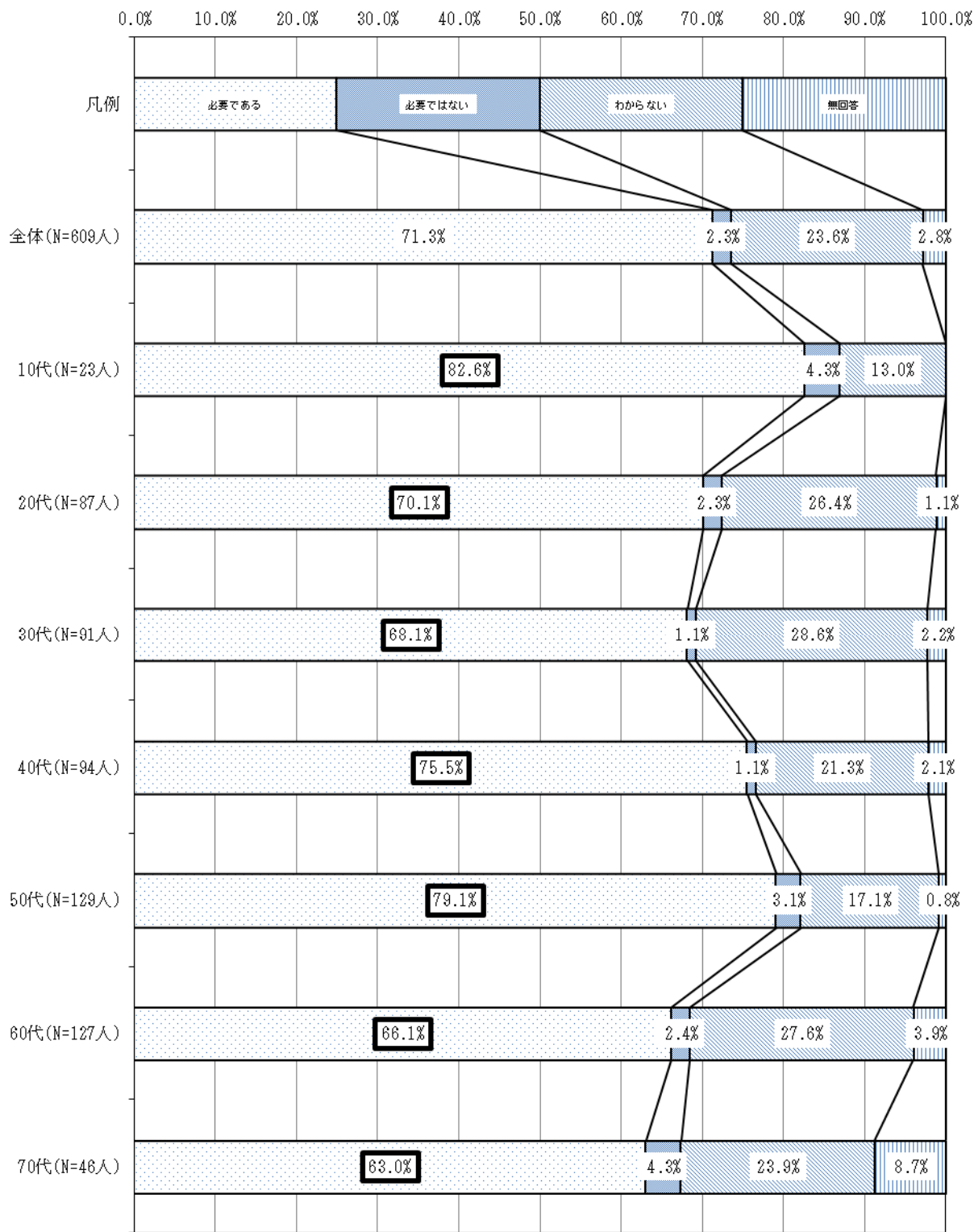


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○全年代において、「必要である」の回答割合が最も高くなっている。

○10代、50代において、「必要である」の回答割合が、10代82.6%、50代79.1%と他の年代に比べて高くなっている。

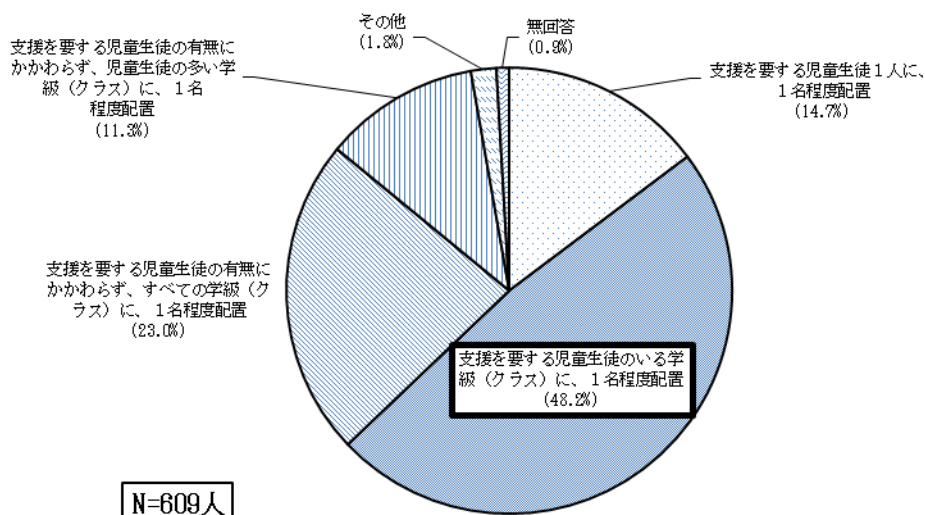


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問3 問2で「1」に○印をつけた方にお聞きします。現在、30人程度の学級（クラス）で1人から2人ほど、支援が必要な児童生徒がいると言われていたますが、どのように学校生活支援員等を配置することが望ましいと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○学校生活支援員等の配置方法について、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に1名程度配置」が48.2%と最も回答割合が高く、次いで「支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、すべての学級（クラス）に、1名程度配置」が23.0%となっている。



※学校生活支援員等の配置が必要と回答した方のみ選択

◆「その他」意見（抜粋）

- すべての学級に1名程度ずつ配置し、さらに月に一度面談すべき。（女性／10代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 児童が本当に必要とする支援員の人選が必要。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 個人のニーズに合ったきめ細かい支援。（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- 大人の心のケアの方が重要ではないか。（女性／60代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に1名程度配置」の回答割合が、男性53.5%、女性43.7%と最も高くなっている。

○男性は女性より「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に1名程度配置」の回答割合が高く、男性が53.5%で女性よりも9.8ポイント高くなっている。

【年代別】

○全年代において、「支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に1名程度配置」の回答割合が最も高くなっている。

○10代から40代において、「支援を要する児童生徒1人に、1名程度配置」の回答割合が50代から70代と比べて高くなっている。

	有効回答数（N）	支援を要する児童生徒1人に、1名程度配置	支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に、1名程度配置	支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に、1名程度配置	支援を要する児童生徒のいる学級（クラス）に、1名程度配置	その他	無回答
全体	434人	14.7%	48.2%	23.0%	11.3%	1.8%	0.9%
《性別》							
男性	215人	13.5%	53.5%	20.5%	10.7%	0.5%	1.4%
女性	214人	15.5%	43.7%	25.8%	11.7%	3.3%	0.0%
《年代別》							
10代	19人	21.1%	42.1%	21.1%	5.3%	5.3%	5.3%
20代	61人	16.4%	52.5%	24.6%	6.6%	0.0%	0.0%
30代	62人	19.4%	43.5%	27.4%	6.5%	1.6%	1.6%
40代	71人	22.5%	46.5%	18.3%	9.9%	2.8%	0.0%
50代	102人	9.8%	52.0%	18.6%	15.7%	2.9%	1.0%
60代	84人	8.3%	48.8%	28.6%	13.1%	1.2%	0.0%
70代	29人	10.3%	44.8%	24.1%	17.2%	0.0%	3.4%

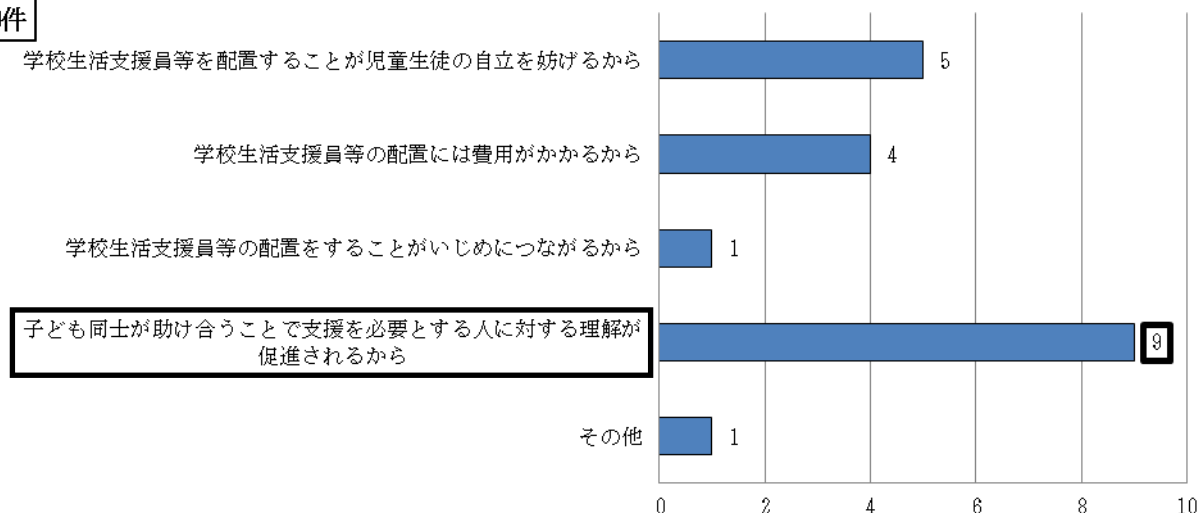
※着色部：各性別、各年代それぞれで最も回答割合が高い

問4 問2で「2」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

○学校生活支援員等の配置が必要ではない理由について、「子ども同士が助け合うことで支援を必要とする人に対する理解が促進されるから」が9件と最も回答数が多く、次いで「学校生活支援員等を配置することが児童生徒の自立を妨げるから」が5件となっている。

N=20件



※学校生活支援員等の配置が必要でないと回答した方のみ選択

【性別】

○有効回答数が少ないため、性別分析を実施しない。

【年代別】

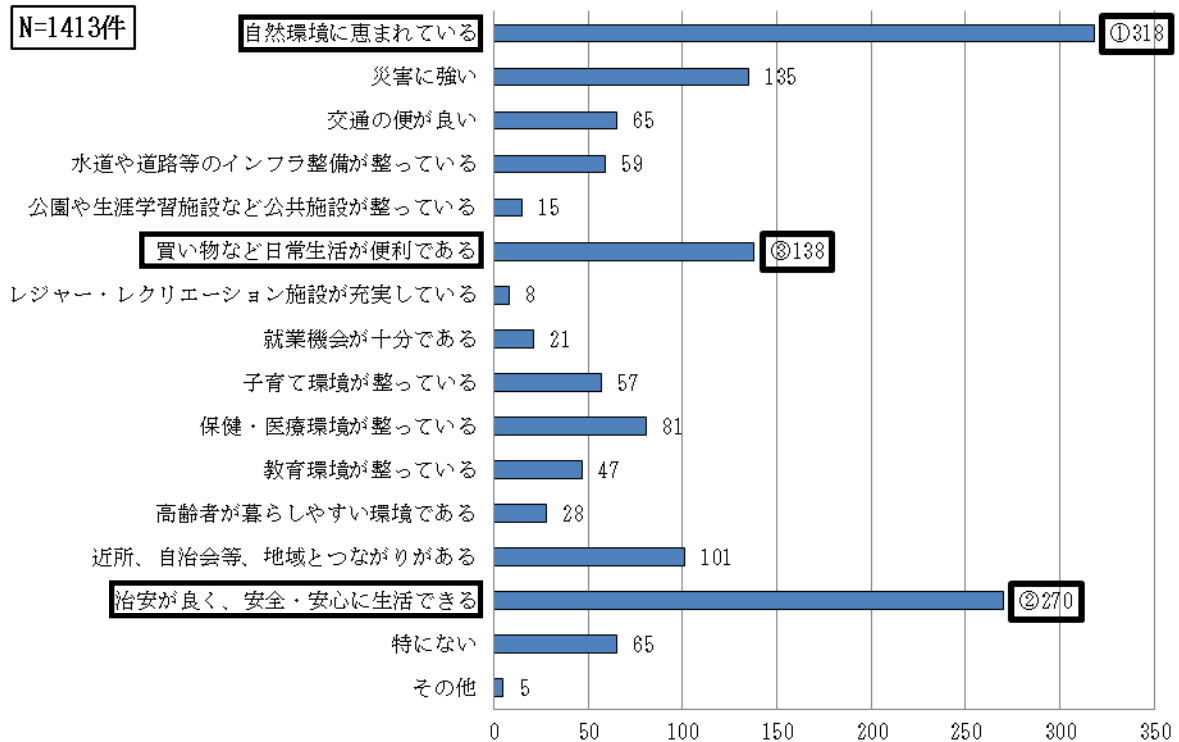
○有効回答数が少ないため、年代別を実施しない。

2.12 「移住・定住への支援事業」について

問１ 市の暮らしやすい点として、該当する番号３つまで○印をつけてください。

【全体】

○市の暮らしやすい点について、「自然環境に恵まれている」が 318 件と回答数が最も多く、次いで、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が 270 件、「買い物など日常生活が便利である」が 138 件となっている。



【性別】

○男女どちらにおいても、「自然環境に恵まれている」、「買い物など日常生活が便利である」、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「自然環境に恵まれている」、「治安が良く、安全・安心に生活できる」が上位となっている。

○40代、50代を除く全年代において、「災害に強い」が上位となっている。

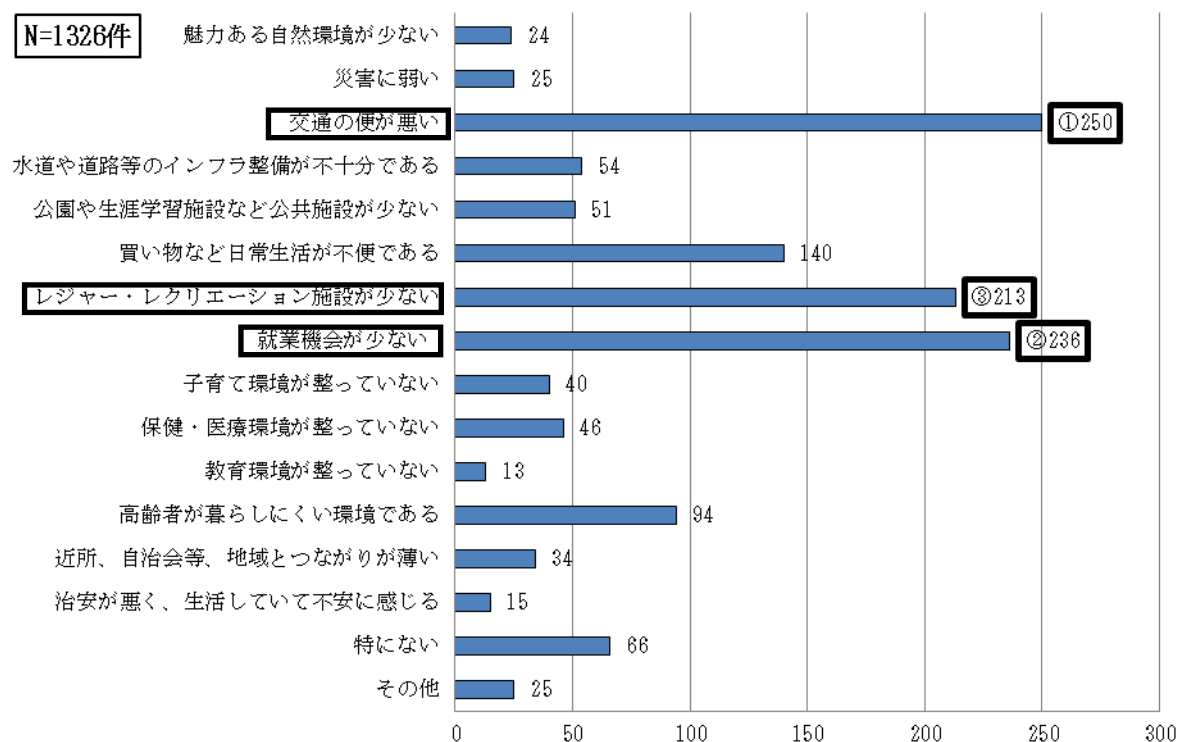
	有効回答数（N）	自然環境に恵まれている	災害に強い	交通の便が良い	水道や道路等のインフラ整備が	公園や生涯学習施設など公共施設が整っている	買い物など日常生活が便利である	レジャー・レクリエーション施設が充実している	就業機会が十分である	子育て環境が整っている	保健・医療環境が整っている	教育環境が整っている	高齢者が暮らしやすい環境である	近所・自治会等、地域とつながりがある	治安が良く、安全・安心に生活できる	特にな	その他
全体	1413件	22.5%	9.8%	4.8%	4.2%	1.1%	9.8%	0.8%	1.5%	4.0%	5.7%	3.3%	2.0%	7.1%	19.1%	4.8%	0.4%
《性別》																	
男性	885件	㉑23.6%	8.8%	4.4%	4.4%	0.8%	㉓8.8%	0.6%	1.8%	3.1%	5.5%	3.9%	2.2%	7.6%	㉒19.4%	5.0%	0.3%
女性	707件	㉑21.2%	10.6%	5.0%	4.0%	1.1%	㉓10.7%	0.6%	1.3%	5.0%	5.9%	2.8%	1.8%	6.6%	㉒18.5%	4.4%	0.4%
《年代別》																	
10代	52件	㉑26.9%	㉓11.5%	7.7%	5.8%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	3.8%	1.9%	5.8%	㉒21.2%	3.8%	0.0%
20代	214件	㉒19.2%	㉓7.9%	4.7%	5.6%	1.9%	㉓7.9%	1.8%	2.3%	3.3%	8.1%	4.2%	1.4%	7.5%	㉑21.5%	4.2%	0.5%
30代	192件	㉑20.3%	㉓12.5%	4.2%	2.8%	0.5%	10.4%	0.0%	1.0%	6.3%	6.3%	3.1%	0.5%	4.2%	㉒19.8%	8.3%	0.0%
40代	217件	㉑24.4%	7.8%	5.5%	1.8%	1.8%	㉓8.3%	0.9%	0.5%	6.5%	8.5%	4.8%	2.8%	4.1%	㉒19.4%	5.1%	0.0%
50代	287件	㉑22.8%	8.4%	4.7%	4.4%	0.0%	㉓10.8%	0.3%	2.4%	3.4%	4.7%	3.0%	1.7%	8.8%	㉒20.2%	3.7%	0.7%
60代	311件	㉑22.2%	㉓11.3%	4.8%	5.8%	0.6%	12.2%	0.0%	1.8%	2.6%	4.5%	1.9%	2.3%	8.7%	㉒17.0%	3.5%	0.6%
70代	108件	㉑25.9%	㉓9.3%	1.9%	2.8%	2.8%	7.4%	0.9%	0.0%	4.6%	㉓9.3%	4.6%	4.6%	㉓8.8%	㉒13.0%	3.7%	0.0%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い3項目

問2 市の暮らしにくい点として、該当する番号3つまで○印をつけてください。

【全体】

○市の暮らしにくい点について、「交通の便が悪い」が250件と回答数が最も多く、次いで、「就業機会が少ない」が236件、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」が213件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・施設のきめ細かい維持管理が出来ていない。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・地域間の交流が干渉的。（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・経済力が弱い。（男性／30代／神岡／自営業／家族従業者／既婚）
- ・市全体が変わろうとしていない。個性がない。（男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・迷惑な市民がいる。（女性／50代／南外／専業主婦／既婚）
- ・旧大曲市だけにお金が回っている。（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）
- ・給与水準が低すぎる。（男性／60代／中仙／正規社員・職員／独身）

【性別】

○男女どちらにおいても、「交通の便が悪い」、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」、「就業機会が少ない」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「交通の便が悪い」、「レジャー・レクリエーション施設が少ない」、「就業機会が少ない」が上位となっている。

○全体的に、年代で大きな差は見られない。

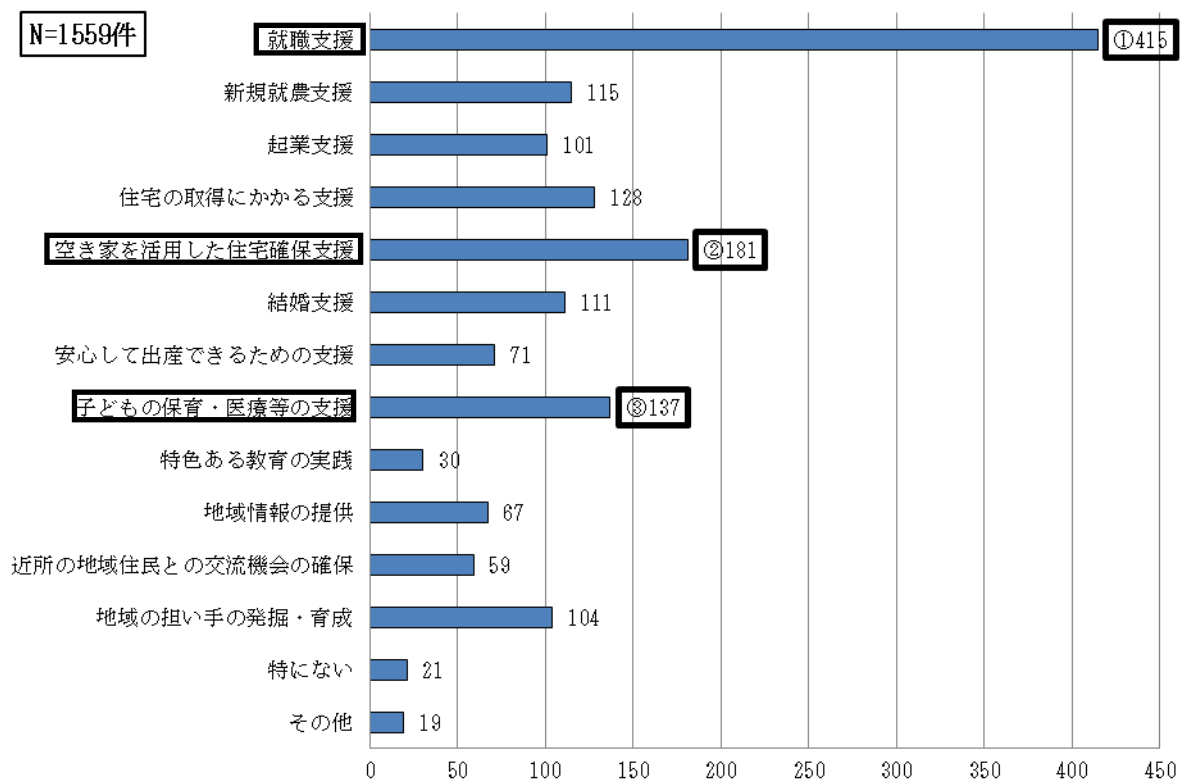
	有効回答数 (N)	魅力ある自然環境が少ない	災害に弱い	交通の便が悪い	水道や道路等のインフラ整備が不十分である	公園や生涯学習施設など公共施設が少ない	買い物など日常生活が不便である	レジャー・レクリエーション施設が少ない	就業機会が少ない	子育て環境が整っていない	子育て環境が整っていない	保健・医療環境が整っていない	教育環境が整っていない	高齢者が暮らしにくい環境である	近所、自治会等、地域とつながりが薄い	特になし	その他
全体	1328件	1.8%	1.9%	18.9%	4.1%	3.8%	10.6%	16.1%	17.8%	3.0%	3.5%	1.0%	7.1%	2.6%	1.1%	5.0%	1.9%
《性別》																	
男性	652件	1.4%	1.7%	②17.3%	4.9%	2.6%	10.1%	③16.6%	①18.9%	2.8%	3.5%	1.2%	6.9%	2.8%	0.9%	5.7%	2.5%
女性	657件	2.1%	1.8%	①20.4%	3.2%	5.2%	10.8%	②15.7%	②16.7%	3.2%	3.3%	0.8%	7.3%	2.4%	1.2%	4.4%	1.4%
《年代別》																	
10代	56件	0.0%	0.0%	①23.2%	1.8%	1.8%	16.1%	②21.4%	①23.2%	1.8%	1.8%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
20代	186件	1.1%	0.0%	①21.0%	1.6%	4.8%	12.9%	②18.3%	③16.1%	2.7%	3.6%	1.1%	2.2%	2.2%	2.7%	4.8%	4.8%
30代	201件	1.5%	2.0%	②15.9%	5.5%	5.0%	6.0%	①22.4%	③14.4%	4.0%	5.5%	1.0%	3.5%	4.5%	0.5%	6.0%	2.5%
40代	209件	1.4%	2.4%	②17.7%	2.9%	2.9%	9.6%	③17.2%	①21.1%	3.8%	1.9%	1.4%	9.8%	1.9%	1.0%	4.3%	1.0%
50代	280件	1.4%	1.1%	②18.9%	7.1%	3.2%	10.7%	③14.6%	①19.6%	1.4%	3.9%	0.7%	8.2%	1.8%	1.1%	4.6%	1.4%
60代	280件	3.6%	3.6%	①18.9%	3.2%	5.0%	11.4%	③11.4%	②16.8%	3.9%	2.5%	1.1%	8.8%	2.5%	1.1%	5.0%	1.4%
70代	65件	1.1%	1.1%	①21.1%	3.2%	2.1%	10.5%	③12.6%	②16.8%	2.1%	4.2%	1.1%	10.5%	5.3%	0.0%	8.4%	1.1%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い3項目

問3 地域における人口減少や若者の流出、空き家の増加、担い手不足などの現状や課題を踏まえ、移住者の呼び込みや定住を促すための支援について、重要度が高いと思う取り組みは何ですか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。

【全体】

○移住者の呼び込みや定住を促すための支援に対する要望について、「就職支援」が415件と最も回答数が多く、次いで「空き家を活用した住宅確保支援」が181件、「子どもの保育・医療等の支援」が137件となっている。



◆「その他」意見（抜粋）

- ・企業誘致。（男性／20代／大曲／学生／独身）
- ・空き家リノベーションオフィス化。（男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・スポーツ・レジャー施設の充実。（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・高齢者の移住政策。（男性／40代／神岡／正規社員・職員／既婚）
- ・産業振興を絡めた移住提案。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- ・地域住民の昔ながらの価値観や排他的な思想の排除。（女性／50代／南外／専業主婦／既婚）
- ・市の活性化。（女性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- ・活用できない空き家の撤去作業。（女性／60代／協和／無職／既婚）
- ・広い間取りの集合住宅の設置。（女性／70代／大曲／無職／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「就職支援」、「空き家を活用した住宅確保支援」、「子どもの保育・医療等の支援」が上位となっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

【年代別】

○全年代において、「就職支援」の回答割合が最も高くなっている。

○10代を除く全年代において、「空き家を活用した住宅確保支援」が上位となっている。

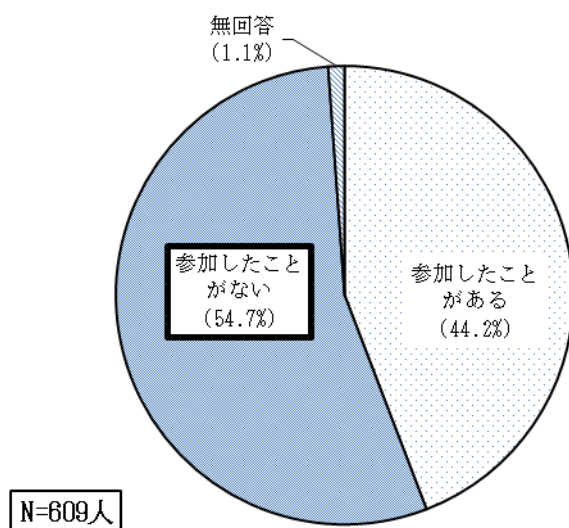
	有効回答数 (N)	就職支援	新規就農支援	起業支援	住宅の取得にかかる支援	空き家を活用した住宅確保支援	結婚支援	安心して出産できるための支援	子どもの保育・医療等の支援	特色ある教育の実践	地域情報の提供	近所の地域住民との交流機会の確保	地域の担い手の発掘・育成	特にない	その他
全体	1559件	26.6%	7.4%	6.5%	8.2%	11.6%	7.1%	4.6%	8.8%	1.9%	4.3%	3.8%	6.7%	1.3%	1.2%
《性別》															
男性	780件	①27.2%	7.9%	7.7%	7.7%	②10.1%	8.6%	3.5%	③8.7%	1.4%	4.4%	4.0%	6.3%	1.2%	1.4%
女性	757件	①26.3%	7.0%	5.2%	③8.7%	②12.7%	5.8%	5.4%	③8.7%	2.5%	4.2%	3.7%	7.3%	1.5%	1.1%
《年代別》															
10代	59件	①27.1%	5.1%	5.1%	6.8%	8.5%	②13.6%	3.4%	②11.9%	3.4%	5.1%	0.0%	8.5%	1.7%	0.0%
20代	228件	①27.6%	5.7%	6.1%	②11.0%	③9.2%	6.1%	7.0%	8.8%	2.6%	3.5%	3.5%	5.3%	0.9%	2.6%
30代	238件	①25.2%	5.0%	5.9%	9.7%	②12.6%	4.2%	7.6%	③12.2%	1.7%	4.2%	2.1%	6.7%	1.7%	1.3%
40代	243件	①28.8%	②10.7%	9.5%	7.8%	②10.7%	6.2%	2.9%	9.9%	3.3%	3.3%	1.2%	4.5%	0.4%	0.8%
50代	328件	①28.7%	7.0%	6.4%	③8.5%	②11.3%	7.9%	1.5%	8.2%	1.8%	4.0%	4.3%	7.3%	1.8%	1.2%
60代	328件	①24.7%	③8.8%	5.5%	5.8%	②13.1%	7.9%	5.5%	6.4%	0.9%	4.9%	5.5%	8.5%	1.5%	0.9%
70代	110件	①23.6%	8.2%	5.5%	7.3%	②11.8%	③10.0%	1.8%	5.5%	0.9%	7.3%	10.0%	6.4%	0.9%	0.9%

※着色部：各性別、各年代それぞれで回答割合が高い3項目

問 4 定住を促進するためには、多世代が集い交流できる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強める必要があります。あなたは、ここ 1 年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

【全体】

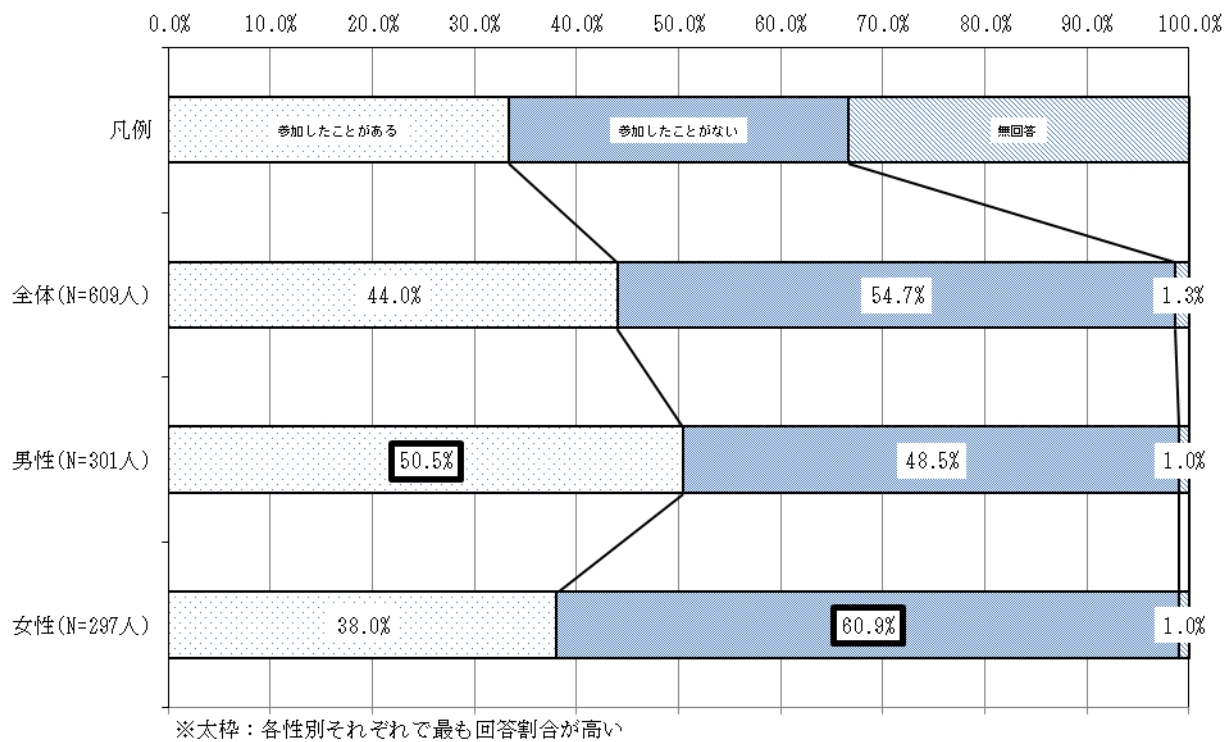
○ここ 1 年間仕事以外の何らかの社会活動・地域活動への参加の有無について、「参加したことがない」が 54.7%と最も回答割合が高く、次いで「参加したことがある」が 44.2%となっている。



【性別】

○男性において、「参加したことがある」の回答割合が高く、女性においては「参加したことがない」の回答割合が高くなっている。

○男性は女性より「参加したことがある」の回答割合が高く、男性が50.5%で女性よりも12.5ポイント高くなっている。

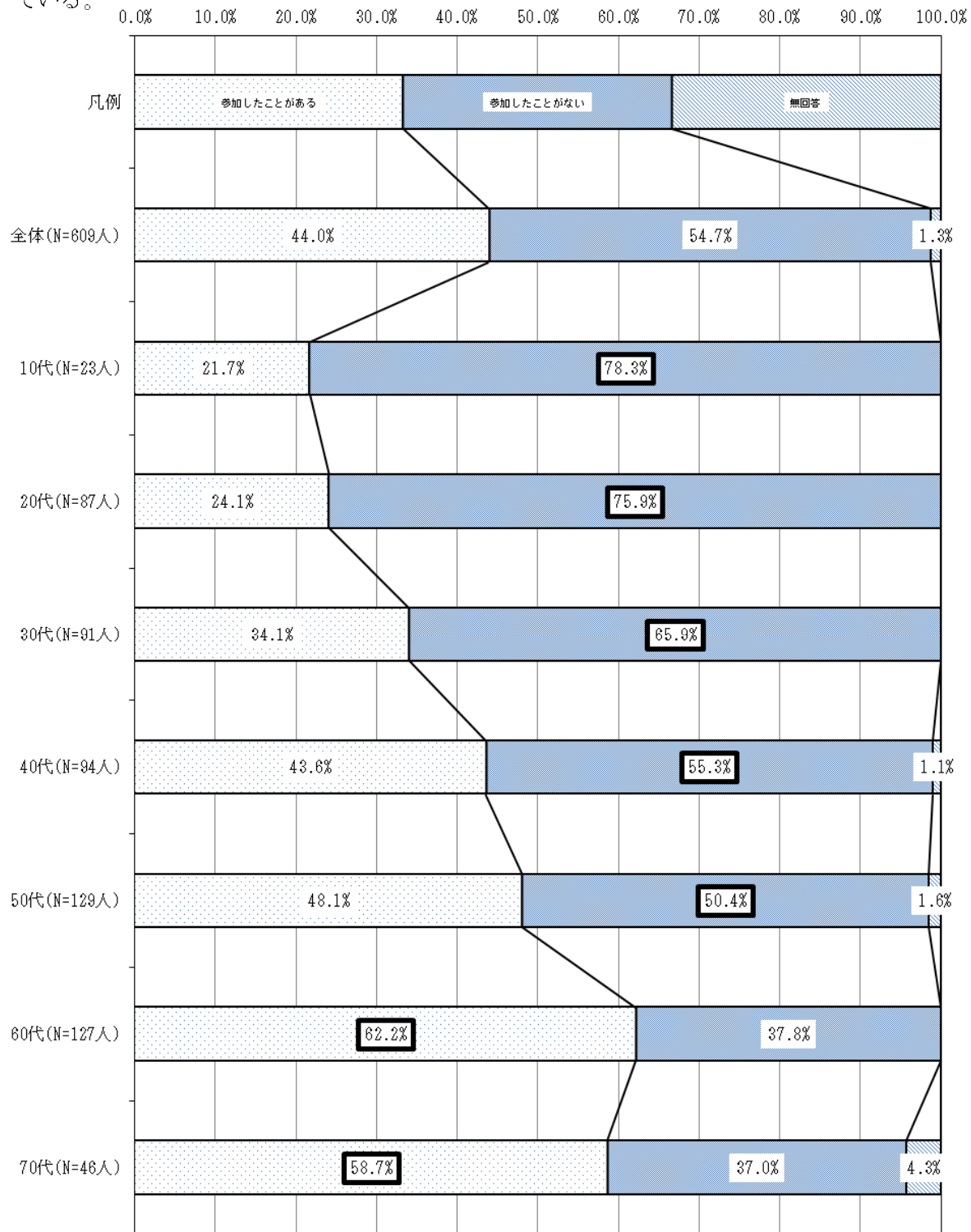


【年代別】

○10代から50代において、「参加したことがない」の回答割合が最も高くなっている。

○60代、70代において、「参加したことがある」の回答割合が、60代62.2%、70代58.7%と最も高くなっている。

○10代から60代において、年代が高くなるにつれて、「参加したことがある」の回答割合が高くなっている。

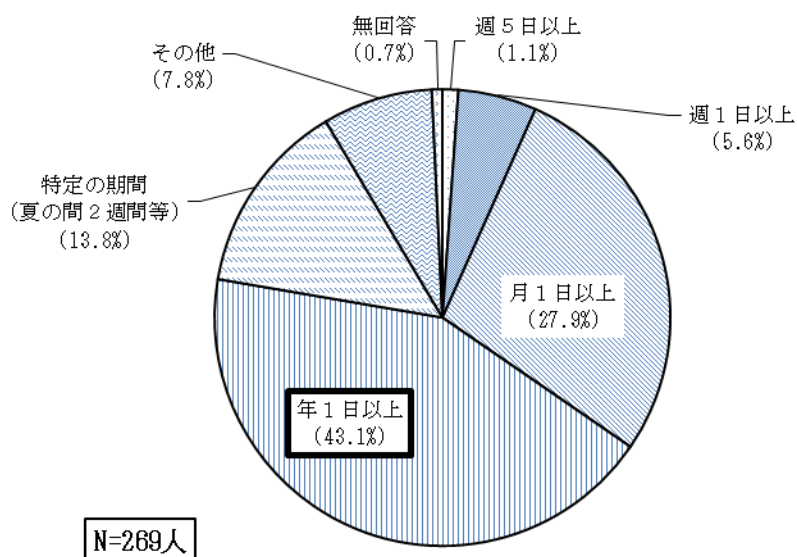


※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問5 問4で「1」に○をつけた方にお聞きします。「社会活動・地域活動」に取り組んだ頻度はどの程度ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

【全体】

○社会活動・地域活動に取り組んだ頻度について、「年1日以上」が43.1%と最も回答割合が最も高く、次いで「月1日以上」が27.9%となっている。



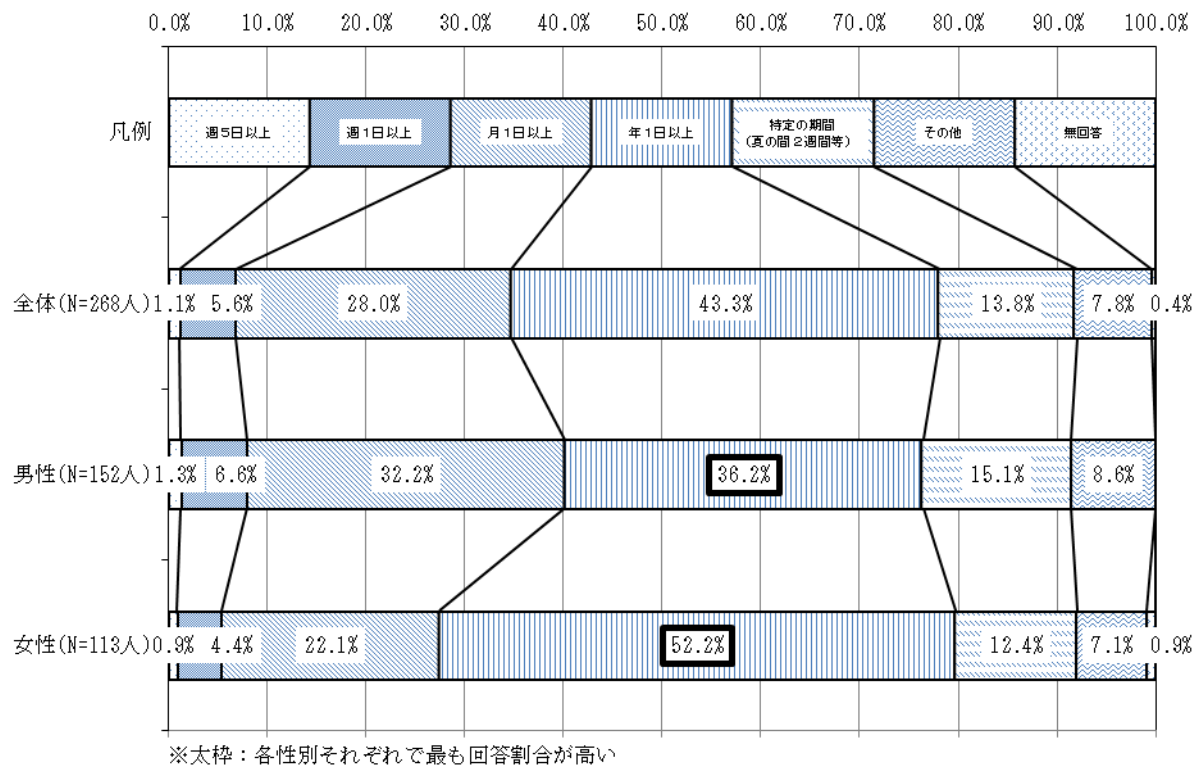
※ここ1年間で社会活動・地域活動に参加した方のみ回答

◆「その他」意見（抜粋）

- ・不定期。（男性／40代／大曲／その他／既婚）
- ・行事がある時。（男性／50代／大曲／正規社員・職員／独身）
- ・要請があった時。（女性／50代／協和／パート・アルバイト／既婚）

【性別】

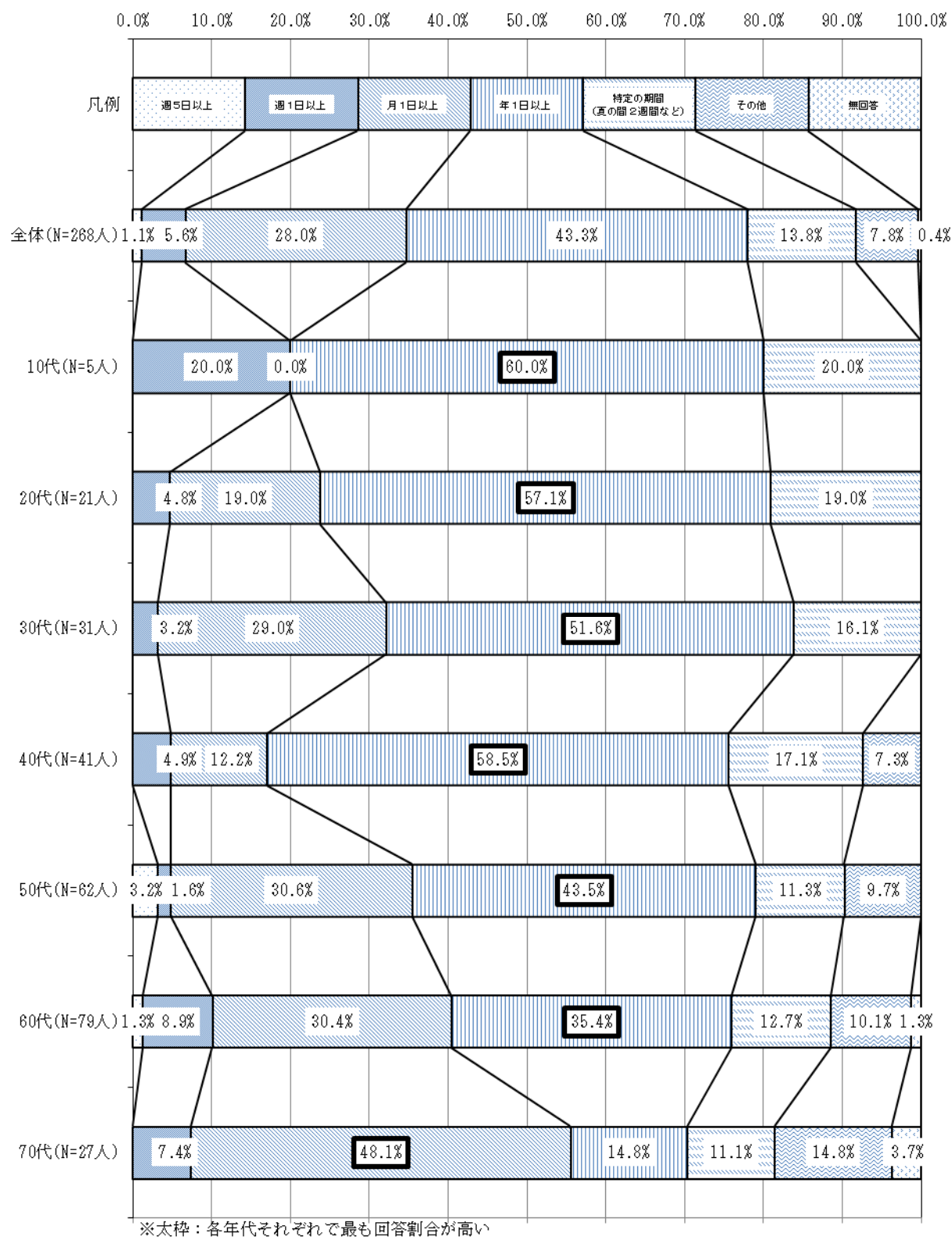
○男女どちらにおいても、「年1日以上」の回答割合が、男性 36.2%、女性 52.2%と最も高くなっている。



【年代別】

○70代を除く全年代において、「年1日以上」の回答割合が最も高くなっている。

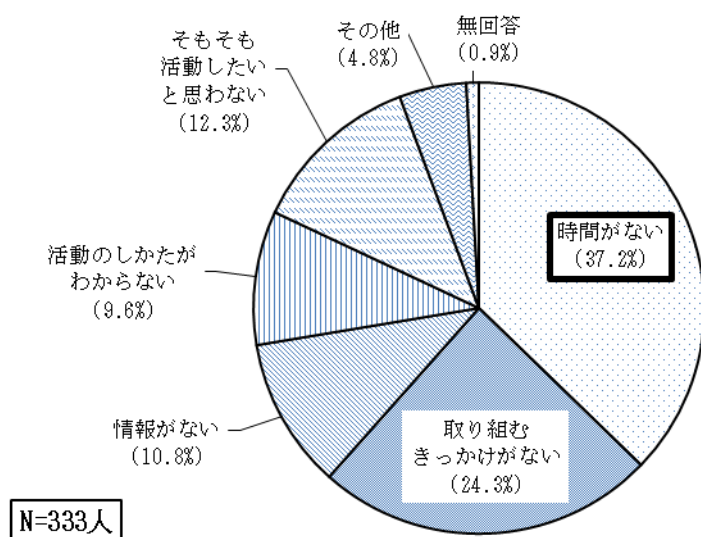
○70代において、「週1日以上」の回答割合が48.1%と最も高くなっている。



問 6 問 4 で「2」に○をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

【全体】

○社会活動・地域活動に参加したことがない理由について、「時間がない」が 37.2%と最も回答割合が高く、次いで「取り組むきっかけがない」が 24.3%となっている。



※ここ 1 年間で社会活動・地域活動に参加していない方のみ回答

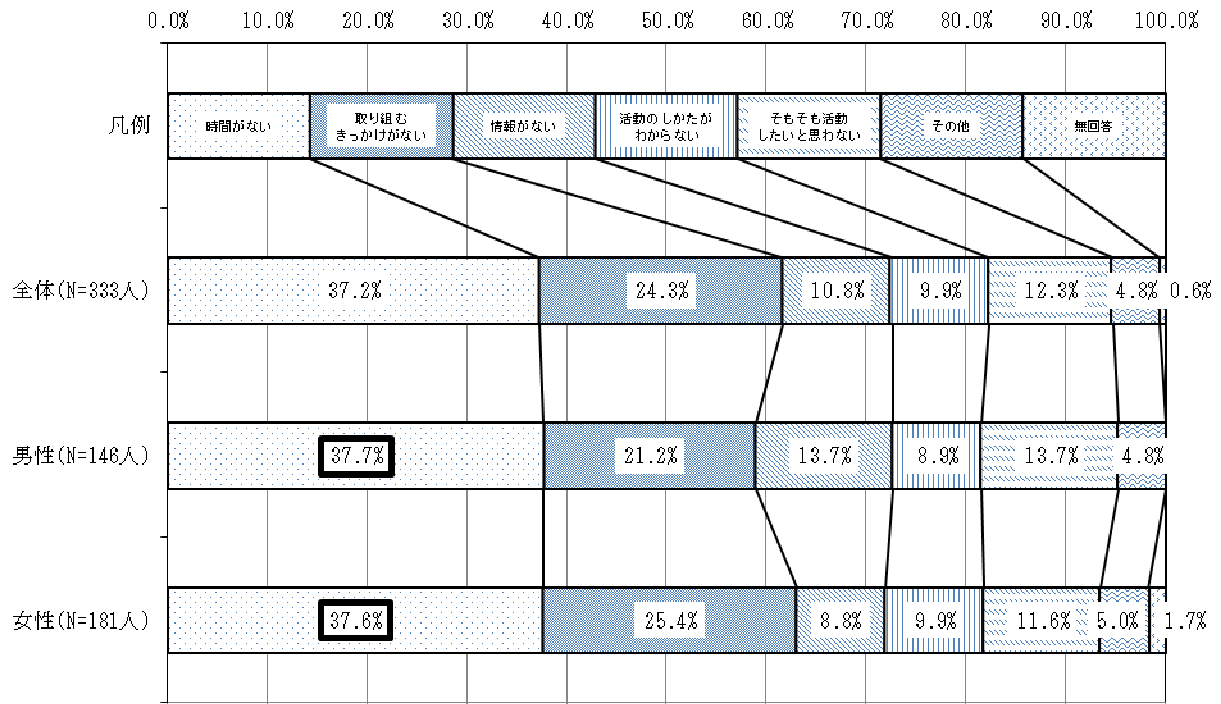
◆「その他」意見（抜粋）

- ・ 休日は休みたい。（女性／20 代／西仙北／正規社員・職員／独身）
- ・ 人と話すのが苦手。（男性／30 代／太田／派遣・契約社員／既婚）
- ・ 妊婦のため。（女性／30 代／西仙北／正規社員・職員／既婚）
- ・ 障害者のため。（男性／50 代／大曲／無職／既婚）
- ・ 病気のため。（女性／50 代／大曲／専業主婦／既婚）

【性別】

○男女どちらにおいても、「時間がない」の回答割合が、男性 37.7%、女性 37.6%と最も高くなっている。

○全体的に、男女で大きな差は見られない。

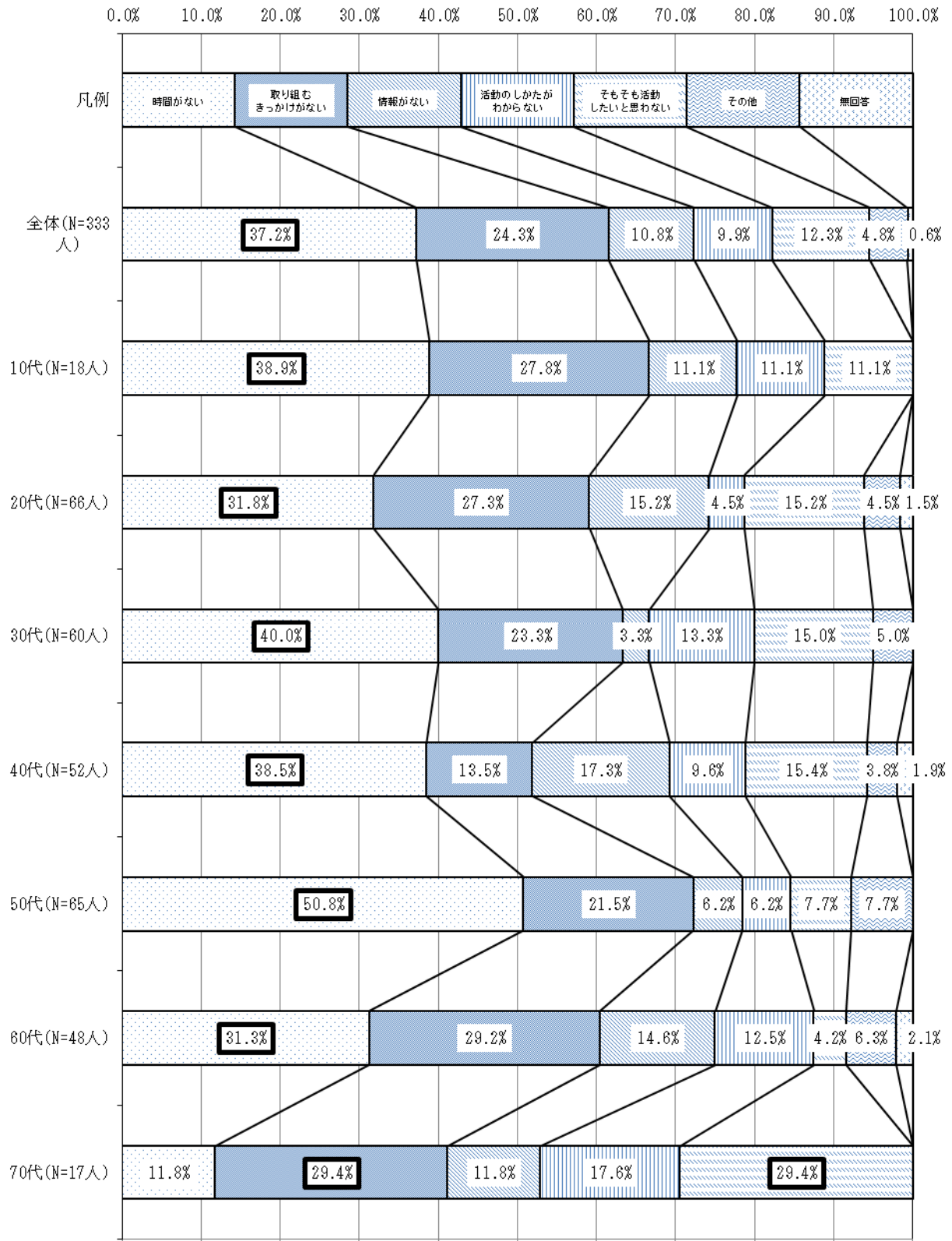


※太枠：各性別それぞれで最も回答割合が高い

【年代別】

○70代を除く全年代において、「時間がない」の回答割合が最も高くなっている。

○70代において、「取り組むきっかけがない」、「そもそも参加したいと思わない」の回答割合がそれぞれ、29.4%と他の年代に比べて高くなっている。



※太枠：各年代それぞれで最も回答割合が高い

問7 移住者を増加させるために、PRした方が良いことや、取り組んでほしいことがありましたら記入欄に自由にお書きください

PRした方が良いこと

- 特産品。(男性/10代/大曲/正規社員・職員/独身)
- 生活圏が広くないので便利。(男性/20代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 人と人とのあたたかいつながり。(女性/40代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 育児、教育に対しての環境の良さ。(女性/40代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 自然豊かな環境で、ゆっくりと老後も生活出来ること。(女性/40代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 交通の便が良い。(男性/50代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 情報が充実している。(男性/50代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 美味しい食材。(男性/50代/大曲/正規社員・職員/既婚)
- 他から来た人を受け入れる人柄の良さ。(男性/60代/南外/無職/既婚)
- 花火が見られること。(男性/60代/南外/無職/既婚)
- 自然環境。(男性/60代/太田/自営業主・家族従業者/既婚)

取り組んでほしいこと

- 現在住んでいる人が、外へ移住しないための取り組み。
(男性/10代/西仙北/正規社員・職員/独身)
- 市内の就職できる所をピックアップしたものを情報として分かりやすく伝えてほしいということ。
(男性/10代/西仙北/学生/独身)
- 遊べる施設を1つ作って欲しい。(男性/10代/西仙北/学生/独身)
- もっと若者が喜ぶような施設を作してほしい。(女性/10代/大曲/学生/独身)
- 交通の便(電車の本数・道路)を増やしてほしい。(女性/10代/大曲/学生/独身)
- 飲食店の充実。(男性/20代/太田/正規社員・職員/独身)
- 自分は移住者を呼びこんで人口を増加させるよりも、元々住んでいる人達が岩手のオガールプラザのような施設や、オガールプロジェクトのような計画などの実施によって活力を取り戻し、自然に増える方がよいと考えているが、移住者を増加させるためにPRした方が良いことは、その地域に住むとどういった良い点があるかといったことを説明した方がよいと思う。
(男性/20代/南外/自営業主・家族従業者/独身)
- 人口減・高齢化に歯止めをかけるための「移住・定住への支援」であるならば、特に若者の移住者を呼び込むべきである。もともと市内に住んでいる若者の流出を減らすためにも、若者にとって魅力のあるまちづくりをして欲しい。例えば、若者を対象にしたイベントの企画や、若者が利用しやすい施設の設置などが考えられる。現状、市内は秋田市と比較して若者の居場所が少ないと思う。イオンは遠いし、居酒屋やカラオケ店は怖そうな人が多く、友達を誘って行かないと怖い。初めて大仙市に来た人からすれば、マイナスの印象になる。他の地域から移住するなら、その土地の人と仲良くなりたいと思うだろうが、今の太田市では、特に若者と交流を持つことが難しいように思う。この点を改善すべき。(男性/20代/大曲/学生/独身)
- 移住者を増加させる以前に若者の流出を防ぐのが先だと考える。若者が流れ出て行く魅力の無い場所に移住者が来てくれない。(男性/20代/中仙/正規社員・職員/独身)

- 農業の魅力を発信して、フォロー体制を整える。(男性／20代／西仙北／パート・アルバイト／独身)
- 農業以外の基幹産業を育ててほしい。(女性／20代／南外／正規社員・職員／独身)
- 花火大会等を他県にアピールし、それに伴う観光業の支援。
(女性／20代／西仙北／正規社員・職員／独身)
- 若者のやりたいようにやらせる。(女性／20代／神岡／正規社員・職員／独身)
- 県外の高齢者を秋田県に移住させて、高齢者が住む街にする。レジャー施設等の場所を増すなど、もっと楽しいイベントを作って欲しい。大曲の花火が有名になりすぎて、迷惑している地元住民もいる。地元住民の花火を見る場所を確保し、地元住民からはお金を取ることはやめた方が良い。ただでさえ、秋田（大曲）は就職先が少なく、働きたくても働く先が無い人が多いので。
(女性／20代／大曲 パート／アルバイト／既婚)
- 実際に移住した人の感想は良いところも悪いところも公開する。
(女性／20代／西仙北／学生／独身)
- 少子化を打破するためには若者を地域に留まらせることが必要です。就職難で県外に就職する人が多いなら、より就職しやすく生活しやすい環境を整えるべきです。高齢者福祉を中心として考える前に高齢者を支える若者に対する福祉を充実させたらよいと考えますので、まず就職支援の強化を行ってほしいです。(女性／20代／仙北／学生／独身)
- 移住者を増加させる以前に、若者に秋田を担ってくれるような支援が必要。
(女性／20代／太田／派遣・契約社員／独身)
- 移住希望者の心配している点は、金銭面、就業、居住場所だと思う。中途半端な移住、定住支援ではなく、大胆な移住支援を望む。(男性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 移住者を増やすより、現在住んでいる世帯が、今後何世代にもわたって長く定住し、家族が増えていくことを考えた取り組みがあれば、この先、人口が増えるのでは。
(男性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚)
- ①体育館を増やす（空きがない）。
②河川敷を整備する（花火で荒らされ、スポーツができない）。
③車で利用できる公園を旧大曲市内に整備する。
④スポーツ・レジャーを楽しむ施設を増やす。(男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚)
- 移住者同士が交流する機会の創出と、その様子を使って郊外へPRを行う。
(男性／30代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚)
- ①地元から県外へ出て、何年か後に帰ってきたら得をする。
②大仙市で結婚する、住むなら花火でお祝いする。
③大仙市に住む時に、消雪等の整備補助をする。
(男性／30代／仙北／自営業主・家族従業者／既婚)
- レジャー施設、賃金を東京都レベルに上げる。若者をひきつける場所、話題がないので取り組んで欲しい。秋田は現状維持を大事にし過ぎで、何も変わらない。向上心を持って欲しい。
(男性／30代／仙北／正規社員・職員／既婚)
- 他県では「〇〇県民の日」という日が年に1度あり、その日は各施設（レジャー、レクリエーション施設）が無料で利用できると聞いた。「秋田県民の日」というものがあるらしいが、他県より知られておらず、魅力も感じられない。大仙市で「大仙市民の日」のようなものを作り、大仙市市民が大仙市内で楽しめる、得をする、出かけたくなる、住み続けたくなるような施策を検討したらどうか。
(女性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚)

- 市には大学や大企業がありません。若者、働きざかりの若年者が暮らしていく理由がないまちです。ぜひ、大学、大企業の誘致をお願いします。そうすれば活気がでます。
(女性／30代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 空き家を移住したい人のために提供したら良いと思う。リフォーム補助なども補助したら良い。若い人はホームページを見て決めることが多いので、市のホームページだけでなく、移住希望の人が見るサイトなどにPRしたほうが良いと思う。(女性／30代／大曲／正規社員・職員／独身)
- 大仙市の良さを知ってもらおう体験ツアー。(女性／30代／西仙北／派遣・契約社員／既婚)
- 辺り一面、見渡す限り田んぼばかりの風景にする。
(女性／30代／太田／パート・アルバイト／独身)
- ①せっかくの「大曲の花火」という大きなPR材料があるのだから在住者への花火大会での機材席を優先するなど、一部が盛り上がるのではなく、街全体が動ける、動きたくなるような考え方をすべきだと思う。ブランド力だけが先行し、県外からの客主体になってしまっている。
②空き家を活用し、格安で住んでもらえるような取り組みをすべき。
③高齢者向け、子育て世帯向けの支援ばかりではなく、子どものいない家庭もあるのだから、それぞれの家庭向けに合う細かい支援をすべき。
④田舎くさい街を変える。(男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- パンフレットやホームページだけの一方的なアピールではなく、顔と顔を合わせて伝える機会を増やすことで興味を持ってくれる方々が増えると思う。例えば、月1でもいいので、週末1～2泊で旅行を兼ねたプチ移住を何組かに体験してもらうことで統計がとれ、良いPRの方法が見つかると思う。待っているだけではなく、行動に移すことで、先への進み方が分かると思う。
(男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 限られた市財政の中で、既存の施設やシステムを最大限に活用し、バランスの良い市政を行ってほしい。(男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 都会で暮らしてきた富裕層を対象としたケア・タウンの整備。「タウン」であるので5000戸ぐらいは必要。工業団地の未使用地を利用。(男性／40代／神岡／正規社員・職員／既婚)
- 新卒者の就職先が少ないため、県外等に流出している。魅力ある大手企業の誘致などが必要だと思う。
(男性／40代／太田／正規社員・職員／既婚)
- 企業の誘致。農業以外で収入がなければ生活ができない。当然、結婚は無理、子どもを作って生活などできない。(男性／40代／太田／パート・アルバイト／独身)
- 移住者それぞれの希望を十分相談できる体制が必要。(男性／40代／太田／正規社員・職員／既婚)
- フィンランドのように、子育ての充実・ワンストップサービス、出産から教育、医療の無料化。
(女性／40代／大曲／専業主婦・主夫／既婚)
- 成人式で県外在住者向けに、就職支援など具体的な支援策を説明し、呼びかける。
(女性／40代／大曲／無職／既婚)
- 移住者を増加、定住させるには、まず、市民(高卒者や若者)を市外に出さないことだと思う。雇用、賃金などの充実を図る。子育てや教育など大仙市独自の子育て支援があっても良いと思う。
(女性／40代／大曲／派遣・契約社員／既婚)
- 都会的な距離感「付かず、離れず」で深入りしないけれど、仲間のような付き合いができれば若い人達も来るのではないか。年配者(リタイア組)はやはり、日常の買い物や医療機関への足が年と共に問題になるので、朝昼晩のバスによる接続は非常に重要である。
(女性／40代／協和／専業主婦／既婚)

- とにかく就労場所・機会の拡大をしないと、どんどん県外流出してしまうので、仕事、賃金を充実して欲しい。そうでないとPRできないと思う。大曲市内だけ整備して、他地域はどんどん過疎化してしまう。利便性だけを考えず、地域にあるものを有効活用することを推進した方が良い。
(女性／40代／南外／パート・アルバイト／既婚)
- ①公民館、公的施設（廃校、給食センター跡地等）を利用した産業振興。
②人・まち・しごと・地方創生の時代変化へ順応した戦略・戦法の立て直し。
(男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 他県で同じような条件の市でどのような施策をしているのか、出来る限り情報を集め、大仙市が取り組めるものがあれば実行してみる。(男性／50代／大曲／無職／既婚)
- 子育て環境・医療・介護の充実。(男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- ①市内企業の積極的なPR。
②魅力ある企業の誘致。(男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚)
- 仕事場の確保。空き家のリフォーム。(男性／50代／中仙／正規社員・職員／既婚)
- ①大仙市への移住のしやすさを理解してもらう。
②地域生活を押しつけない教育。(男性／50代／南外／正規社員・職員／既婚)
- 地産品の販路開拓。特産品の開拓。(男性／50代／仙北／正規社員・職員／既婚)
- ①住みやすさランキングで1位を獲ったことがあるはずの大曲（大仙市）をまた獲得すること。そのために取り組むことは全てが情報としてアピールできる。
②花火は回数が多ければいいものではない。回数増やして飽きられたイベントは数知れない。
③除雪、排雪について1日1回、しかも日中のみでは共働き世帯は何もできない。夕方、夜間も使えるよう機会を増やすこと、流雪溝稼働時間等を長く利用できるようにすること。スマホ等にその情報を流せないかも検討を願う。(男性／50代／無回答／正規社員・職員／既婚)
- 移住する人のためのPRも大切だが、受け入れる側の体制や考え方を改善することの方が大切だと感じる。(女性／50代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚)
- おしゃれなまちづくり、駅前商店の充実、散歩しながら立ち寄れるお店や公衆トイレの設備。
(女性／50代／大曲／専業主婦／既婚)
- 地域おこし協力隊など、都会から移住する人々にはプラスになる条件が整い始めているのは良いことだと思うが、今現在この土地で頑張り、何かを始めようとしている若い人にとっても、もっと大々的に支援するべきだと思う。そのような人々の集まるコミュニティの場や、出店、PRできる場所の提供がもっとあるべきだと思う。そして、何よりも定住を望むのならば、今ここに住んでいる人たちがこの土地の歴史や成り立ちをもう一度知り、心からここが素晴らしい場所であるという誇りを持てるための根本的な活動をしていく必要がある。五城目町のように、昔から伝わる行事を見直し、そこに新しいアイディアを取り込んで、相乗効果を生んでいるようなまちをお手本とするべき。
(女性／50代／協和／自営業主・家族従業者／既婚)
- 地域住民の標準語への理解を深めることと、教育機関での標準語の使用を行わないと何を話しているか理解できない不平等が生じ、成績に影響する。生徒も言葉が理解できず「いじめ」に移行するケースがある。移住者には、「言葉の支援」が必要だと考える。「都会者」「他地域から来た者」との区別をする意識を取り消す取り組みが必要。田舎根性がある限り移住者が入ってきても、定住はできない可能性は極めて高い。都会と地方の賃金差・待遇差を補充する、地域住民の賃金を都会に合わせる努力をしないと移住者自体は来ないと思う。(女性／50代／南外／専業主婦・主夫／既婚)
- 福島の被災者の方への働きかけ、就職、子育て支援、住宅の提供など、また、農業者の高齢化により空いている土地、住宅等の貸付などを行い、一定期間（収入を得られるまで）援助をして定着させるなど、市を挙げて呼び込むことが大事だと思う。「花火のまちで暮らしてみませんか」をPRするべき。(男性／60代／大曲／派遣・契約社員／既婚)

- 移住者や新規就農者は、その後の人生をかけて来るのだから、自分の身内以上の対応を以て接して欲しい。支援事業を立ち上げるのは良いが、対応する職員個々の対応の悪さや怠慢、指導員の差別、いじめ等があっては絶対いけません。強固な体制の下で行ってほしい。
(男性／60代／神岡／自営業主・家族従業者／既婚)
- ①克雪対策による住みやすい環境を整える。
②高齢者の住みやすい対策を講じること。(男性／60代／南外／無職／既婚)
- 春先から秋の終わりにかけての期間、東京近辺の退職者に田舎暮らしを提供する。温泉の近くに、仮設の小さい家、または空き家等で田舎村を創る。家庭菜園を近くに作って提供する。山で竹の子や山菜を採ったり、川に行って魚を捕ったりして暮らしてもらう。子どもや孫が安否確認を兼ねて遊びにくるかもしれない。永住につながる可能性もある。料金は格安にして、食糧は自分で準備してもらう。これにより、人、物、お金が動く。(男性／60代／太田／自営業主・家族従業者／既婚)
- ①地域おこしに興味がある他県の若い人を呼び込めるようにすること。
②大曲地域での住民の活動を増やす。(女性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚)
- 転勤族の方からのアンケート調査の実施。(女性／60代／大曲／パート・アルバイト／既婚)
- 安心して生活できる収入を得られる仕事があることと、子育て環境が整うこと。
(女性／60代／大曲／パート・アルバイト／既婚)
- ①マスコミの力は大きいので、成功イベントをTVで放送する。
②コンパクトシティが売りなので、高齢化する地域の人々を早くから中央近くに移住させることで、コスト的にも、安心感も、良い効果となってくれるのでは。
(女性／60代／大曲／パート・アルバイト／既婚)
- 空き家利用の田舎生活体験。(女性／60代／中仙／パート・アルバイト／独身)
- 移住を希望している人が求める条件に合う環境を紹介し、お試し体験期間を作る。そして、実際に来て感じてもらい、意見を聞く。(女性／60代／南外／正規社員・職員／既婚)
- ①広い間取りの集合住宅の設置。
②冬季の安全な道路網の確保。
③乳児および子どもたちの生活環境の整備と働く母親が安心して子育てできる生活環境の整備。
(女性／70代／大曲／無職／既婚)

3. 自由記述（分野別）

産業分野

- 企業誘致も大事だと思うが、専門学校や大学の設置も市の活性化に必要だと思う。県内には秋田市を除く市（大館、由利本荘、横手）にはあり、学生が集まれば、定住促進もしやすいし、中心街の店にも人が来るようになると思う。（男性／20代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 買い物一つするにも選択できないくらい店の数が少ない。商業施設、日々の暮らしが充実すれば定住する人も増えると思う。駅前通りのアーケードにして、今、大曲にないショップや買い物をする所を増やせばいいと思う。（男性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 給料が高い仕事の確保をお願いする。（男性／40代／太田／パート・アルバイト／独身）
- 若い人がいないと活気は無くなります。高齢者ももちろん大事にしなければいけないが子育て支援、高校学費の支援、就職活動の支援等を強く希望する。実際、勤務中の職場での休暇の取りづらい環境、低賃金等が若い世代の離職、県外移住につながってしまうので、秋田県、大仙市は頑張らないといけない。問題が多くて大変だと思うが、今後もより良い政策を期待している。
（女性／40代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 大仙市の特産品として麻を栽培すれば良いと思う。昔の花火は麻炭を使用していた、また、麻炭の花火は発色も良いと古い文献に記載されていた。麻の栽培で、農の拡大、花火の付加価値と構想は無限に広がる。大曲という地名の漢字は敗戦前には「大麻刈」だったそうだ。いずれにしても、麻を生活に取り入れていた地域だったことは間違いない。（女性／40代／大曲／その他／既婚）
- 市外や県外からの観光客を増やすために、大曲駅からの定期観光バスが必要（例：大曲駅→花火資料館→酒蔵→道の駅→唐松神社→角館）。（女性／40代／協和／専業主婦／既婚）
- 企業誘致に力を入れるべき。（男性／50代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- 今年は身の回りで移住してきた方が3人もおり、大曲も捨てたものじゃないと思った。しかし、20～30代の若い人は地元に戻りたいが、仕事が無いという話が一番多い。大学卒業後に就ける職場の必要性が一番と考える。（女性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）
- 昔と違い長男が跡を継ぐ時代ではなくなっている。農家がそれだけで生活できないのも事実。仕事を求めて都会に出て行けば、そこでの生活はなかなか思うようにはいかない。長続きするような誘致ができれば良いと思う。（女性／50代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 市の活気が今ひとつ。市の整備、教育などは行き届いているが、市として核となるものがないように思える。姫路公園の整備、大曲の町の食、大曲の花火ではないか。花火の会場である河川公園は災害対策などまだまだ整える必要がある。（男性／60代／大曲／その他／既婚）
- 先端技術を核とした地域開発により企業誘致。（男性／60代／西仙北／無職／既婚）
- 雇用安定による収入確保が定住の最低条件である。（男性／60代／協和／パート・アルバイト／既婚）
- 大仙市花火産業構想は旧大曲市の観光等を盛り込んだものであり、旧他町村とはかけ離れているため、あまり資金を投ずるのはどうかと思う。少子高齢化に伴い、若者の定住離れが多い。もっと地元で働ける場所、賃金の確保を市として検討するべき。（男性／60代／太田／正規社員・職員／既婚）
- 「大曲の花火」として定着しているが、一部の地域のための活性化。大仙市には各地域のお祭りや花火大会がある。各地域の花火大会にも力を入れてもらいたい。高齢化が進む中、大曲の花火会場に行きたくても行けない人が沢山いる。各地域の花火大会ならそういった人も楽しめる。今後、各地域の花火大会の宣伝や花火の本数にも力を入れて欲しい。（女性／60代／中仙／専業主婦／既婚）
- 花火のまち大曲として大変結構だと思うが、一方で花火におんぶにだっこだとも思う。
（男性／70代／大曲／無職／独身）

出会い・結婚・子育て分野

- 高校卒業してからすぐに出会いを求めるべき。（女性／10代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 低所得のため、出産や未来に不安があります。市でたくさん子どもが産まれるよう、対策してもらいたい。（女性／30代／仙北／パート・アルバイト／既婚）
- 人口減少を真剣に考えてもらいたい。子どもが成長したら大仙市に住みたいと言える環境、若い夫婦が安心して子どもをたくさん産める環境づくりをしてもらいたい。高齢者にかかるお金を削って、子ども達の成長に回してもらいたい。小学校を統合してもらいたい。（男性／60代／太田／その他／既婚）
- 私たちの年代には仲人してくれる人がいて、独身でいる人はいなかった気がする。
（女性／60代／太田／無職／既婚）
- 子どもが宝である。結婚・出産などで若い人が増えてくれると嬉しいと思う。
（男性／70代／大曲／無職／既婚）

健康福祉分野

- 介護認定が無い高齢者が一時的に一人暮らしになった場合の支援、または、相談窓口などのような所があれば良いと思う。（女性／50代／大曲／無職／独身）
- 高齢者の車での運転や自転車に乗る姿を見て、交通事故が無いよう願うばかりだ。
（男性／60代／中仙／自営業主・家族従業者／独身）
- 年金から引かれるものを無くして欲しい。年金を二ヶ月に一回ではなく毎月支給にして欲しい。
（女性／70代／大曲／無職／独身）
- 私は老人クラブに入会している。毎週行事があり、老後を楽しんでいる。
（女性／70代／西仙北／無職／既婚）

都市基盤分野

- 大曲駅前のタクシー駐車スペースは18台も必要ではない。田舎ならではの子ども、大人の送迎で一般の車がたくさん待っているのに、駐車スペースが無い。（女性／20代／大曲／専業主婦／既婚）
- 特に用事が無いときも立ち寄れるきれいな公園があれば良いと思う。気軽に舞台や音楽を楽しめるホールがあれば良いと思う。（男性／30代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- 職業柄、リフォーム補助金の存在はとても大きく、利用している。お客様も知らないことが多く、こちらが提案すると大変喜ばれる。毎年金額が減っているが、これからも続けて欲しい。
（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 諏訪神社周辺の空き店舗・空き地を市営でも民間でもいいので、駐車場にして欲しい。
（女性／30代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 循環バスの運行に関して、もう少し遅い時間まで運行してほしいと思います。夕方の買い物の時など利用したい。19時くらいまで。循環バス料金について、ワンコイン（100円）の料金でお願いできたらいい。（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- 通勤道路（県道）のセンターラインが消えていて、雨の夜は特に対向が難しく危険。ここ数年整備されていないし、外灯もない。（男性／50代／西仙北／自営業主・家族従業者／既婚）
- 路地裏等、メイン道路以外の路面が悪く、歩行するにあたり危険に感じる場所が多い。
（女性／50代／大曲／パート・アルバイト／独身）
- 毎年、区画整理完了地域（黒瀬町）で、道路上に排雪の雪山を残している。雪対策ができない区画整理事業では困る。（男性／60代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 旧態依然とした街並みの改善。（女性／70代／大曲／無職／既婚）

環境・安全分野

- 大曲循環バスをたまに利用している。車を運転できない老人や車を所有していない人にとって、大変便利で助かっている。ただ、時間帯にもよるが、1人も乗車していない時もある。大変助かる事業なので、もっと宣伝してもらいたい。（女性／20代／大曲／正規社員・職員／独身）
- もしもの災害に強い地域づくりをして欲しい。（男性／40代／南外／派遣・契約社員／既婚）
- 市では、率先して雪対策支援を行っており、大変心強く思っている。そこで、他県の豪雪地域における独自の雪対策を知り得たら参考になると思う（住民や地域の取り組み等）。
（男性／60代／協和／無職／既婚）

教育・スポーツ分野

- 県南に一つくらい人工芝のグラウンドがあってもいい。公共施設にフリーWi-Fiを整備して欲しい。
（男性／30代／大曲／自営業主・家族従業者／既婚）
- 市全体の大きさからすると、大仙市は手厚くしてくれていると思う。テーマ11の間2で学校生活支援員は必要としたが、子どもに色々なことを体験してもらうことも大切だと思う。
（男性／50代／大曲／正規社員・職員／既婚）

交流・行政運営分野

- こういうアンケートや地域の活動に積極的に参加して、地域の活性化につなげていきたい。
（男性／10代／大曲／正規社員・職員／独身）
- 地域がもっと活気づくこと願っている。（女性／10代／大曲／学生／独身）
- 県を復興させるには県外との協力、繋がりが必要不可欠である。（男性／20代／太田／学生／独身）
- アンケートも良いが、アンケートを出しても答えない人もいるので、市が市民を選抜してサミットのような機会を創り、市民に意見を言ってもらってはどうか。
（女性／20代／大曲／パート・アルバイト／既婚）
- 大仙市は災害が少ない。そして、犯罪のない街として都会や被災地から移住者が増えたらと思う。いじめの少ない、高齢者の過ごしやすい、待機児童の問題のない大仙市の良さを、住みよいまちづくりを頑張りたい。（女性／20代／協和／学生／独身）
- 行政の取り組みの浸透性が薄いように感じる。秋田県人は自分のことが大事と伺える。目に見えた策が必要。人は県外に出て、高齢者は増える、働く人がいない。もっと動いて欲しい。公務員だけが安定しているイメージが昔と変わらず強い。（男性／30代／仙北／正規社員・職員／既婚）
- 未使用となっている合併前の公共施設や統合により廃校となった学校などの再利用はまだたくさんできる。また、市役所の中には、スキルが高く、人間的にも優れた非正規雇用の職員がいると思う。「処遇」「待遇」の見直しなどを検討してはどうか。
（女性／40代／大曲／派遣・契約社員／既婚）
- 若い人が県外へ出るのは、大仙市に魅力を感じないからだと思う。もっと大仙市の施策や事業、魅力を小学生や中学生にも分かりやすくアピールすることが必要だと思う。
（男性／50代／太田／正規社員・職員／既婚）
- 限界町内にある現状を考えると、なかなか前向きな考えが出てこないが、退職して、自分がいかに市政への理解が不十分であったかを考えさせられた。まず、最低限、広報などで色々な市の施策を理解する中で、自分で出来ることは何なのかを考えたい。（男性／60代／大曲／無職／既婚）

その他

- 今回のアンケートにて初めて知った事業が多かったことに驚愕。果たして自分以外にどれ程の人が知っているだろうか。周知徹底するべき。知らずに損している人もいるはず。
(男性/20代/中仙/正規社員・職員/独身)
- いつも大仙市民のために力を尽くしてくださってありがとうございます。これからもこのようなアンケートを毎年実施してくだされば幸いです。(男性/20代/南外/自営業主・家族従業者/独身)
- ①すべての箇所の年間風速や日照時間、河川の水量等を調べて、風力発電や太陽光発電など、適地適電したらいい。
②すべての土地を市有地にして、失業者などを雇う条件で貸すようにしてほしい。
③すべての田畑や林道の基盤整備をしてほしい。
④健康食品にも使われる、ミドリムシの養殖を行ってほしい。
⑤すべての場所で、職場体験ができるようにしてほしい。
⑥市民一人一人に、果樹の苗木と育て方が書かれた紙をプレゼントして、少しでも食べ物に困らないようにしてほしい。
⑦すべての公共の場所を水洗トイレにして、なおかつ壁を天井までにしてほしい。
⑧市民が将来結婚して子供を育てても大丈夫と思えるような雇用や教育を実施してほしい。
⑨生まれた時から英語を習わせたい人は習わせるような特別な学校を作って、通常は外国の文化を習わせる程度にしてほしい。
⑩すべての市民が市議会議員になれるような教育と試験を受けさせて、試験に合格した人だけが、議員になれるようにしてほしい。
⑪すべての地域が国の補助金に頼らずに、自力で財源を確保できるようにしてほしい。
⑫市内で発電された電力を使って、道路のロードヒーティングや、消火栓の周りの融雪が出来るようにしてほしい。(男性/20代/南外/自営業主・家族従業者/独身)
- このアンケートで知らないことを知る機会ができました。(女性/20代/協和/正規社員・職員/独身)
- 長期的に見て、これから維持していくことが難しい自治体が増えていく状況において、特色と強みを持たないと残っていけないと考えるが、数十年後にどういった地域になっているかというビジョンが見えない。(男性/30代/西仙北/自営業主・家族従業者/既婚)
- 十人十色と言うように、全員が同じ意見になることは無いと思うが、大仙市のために思い切った政策をどんどん行って欲しい。(男性/30代/南外/正規社員・職員/既婚)
- 問題となる理由がたくさんあって、この中から一つ選ぶのは辛い。
(男性/30代/仙北/自営業主・家族従業者/既婚)
- 真剣にアンケートに答えたので、活かしてもらえることを願う。
(女性/30代/大曲/派遣・契約社員/既婚)
- 今回のアンケートで、自分が色々な制度を知らなすぎていると感じた。「こんな時は、こんな制度がある」と簡単に冊子にまとめられているといざという時に窓口に行けそうな気がします。
(女性/30代/西仙北/その他/既婚)
- 県外から転入した時に「マル福」という言葉を使われて、何のことか分からず質問したら迷惑そうな顔をされた。母子手帳をもらいに行つて「この後仕事がある」と言っているのに、保健師さんが自分の経験を語り30分以上かかった。子どもが少ないのに健診等の待ち時間が長い。書けばキリがないが、一つずつ改善して欲しい。(女性/30代/仙北/専業主婦/既婚)
- 市広報に毎月目を通すが、自分の生活に関係のある事業しか目に入ってこないの、知らない事業が多かった。今回のアンケートは費用もかかっていると思うが、どれだけ効果があるか疑問に思う。実際にその事業を利用している方の生の声を聞いた方がいいのではないか。(女性/40代/大曲/無職/既婚)
- 窓口対応が悪い。窓口にいるなら態度をもっと良くしてもらいたい。
(女性/40代/中仙/専業主婦/既婚)

- 若者がたくさん集まってくるようなまちづくり（大学など）。高齢者より、認知症の方などが安心して暮らせるまちづくりを望む。（女性／50代／大曲／専業主婦／既婚）
- このアンケートがなければ、市の施策をほとんど知らないままだった。
（女性／50代／西仙北／派遣・契約社員／既婚）
- ①市の職員一人一人が大仙市の観光大使になってPRすること。
②日常行政担当者として市民目線で改善していく努力すること。（窓口で1回に済まされない事が多く仕事の中身を知らなすぎる。詳しい人に聞いてでも対応してほしい。県と市の通知等関連した文書を単純化してほしい。）（男性／60代／南外／無職／既婚）
- アンケートはもっと内容を絞って簡単にした方がよい。時間が無い人は記入して投函まで至らない。
（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／独身）
- 私は66歳だが、市から仕事をもらい、毎日がとても楽しい。ただ、21歳の孫が都会に行ってしまった時はとても悲しかった。でも、いつかは必ず戻って来ることを楽しみに頑張っている。こんな素晴らしい市はどこにもありません。FMはなびは毎日聴いている。
（女性／60代／中仙／パート・アルバイト／既婚）
- 多くの公共事業が大曲周辺を中心に行われているような気がする。中心地から離れている協和はおいでけぼりにされている。統合して以来、活気が無くなり廃れていく一方に感じる。もう少し目を向けてもらいたい。（女性／60代／協和／無職／既婚）
- 高齢者だけにとても難しく感じながらアンケートに参加させて頂きました。少子高齢化、空き家に関する問題、すべての問題が良い方向に進み解決してくれることを願っています。
（女性／60代／南外／無職／既婚）
- 今回のようなアンケートは大切だと思います。集計した結果を有効に活用して、より良い大仙市をつくらせて欲しいと思う。（男性／70代／大曲／無職／既婚）

4. 分析結果・今後の取組（テーマ別）

■分析対象

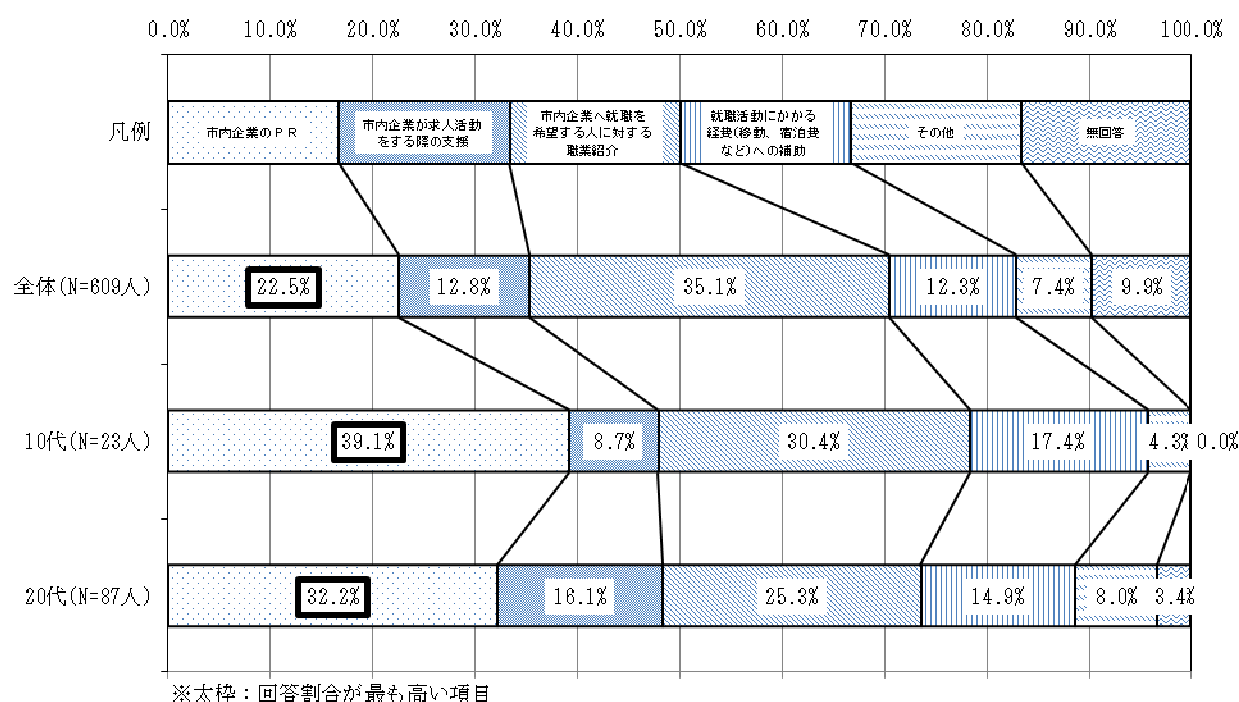
生産年齢人口が少子化等の影響により減少しているなかで、若い年代の地元就職の向上と高い離職率の改善が求められていることから、その年代が求める取組を検討するため、市内企業への就職を促進するための取組と早期離職を予防するための取組について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

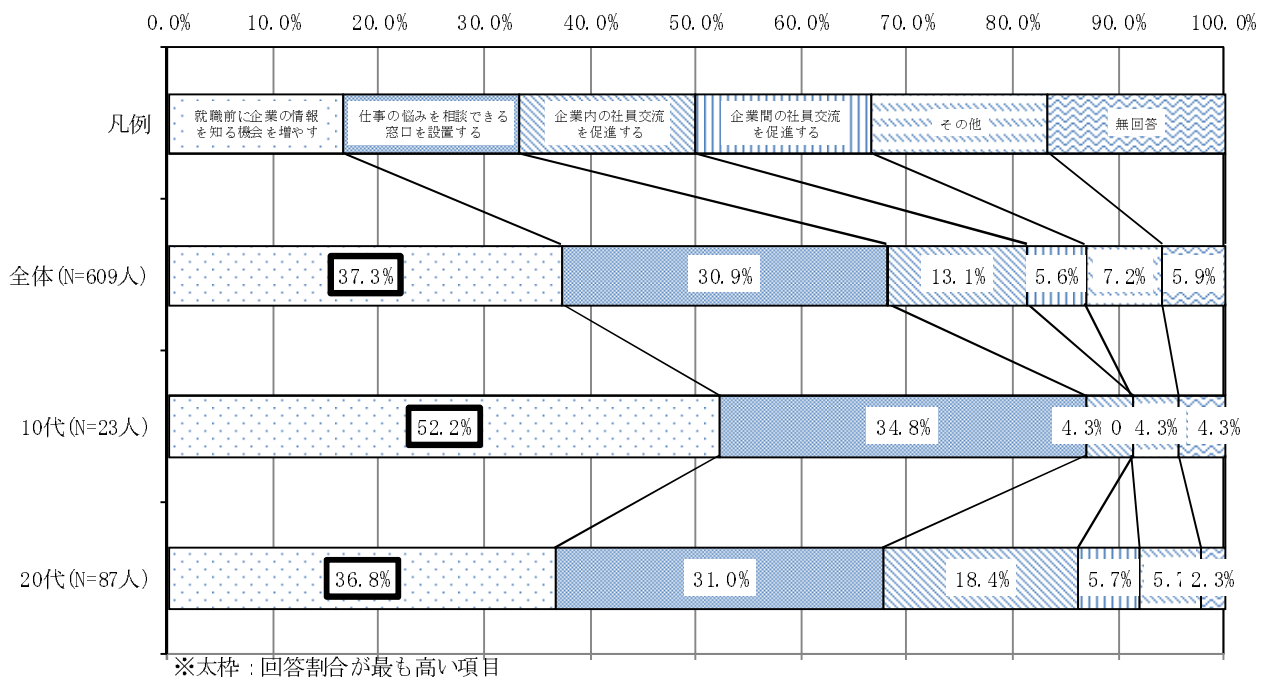
若い年代の市内就職を促進するため、10代から20代に注目して分析する。

■分析対象設問・結果

問3 現在、地元の高校を卒業する人の約30%が就職、約70%が進学等となっています。また、就職者のうち約30%が県外へ就職しています。市では、進学等により県外へ転出した人の市内就職を促進したいと思いますが、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



問 4 現在、秋田県の新規学卒者の就職後 3 年以内の離職率は、高校、短大等で約 40%、大学で約 35%となっています。早期離職を予防するために、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問 3 の結果から、市内企業への就職を促進するための取組について、10 代、20 代では「市内企業の PR」が最も回答割合が高くなっていることから、若い年代にとっては、市内企業の情報が不足していると考えられる。
- ② 問 4 の結果から、早期離職を予防するための取組について、10 代、20 代では「就職前に企業の情報を知る機会を増やす」の回答割合が最も高く、特に 10 代では過半数を占めていることから、就職前の印象と就職後の実態の違いが早期離職の要因の一つになっていると考えられる。
また、次に「仕事の悩みを相談できる窓口を設置する」の回答割合が高かったことから、仕事に関する悩み等を相談できる環境が求められているが、十分に整備されていないと考えられる。

■今後の取組

- ① 問 3 に関する分析結果から、若い年代が市内企業の情報を詳しく知ること、市内就職の増加が期待できると考えられることから、市内の高校生及び県外に転出した若い世代に、市内企業の情報を詳しく伝える方法等を検討していく。
- ② 問 4 に関する分析結果から、早期離職の予防についても市内企業の情報提供が求められていることから、①と同様に進める。
合わせて、専門窓口の設置など、仕事に関する悩み等を相談できる環境の整備を検討していく。

■分析対象

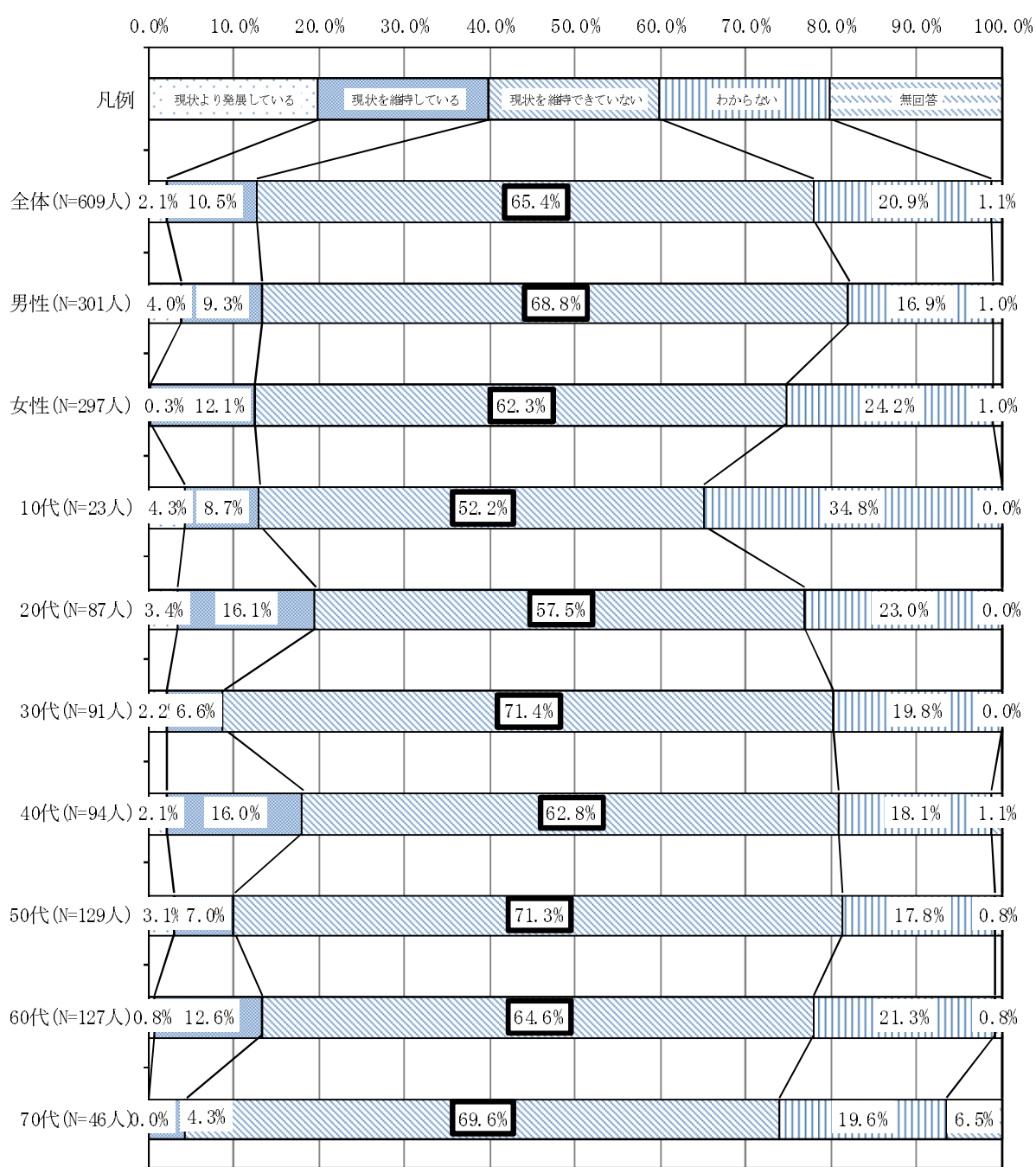
農業従事者の高齢化や後継者不足が進むなか、将来にわたる多様な担い手の確保、育成が重要な課題であることから、担い手づくりを進める新規就農者研修施設の今後の指導、運営方針を検討するため、全設問に関する回答者を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、性別、年代別で総合的に分析する。

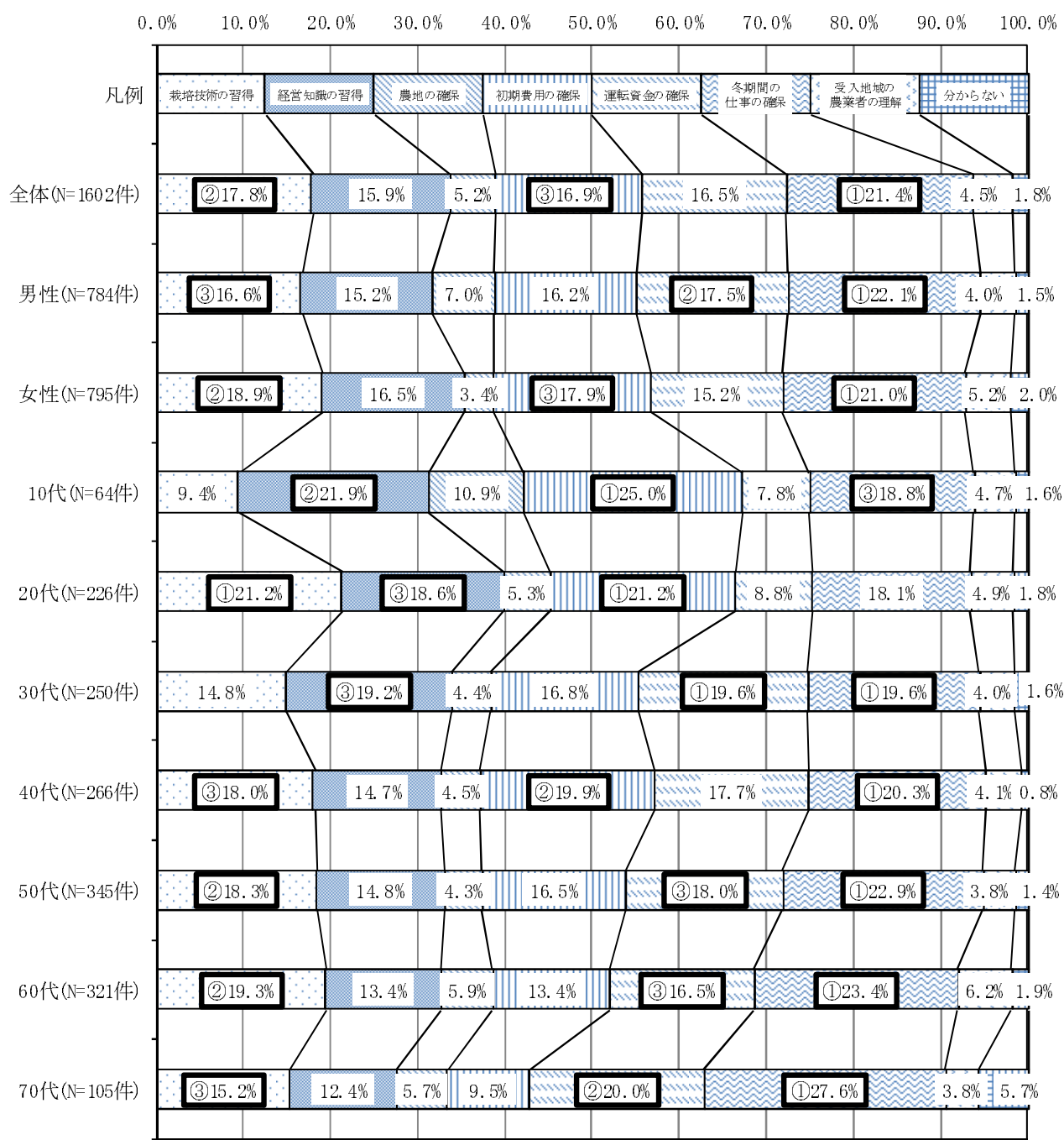
■分析対象設問・結果

問 1 あなたの地域の農業は、10年後どのようなになっていると思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



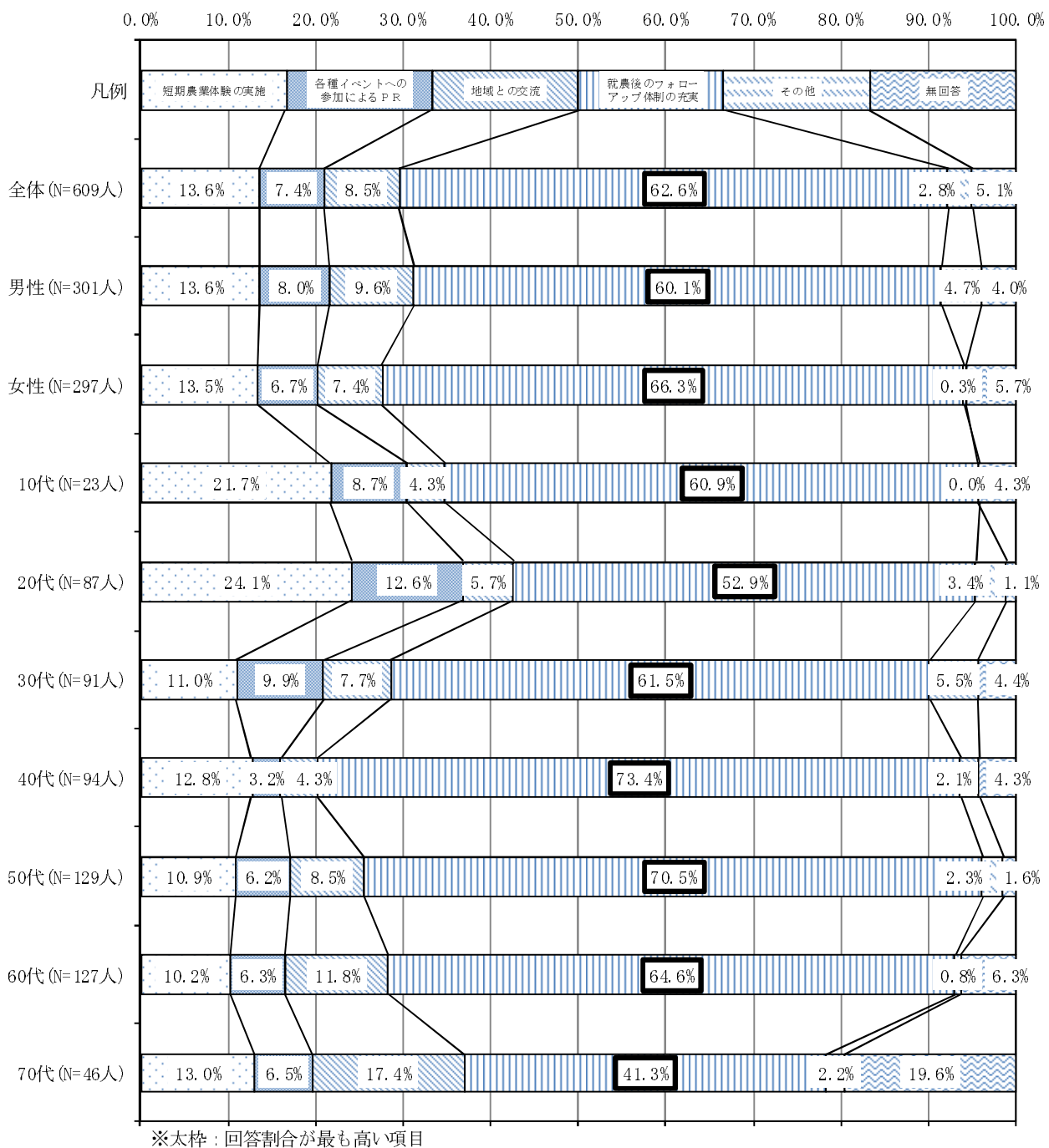
※太枠：回答割合が最も高い項目

問2 もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。



※太枠：回答割合が高い上位3項目

問3 今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思われますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問1の結果から、市の今後の農業について、全体、性別、年代別でも「現状を維持できていない」の回答割合が過半数以上と高い結果となっており、市の今後の農業について消極的な印象が持たれていることがわかる。
- ② 問2の結果から、農業を始める際の課題について男女別では全体的に大きな差は見られないが、年代別に見ると、10代、20代の若い年代では「経営知識の取得」や「初期投資の確保」の回答割合が高いが、他の年代では「冬期間の仕事の確保」への回答割合が高くなっており、全体、性別でも高い回答割合となっていることから、「冬期間の仕事の確保」が就農への大きな障害となっていると考えられる。

- ③ 問3の結果から、新規就農者研修施設で取り組むべきこととして、全体、性別、年代別でも「就農後のフォローアップ体制の充実」の回答割合が最も高く、研修終了後の支援体制の充実が求められているほか、10代、20代の若い年代では「短期農業体験の実施」の回答割合が他の年代に比べて高くなっている。

■今後の取組

- ① 問2に関する分析結果から、本市の農業経営及び就農に対する最大の課題として、「冬期間の収入確保」であることは明らかである。このことを踏まえ、周年営農に向けた施設園芸栽培及び6次産業化への取組に対する支援を充実させるほか、新規就農者研修施設での研修内容についても周年栽培の技術習得に向けた研修内容を充実させるなど、冬期間の収入確保につながる取組を推進する。
- ② 問3に関する分析結果から、経営技術面、営農資金面及び農地面での諸課題に対する相談体制の整備、研修修了生及び研修生との情報交換等の機会創出など、就農後のフォローアップ体制の充実について検討するほか、若い世代で回答割合の高い「短期農業体験」についても実施を検討する。

■分析対象

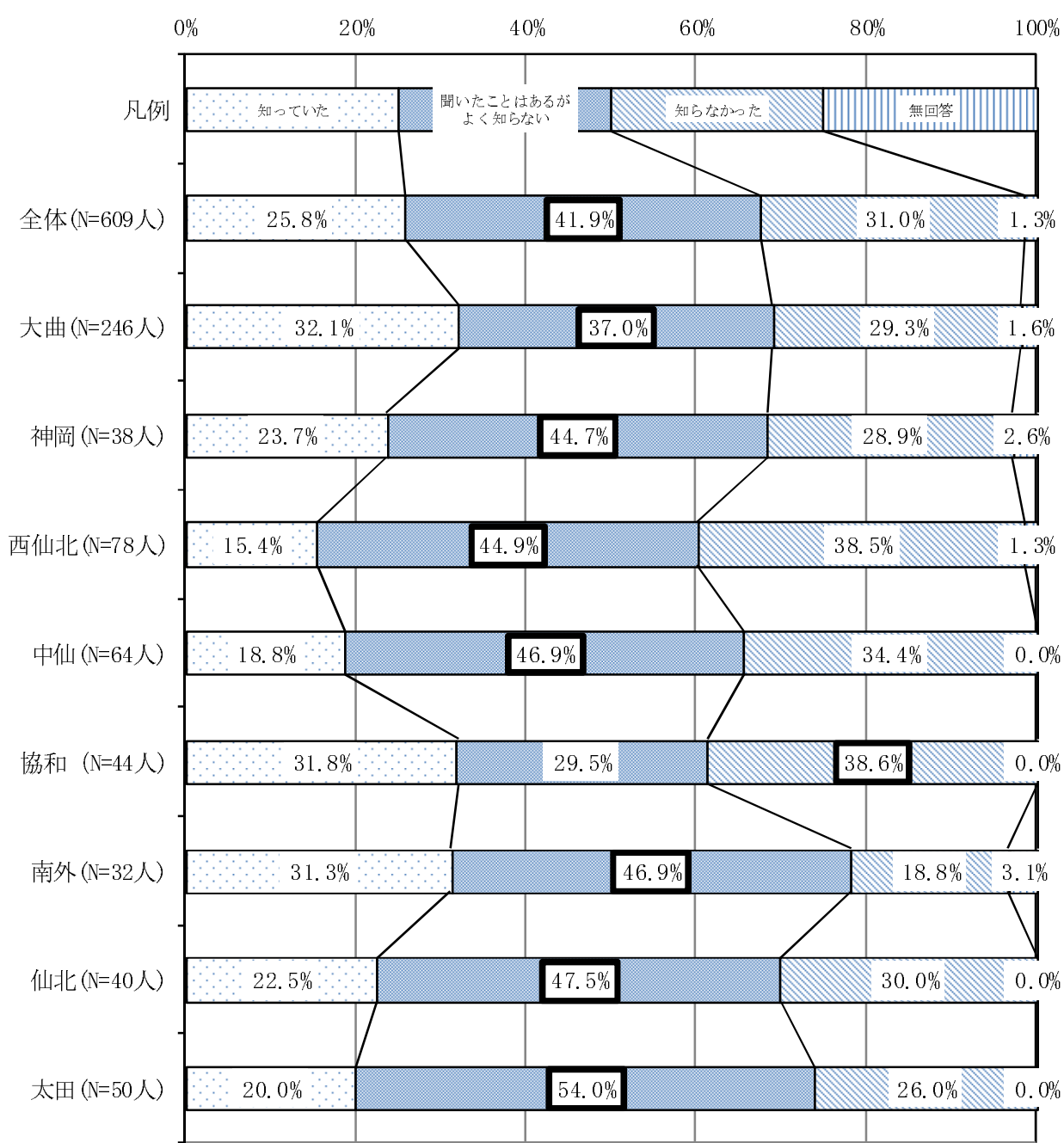
「花火産業構想」及びそれに関連する事業に対する市民の方の考えを把握した上で、各関連事業の優先度や新規事業・継続事業等を検討するため、「花火産業構想」の認知度や地域への効果について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

市が進めている花火関連の取組に対する地域間の考えの違いを把握するため、地域別に分析する。

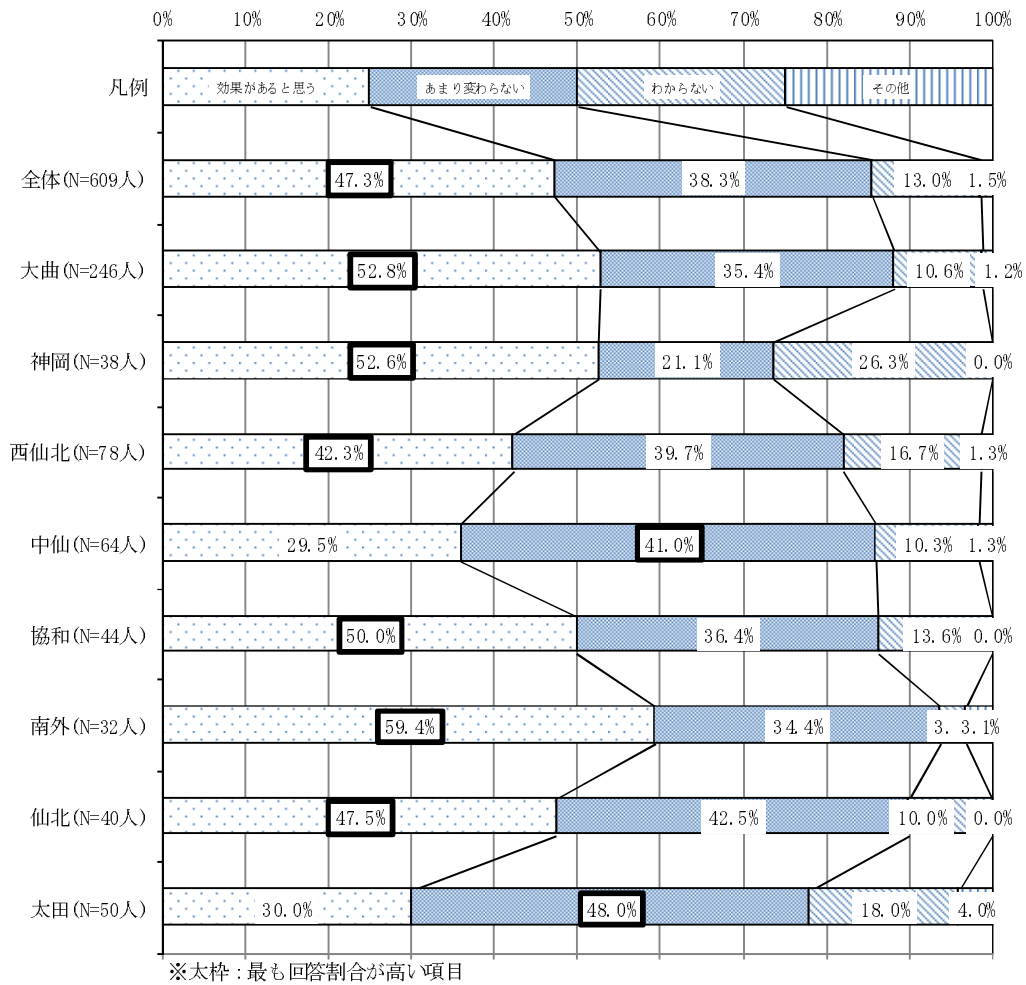
■分析対象設問・結果

問 1 市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問2 市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



問4 問2で「2（あまり変わらない）」に○印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

	有効回答数 (N)	花火が以外に活用すべき地域	花火イベントが小さい短期間のため	花火以外の産業への波及効果	花火が市全体ではなく一部の地域で盛んなだけ	その他	無回答
全体	233人	4.7%	21.5%	21.9%	46.4%	3.0%	2.6%
《地域別》							
大曲	87人	6.9%	26.4%	33.3%	27.6%	3.4%	2.3%
神岡	8人	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
西仙北	31人	0.0%	25.8%	16.1%	51.6%	6.5%	0.0%
中仙	32人	3.1%	15.6%	12.5%	59.4%	3.1%	6.3%
協和	16人	0.0%	12.5%	0.0%	87.5%	0.0%	0.0%
南外	11人	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	0.0%	0.0%
仙北	17人	5.9%	29.4%	11.8%	41.2%	5.9%	5.9%
太田	24人	12.5%	16.7%	12.5%	54.2%	0.0%	4.2%

※着色部：最も回答割合が高い項目

■分析結果

- ① 問1の結果から、大曲、南外地域においては「知っていた」の回答割合が比較的高く、一方、西仙北、中仙地域においては特に低くなっている。また、協和地域においては、「知っていた」の回答割合も高いが「知らなかった」の回答割合も高くなっている。
- ② 問2の結果から、大曲、神岡、西仙北、協和、南外、仙北地域においては「効果があると思う」の回答割合が高くなっている。一方で、中仙、太田地域では「あまり変わらない」の回答割合が高くなっている。
- ③ 問3の結果から、西仙北、中仙、協和、南外、仙北、太田地域で「花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない」の回答割合が高く、特に協和地域で高くなっている。また、神岡地域では「花火以外の産業への波及効果が小さい」の回答割合が高く、大曲、中仙、仙北、太田地域では「花火以外に活用すべき地域資源がある」の回答が見られる。

■今後の取組

- ① 「花火産業構想」の認知度については、地域により偏りがあるものの、「聞いたことがあるがよく知らない」の回答を含め全体で約7割が知っていると答えており、平成28年度に実施したスマートフォン用アプリ「大仙市花火カメラ」、「ビジュアルアイデンティティ」を活用しながら、取組を認知いただくようPRの強化を図っていく。
- ② 同構想は、全国花火競技大会「大曲の花火」のブランド力を最大限活かし、工業をはじめ観光、商業、農業など様々な産業分野の振興により、地域経済の活性化を図ろうとするものであるが、その実現には中長期的な取組が必要であることから、市全域に効果が波及するよう、計画した事業を確実に実施していくとともに内容の改善、充実を図っていく。
- ③ また、観光分野では、各地域で開催されている花火大会への支援を継続し、レベルアップを図りながら、大曲の花火との連携により花火のまちとして積極的にPRするとともに、花火を核とした新たな観光ルートの構築、通年型観光商品の開発のほか、農商工団体等との連携による花火ブランドを活用した商品、特産品の開発、販売促進に取り組んでいるところであり、今後も滞在型観光やインバウンド観光を意識しつつ、大仙市ならではの観光を推進していく。

■分析対象

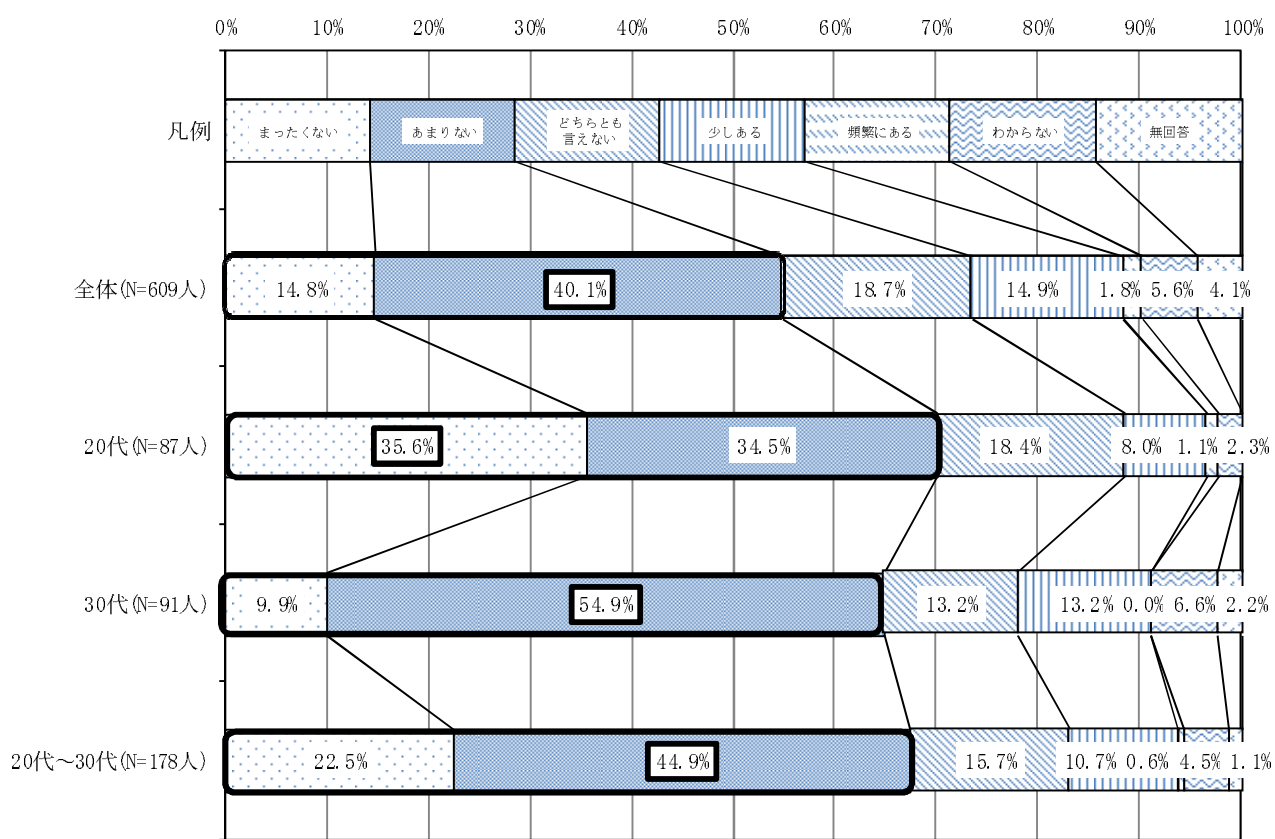
新たに効果的な事業の展開を検討するにあたり、当事者ニーズを取り入れた事業を検討するため、将来の結婚相手となるような方と出会う機会が「まったくない」、「あまりない」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

少子化対策の一環として本事業を実施していることから、20代から30代に注目して分析する。

■分析対象設問・結果

問 1 普段の生活の中で将来の結婚相手となるような方と出会う機会がありますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問2 問1で「1（まったくない）」、「2（あまりない）」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。

	有効回答数（N）	外的要因			内的要因		その他	無回答
		① 職場など、周囲に独身の異性が少ない	② 仕事が忙しく、異性と出会う時間がない	③ 独身の男女が交流できる場所がない	④ 家族や同姓の友人との付き合いを優先している	⑤ 異性との出会う機会を求めず面倒である		
全体	334人	24.9%	17.1%	27.8%	9.6%	15.0%	2.7%	3.0%
《年代別》								
20代	61人	①24.6%	②19.7%	③18.0%	14.8%	16.4%	4.9%	1.6%
30代	59人	①28.8%	16.9%	②22.0%	6.8%	③20.3%	3.4%	1.7%
20代～30代	120人	①26.7%	③18.3%	②20.0%	10.8%	③18.3%	4.2%	1.7%

※着色部：回答割合が高い上位3項目

■分析結果

- ① 問1の結果から、将来の結婚相手となるような方と出会う機会が「まったくない」、「あまりない」を合計した回答割合は、20代では70.1%、30代では64.8%という結果となり、20代と30代を合計した回答割合は67.4%となった。
- ② 問2の結果から、出会う機会が「まったくない」、「あまりない」の理由として、20代と30代を合わせた回答割合では、「職場など、周囲に独身の異性が少ない」が26.7%と最も高く、次いで「独身の男女が交流できる場所がない」が20.0%となった。
- ③ 20代と30代を合計した回答割合において、外的要因によるグループ（「職場など、周囲に独身の異性が少ない」、「仕事が忙しく、異性と出会うための時間がない」、「独身の男女が交流できる場所がない」のいずれかを選択した方）は全体の65.0%、個人の事由など内的要因によるグループ（「家族や同姓の友人との付き合いを優先している」、「異性との出会う機会を求めず面倒である」のいずれかを選択した方）は全体の29.1%となっている。

■今後の取組

- ① 分析結果から、20代と30代において、出会うを求めているが、外的要因により出会う機会が少ないと考えている方が多いことを踏まえ、これらの項目について対策を検討していく。
- ② 「独身の男女が交流できる場所がない」については、市で実施している出会いイベントの開催回数の見直しや、休日、夜間など参加しやすい日時での開催、飲食やスポーツ、芸術などテーマを絞った内容を検討するなど、出会うを求め方が参加しやすくなるような事業を実施する。
- ③ 「職場など、周囲に独身の異性が少ない」、「仕事が忙しく、異性と出会うための時間がない」については、仕事が忙しく、プライベートな時間が取りづらくなっていると考えられることから、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現に向けて、希望に応じた働き方が出来るよう企業向けの研修や、企業内の未婚者に出会いイベントの情報を提供し、参加を呼び掛けてもらうなど、企業と連携した取組を検討していく。

■分析対象

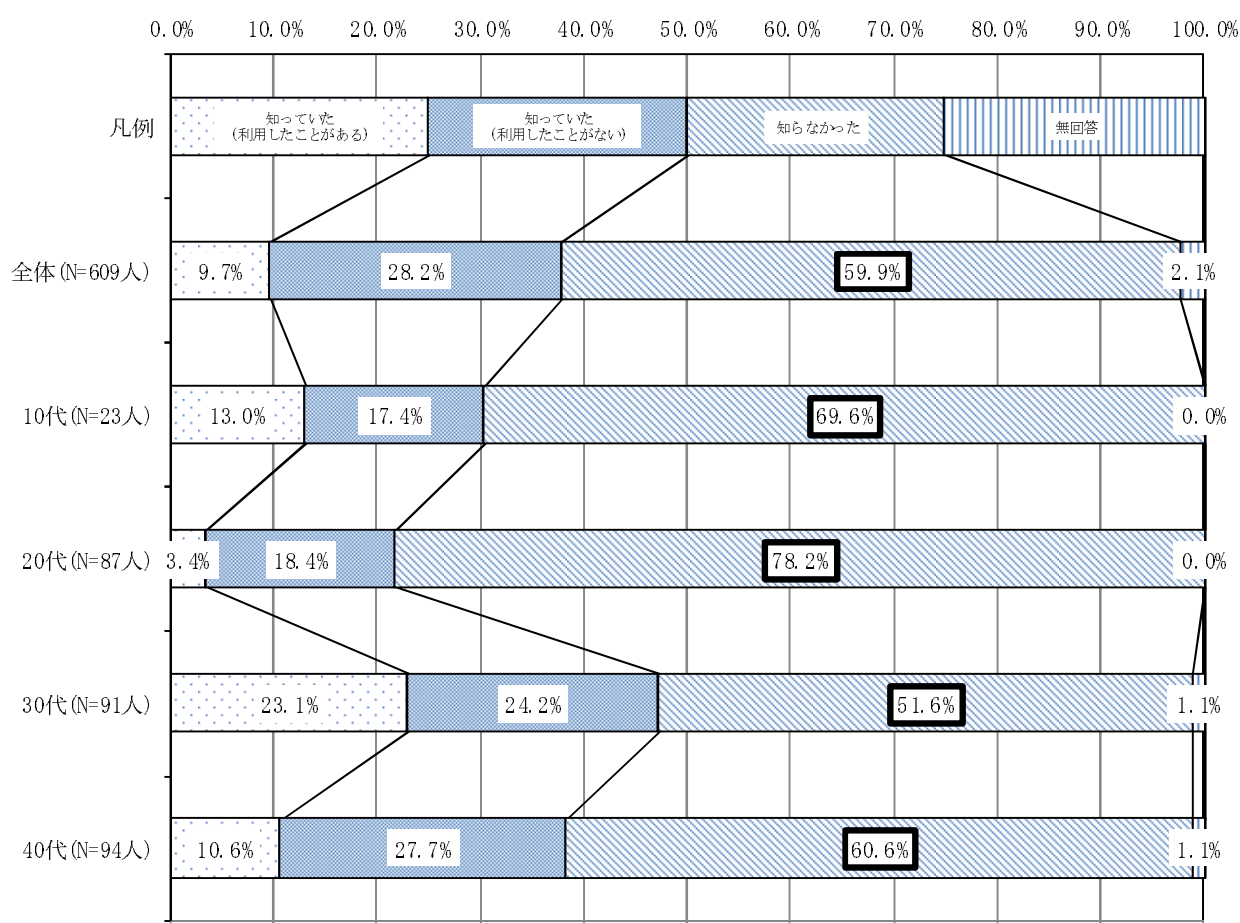
今後の新たなサービスの提供と効率的な情報提供の方法等について検討するため、地域子育て支援拠点施設の認知度、拡充が期待されるサービスと、必要とされる情報や情報提供の方法について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

次世代と現役の子育て世代である10代から40代に注目して分析する。

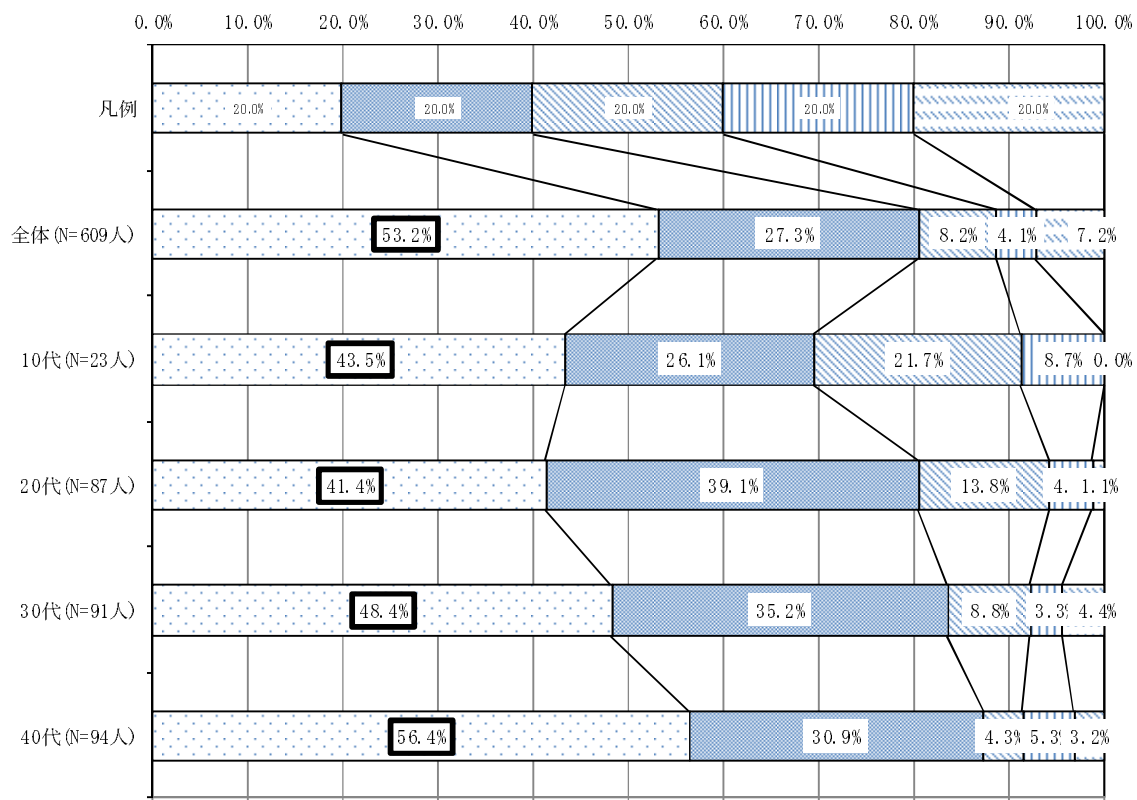
■分析対象設問・結果

問1 あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設が開所していることを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。



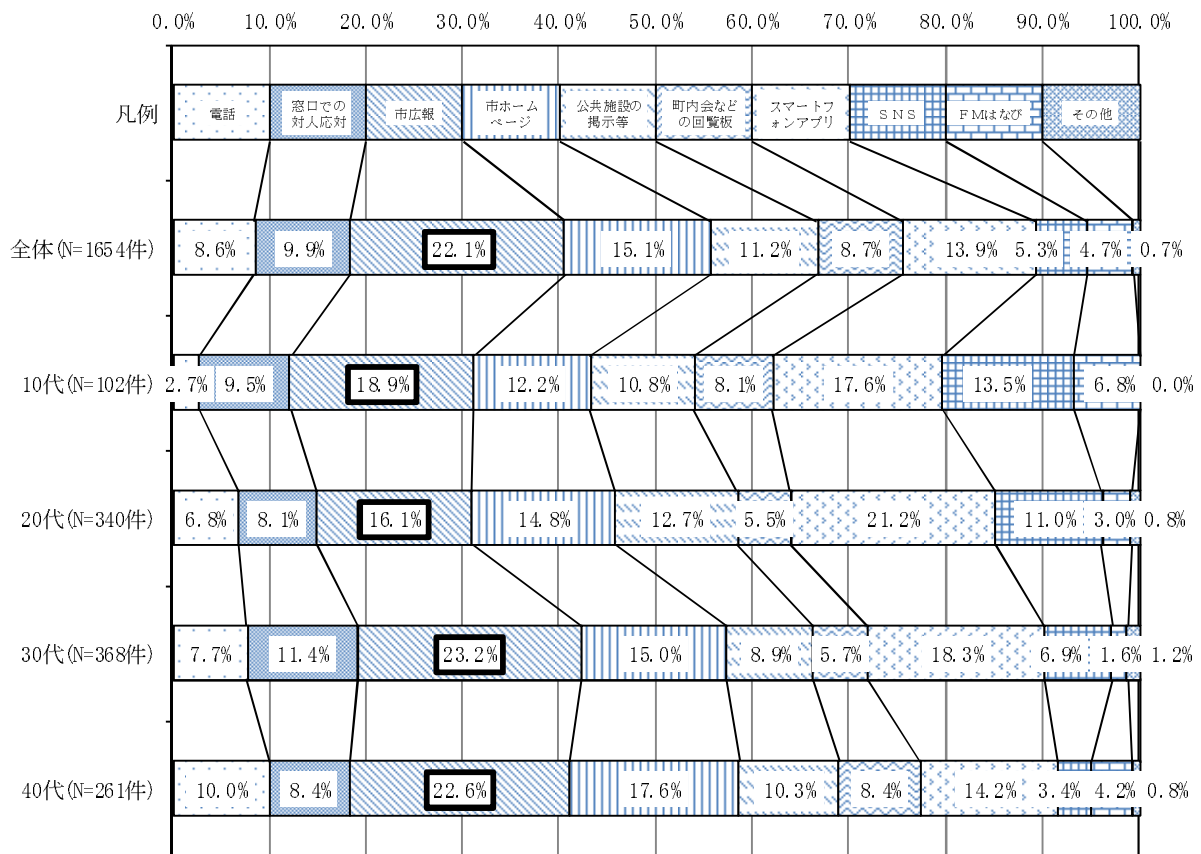
※太枠：最も回答割合が高い項目

問3 地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号1つに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

問5 地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。



※太枠：最も回答割合が高い項目

■分析結果

- ① 問1の結果から、地域子育て支援拠点施設の認知度について、「知らなかった」の回答割合が全体で59.9%、年代別に見ると10代69.6%、20代78.2%、30代51.6%、40代60.6%となり、全体的に認知度は低く、特に将来の子育て世代である若年層の認知度が低くなっている。
- ② 問3の結果から、地域子育て支援拠点施設で拡充が期待されるサービスについて、「子育て情報のワンストップサービス窓口の設置」の回答割合が全体で53.9%と最も高く、全ての年代においても最も高くなっており、特に10代では69.6%と他の年代より高くなっている。
- ③ 問5の結果から、地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報を得る手段について、「市広報」の回答割合が全体で22.1%と最も高く、各年代においても高くなっている。また、10代から30代においては、「スマートフォンアプリ」や「SNS」の回答割合も高くなっている。

■今後の取組

- ① 地域子育て支援拠点施設の認知度が低いことから、認知度の向上を第一の目標とする。取組としては、情報媒体として最も期待されている「市広報」を活用し、現在は毎月行っているイベント情報の掲載に留まっているものを、今後は子育て情報の特集やイベントの様子等も記事として掲載することを検討する。
- ② 拡充する必要性が最も高い結果となった「ワンストップサービス」については、国が進める子ども・子育て支援新制度のメニューに「利用者支援事業」がある。この事業は、地域子育て支援拠点施設や保健センターなどにおいて、専門の支援員が子育て家庭の個別ニーズを把握し、適切な施設の紹介や必要とする支援が受けられるよう支援する事業である。
現在、市では本事業の実施に向けて専門支援員の養成を行っているが、ワンストップサービスに対する要望が高かったことを踏まえ、事業化のスピードアップを図る。
- ③ 10代から30代においては、スマートフォンアプリやSNS等のインターネット媒体を活用した情報提供が望まれていることから、これまでの「市広報」や「子育てハンドブック」などの紙媒体に加え、インターネット媒体を活用した情報提供を検討する。

■分析対象

サービスを必要とする高齢者や支える家族に対する効率的な情報提供の方法について検討するため、制度やサービスに関する認知度及び情報を得る手段について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

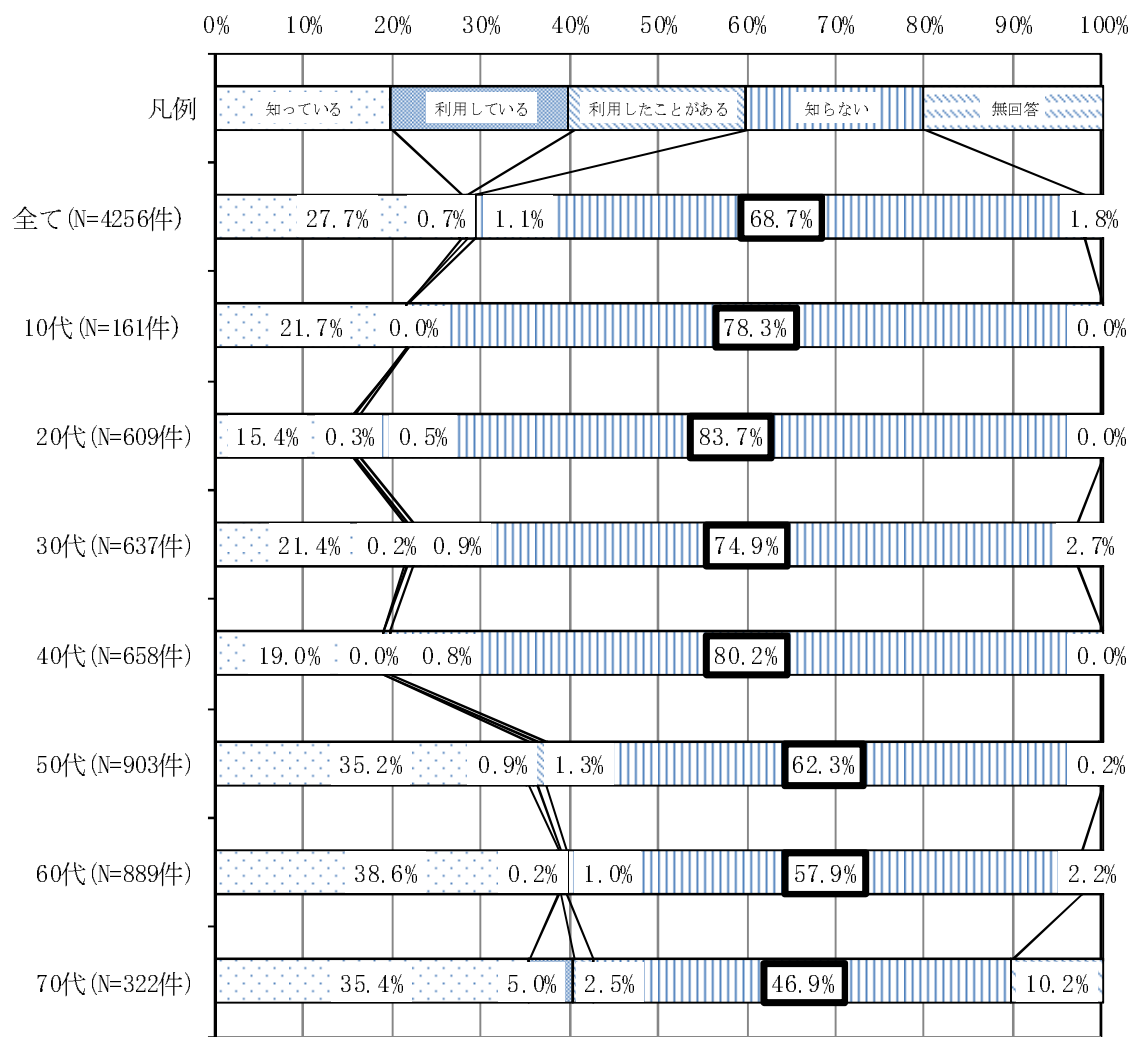
年代別の介護との関わりを踏まえ、全年代に注目して分析する。

○介護との関わり【年代別】

- ・10代～20代：祖父母を介護する親の関わりを見ている世代・高齢社会の将来を担う世代
- ・30代～40代：子育てと介護のダブルケア世代
- ・50代～60代：親の介護に関わる世代
- ・70代以上：自分自身に関わる介護世代

■分析対象設問・結果

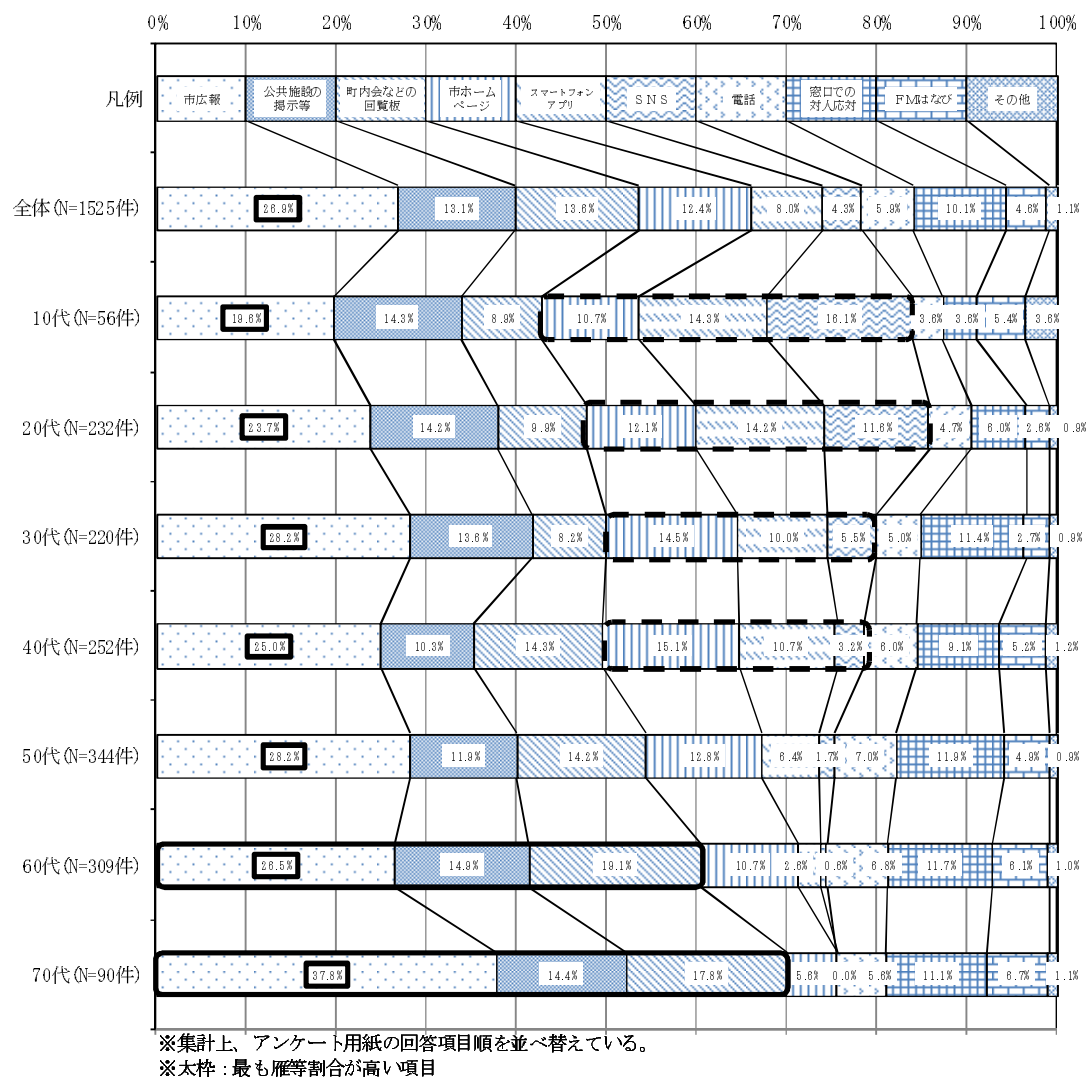
問1 市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「1」、利用しているものには「2」、利用したことがあるものには「3」、知らないものには「4」に○印をつけてください。



※年代別に7種類の生活支援サービス、高齢者生活支援サービス（軽度生活援助利用券交付、ふれあい安心電話、家族介護用品支給券交付、家族介護慰労金支給、はり・きゅう・マッサージ施術券交付、温泉ふれあい入浴サービス券交付、配食サービス）を1つにまとめている

※太枠：最も回答割合が高い項目

問3 今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号1つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問1の結果から、市が実施している生活支援サービス、家族介護サービスの認知度について、「知らなかった」の回答割合は全体で68.7%になっている。年代別に見ると10代78.3%、20代83.7%、30代74.9%、40代80.2%と高く、50代62.3%、60代57.9%、70代46.9%と順に低くなっている。親の介護に関わってくる50代から、高齢者生活支援サービス事業が身近になっていることがわかる。
- ② 問3の結果から、情報を得る手段として全体で「市広報」が26.9%と最も回答割合が高く、年代別においても、すべての年代で最も高くなった。
- ③ 10項目のうち、「市ホームページ」、「スマートフォンアプリ」、「SNS」のネットワーク関連の情報媒体を一つのグループとして合計すると、全体で24.7%となった。年代別に見ると、10代41.1%、20代37.9%、30代30.0%、40代29.0%、50代20.9%、60代13.9%、70代5.6%となり、10代から40代においては、各年代の「市広報」の回答割合よりも高くなっていることから、その年代のネットワーク関連の情報媒体に対する要望が高くなっていることがわかる。特に、10代から20代においては、「スマートフォンアプリ」と「SNS」の回答割合が高く、30代から40代においては、「市ホームページ」の回答割合が高くなっている。
- ④ 一方、60代以上においては、「市広報」及び「公共施設の掲示物」、「町内会などの回覧板」の紙媒体を活用した情報提供の手段を合わせると60%から70%となり、他の年代に比べて高くなっている。

■今後の取組

- ① 分析結果から、制度やサービスの認知度の向上に向け、情報を得る手段について、広報などの紙媒体とネットワーク関連の媒体を活用した年代別の取組（②～⑤）を検討する。
- ② 10代から20代においては、「スマートフォンアプリ」、「SNS」の要望が高かったことから、それらを活用することにより、今必要としない情報であっても、知りたいときにいつでも情報を引き出せるシステムの構築を検討する。特に、「SNS」は、市からの発信だけでなく、情報交換の場や井戸端会議のような生の声を聞ける場として必要になってくることから、市に関わる「SNS」を一カ所に集めるなどの環境整備も併せて検討する。
- ③ 30代から40代においては、子育てと介護のダブルケアとなる可能性があり、より適切な情報を迅速に提供する必要がある。情報を得る手段としては、ネットワーク関連の媒体の中でも「市ホームページ」の要望が高くなっていることから、利用者にとって見やすく、分かりやすい工夫を検討する。また、「市ホームページ」の利用により、各種サービスの申請などにおいて時間の短縮が図られることから、「市ホームページ」の利用促進をあわせて行う。
- ④ 50代から60代については、親の介護に関わる世代であり、介護情報や手続きに関して最も知りたい年代となる。情報を得る手段に対する要望としては「市広報」が最も高く、また、60代において、「町内会などの回覧板」及び「公共施設の掲示等」の要望が他の年代と比較して非常に高くなっている。このことから、「市広報」の活用と併せて、パンフレットやポスターを活用した情報提供について、見る人にとって分かりやすい工夫と提供する機会、ポスターを掲示する場所などを検討する。
- ⑤ 70代においては、介護が配偶者と自分自身に関わる世代となる。介護情報は、地域や自宅で安心して過ごしたいと思っている世代には特に重要である。情報を得る手段として、「市広報」に対する要望が他の年代より10%も高いことから、制度やサービスについて広く知ってもらうために、「市広報」を利用した、分かりやすい内容の工夫と掲載する回数、タイミングを検討する。

■分析対象

現在、高齢ドライバーによる交通事故が社会問題となっており、市においても対策を検討する必要があることから、免許返納者優遇制度の認知度について回答した方を分析対象とする。

また、公共交通の魅力の向上に向けた、利用を促進するための新たな取組を検討するため、今後実施すべきだと思う利用促進施策について回答した方も分析対象とする。

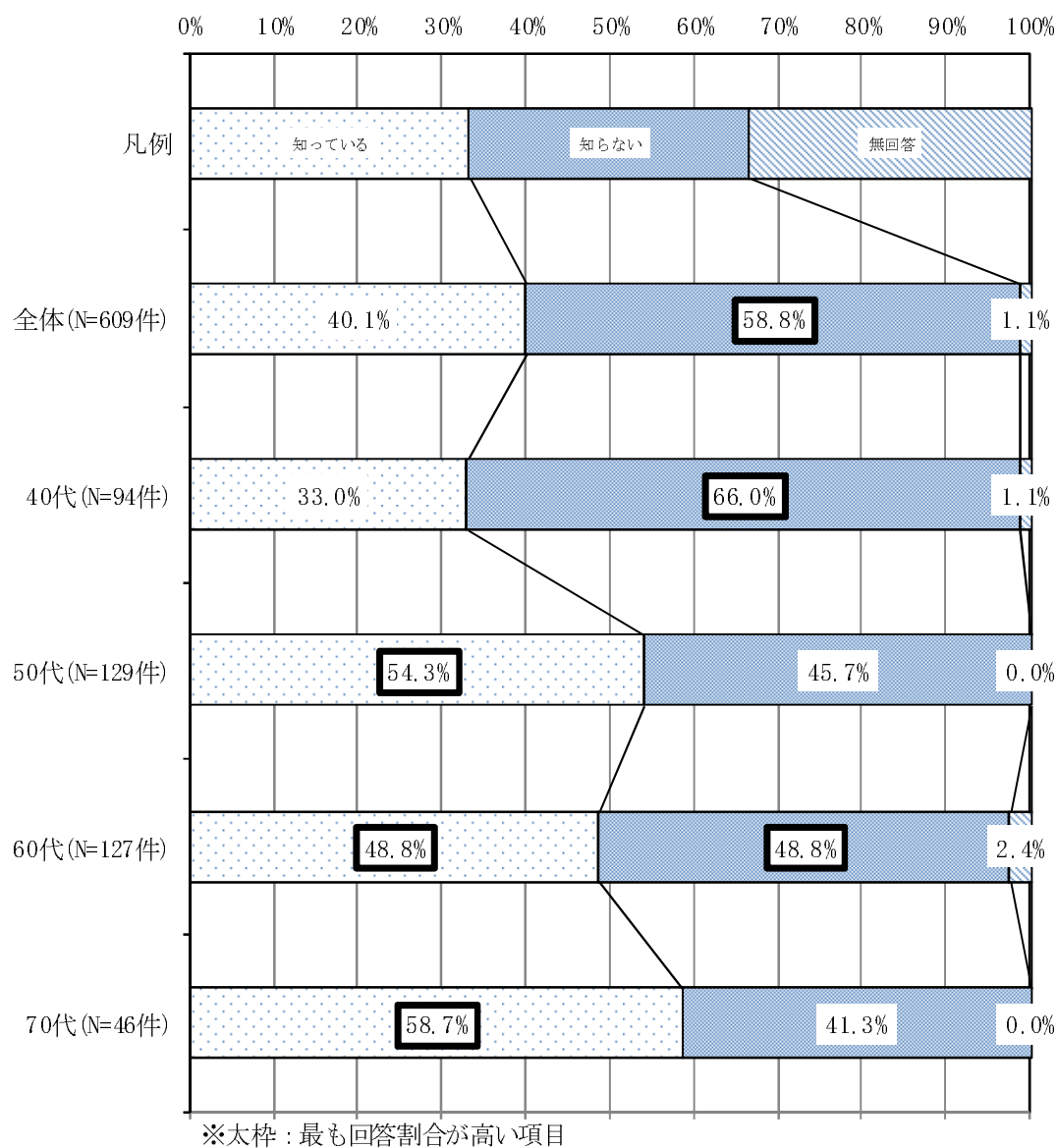
■メインターゲット（対象年代等）

前者の分析対象においては、運転免許の自主返納を検討する必要がある高齢者を親に持つ40代から50代と運転免許の自主返納が自分自身に関わる60代から70代に注目して分析する。

後者の分析対象においては、全体、年代別で総合的に分析する。

■分析対象設問・結果

問1 市が実施している交通対策事業（免許返納者優遇制度）について、知っているものの番号に○印をつけてください。



問3 市では、公共交通の魅力向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施すべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大2つまで○印をつけてください。

	有効 回答数 (N)	利用 料金 割引 デー を 実 施 す る	車 券 を 発 行 す る ク ー ポ ン 付 き 乗 車	車 体 に 児 童 生 徒 が 絵 を 描 い た バ ス	バ ス 車 内 の 掲 示 や 広 告 を 充 実 さ せ る	観 光 地 へ の 交 通 網 を 整 備 す る	市 内 の イ ベ ン ト に 合 わ せ て 公 共 交 通 を 臨 時 運 行 す る	そ の 他
全体	976件	27.8%	24.7%	3.8%	2.5%	12.5%	25.6%	3.2%
《年代別》								
10代	40件	①27.5%	17.5%	7.5%	5.0%	17.5%	②22.5%	2.5%
20代	145件	①24.8%	②23.4%	3.4%	2.8%	17.2%	②23.4%	4.8%
30代	140件	②22.1%	20.7%	6.4%	0.7%	14.3%	①28.6%	7.1%
40代	155件	①31.0%	②25.8%	4.5%	3.2%	12.9%	19.4%	3.2%
50代	211件	①33.6%	②26.1%	2.4%	2.4%	9.0%	24.6%	1.9%
60代	197件	24.9%	②27.9%	2.0%	2.0%	11.2%	①30.5%	1.5%
70代	73件	②28.8%	21.9%	5.5%	4.1%	8.2%	①31.5%	0.0%

※着色部：回答割合が高い上位2項目

■分析結果

- ① 問1の結果から、「免許返納者優遇制度」の認知度について、年代が高い方が比較的認知度が高くなっているが、運転免許の自主返納が自分自身に関わってくる60代から70代においては、約40%以上の方が知らないと回答していることから、制度の周知が十分に図られていないと考えられる。
- ② 問3の結果から、今後実施すべき利用促進施策について、全体では「利用料金割引デーを実施する」の回答割合が27.8%と最も多く、次いで「市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する」が25.6%となっている。年代別に見ても、この2項目の回答割合が高くなっている。このことから、利用者の負担軽減とイベントの開催等による一時的な需要に応じた臨時運行に対する要望の高さが伺える。

■今後の取組

- ① 問1に関する分析結果から、「免許返納者優遇制度」の認知度の向上を図るため、市広報やコミュニティFM等により定期的に制度の情報を発信するとともに、敬老会など高齢者が集まる機会を活用した説明会の開催や、高齢者に分かりやすいチラシの作成などにより、周知の強化を図っていく。
- ② 問3に関する分析結果から、市内イベントに合わせた公共交通の臨時運行と合わせ、利用料金割引デーの実施について検討する。第一段階として、運行の目的となるイベントに関する来訪時間や滞在時間など基本的な情報の把握が必要となることから、イベント参加者に対するアンケート調査などを実施し、その上で運行の是非及び内容等を検討する。

■分析対象

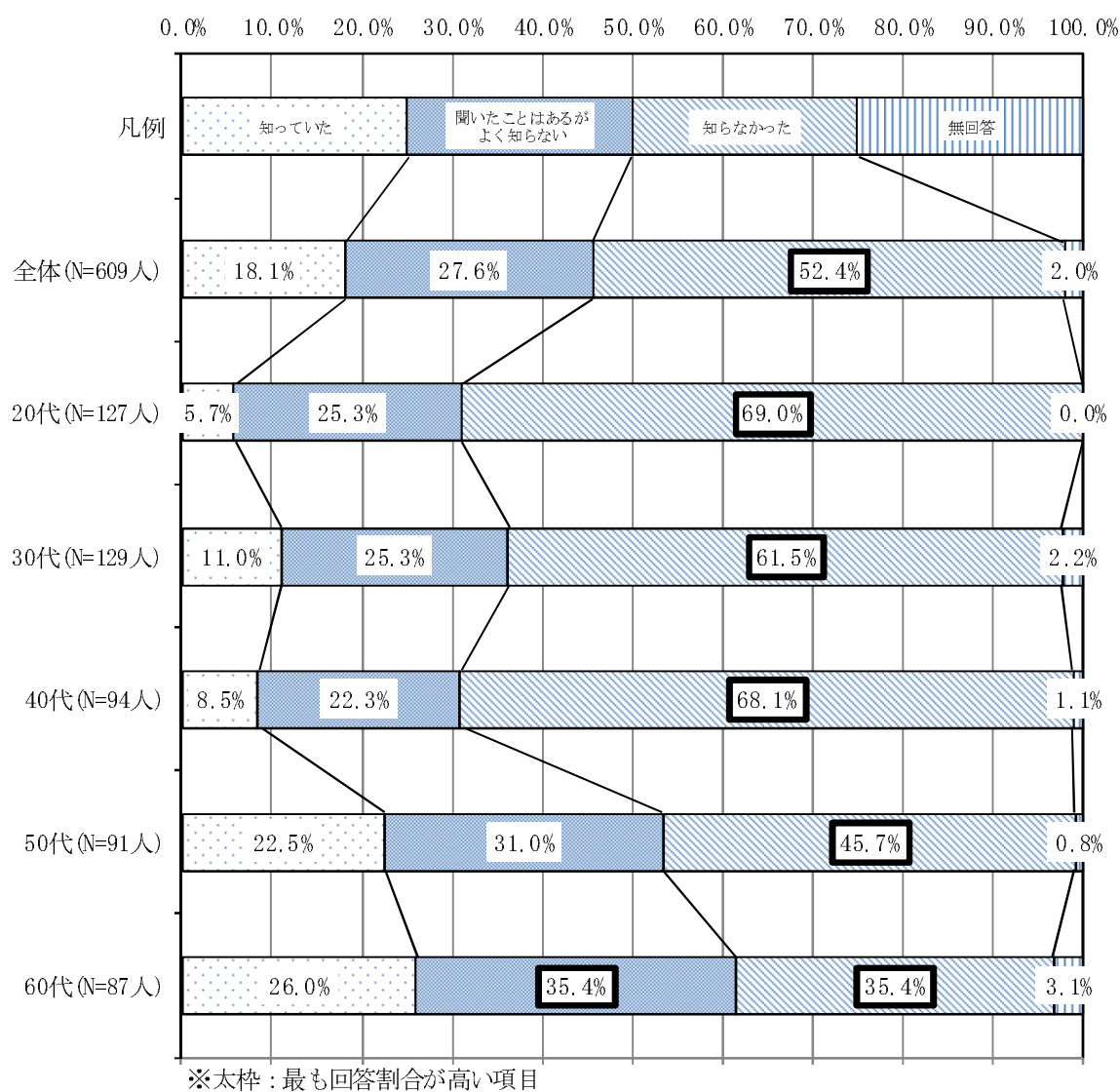
当事業を平成 29 年度から本格実施するにあたり、事業活用のさらなる拡大に向けた認知度の向上及び内容の理解を促進するための取組を検討するため、事業の認知度及び情報を得る手段について回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

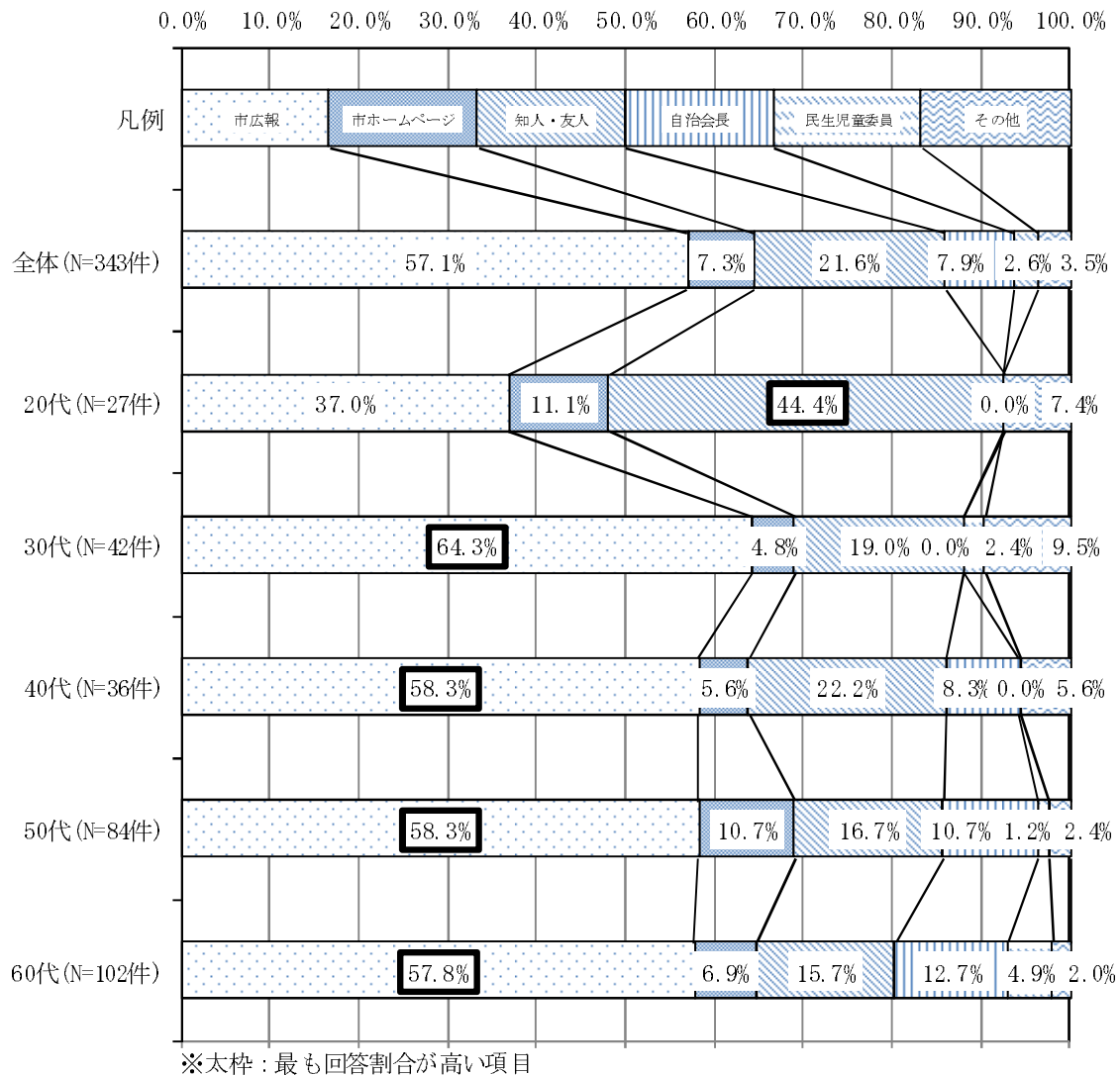
身近な地域が抱える雪の課題に対し、自分たちの判断と創意工夫により自主的に取り組む自治会や任意組織に対して活動を支援する事業であるが、その中で除雪作業を担うことが期待される 20 代から 60 代に注目して分析する。

■分析対象設問・結果

問 1 市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。



問2 問1で「1（知っていた）」または「2（聞いたことはあるがよく知らない）」に○印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問1の結果から、20代から40代の若い年代において、「知らなかった」の回答割合が他の年代に比べて非常に高く約60%から70%となっており、当事業の周知が十分に図られていないと考えられる。また、50代から60代においては、「知らなかった」の回答割合は他の年代に比べて低くなっているが、「聞いたことはあるがよく知らない」の回答割合が約30%となっており、内容の理解が十分にされていないと考えられる。
- ② 問2の結果から、当事業を知った手段として「市広報」の回答割合が20代を除く全ての年代で最も高く、全体の過半数以上を占めている。また、本事業の周知については、自治会長にパンフレットの送付や説明会などを通じ事業の紹介を行ってきたが、「自治会長」の回答割合は全ての年代において低くなっている。

■今後の取組

① 分析結果から、制度やサービスの認知度の向上に向けて、内容の理解を含めた周知の方法について、年代別の取組（②～③）を検討する。

② 若い年代である 20 代から 40 代においては、本事業の認知度が低くなっているが、本事業を活用して除雪作業を行うにあたり、実際に作業を行う若い年代の参画が必要になってくる。

そのため、本事業を知った手段として最も回答割合が高かった「市広報」に加え、コミュニティ FM 等による周知回数を増やすことや、市ホームページに制度をわかりやすく掲載すること、過去の事例を紹介することなどにより、若い年代に興味・関心を持ってもらい、地域に目を向けてもらえるよう周知と事業への理解促進を図る。

③ 50 代から 60 代においては、本事業の内容を十分に理解していないと考えられる「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した割合が 30%を越えているが、本事業を活用するにあたり、この年代が自治会や任意組織の中心となりやすいと考えられることから、内容の理解に向けた取組が必要となる。

そのため、これまでより理解しやすいようパンフレットを改訂し、その上で、座談会や説明会を希望する自治会等に対して順次対応できるよう体制を整備する。また、説明する内容については、事業の内容に加え、これまでの事例をモデルケースとして紹介するなど、事業内容の更なる周知に努める。

■分析対象

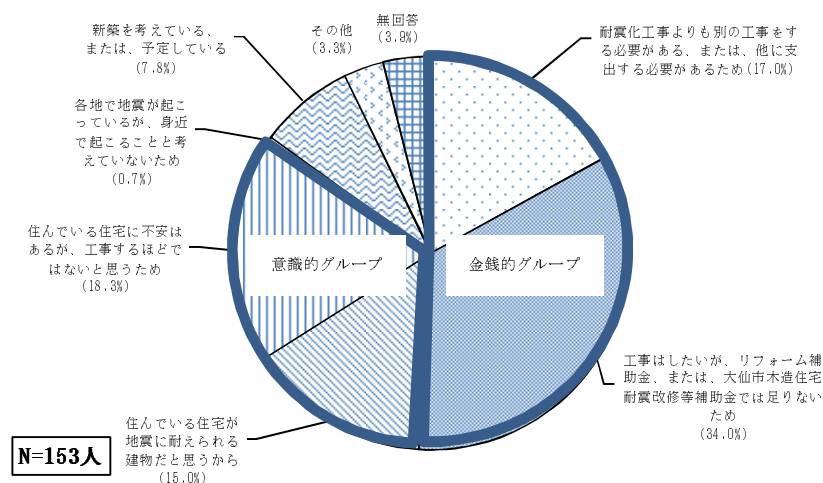
本市の耐震化率は、平成27年度末で66%となっており、同年度の全国平均82%を大きく下回っていることから、今後の耐震化を促進するための取組を検討するため、耐震改修が必要となる可能性のある平成12年5月31日以前に建築された建物に居住し、耐震診断、又は耐震改修を行ったことがない方で、なおかつ耐震化を実施しないと回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、年代別で総合的に分析する。

■分析対象設問・結果

問5 問3で「2」、問4で「2」に○印をつけた方（平成12年5月31日以前に建設された建物に居住し、耐震診断、又は耐震改修を行ったことがない方で、なおかつ耐震化を実施しないと回答した方）にお聞きします。あなたの住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問5の結果から、全体において金銭的な理由で耐震化をしないグループ（以下「金銭的グループ」という。）は、過半数を占める51.0%となっており、優先すべき支出に対する考え方や工事に対する経費面での難しさが伺える。
- ② 耐震化の必要性を感じていないグループ（以下「意識的グループ」という。）は、3人に1人にあたる34.0%となっており、耐震化に対する意識の醸成が十分に図られていないことがわかる。

■今後の取組

- ① 現在、市では、大仙市木造住宅耐震改修等補助金と住宅リフォーム支援事業により耐震化を進めており、双方とも補助率、補助額等において県内でトップレベルの充実した内容となっているが、金銭的グループの割合が高かったことから、今後は、申請状況を注視しながら、必要に応じて補助額等の見直しを検討していく。

また、耐震化の必要性を感じていない意識的グループが全体の 34.0%と高かったことから、制度見直しの検討に加え、市民の耐震化についての意識改革が必要であると考えます。耐震化について意識改革を図ることは、「耐震化工事よりも他の工事や支出がある」と回答した方の耐震化工事に対する優先順位が変わることに繋がる可能性がある。

耐震化率が高い都道府県の状況を見ると、耐震改修だけでなく、耐震診断を実施している割合が高いとの調査結果がある。費用負担の大きい耐震改修にいきなり目を向けることは難しいことから、市民の耐震化についての意識改革として、比較的安価にできる耐震診断の実施を推進する。

- ③ 具体的には、耐震診断に対する支援について、平成 28 年度までの内容（補助率 3 分の 2、補助上限額 3 万円）を大幅に見直し、平成 29 年度より、建築面積、図面の有無に関わらず、個人の負担を 1 万円の定額として残額を市が全額負担する改正とするほか、市民自身が耐震診断業者を選定しなくても、市が委託する専門機関から診断士を派遣することで市民の負担軽減を図るなど、耐震診断を受けやすい環境を整備する。
- ④ 耐震化促進に向けて、市の広報やホームページに耐震化に関する情報を掲載するほか、秋の稔りフェアなど多くの市民が集まるイベントで展示会を開催するなど、耐震化に対する意識の高揚を図る。

■分析対象

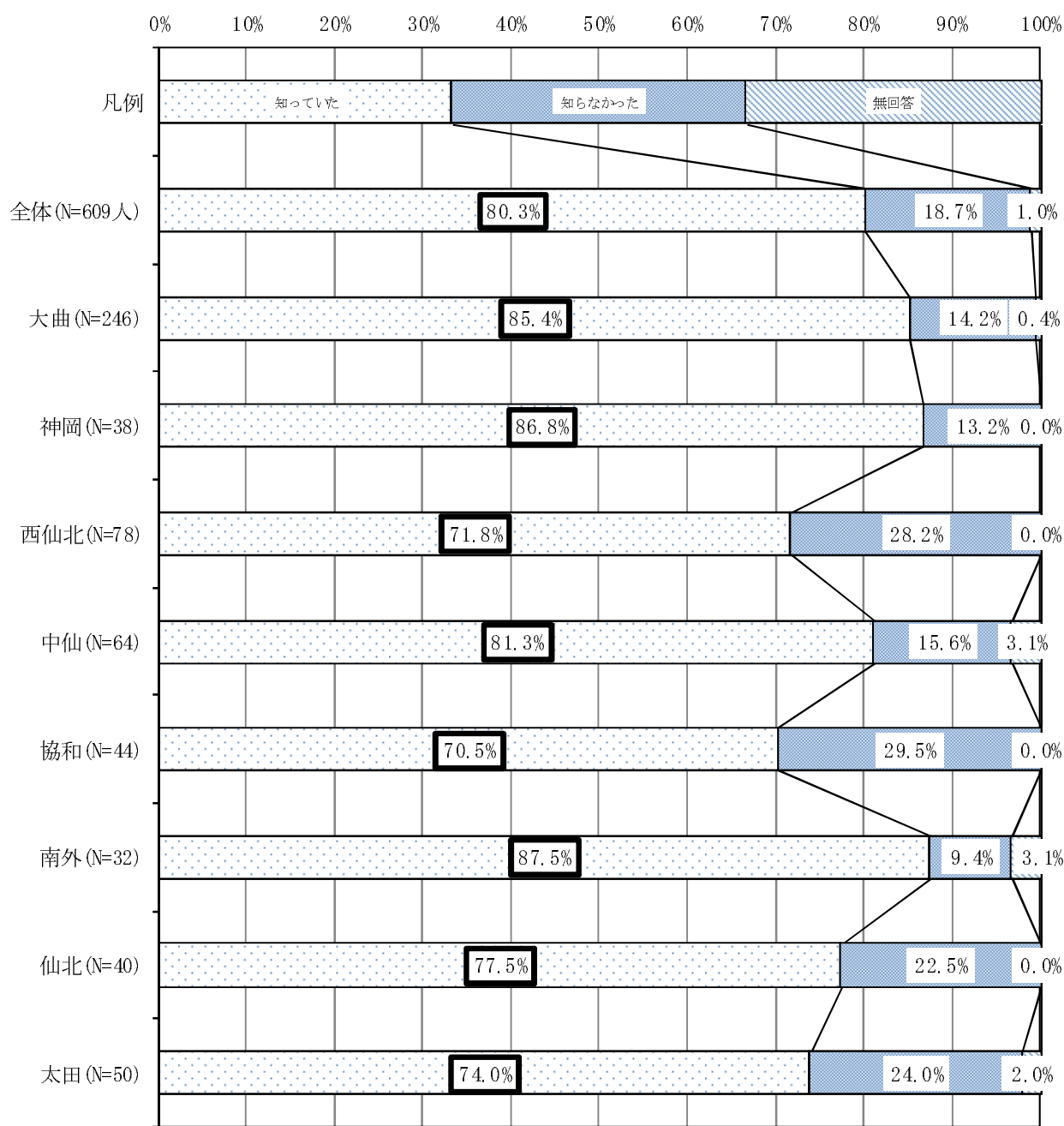
コミュニティFM「FMはなび」は、地域の賑わいの発信と創出、そして災害発生時に行政からの災害に関する情報を正確かつ迅速に発信するという役割を担っている。その役割を十分に果たすためには、まずは「FMはなび」を知ってもらうことが必要であり、認知度の低い地域については、重点的に認知度の向上を図る必要があるため、「FMはなび」の認知度について分析対象とする。また、災害発生時における情報発信源としての役割を果たすため、「FMはなび」を聴く機会についても併せて分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

全体、地域別で総合的に分析する。

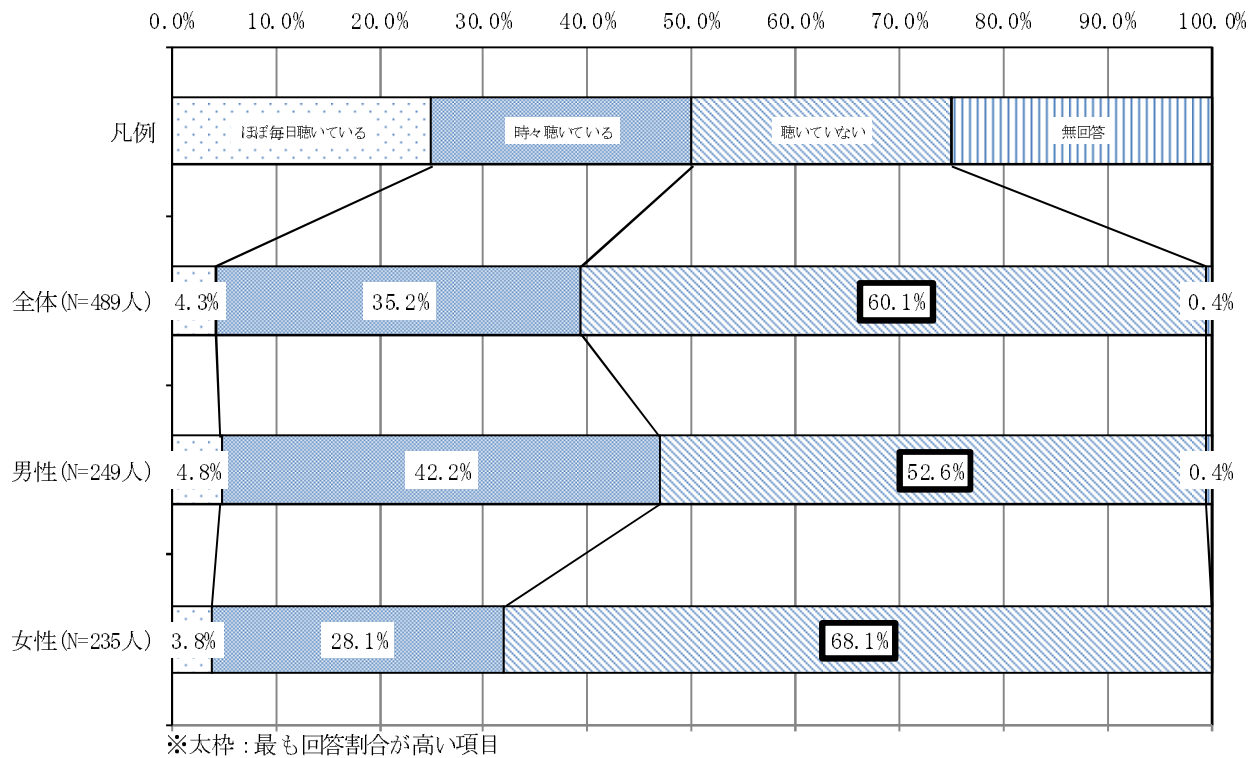
■分析対象設問・結果

問 1 FMはなびを知っていましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。

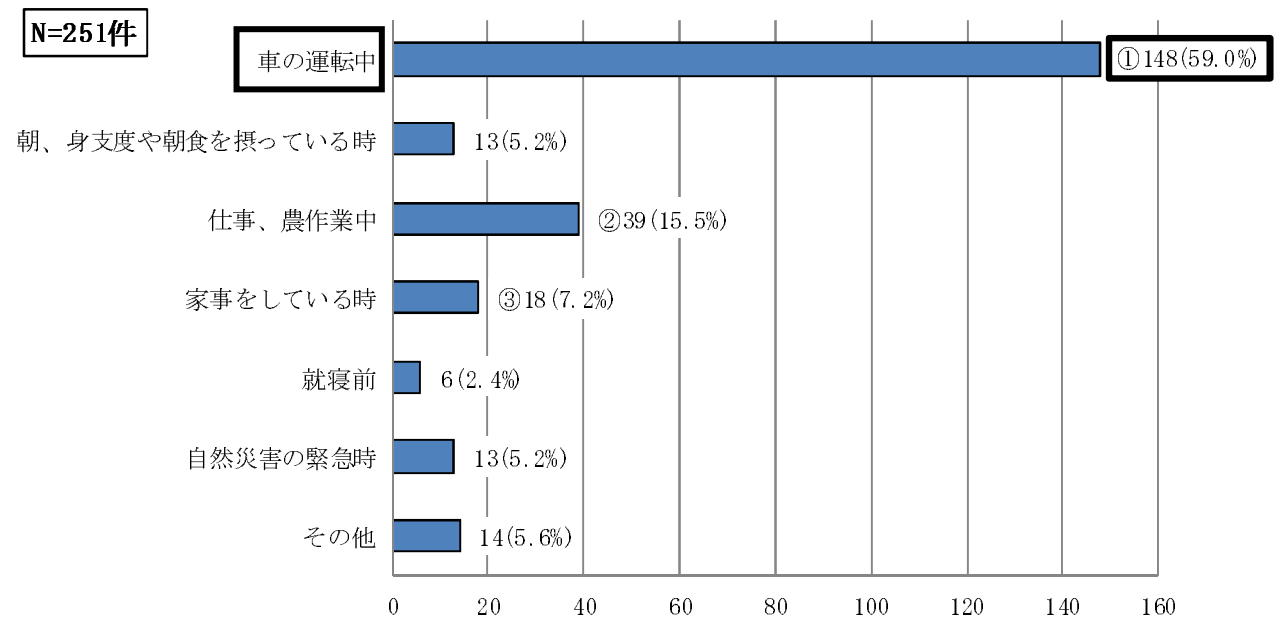


※太枠：最も回答割合が高い項目

問 2 問い 1 で「1」に○印をつけた方にお聞きします。FMはなびをどの程度聞いていますか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。



問 4 FMはなびを聴いている方にお聞きします。FMはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問1の結果から、全体では「知っていた」の回答割合は80.3%と高い結果となった。地域別では、「知らなかった」の回答割合が協和地域で29.5%と最も高く、南外地域で9.4%と最も低くなっており、全体では認知度は高いが、地域別では認知度に差がある状況となっている。
- ② 問2の結果から、FMはなびを知っているが「聴いていない」と回答した人の割合は60.1%と、FMはなびの認知度と聴取率に大きな差が生じていることから、地域住民が興味を持つような放送内容（番組）になっていないことや、具体的な放送内容（番組）が認知されていないことなどが考えられる。
- ③ 問4の結果から、FMはなびを聴く機会について「自然災害の緊急時」の回答割合が5.2%と低くなっており、これまで河川の氾濫時等災害時の放送を行ったことを考えると、災害時に「FMはなび」から情報を入手できるということが、大多数の市民に認知されていないと考えられる。

■今後の取組

- ① これまでは、FMはなびの運営主体であるTMO大曲と協力しながら「FMはなび」という放送局自体のPRに努めてきたが、今後は、これに加えて認知度の低い地域でのPR方法を再検討するなど地域差の解消に努めるとともに、TMO大曲に対する情報提供を強化し、放送内容（番組）の充実を図る。また、聴取のきっかけとなるよう、これまでTMO大曲が行ってきたホームページやフリーペーパーでの番組表提供に加え、市として広報を活用し番組の特集記事を定期掲載するなど、放送内容の周知に務める。
- ② すべての市民が、迅速かつ適切な避難行動を行うことができるよう、災害時に有用な情報伝達手段であるラジオ、及び災害発生時の放送局としての役割の周知を図るため、災害発生時に「FMはなび」からどのような情報を発信してきたか、災害発生時に「FMはなび」からどのような情報を入手できるか、また、東日本大震災をはじめとする大規模災害時に、ラジオというメディアが果たしてきた役割などについてPRを行う。

■分析対象

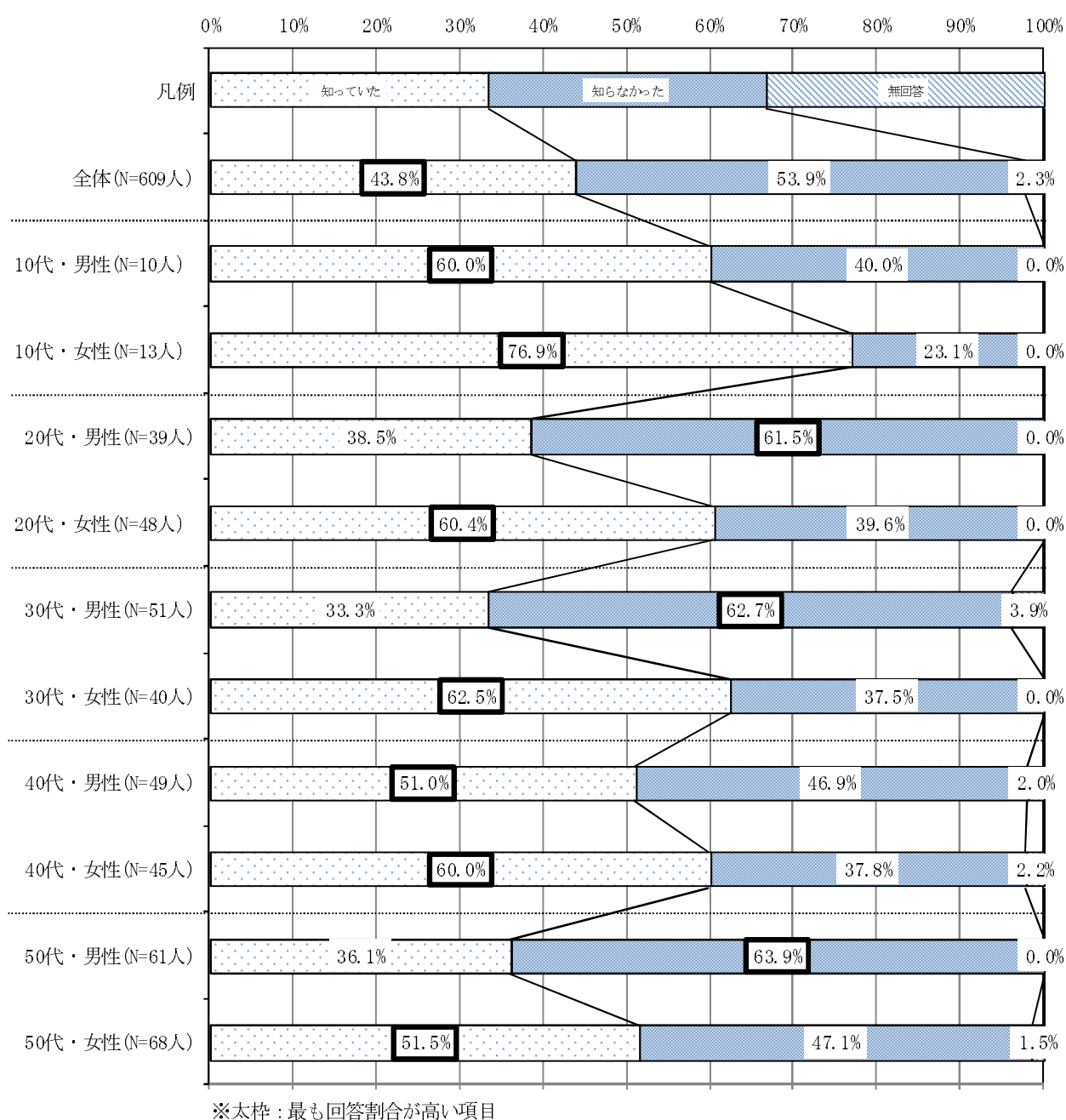
支援を必要としている児童生徒数が年々増加するなか、市内のすべての児童生徒が意欲を持って学習に取り組むことができるよう、さらに効果的な支援を検討するため、学校生活支援員を配置していることについて、「知らなかった」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

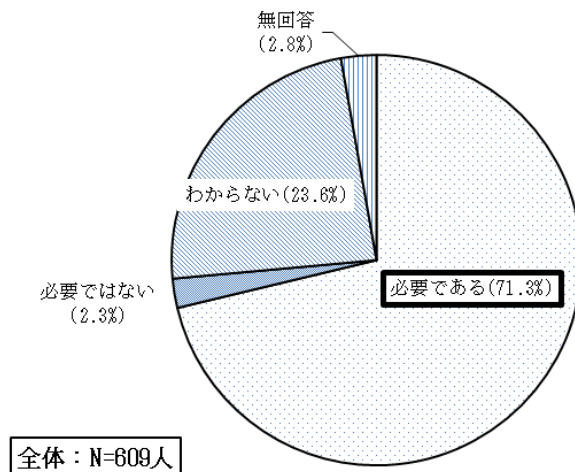
将来及び現在の子育て世代である10代から50代に注目し、性別をクロスさせた集計結果を中心に分析する。

■分析対象設問・結果

問1 学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を知っていましたか。該当する番号一つに○印をつけてください。



問2 学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問1の結果から、10代の男性、女性ともに「知っていた」の回答割合が60%を越えており、他の年代と比べて高くなっている。
- ② 10代から50代全ての年代において、女性よりも男性の方が「知らなかった」の回答割合が高くなっており、特に、20代、30代、50代男性において60%を越えている。
- ③ 問2の結果から、「学校生活支援員等」を配置し支援等を行うことについて、「必要である」の回答割合が71.3%と非常に高くなっている。

■今後の取組

- ① 学校生活支援員等の配置が必要であると回答した方が非常に多かったことから、学校生活支援員等の必要性については理解されているものと考えられる。障がいのある子を持つ保護者のみならず、全ての保護者の認知度を高めていくことは、大仙市の「子育ての安心度・信頼度」を高めていくことに繋がると考えられる。
10代の認知度の高さは、小学校時代に学校生活支援員等の存在を実際に知っている世代であるためと考えられ、今後も学校生活支援の事業を続けていくことで、経年的に市民全体の認知度は高まると考えられるが、全体的に認知度が低い現在20代以上の認知度を高めるための取組（②～④）を検討する。
- ② 市の特別支援専門検査員、アドバイザー等が、各園、各学校等を訪問する際に、学校生活支援員等の存在や役割を説明する。
- ③ 保護者会等の集まりにおいて、学校生活支援員等の存在や成果について園や学校側から保護者に説明する機会を創出するとともに、口頭説明のみならず、紙面での紹介、説明を進めることで家庭での話題にしていいただくなど、特に認知度の低い男性への周知を図り、認知度を高めていく。
- ④ 市のホームページや広報に学校生活支援員等の存在や役割、成果等について掲載し、周知を図る。

■分析対象

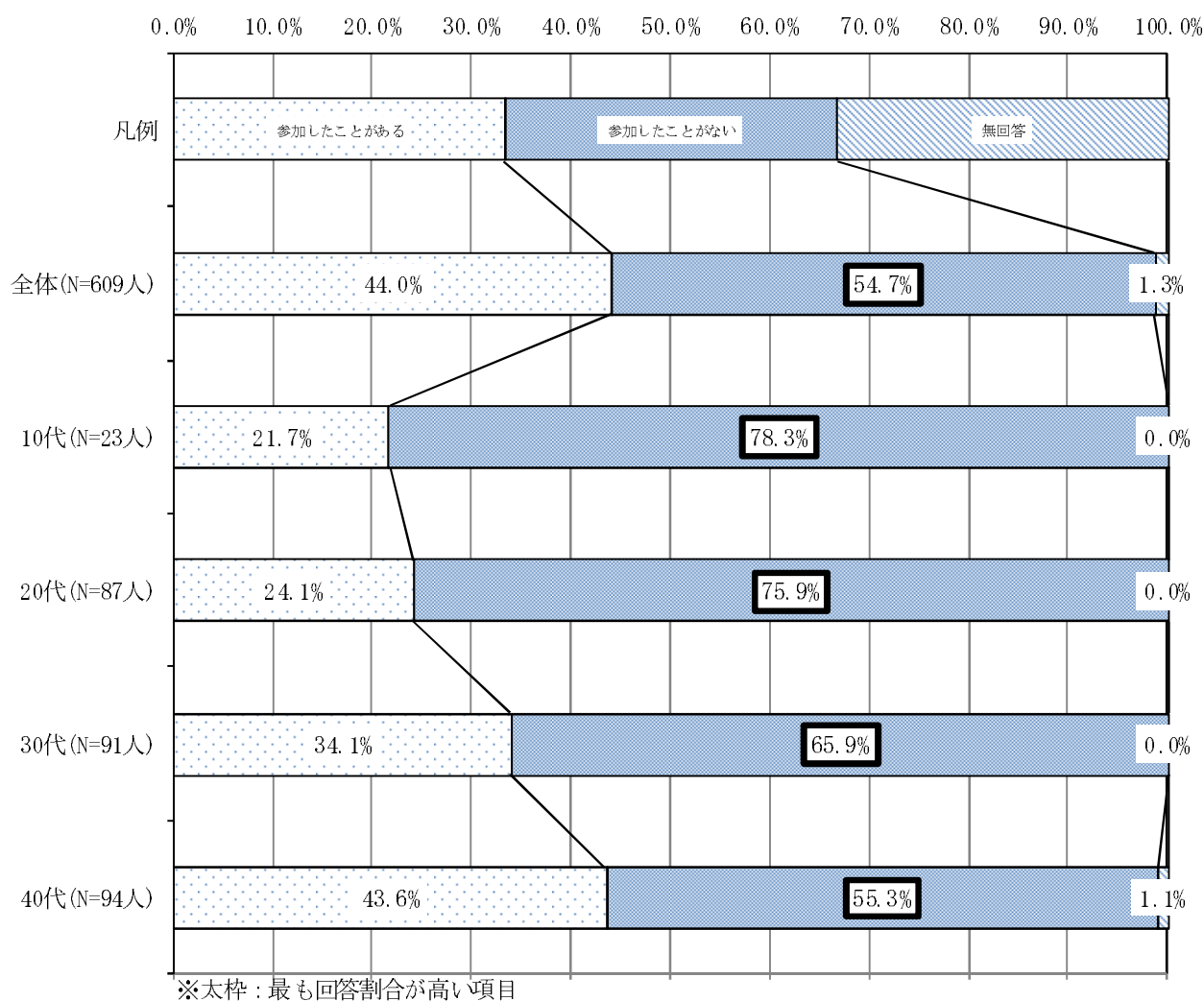
定住の促進に向けて、多世代が集い交流し、支え合い助け合いを促進する取組を検討するため、ここ1年間で仕事以外の何らかの社会活動・地域活動に「参加したことがない」と回答した方を分析対象とする。

■メインターゲット（対象年代等）

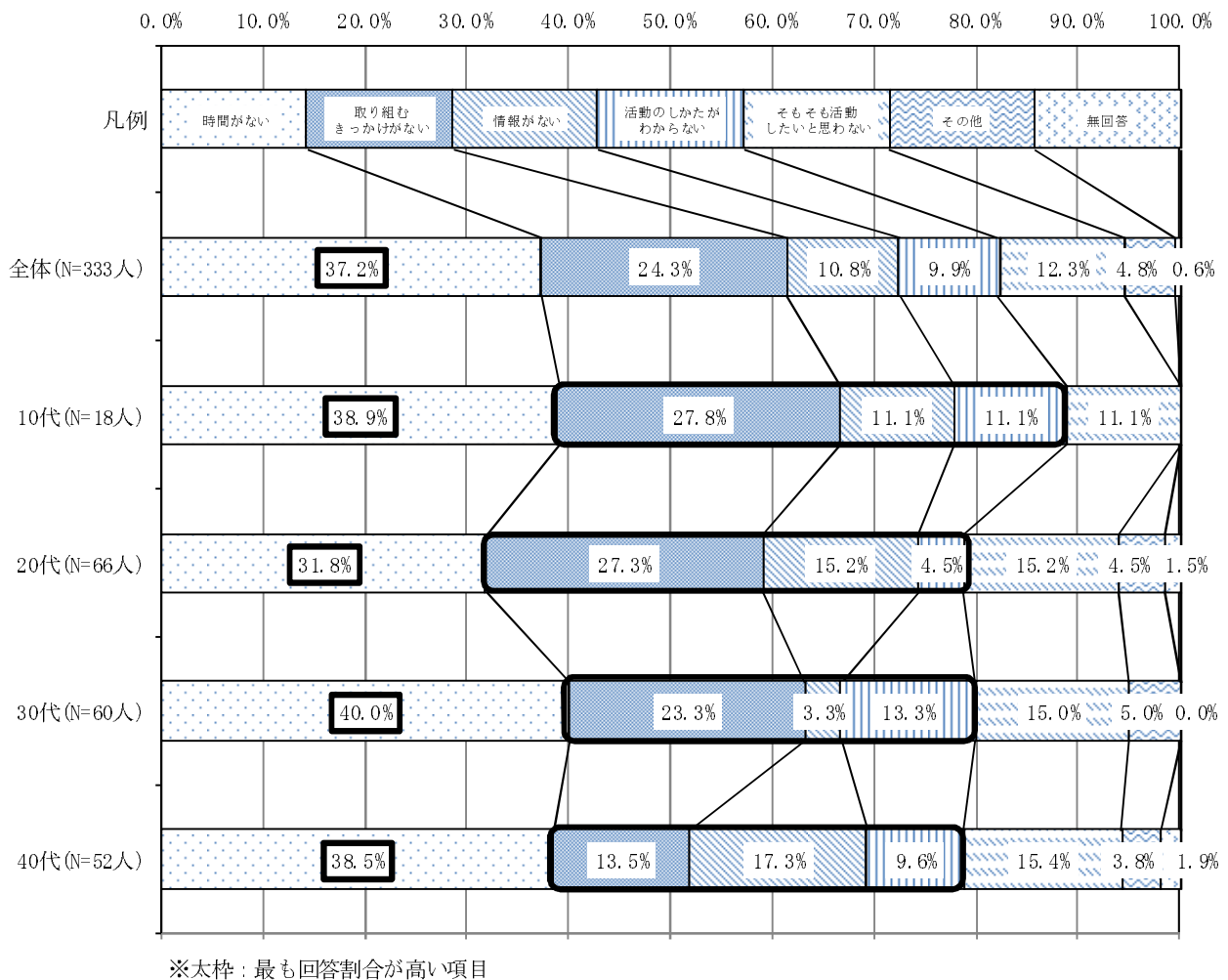
これから地域活動のリーダー役として積極的な活動が求められる10代から40代の若い世代に注目して分析する。

■分析対象設問・結果

問4 定住を促進するためには、多世代が集い交流することができる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強める必要があります。あなたは、ここ1年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。該当する番号1つに○印をつけてください。



問6 問4で「2（参加したことがない）」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号1つに○印をつけてください。



■分析結果

- ① 問4の結果から、10代から20代の75%以上が「社会活動・地域活動」に「参加したことがない」と回答している。また、30代、40代と年代が高くなるにつれて「参加したことがない」の回答割合は低くなるものの、40代でも全体の過半数を占める55.3%の方が、「参加したことがない」と回答をしている。
- ② 問6の結果から、ここ1年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加したことがないと回答した方の中で、活動への関わり方がわからないため参加していないと考えられる「取り組むきっかけがない」、「情報がない」、「活動のしかたがわからない」のいずれかを選択した方は、10代から20代で過半数を占める約5割、30代から40代で約4割となっている。

■今後の取組

- ① 参加したことがある割合が少ない10代から40代において、活動への関わり方がわからず参加していない方が多いことから、参加するきっかけづくりに関する取組を検討する。
- ② 同じ年代の仲間が「社会活動・地域活動」へ参加していることが、活動に参加するきっかけとして重要な要素であることから、現在実施している次世代地域リーダー育成セミナーを通じ、今後、地域のリーダー役となって活躍する若い世代の人材を育成するとともに、若いリーダーが活動を積極的に行える環境づくりをサポートするなど、リーダーと同世代や、更に若い世代が活動に参加しやすい環境の整備を進める。

4. 資料【平成 28 年度「市民による個別事業評価」調査票】

平成28年度市民による個別事業評価

日頃から市政の推進に対し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

市ではこれまで、市政運営を効果的かつ効率的に行うため、「市民による市政評価」を実施し、評価結果を施策等に反映するよう努めてまいりました。

今年4月に実施した「市政評価」では、市政全体における分野別の「満足度」と「重要度」、及び「今後さらに推進すべき取組」について調査しました。

今回新たに実施する「市民による個別事業評価」では、市で実施している事業等に関する「評価・要望」を調査し、来年度以降の施策に活用させていただきます。

皆様には大変お手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。



平成 28 年 12 月
大仙市長 栗 林 次 美

《ご記入にあたって》

このアンケートは、18歳以上の市民の方々の中から、1,000名を性別・年齢層・地域を考慮しながら無作為に選び、調査票をお送りしています。

★回答は、このアンケート調査表に直接お書きください。

★回答方法は、該当する項目等を選び、あてはまるところ（番号）に「○」印をつけてください。

★ご自身に直接関係がない事業もありますが、可能な限りすべての設問にお答えください。

★ご記入いただいた回答は、すべて統計処理いたしますので、個人に関する情報が明らかになることはありません。

★ご記入にあたっては、黒の筆記用具をご使用願います。

《アンケート用紙の返送について》

★ご記入いただいたアンケート用紙は、平成29年1月6日（金）までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手は不要です）。

★アンケート用紙や返信用封筒にお名前をご記入いただく必要はありません。

《問い合わせ先》

大仙市役所 企画部総合政策課

電話：0187-63-1111（内線275） FAX：0187-63-1119

E-mail：sougou@city.daisen.akita.jp

テーマ1：「雇用や就労のための支援事業」について

【事業概要】

◆市では、地元企業に対する雇用支援を通じ、積極的な新規雇用を促進しています。また、若者などが地元に着定するために、地元企業の紹介や各種就労支援も行っています。

問1 市が実施している雇用・就労施策について、知っているものの番号に○印をつけてください。

施策名	内 容
1. 雇用助成金制度	市民の方を新規で雇用した事業所に対して助成金を交付しています。
2. 若者求職者資格取得補助金制度	求職者、非正規雇用労働者が就職に役立つ資格を取得したとき、その経費の一部を補助しています。
3. 県南地区職場研修	県南地区の高校3年生および県立大曲技術専門校2年生を対象とし、夏休み期間中に県南地区の職場研修を実施しています。
4. 仙北地域新規高卒者企業説明会	県南地区の高校生を対象とした、地元企業の説明会を実施しています。
5. 大仙市企業インターンシップ事業	インターンシップの引き受け可能な市内企業を県内の大学に紹介しています。
6. 若者就職応援講座	若者の求職者を対象に、就職に役立つ講座を開催しています。

問2 市が実施する雇用・就労施策に関する情報をどこで知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | | |
|----------|------------------|-------------|
| 1. 市広報 | 2. 市ホームページ | 3. ポスター・チラシ |
| 4. 知人・友人 | 5. 見たこと、聞いたことがない | 6. その他() |

問3 現在、地元の高校を卒業する人の約30%が就職、約70%が進学等となっています。また、就職者のうち約30%が県外へ就職しています。

市では、進学等により県外へ転出した人の市内企業への就職を促進したいと考えていますが、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

- 市内企業のPR
- 市内企業が求人活動をする際の支援
- 市内企業へ就職を希望する人に対する職業紹介
- 就職活動にかかる経費(移動費、宿泊費など)への補助
- その他()

問 4 現在、秋田県の新規学卒者の就職後3年以内の離職率は、高校、短大等で約40%、大学で約35%となっています。

早期離職を予防するために、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 就職前に企業の情報を知る機会を増やす | 2. 仕事の悩みを相談できる窓口を設置する |
| 3. 企業内の社員交流を促進する | 4. 企業間の社員交流を促進する |
| 5. その他() | |

問 5 現在、市内の有効求人倍率は1倍を超えており、一部の業種によっては2倍以上（求職者1人に対して仕事は2つある状態）となっています。

あなたは、現在市内の雇用・就労に関してどのような問題があると思いますか。該当する番号 すべて に○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 企業の人手不足 | 2. 就職が難しい |
| 3. 市内に自分の働きたい仕事がない | 4. 賃金が安い |
| 5. 労働環境が悪い企業が多い | 6. その他() |

テーマ2：「農業の担い手支援事業」について

【事業概要】

◆市の基幹産業である農業の維持と発展のためには、新規就農者をはじめ農業の担い手の確保と育成が重要です。

◆市では、市内2カ所の「新規就農者研修施設」において、就農希望者を対象に栽培技術や就農に必要な知識に関する研修、経営指導などを行い、担い手の確保と育成を推進しています。

【新規就農者研修施設概要】

施設	対象	期間	その他
東部新規就農者研修施設 (太田地域横沢)	市内在住の50歳以下の方で、 研修後に市内で農業を営む方	1年間 (最大2年)	研修奨励金の支給制度 があります。(毎月)
西部新規就農者研修施設 (西仙北地域強首)			

問 1 あなたの地域の農業は、10年後どのようなになっていると思いますか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 現状より発展している | 2. 現状を維持している |
| 3. 現状を維持できていない | 4. わからない |



問2 もしあなたがこれから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。

- | | | |
|----------------|------------|--------------|
| 1. 栽培技術の習得 | 2. 経営知識の習得 | 3. 農地の確保 |
| 4. 初期費用の確保 | 5. 運転資金の確保 | 6. 冬期間の仕事の確保 |
| 7. 受入地域の農業者の理解 | 8. 分からない | |

問3 今後さらに新規就農者を確保するために、新規就農者研修施設で取り組むべきことは何だと思いますか。該当する番号 1つに○印をつけてください。

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 短期農業体験の実施 | 2. 各種イベントへの参加によるPR |
| 3. 地域との交流 | 4. 就農後のフォローアップ体制の充実 |
| 5. その他() | |

テーマ3：「大仙市花火産業構想」について

【事業概要】

◆市では、全国花火競技大会「大曲の花火」のブランド力を活かした観光、商業、農業など様々な分野にまたがる産業振興方策を示した「大仙市花火産業構想」を平成26年3月に策定し、地域経済の活性化に取り組んでいます。

問1 市の「花火産業構想」を知っていましたか。該当する番号 1つに○印をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 聞いたことはあるがよく知らない | 3. 知らなかった |
|----------|--------------------|-----------|

問2 市を「花火のまち」として発信し、花火で地域活性化を図っていくことについて、効果があると思いますか。該当する番号 1つに○印をつけてください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| 1. 効果があると思う→問3へ | 2. あまり変わらない→問4へ | 3. わからない→質問終了 |
|-----------------|-----------------|---------------|

問3 問2で「1」に○印をつけた方にお聞きします。花火で地域活性化を図るとした場合、必要だと思う取組はどれですか。該当する番号に最大3つまで○印をつけてください。

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 花火に関する資料を生涯学習に活用し、郷土愛を醸成する |
| 2. 花火資料の展示施設を、観光コースの一部として活用する |
| 3. 街の景観に花火をイメージさせるデザインを取り入れる |
| 4. 花火の仕事に興味を持てるような教育を充実させる |
| 5. 大学などと連携し、新しい花火製造の技術を研究する |
| 6. 花火会社の生産量と雇用を増やし、産業として育成する |
| 7. 観光、飲食、特産品販売など、花火の周辺産業を育成する |
| 8. 全国花火競技大会「大曲の花火」をさらに充実させる |
| 9. 全国花火競技大会「大曲の花火」以外で各地域の花火イベントを充実させる |
| 10. その他() |

問 4 問 2 で「2」に○印をつけた方にお聞きします。あまり変わらないと思う理由は何ですか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. 花火以外に活用すべき地域資源がある
2. 花火イベントは短期間のため経済効果が小さい
3. 花火以外の産業への波及効果が小さい
4. 花火が盛んなのは一部の地域で、市全体ではない
5. その他()

テーマ 4 : 「むすび・サポート事業」について

【事業概要】

◆市では、少子化対策の一環として、「大仙結婚を支援する会」による定期的な結婚応援相談会や、『ドンと恋』街コンプロジェクトによる大規模なまちなか婚活イベントなどを通じて、市民や市民団体との協働により、婚姻数の増加を図っています。

※以下の設問の回答について、すでに結婚されている方は結婚される前の生活を思い出してお答えください。

問 1 普段の生活の中で、将来の結婚相手となるような方と出会う機会がありますか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. まったくない
2. あまりない
3. どちらとも言えない
4. 少しある
5. 頻繁にある
6. わからない

※「1」または「2」と回答した方は問 2、問 3 へ

※「3～6」のいずれかを回答した方は問 3 へ

問 2 問 1 で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. 職場など、周囲に独身の異性が少ない
2. 仕事が忙しく、異性と出会うを求めるための時間がない
3. 独身の男女が交流できる場所がない
4. 家族や同性の友人との付き合いを優先している
5. 異性との出会うを求めるために行動することが面倒である
6. その他()

問 3 市が行う結婚支援について、具体的にどのような支援が良いと思いますか。該当する番号 すべて に○印をつけてください。

1. 出会うの場づくり等、独身者同士の交流支援→問 4 へ
2. 交際、結婚などのノウハウを学ぶことができる講座の開催→問 5 へ
3. 専門相談員による出会うの仲介サポート
4. 祝い金や記念品などの結婚祝いの贈呈
5. 企業が行う独身社員への結婚支援活動の取組推奨

※選択肢は次のページにもあります。

6. 結婚は個人の意志によるものであるため、支援は必要ない
7. その他()

問 4 問 3 で「1」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような出会いの場なら参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 飲食を中心とした交流イベント
2. テニス、サイクリングなどスポーツを通じた交流イベント
3. コンサートやアートなど文化・芸術を通じた交流イベント
4. 陶芸体験などものづくりを通じた交流イベント
5. 料理を通じた交流イベント
6. 農業体験を通じた交流イベント
7. その他()

問 5 問 3 で「2」に○印をつけた方にお聞きします。具体的にどのような講座に参加したいと思いますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 異性とうまく会話するための話し方・コミュニケーション講座
2. 異性に良い印象を与えるための服装やメイク等のセンスアップ講座
3. 将来設計を考えるための貯蓄等のお金に関する講座
4. 仕事と子育ての両立に関する講座
5. 結婚、出産、育児などのライフプラン講座
6. 相手への配慮や生き方など、内面を磨く意識改革講座
7. 結婚相手を見つけるための「はじめの一步」に関する講座
8. 親と子どもを対象とした結婚講座
9. その他()

テーマ 5 : 「地域子育て支援拠点施設」について

【事業概要】

◆市では、市内 3 カ所（大曲、中仙、西仙北）に地域子育て支援拠点施設を開所し、主に家庭で子育てをしている親子の交流や育児の不安・悩みの相談が気軽にできる場の提供、子育てに関する講習を実施しています。また、現施設には子育てアドバイザーが常駐しています。

【地域子育て支援拠点施設】

施設名	まるこのひろば	うさちゃんひろば	つなっこひろば
開設年度	平成21年8月	平成24年6月	平成25年6月
開設場所	大花都市再生住宅(大曲)	中仙市民会館ドンパル	西仙北中央公民館
開設時間	9時～17時	10時～16時	10時～16時
開設日	週6日(水曜日を除く)	週4日(水～土曜日)	週4日(水～土曜日)

問 1 あなた（またはあなたのご家族）は地域子育て支援拠点施設を開所していることを知っていましたか。該当する番号 1 つに ○印をつけてください。

1. 知っていた(利用したことがある)
2. 知っていた(利用したことがない)
3. 知らなかった

問 2 地域子育て支援拠点施設は市内 3 カ所（大曲、中仙、西仙北）に開所していますが、同様の施設はさらに必要ですか。該当する番号 1 つに ○印をつけてください。また、「3」を選ばれた方は、希望する 地域に ○印をつけてください。

1. 全地域(旧市町村)に設置するべき
2. 3カ所で十分
3. 次の地域に設置するべき(神岡・協和・南外・仙北・太田)(地域選択は複数選択可)
4. その他()

問 3 地域子育て支援拠点施設でサービスを拡充する場合、必要だと思うものはどれですか。該当する番号 1 つに ○印をつけてください。

1. 子育て情報のワンストップサービス窓口の設置
(生まれたばかりの子どもの育児や健康相談、保育園へ入園、発達の相談など、従来複数の窓口で行っていた相談を一カ所で行うコンシェルジュ(総合案内人)を配置)
2. 出前子育てひろばの開設
(地区の集会所などへ子育てアドバイザーが出向き、1 日限定の子育て広場を開設)
3. 施設を利用した有料一時託児
4. その他()

問 4 地域子育て支援拠点施設でどのような情報が欲しいですか。該当する番号 すべてに ○印をつけてください。

1. 市内外の子育てイベントの情報
2. 保育園や児童クラブなど子育て施設の情報
3. 保育園や児童クラブの空き情報
4. 子連れで利用できるお店・遊園地などの情報
5. 市内外の子育てサークルの情報
6. 子どもの健康に関する情報
7. 子どもの発達に関する情報
8. 子どもの貧困に関する情報
9. その他()

問 5 地域子育て支援拠点施設やその他、子育てに関する情報について、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号 すべてに ○印をつけてください。

1. 電話(コールセンターも含む)
2. 窓口での対人応対
3. 市広報
4. 市ホームページ
5. 公共施設の掲示やパンフレット
6. 町内会などの回覧板
7. スマートフォンアプリ
8. SNS
9. FMはなび(ラジオ)
10. その他()

問 6 市では、子育て世帯への経済的支援として、福祉医療費助成事業（マル福）を行っています。市が行っている福祉医療費助成事業（マル福）では、秋田県の基準を拡大し、中学校修了までの子どもの医療費自己負担分全額を助成しています。

あなたはこの福祉医療費助成事業に満足していますか。該当する番号 1 つに○印をつけて ください。

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. どちらとも言えない |
| 4. やや不満 | 5. 不満 | 6. この事業を知らない |

テーマ 6 : 「高齢者生活支援サービス事業」について

【事業概要】

- ◆65 歳以上の高齢者数や単身世帯数が増加傾向にある中、日常生活での福祉サービスに対する要望は多様化しています。
- ◆市では、高齢者やその家族が自立した生活の継続と生活の質の確保ができるよう、多様な福祉サービスを提供し、総合的な保健福祉を推進しています。

問 1 市で実施している次の生活支援サービス、家族介護支援サービスの中で、内容を知っているものには「1」、利用しているものには「2」、利用したことがあるものには「3」、知らないものには「4」に○印をつけてください。

市で実施している事業	知 っ て い る	利 用 し て い る	利 用 し た こ と が あ る	知 ら な い
1. 軽度生活援助利用券交付 高齢者等が日常生活に必要な支援を受けられる利用券を交付しています。	1	2	3	4
2. ふれあい安心電話 高齢者等へ緊急時対応のための緊急通報装置を貸与しています。	1	2	3	4
3. 家族介護用品支給券交付 要介護4以上の高齢者等を在宅で介護する市民税非課税世帯等に介護用品を購入できる券を発行しています。	1	2	3	4
4. 家族介護慰労金支給 要介護4以上の高齢者等を在宅で介護する市民税非課税世帯に慰労金を支給しています。	1	2	3	4

市で実施している事業	知っている	利用している	利用したことがある	知らない
5. はり・きゅう・マッサージ施術券交付 70歳以上の高齢者へ施術1回につき800円の助成券交付しています。	1	2	3	4
6. 温泉ふれあい入浴サービス券交付 70歳以上の高齢者等へ入浴料の半額又は無料券を交付しています。	1	2	3	4
7. 配食サービス 65歳以上の調理困難な高齢者等へ配食と共に安否確認しています。	1	2	3	4

問 2 問 1 で「4」というお答えがあった方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号 すべてに ○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 市広報やホームページを見ないので知らない | 2. 情報を入手する方法がわからない |
| 3. 困っている状況にないから | 4. 64歳以下の世帯だから |
| 5. 関心がない | 6. その他() |

問 3 今後は制度やサービスについて、どのような手段を用いると情報を得やすいですか。該当する番号 すべてに ○印をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------|
| 1. 電話(コールセンターも含む) | 2. 窓口での対人対応 | 3. 市広報 |
| 4. 市ホームページ | 5. 公共施設の掲示やパンフレット | |
| 6. 町内会などの回覧板 | 7. スマートフォンアプリ | 8. SNS |
| 9. FMはなび(ラジオ) | 10. その他() | |

問 4 今後、より充実してほしい高齢者施策はどのようなものですか。該当する番号 3つに ○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 趣味や生きがいづくり | 2. 働く機会や場づくり |
| 3. 健康づくりや介護予防支援 | 4. 配食や家事支援などの日常生活を助ける支援 |
| 5. 家族介護者への支援 | 6. 認知症施策 |
| 7. 1人暮らし高齢者への安否確認 | 8. 冬季の除排雪などの支援 |
| 9. 身近に相談できる窓口の充実 | 10. 高齢者の権利を守る施策の周知 |
| 11. 虐待防止施策の充実 | 12. 低所得者への経済的支援 |
| 13. 高齢者に配慮した住まいづくりへの支援 | 14. 外出や買い物などの支援 |
| 15. 自宅での生活を継続できる在宅医療や介護サービスの充実 | |
| 16. 特にない | 17. その他() |



テーマ7：「地域交通対策事業」について

【事業概要】

◆市では、路線バスの維持をはじめ、これに連結する各地域の実情に沿った交通システム（コミュニティバスや乗合タクシーなど）を市が運行することで、生活環境に対応した住民の移動手段の確保、及び市民生活の利便性の更なる向上を図っています。

問1 市が実施している地域交通対策事業について、知っているものの番号に○印をつけてください。

事業	内容	地域
1. 循環バス	市が実施するバスで、中心市街地内を、定時・定路線で運行しています。中心市街地活性化を支える役割があります。	大曲
2. コミュニティバス	市が実施するバスで、定時・定路線で運行しています。大仙市内の各地域拠点を結ぶ役割があります。	大曲、神岡、西仙北、南外、仙北、太田
3. 乗合タクシー	タクシー車両を用い、予約制で、路線バスのように定時・定路線（一部区域型）で運行を行っています。事前登録が必要です。	全域
4. 市民バス	市が庁用車を使って定時・定路線（一部予約制）の運行を行っています。	西仙北、南外
5. バス路線の維持	バス会社へ補助金を交付し、市管内の路線バス運行を維持しています。	全域
6. 免許返納者優遇制度	運転免許を返納をした方に、市の公共交通システムの利用料金及び路線バスの運賃が割引となる回数券を交付しています。	全域

問2 市が力を入れるべきだと思う地域交通対策事業について、該当する番号1つに○印をつけてください。

1. 中心市街地（大曲駅周辺）と各地域（旧市町村）を結ぶバスなどの整備
2. 地域内の中心地と集落を結ぶ乗合タクシーなどの整備
3. 運行時刻や待合所の環境の見直しによる乗り継ぎがしやすい交通網の整備
4. 高齢者や運転免許返納者など交通弱者への支援
5. その他（ ）

問3 市では、公共交通の魅力の向上に向けた利用促進施策を実施したいと考えています。より多くの方に公共交通を利用してもらうために、実施するべきだと思う施策はどれですか。該当する番号に最大2つまで○印をつけてください。

1. 利用料金割引デーを実施する
2. 商店街で使えるクーポン付き乗車券を発行する

※選択肢は次のページにもあります。

3. 車体に児童生徒が絵を描いたバスを運行する
4. バス車内の掲示や広告を充実させる
5. 観光地への交通網を整備する
6. 市内のイベントに合わせて公共交通を臨時運行する
7. その他()

テーマ8：「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」について

【事業概要】

◆市では、高齢者世帯等の雪下ろしや間口除雪、地域の生活道路の除雪をはじめ、地域が抱える雪に関連する課題に取り組む自治会等に対して、助成金を交付し活動を支援しています。

○事業対象団体

- ①自治会 ②自主防災組織
- ③次の要件を満たす任意団体
 - ・実施区域の世帯が概ね5戸以上。
 - ・実施区域が属するすべての自治会の同意を得ていること。
 - ・実施区域に住所を有する方が構成員の半数以上を占めていること。

○助成金の額の算出

事業名	対象	交付金額(年間)
①高齢者等世帯住宅間口通路除雪事業	間口通路除雪を行う高齢者等世帯	1戸当たり8,000円
②高齢者等世帯住宅屋根の雪下ろし事業	雪下ろしを行う高齢者等世帯	1戸当たり21,000円
③道路除雪事業	これまで市が除雪していた道路	延長1メートル当たり640円
④一斉除排雪事業	②か③の事業を実施する場合に限ります	1団体当たり50,000円
⑤スタートアップ事業	初年度：準備経費(スコップ等の購入)と保険料として(次年度以降は保険料のみ)	初年度：一括50,000円 次年度以降：上限10,000円

問1 市が「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」を実施していることを知っていましたか。
該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 知っていた→問2、問3へ
2. 聞いたことはあるがよく知らない→問2、問3へ
3. 知らなかった→問3へ

問2 問1で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。この事業をどのようにして知りましたか。該当する番号 すべて に○印をつけてください。

1. 市広報
2. 市ホームページ
3. 知人・友人
4. 自治会長
5. 民生児童委員
6. その他()

問 3 今後、この事業に加えて、新たに支援が必要だと思われるものは何ですか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 除雪機械の購入支援や長期貸出
2. 除雪機械の燃料費の支援
3. 雪捨て場の用意
4. その他()

テーマ 9 : 「住宅リフォーム支援事業」について

【事業概要】

◆市では、住宅リフォーム（排水設備接続、省エネ対策、バリアフリー化）、克雪対策工事、耐震化工事、及び子育て世帯（3 人以上）改修工事を行う者に対し、補助金を交付し、居住環境の向上を推進しています。

【市の住宅耐震化支援】

事業	内容	補助金額
大仙市リフォーム支援事業	(耐震化工事の場合) 平成12年5月31日以前 に建てられた木造住宅を地震に強い住宅に改修する工事を行う者に補助金を交付	○対象工事費の15%で上限が30万円
大仙市木造住宅耐震改修等補助金	昭和56年5月31日以前 に建てられた木造住宅の耐震診断を行うか、耐震診断及び耐震改修を行う者に補助金を交付 ※大仙市リフォーム支援事業との併用可能	○耐震診断:耐震診断費の3分の2で上限が3万円 ○耐震改修:耐震改修工事費の23%で上限が50万円

問 1 国では、昭和 56 年 6 月 1 日以降に建築された建物は耐震性があるとしています。しかし、平成 12 年 6 月に耐震基準に新たに 3 つの項目が追加されたことにより、昭和 56 年 6 月 1 日から平成 12 年 5 月 31 日までの間に建築された建物でも耐震基準を満たさない場合があります。

あなたのお住まいの住宅はいつ建設された建物ですか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 昭和 56 年 5 月 31 日以前
2. 昭和 56 年 6 月 1 日から平成 12 年 5 月 31 日までの間
3. 平成 12 年 6 月 1 日以降→質問終了
4. 住宅を建築していない→質問終了

問 2 問 1 で「1」または「2」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅は耐震診断または耐震改修を実施しましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 実施した→質問終了
2. 実施していない

問 3 問 2 で「2」に○印をつけた方にお聞きします。市が実施している「住宅耐震化支援」について以前から知っていましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 知らなかった→問 4 へ
2. 知っていた→問 5 へ

問 4 問 3 で「1」に○印をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで市の住宅耐震化支援を知ったことで、今後、お住まいの住宅の耐震化をどのようにお考えですか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. 耐震化を実施する(耐震診断を含む)→質問終了
2. 耐震化を実施しない
3. わからない→質問終了

問 5 問 3 で「2」、問 4 で「2」に○印をつけた方にお聞きします。あなたのお住まいの住宅を耐震化しない理由は何ですか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. 耐震化工事よりも別の工事をする必要がある、または、他に支出する必要があるため
2. 工事はしたいが、リフォーム補助金、または、大仙市木造住宅耐震改修等補助金では足りないため
3. 住んでいる住宅が地震に耐えられる建物だと思うから
4. 住んでいる住宅に不安はあるが、工事するほどではないと思うため
5. 各地で地震が起きているが、身近で起こることと考えていないため
6. 新築を考えている、または、予定している
7. その他()

テーマ 10 : 「コミュニティ FM 関連事業」について

【事業概要】

◆平成 27 年 8 月 8 日に開局した大仙市コミュニティ FM 局 FM はなび（運営会社：TMO 大曲）は、行政情報や防災情報、イベントの中継など、市民の生活に密着した情報を提供しています。
◆市では、放送エリアの拡大のための中継局整備や、FM はなびが地域に密着した放送局としての役割を果たすことができるよう、情報提供や運営支援を行っています。

問 1 FM はなびを知っていましたか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. 知っていた
2. 知らなかった→質問終了

問 2 問 1 で「1」に○印をつけた方にお聞きします。FM はなびをどの程度聴いていますか。該当する番号 1 つ に○印をつけてください。

1. ほぼ毎日聴いている
2. 時々聴いている
3. 聴いていない→問 7 へ

※以下問 3～問 6 の質問については、問 2 で「1」または「2」に○印をつけた方のみお答えください。

問 3 FM はなびをどの機器で聴いていますか。該当する番号 すべて に○印をつけてください。

1. カーラジオ
2. 小型ラジオ・ラジカセ
3. スマートフォン
4. パソコン
5. その他()

問 4 FMはなびをどのような時に聴いていますか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------------|-------------|
| 1. 車の運転中 | 2. 朝、身支度や朝食を摂っている時 | 3. 仕事、農作業中 |
| 4. 家事をしている時 | 5. 就寝前 | 6. 自然災害の緊急時 |
| 7. その他() | | |

問 5 平日（月～金）のFMはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 7時～9時 | 2. 9時～11時 | 3. 11時～13時 | 4. 13時～15時 |
| 5. 15時～17時 | 6. 17時～19時 | 7. 19時～21時 | 8. 21時～23時 |
| 9. その他() | 10. 平日は聴かない | | |

問 6 休日（土日）のFMはなびをよく聴く時間帯はいつですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 7時～9時 | 2. 9時～11時 | 3. 11時～13時 | 4. 13時～15時 |
| 5. 15時～17時 | 6. 17時～19時 | 7. 19時～21時 | 8. 21時～23時 |
| 9. その他() | 10. 休日は聴かない | | |

問 7 問 2で「3」に○印をつけた方にお聞きします。聴かない理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 興味のある番組がないから | 2. どんな番組をやっているかわからないから |
| 3. ラジオに興味がないから | 4. ラジオを聴くことのできる機器がないから |
| 5. その他() | |

笑顔花咲く、花咲きレディオ

FMはなび

87.3 MHz



 モーニングだいせん!
月～金 7:00 - 8:30 **生放送**

 FMはなびハッピーアワー
月～金 17:00 - 18:30 **生放送**

 花咲きレディオ
月～金 11:30 - 13:00 **生放送**

 土曜ワイド
わが町わが村わがラジオ
土曜日 11:00 - 15:00

 お茶っこたいむ
月～金 10:00 - 10:30

 DAISEN DE NIGHT
～市民のひろば
月～金 21:00 - 21:30

 行政情報番組 毎日がだいせん日和
月～金 8:30 - 9:00 土日 10:00 - 10:30

番組表や、このほかの番組については、
FMはなびホームページをご覧ください。
<http://www.fmhanabi.com/>



FMはなびアプリあります！

FMはなびはスマートフォンやパソコンでも聴くことができます。
FMはなびホームページ
(<http://www.fmhanabi.com/method>)
からアプリダウンロードサイトへアクセスできます。



<http://www.fmhanabi.com/method>

テーマ 11 : 「学校生活支援事業」について

【事業概要】

◆市では、児童生徒数は減少傾向にありますますが、学校生活を送る上で、支援を必要とする児童生徒数は年々増えています。こうした中、市では支援員を配置することで、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行い、教育環境の充実を図っています。

◆現在、市内の小学校 20 校・中学校 2 校に学校生活支援員 55 名、日本語指導支援員 2 名、看護師 1 名を配置しています。また、教育アドバイザー 1 名が各学校を訪問し、支援方法の工夫や改善を指導しています。

問 1 学校生活を送る上で、様々な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、「学校生活支援員等」を配置していることを知っていましたか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 知っていた 2. 知らなかった

問2 学校生活において、学校生活支援員等を配置して様々な支援や配慮を行うことは必要だと思いますか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 必要である→問3へ 2. 必要ではない→問4へ
3. わからない→質問終了

問3 問2で「1」に○印をつけた方にお聞きします。現在、30人程度の学級（クラス）で1人から2人ほど、支援が必要な児童生徒がいると言われていますが、どのように学校生活支援員等を配置することが望ましいと思いますか。該当する番号1つに○印をつけてください。

1. 支援を要する児童生徒1人に、1名程度配置
2. 支援を要する児童生徒のいる学級(クラス)に、1名程度配置
3. 支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、すべての学級(クラス)に、1名程度配置
4. 支援を要する児童生徒の有無にかかわらず、児童生徒の多い学級(クラス)に、1名程度配置
5. その他()

問 4 問 2 で「2」に○印をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

1. 学校生活支援員等を配置することが児童生徒の自立を妨げるから
2. 学校生活支援員等の配置には費用がかかるから
3. 学校生活支援員等の配置をすることがいじめにつながるから
4. 子ども同士が助け合うことで支援を必要とする人に対する理解が促進されるから
5. その他()

テーマ１２：「移住・定住への支援事業」について

【事業概要】

◆市では、魅力あるまちづくりと移住・定住の促進を図るため、移住・定住に関する具体的な実施計画の策定と、移住・定住の促進に向けた体制の整備に取り組んでいます。

問１ 市の暮らしやすい点として、該当する番号 3 つまで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 自然環境に恵まれている | 2. 災害に強い |
| 3. 交通の便が良い | 4. 水道や道路等のインフラ整備が整っている |
| 5. 公園や生涯学習施設など公共施設が整っている | |
| 6. 買い物など日常生活が便利である | 7. レジャー・レクリエーション施設が充実している |
| 8. 就業機会が十分である | 9. 子育て環境が整っている |
| 10. 保健・医療環境が整っている | 11. 教育環境が整っている |
| 12. 高齢者が暮らしやすい環境である | 13. 近所、自治会等、地域とつながりがある |
| 14. 治安が良く、安全・安心に生活できる | 15. 特にない |
| 16. その他() | |

問２ 市の暮らしにくい点として、該当する番号 3 つまで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 魅力ある自然環境が少ない | 2. 災害に弱い |
| 3. 交通の便が悪い | 4. 水道や道路等のインフラ整備が不十分である |
| 5. 公園や生涯学習施設など公共施設が少ない | |
| 6. 買い物など日常生活が不便である | 7. レジャー・レクリエーション施設が少ない |
| 8. 就業機会が少ない | 9. 子育て環境が整っていない |
| 10. 保健・医療環境が整っていない | 11. 教育環境が整っていない |
| 12. 高齢者が暮らしにくい環境である | 13. 近所、自治会等、地域とつながりが薄い |
| 14. 治安が悪く、生活していて不安に感じる | 15. 特にない |
| 16. その他() | |

問３ 地域における人口減少や若者の流出、空き家の増加、担い手不足などの現状や課題を踏まえ、移住者の呼び込みや定住を促すための支援について、重要度が高いと思う取組は何ですか。該当する番号に 最大3 つまで○印をつけてください。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 就職支援 | 2. 新規就農支援 |
| 3. 起業支援 | 4. 住宅の取得にかかる支援 |
| 5. 空き家を活用した住宅確保支援 | 6. 結婚支援 |
| 7. 安心して出産できるための支援 | 8. 子どもの保育・医療等の支援 |
| 9. 特色ある教育の実践 | 10. 地域情報の提供 |
| 11. 近所の地域住民との交流機会の確保 | 12. 地域の担い手の発掘・育成 |
| 13. 特にない | |
| 14. その他() | |



問 4 定住を促進するためには、多世代が集い交流できる機会の確保や、地域の中で多世代が集い交流し、支え合い助け合いを進めることにより、地域の中でつながりを強めることが必要です。

あなたは、ここ1年間仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に参加しましたか。
該当する番号 1つ に○印をつけてください。

《具体例》地域の公園の花壇の手入れ、河川のごみ拾い、子育て支援、まちづくりフェスティバル、祭り行事等保存への協力、団体の構成員としての活動など

1. 参加したことがある→問5へ

2. 参加したことがない→問6へ

問 5 問4で「1」に○をつけた方にお聞きします。「社会活動・地域活動」に取り組んだ頻度はどの程度ですか。該当する番号 1つ に○印をつけてください。

1. 週5日以上

2. 週1日程度

3. 月1日程度

4. 年1日程度

5. 特定の期間(夏の間2週間など)

6. その他()

問 6 問4で「2」に○をつけた方にお聞きします。その理由は何ですか。該当する番号 1つ に○印をつけてください。

1. 時間がない

2. 取り組むきっかけがない

3. 情報がない

4. 活動のしかたがわからない

5. そもそも活動したいと思わない

6. その他()

問 7 移住者を増加させるために、PRした方がよいことや、取り組んでほしいことがありましたら 記入欄に自由にお書きください。

【記入欄】

■ あなた自身のことについてお伺いします。

問 1 あなたの性別について、該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問 2 あなたの年齢について、該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 10 代 2. 20 代 3. 30 代 4. 40 代
5. 50 代 6. 60 代 7. 70 代 8. 80 代以上

問 3 あなたの居住地域について、該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 大曲地域 2. 神岡地域 3. 西仙北地域 4. 中仙地域
5. 協和地域 6. 南外地域 7. 仙北地域 8. 太田地域

問 4 あなたの職業について、該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 学生 2. 正規社員・職員 3. 派遣・契約社員
4. 自営業主・家族従業者 5. パート・アルバイト 6. 専業主婦・主夫
7. 無職 8. その他()

問 5 あなたは現在、結婚されていますか。該当する番号 1 つに○印をつけてください。

1. 独身 2. 既婚

■ 自由意見

今回のアンケートの内容に関わらず、市政や今回のアンケートに対するご意見・ご提案などがありましたら記入欄にお書きください。

【記入欄】

以上で、アンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。

アンケート用紙は、同封した返信用封筒に入れて、平成 29 年 1 月 6 日（金）まで投函してください。

